琵琶湖博物館 年報

第 29 号

2024 年度（令和６年度）

滋賀県立琵琶湖博物館
2025 年（令和７年）７月

目次

ごあいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ　博物館活動の概要

1　研究･調査活動

1. 研究推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 研究発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
3. 研究交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
4. 研究部活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

2　交流活動

1. 利用者主体の事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
2. 一般利用者へのサービス事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
3. 学校連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
4. 地域との交流事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
5. 琵琶湖博物館環境学習センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

3　情報発信・広報 PR 活動

1. インターネットを利用した館外への情報提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
2. 情報システムの整備・更新・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
3. デジタルサイネージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
4. 印刷物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
5. 広報 PR 活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

4　資料整備活動

1. 収蔵資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
2. 資料の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
3. 資料の保管・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120

5　展示

1. 展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
2. 展示交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144

6　館外連携

1. 博物館連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
2. 企業連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 151
3. 研修・実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 151
4. 共催事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153
5. 地域発見！参加型移動博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153

Ⅱ　利用状況

1. 令和5年度入館者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 155
2. 来館者アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
3. 利用者用施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 164

Ⅲ　組織および運営

1. 組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
2. 職員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
3. 決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169
4. 寄付／びわ博サポーター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 170
5. 滋賀県立琵琶湖博物館協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 170
6. 企画･計画等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 172

数字でみる琵琶湖博物館の活動　2024年度

○交流

	2024年度	2023年度
観察会・講座	49件	50 件
地域連携による講座	42件	66 件
学校体験学習	124件	101件
教員研修	7件	8件
フィールドレポーター数	177人	189人
FR定例会	22回	22回
はしかけ登録者数	387人	393人
はしかけグループ数	23組	25組
はしかけ活動数	332	323件
質問コーナー質問数	933	853件
質問対応数	1256	1143件

○連携事業

	2024年度	2023年度
館内共催事業	10件	8件
移動博物館	3件	6件
国際視察対応	6件	15件
国内視察対応	12件	16件
国際連携締結数	3機関	3機関
国内機関連携締結数	2機関	1機関

○寄付・支援

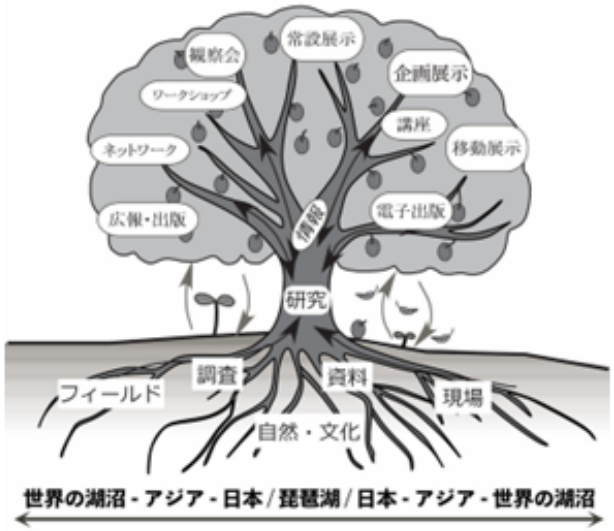
	2024年度	2023年度
応援寄付件数	11件	20件
展示サポーター件数	49件	52件
メンバーシップ件数	61件	61件
寄付金額	4120千円	3201千円
クラウドファンディング支援者数	866件	796件
クラウドファンディング支援金	1774千円	1159千円
研究等支援件数	1件	0件

○展示

	2024年度	2023年度
来館者数	52.7万人	42.1万人
企画展示・ギャラリー展示数	2件	2件
地域の人との協働展示数	12件	21件
展示更新数	96件	84件
フロアートーク	310件	308件
交流員と話そう	28件	22件

○広報

	2024年度	2023年度
テレビ等取材対応	57件	94 件
新聞・雑誌等取材	481件	394件
資料提供	77件	52件



○資料

	2024年度	2023年度
登録資料件数	77.7万 件	72.7万 件
新規登録資料件数	2.7万 件	2.7万 件
収蔵概要件数	159.4万 件	150.7万 件
未整理概要数	81.7万 件	78万 件
水族繁殖数（希少種を含む）	3,985匹	3128匹
寄贈件数	95件	91件
寄贈点数	約30,000 点	約30,000 点

○インターネットによる発信

	2024年度	2023年度
博物館ページ閲覧人数	58.6万人	54.5万人
博物館ページ閲覧数	224万回	162万 回
YouTube動画作成数	33件	27件
YouTube動画再生数	50.5万回	44.5万回
YouTube登録者数	9050件	2723件
Facebook発信数	410回	303回
Facebook登録者数	6141件	5046件
Instagram発信数	357回	271回
Instagram登録者数	4570件	3389件
X発信数	410回	298回
X登録者数	7802件	5992件
query問い合わせ数	1237	866件
博物館HPでの研究解説記事	2件	2件

○研究

	2024年度	2023年度
国際学術誌	15 件	9 件
国内学術誌	8件	14件
専門分野著作	31件	29件
学会発表数	86件	94 件
研究セミナー	34件	34件
館内研究プロジェクト数	30件	31件
外部研究プロジェクト参加数	21件	22件
研究員受け入れ数	25人	22人
外部助成金取得件数	30件	30件
J-STAGEによる閲覧数	8715件	6337件
新聞雑誌連載件数	4件	4件

	2024年度	2023年度
貸出利用件数	8 件	19 件
譲与件数	4 件	3件
特別観覧件数	64件	64件
資料利用による成果	14件	19件
デジタルミュージアム	1,136件	ー
デジタルマップ	63,395件	ー

亀田佳代子館長が就任

トンネル水槽などの展示が再開

生態観察池の池干しと調査の実施

ギャラリー展「鉱物・化石展 2024
大地に夢を掘る」開催

第 32 回企画展示
「湖底探検 II－水中の草原を追う―」開催

7 年ぶりにアユモドキの繁殖に成功

クラウドファンディング第二弾を実施

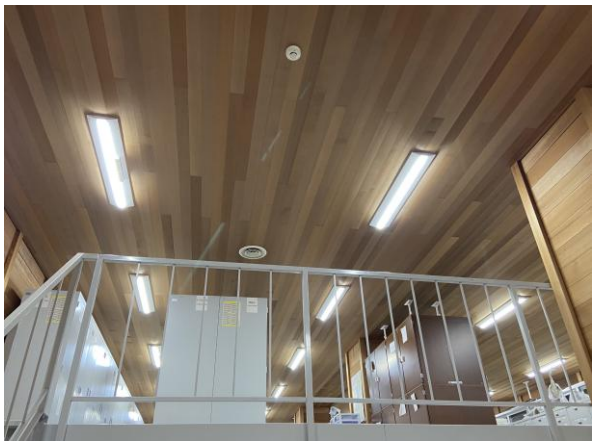
（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所との
連携協定締結

ビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の
工事開始

2024 年度の来館者 50 万人を達成

デジタルミュージアム公開

館内の LED 化が進む



ごあいさつ

2024 年度は、前年度に引き続き水族展示再生に向けた取り組みを進めました。４月には、アクリルの交換を行ったトンネル水槽と「よみがえれ！日本の淡水魚」の展示を全面再開することができました。ビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の工事も本格的に始まり、あわせてクラウドファンディング第２弾「新ビワコオオナマズ水槽誕生にご支援を！」も実施しました。おかげさまで第２弾でも、国内外の多くの方々から応援メッセージやご支援をいただき、本当にありがたく、スタッフ一同大きな励みとなりました。

保護増殖センターでは、伊藤忠商事株式会社との連携研究により、7 年ぶりにアユモドキの繁殖に成功しました。また 10 月 8 日には、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所と連携協定を締結し、琵琶湖と淀川の希少淡水魚の調査研究、教育普及、情報発信などについて連携を深めることになりました。これらをきっかけに、希少淡水生物の保全活動に弾みをつけたいと思っております。

企画展示やギャラリー展示も、多くの館外の方々のご活躍やご協力により好評のうちに開催することができました。４月から６月にかけて、地域で活動する「湖国もぐらの会」の皆さまによる第 5 回目のギャラリー展示「鉱物・化石展 2024－大地に夢を掘る－」が開催され、多数の資料の展示とともに来館者との交流も熱心に行っていただきました。企画展示「湖底探検 II－水中の草原を追う―」は、当館の総合研究や県の他部署との共同研究の成果を発信したものでしたが、おかげさまで多くの方々にご来場いただき、南湖の水草の現状や長期変遷、過去の藻取りや水草の生態などについて広く紹介することができました。

2024 年度は、博物館全体としても多くの方々にご来館、ご利用いただいた年でした。２月には累計来館者数 1,300 万人を達成し、３月には 2024 年度の来館者数 50 万人を達成することができました。最終的には 52 万人以上の方にご来館いただき、年間来館者数は過去 3 番目に多い年となりました。クラウドファンディングも含め、SNS や YouTube などで頻繁に当館の活動を発信したことが、多くの方々に関心を持っていただき来館していただいた要因の一つではないかと考えております。

デジタルミュージアムの公開も進み、まだ一部の分野だけですが、資料の３D モデルや琵琶湖の生き物の電子図鑑、生物分布情報や民具資料などを地図上に載せて見られるようになりました。今後新たな分野の資料や情報も公開して、博物館の利用やフィールドでの活動を促進していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2025 年 7 月 10 日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長　亀田佳代子

Ⅰ　博物館活動の概要

1　研究･調査活動

1. 研究推進

琵琶湖博物館は研究活動を全ての博物館活動の基礎として位置づけ､その成果をもとに交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業を展開している。

研究部では 2021 年 3 月に策定された琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に従い、特に事業目標 1 に掲げる「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」することを目指して、以下の 3 つの重点事業を推進している。

重点事業　1－1　世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進
　　1－2　研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える
　　1－3　研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしぼった共同研究、個々の学芸員の資質を高める専門研究も行っている。総合研究・共同研究・申請専門研究については、当館の研究評価実施要綱（2017 年更新）に従い、館長・副館長と外部有識者の審査委員から成る研究審査委員会による審査で採択の可否を決定している。また、専門研究については、研究部内に内部評価委員会を設置し、研究課題及び進め方についての検討と助言を行いながら推進している。2024年度は、次の研究課題を実施した。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次の総合研究 1 件を行った。

・過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明
　代表者：亀田佳代子，研究期間：2019～2025年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の 9 件であった。

・琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築
　代表者：大塚泰介，研究期間：2021～2024 年度
・琵琶湖南湖堆積物中のアルカンによる水生植物生産量と陸上植物流入量の推定に関する基礎的研究
　代表者：里口保文，研究期間：2021～2024 年度
・フナズシの歴史的位置付けについての研究Ⅱ―「古フナズシ」の再現実験―
　代表者：橋本道範，研究期間：2022～2024 年度
・日本産ニゴイ類の比較形態学的研究
　代表者：川瀬成吾，研究期間：2022～2024 年
・鮎河および綴喜層群産化石群による前期中新世後期の古環境について
　代表者：山川千代美，研究期間：2023～2024 年
・日本産希少淡水魚類の自然産卵による繁殖技術確立と生息域外保全のあり方に関する研究
　代表者：金尾滋史，研究期間：2023～2026 年
・ドローンを活用した琵琶湖生態系のモニタリング　-植生・河川・土地利用の時空間変動解析-

代表者：奥田岬，研究期間：2023～2025 年
・池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究
代表者：菅原巧太朗　研究期間：2023～2026 年
・滋賀県における民俗学の展開と有形・無形民俗文化財の現状に関する研究
代表者：加藤秀雄　研究期間：2024～2027 年

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究を行った。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

＜申請専門研究＞
・同所的に分布する近縁スジコガネ属２種の個体群動態-気候変動と生物間相互作用に注目して-（大槻達郎）
・古琵琶湖層群から産出した哺乳類化石の分類と生物地理の検討（半田直人）
・琵琶湖北湖北岸における水生植物の分布（芦谷美奈子）

＜専門研究＞

環境史研究領域
・滋賀県多賀町四手の下部更新統産植物化石群におけるブナ属とスギ属（山川千代美）
・古琵琶湖層群中部～上部の火山灰層露頭の現状調査（里口保文）
・山陰における遺跡花粉分析データベースに基づく琵琶湖-山陰-日本海にかけての花粉・化石の時空間分布の解明（林竜馬）
・地域環境史の理論的構築（橋本道範）
・水環境の利用と保全（楊平）
・現代における伝統的知識・技能の継承（大久保美香）
・琵琶湖周辺地域の産出粘土の砂粒および水分量の分析と土器製作実験（妹尾裕介）
・滋賀県産魚類の河川間での遺伝的差異（田畑諒一）
・近世・近代の治水土木施設の維持管理に関する資料論的研究（島本多敬）
・湖沼に関する民俗知の基礎的研究（加藤秀雄）

生態系研究領域
・鳥の視点から見た鳥類と人との関係：鵜飼のウミウペアの性別と行動に関する地域間比較（亀田佳代子）
・沈水植物除去手法の効率に関する研究（芳賀裕樹）
・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（桝永一宏）
・琵琶湖盆から近年新たに出現した珪藻の分類学的研究（大塚泰介）
・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（スミス，R.，J.）
・琵琶湖固有種ホンモロコの放流に対する外的要因の影響評価（米田一紀）
・グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究（濱口貴仁）
・博物館の利用者参加制度に関する研究（西川真里奈）
・琵琶湖および周辺水域におけるイタチムシ相を探る（鈴木隆仁）
・UVA や航空レーザ測量成果を用いた林分状況把握に向けた検討（奥田　岬）
・コイカマツカ亜科魚類の比較解剖学的研究（川瀬成吾）
・二枚貝イシガイ科の成貝の定着に関する研究（菅原巧太郎）

博物館学研究領域
・滋賀県の中山間地域における水田利用魚類の分布と生態（金尾滋史）
・カヤネズミの歯を用いた成長線を評価する試み（松岡由子）

・博物館と学校の学習の連携を深める研究（渡邉俊洋）
・学校教員の博物館利用に関する研修プログラムの検証−学校教員の博物館の利用についての意識の変容−（桑原康一）
・沖島における甲虫相の解明（今田舜介）

⑷ 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会　委員

氏　名	現　職
足立　重和	追手門学院大学社会学部　教授
浦部美佐子	滋賀県立大学環境科学部　教授
齊藤　　純	天理大学文学部　教授
深町加津枝	京都大学大学院地球環境学堂地球親和技術学廊　准教授
長谷部徳子	金沢大学　環日本海域環境研究センター　教授
野間　晴雄	関西大学文学部総合人文学科地理学・地域環境学専
森　誠一	岐阜協立大学 地域創生研究所　教授
澤　寿朗	滋賀県総合教育センター　科学教育係長
亀田佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館　館長
杲　一哉	滋賀県立琵琶湖博物館　副館長
山川千代美	滋賀県立琵琶湖博物館　副館長

⑸ 研究助成を受けた研究

琵琶湖博物館では、研究費用として外部資金を獲得することを推進している。その代表的なものは文部科学省科学研究費助成事業で、今年度は新規 1 件 の採用と継続 11 件 を合わせ計 12 件 が 採択された。学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

亀田佳代子
・岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査委員会・関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会「全国鵜飼習俗基礎調査」調査者（2019～2024 年度）
・京都大学野生動物研究センター　研究助成「鵜飼のウミウの遺伝的背景の解明」代表者　（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

橋本道範
・食と農の総合研究所　研究助成「淡水魚消費をめぐるシーフードシステムの地域間比較研究―ナレズシに着目して」研究分担者（2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

林 竜馬
・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「過去 50 万年の琵琶湖・海洋花粉分析からみる温暖期の森の脆弱性と日本海効果の評価」研究代表者（2023～2026 年度）

大久保実香
・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」研究代表者（2019～2025 年度）

田畑諒一
・文部科学省科学研究費助成事業（国際共同研究強化 B）「カタツムリにおける左右二型現象の起源と進化動態」研究分担者　（2020～2024 年度）
・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「ゲノミクス系統地理情報を基にした淡水魚類の保全戦略マップの作成」研究代表者（2021～2024 年度）

・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る-琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に-」研究分担者（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）
・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C)「博物館における分類学の再考と再構ー生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦ー」研究分担者（2023～2025 年度）

島本多敬
・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究)「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」研究代表者（2021～2025 年度）

加藤秀雄
・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究)「琵琶湖産アユ種苗の流通ネットワークに関する広域民俗誌の試み」研究代表者（2022～2024 年度）

桝永一宏
・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C)「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」研究代表者（2022～2024 年度）

大塚泰介
・公益財団法人　琵琶湖・淀川水質保全機構　水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」研究担当者(2022 年 4 月～2024 年 3 月）

大槻達郎
・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る-琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に-」研究分担者（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）

米田一紀
・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る-琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に-」研究分担者（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）

川瀬成吾
・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る-琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に-」研究代表者（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）
・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C)「博物館における分類学の再考と再構ー生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦ー」研究代表者（2023～2025 年度）

菅原巧太郎
・公益財団法人中辻創智社　研究助成「希少淡水魚ヨドゼゼラの系統保存手法確立に向けた脂肪酸分析による餌資源の解明」(2023 年 8 月～2024 年 3 月 31 日）
・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団「燃焼もみ殻の添加による淡水二枚貝イシガイ科の飼育餌環境改善の評価」研究代表者　(2024 年 10 月～2025 年 9 月）
・公益財団法人河川基金助成「脂肪酸分析を用いた淡水二枚貝イシガイ科の野外及び飼育下における同化餌資源の比較と最適餌資源の解明」研究代表者　(2024 年度）
・令和６年度みかさプログラム「トップレベル助成研究者研究推進支援」「濾過食者シマトビケラ科の生態機能とその季節的変動を評価する：ダム下流域において初となるネイチャー・ベースド・ソリューションへの挑戦」共同研究者（2024 年 12 月～2025 年 3 月末）

金尾滋史
・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C)「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価

値の創出に関する研究」研究代表者（2023～2025 年度）

中村久美子

・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」研究代表者（2019～2025 年度）

戸田 孝

・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発」研究代表者（2021～2024 年度）

根来　健

・公益財団法人　琵琶湖・淀川水質保全機構　水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」連絡担当者(2022 年 4 月～2024 年 3 月)

上中央子

・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「植物遺体群からみた古代都城における草本植物相に関する基礎的研究」研究代表者　（2022～2024 年度）

辻川智代

・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「紅葉樹利用に関する広域民俗誌の研究」研究代表者　（2024 年～2027 年）

＜研究調査業務受託＞

・京都府いなべ市　天然記念物ネコギギ飼育増殖業務　田畑諒一

(6) 研究員の受け入れ

・池田 勝　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究

・辻川智代　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史的変遷を通した地域文化研究

・柏尾珠紀　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村の暮らしとジェンダーの社会学的考察、および、滋賀におけるなれずしに関する調査・研究

・廣石伸互　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：蛍光抗体法によるアオコ単独細胞の検出に関する研究

・天野一葉　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：外来鳥類の生態学

・藤岡康弘　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究、および琵琶湖博物館の総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」

・寺本憲之　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：鱗翅目昆虫相とその食性および伝統的蚕糸業・環境保全型農業に関する研究

・山本充孝　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：琵琶湖の魚貝類の飼育技術ならびに生態に関する研究

・根来 健　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：浄水処理に障害を及ぼすプランクトン等（水道障害生物）の体系の再構築

・今井一郎　2024年4月1日～2025年3月31日

テーマ：有毒アオコ *Microcystis aeruginosa* の制御に有効な水生植物由来の殺藍藻細菌の生態に関す

る研究

・柏谷健二　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：湖沼堆積物を利用した長期環境変動の解析

・桑原雅之　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：ビワマスを中心とした琵琶湖水系に生息する固有種の生態学的、遺伝学的研究

・井内美郎　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：琵琶湖湖底堆積物を対象とした過去数万年間の湖水位変動に関する研究

・戸田 孝　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発

・増田啓祐　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：「里」における自然と人間のレジリエンスに関する研究

・山本綾美　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：森林環境学習における児童の感想文を用いたプログラム効果測定方法の開発

・中井克樹　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：琵琶湖の生物相の変遷と現状、および外来種管理と希少種保護にかかる対策の社会実装に関する研究

・八尋克郎　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：琵琶湖岸砂浜の昆虫の分布と生態に関する研究

・小松原琢　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：近畿三角地帯の堆積盆地と断層運動場の北移動の実態の記載およびその要因の解明

・上中央子　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：植物遺体群からみた古代都城における植物相と植生景観復元に関する基礎的研究

・大久保卓也 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：琵琶湖における漁獲量の長期変動と環境条件との関連性に関する研究/琵琶湖の水質の長期変化と環境条件との関連性に関する研究/琵琶湖の魚網付着物増加の原因に関する研究

・岩木真穂　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：琵琶湖の水位変動に関する研究

・鈴木規慈　2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：絶滅危惧淡水魚類カワバタモロコ *Hemigrammocyprisneglectus* の進化保全生態学的研究

・新海拓郎　2024 年 7 月 13 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：日本の一家庭におけるアクアリウム趣味についての文化誌からの考察―愛好家の向けの専門雑誌の分析を中心に―

・小林亮平　2025 年 1 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

テーマ：標本整理とフロラ調査をとおして明らかになったコケ植物分類学上の諸問題の解決

＜名誉学芸員＞

・布谷知夫　2024年4月1日～2029年3月31日

テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究

・前畑政善　2021年4月1日～2026年3月31日

テーマ：水田魚類の研究

・中島経夫　2020年4月1日～2025年3月31日

テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究

・用田正晴　2021年4月1日～2026年3月31日

テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究

・マーク J グライガー　2022年4月1日～2027年3月31日

テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにすむエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

2. 研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ（https://www.biwahaku.jp/publication/report/）に掲載している。

＜学術論文＞

Handa, N., Takahashi, K. (2024) A review of the taxonomy, biostratigraphy and paleobiogeography of Plio-Pleistocene rhinoceroses in Japan. *Journal of Asian Earth Science*：1-15.

Handa, N., Taru H. (2025) Taxonomic revision of a late Miocene rhinoceros from Japan with an overview of *Brachypotherium* from East Asia. *Historical Biology*：1-6.池田重人・志知幸治・岡本 透・林 竜馬・芳賀 和樹 (2024) 森吉山麓の花粉記録にみる中世以降の秋田スギの衰退. 日本森林学会誌 106, 206-213.

橋本道範 (2024) 日本産淡水魚消費論―全体史にむけた試み―, 歴史学研究, 1054, 12-21.

Ikeda, T., Okuda, M., Ishihara, M. and Kon-no, Y. (2024) Effects of Different Light Conditions on Anatomical and Histological Features of Galls in Bacterial Gall Disease of *Cerasus* × *yedoensis*. Phytopathology, 114 (10): 2196-2206.

Ito, G., Koyama, N., Noguchi, R., Tabata, R., Kawase, S., Kitamura, J. I., & Koya, Y. (2024). Phylogeography and genetic population structure of the endangered bitterling Acheilognathus tabira tabira Jordan & Thompson, 1914 (Cyprinidae) in western Honshu, Japan, inferred from mitochondrial DNA sequences. *Nature Conservation*, 56:19-36.

Imada, S, Nozaki, T, Yoshitake, H, Lu, S-S. (2024) Additional collecting records of two species of *Derisemias* ordan (Coleoptera, Anthribidae) from Japan and Taiwan. *Elytra*, *New Series*, 14(1): 18.

Longuet, M., Handa, N., Zin-Maung- Maung-Thein, Thaung-Htike, Man-Thit-Nyein, Takai, M. (2024) Post-cranial remains of Rhinocerotidae from the Neogene of central Myanmar: morphological descriptions and comparisons with ratios, *Historical Biology*：1-15.

Masunaga, K. & Amano, H.E. (2024) First discovery in Japan of a dolichopodid fly of the genus *Hypocharassus*, a genus with a disjunct distribution in East Asia and eastern North America. XXVII International Congress of Entomology, Abstract Book. 2417-2418.

Meisch, C., Smith, R. J. & Martens, K. (2024) An updated subjective global checklist of the extant non-marine Ostracoda (Crustacea). European Journal of Taxonomy, 974, 1-144. https://doi.org/10.5852/ejt.2024.974.2767

Ohtsuki, T, Ohtsuka, T., Kameda, K.O. (2024) Developing the digital museum using various images and geographic information systems. Biodiversity Information Science and Standards, 8: e135710. doi: 10.3897/biss.8.135710.

大江新一・林 竜馬・出穂雅実・百原 新・大脇航平・ 佐々木尚子・高原 光・植田弥生・山川千代美・山野井 徹 (2024) 山形県立谷川河床埋没林から復元する最終氷期最盛期の植生. 植生史研究 32, 41-58.

Onuki, K., R. K. Ito, T. Mishina, Y. Hashiguchi, K. Ikeya, K. Uehara, M. Nishio, R. Tabata, S. Mori and K. Watanabe. (2024). Next-generation phylogeography reveals unanticipated population history and climate and human impacts on the endangered floodplain bitterling (Acheilognathus longipinnis). BMC Ecology and Evolution 24:141. https://doi.org/10.1186/s12862-024-02326-y

大塚泰介・辻 彰洋 (2024) 外来珪藻はなぜ次々と見つかるようになったか？（特集 河川の異変ー外来種ミズワタクチビケイソウの問題と最新知見ー）. *月刊海洋*, 56(10): 675-685.

塩田隆・吉山洋子・後藤美帆・加藤早也花・佐藤咲・塩入ヶ谷郁・島純・田邊公一・橋本道範 (2024) 市販鮒寿司に含まれる微生物叢解析と成分分析, 食品・臨床栄養, e2024, 1-10.【査読有】

Smith, R.J. (2025) Development and morphology of podocopan ostracod limbs (Crustacea) - A review. Arthropod Structure & Development, 85, 101402. https://doi.org/10.1016/j.asd.2024.101402

Strasser, M., Ikehara, K., Pizer, C., Itaki, T., Satoguchi, Y., Kioka, A., McHugh, C., Proust, JN, Sawyer, D. and IODP Expedition 386 Expedition Management Team (2024) Japan Trench event stratigraphy: First results from IODP giant piston coring in a deep-sea trench to advance subduction zone paleoseismology. Marine Geology, 477: 107387. //doi.org/10.1016/j.margeo.2024.107387

菅原巧太朗 (2024) アオコ防除における淡水二枚貝の可能性. 日本水環境学会誌, 47(8): 275-279.

高木亮太郎・金尾滋史・刀禰浩一・佐藤寛之・山川（矢敷）彩子 (2025) 沖縄島中部の比謝川で移入・定着が確認されたオイカワ. *Fauna Ryukyuana*, 72：1-13.

Wang, Y., Choi, B-D., Smith, R.J. & Wu, D. (2025) Application of Ostracoda from the Lower Cretaceous Liupanshan group at Pingliang (NW China) - Biostratigraphy and palaeoecology. Cretaceous. Research, 168, 106079. https://doi.org/10.1016/j.cretres.2025.106079

渡辺勝敏・杉浦　航・岩田明久・阿部　司・辻　冴月・田畑諒一 (in press) 絶滅危惧種アユモドキの生息地周辺域の魚類相と絶滅地域の生息環境としての潜在適性. 魚類学雑誌

山川千代美・矢部 淳・植田弥生・林 竜馬・里口保文 (2024) 関東平野西縁部更新統上総層群加住層産化石
林にもとづいたメタセコイア属（*Metasequoia*）が優占する湿地林の復元. 化石, 116, 5-18.

八尋克郎・武田滋,・大槻達郎 (2024) 佐波江浜における地表徘徊性甲虫の種類組成と季節消長. 日本生物地理学会
会報. 79 巻: 1-8.

Zhai, D., Smith, R.J. & Zhang, D. (2025) The first report of the non-marine ostracod. genus *Cavernocypris* Hartmann, 1964 (Crustacea, Ostracoda) from China, with a description of a new species. Zoosystematics and Evolution, 101 (1), 301-315. https://doi.org/10.3897/zse.101.141525

＜専門分野の著作＞

林 竜馬 (2024) 琵琶湖地域の気候の変化. サンライズ出版（藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一編『琵琶湖の魚類図鑑』pp. 12-15）.

林 竜馬 (2024) 滋賀県遺跡花粉データベースと湖南地方平野部における植生景観復元に向けた試み. 琵琶湖博物館研究調査報告 (37) 15-32.

林 竜馬 (2024) 資料：「滋賀県遺跡花粉データベース (APPALE-Shiga データベース)」. 琵琶湖博物館研究調査報 告 (37) 95-124.

伊藤　玄・大場貴保・堀江真子・川瀬成吾 (2024) 滋賀県の野外水域から初めて確認された体外光メダカなどの観賞魚メダカ. 淡海生物, 6：18-21.

今田舜介・相馬　純 (2024) 滋賀県におけるルイスグンバイの記録. Came 虫, (216): 15.

今田舜介 (2024) 多賀町立博物館所蔵のコウチュウ類の若干の記録. Came 虫, (217): 14-15.

今田舜介 (2024) アカアシヒゲナガゾウムシの新寄主記録. 月刊むし, (644): 2-6. [招待あり]

今田舜介・佐々木恵一 (2024) 北海道におけるシロオビクチボソヒゲナガゾウムシの追加採集例. 月刊むし, (644): 54-55.

今田舜介・佐々木恵一 (2024) 北海道本土におけるオオメナガヒゲナガゾウムシの採集例. 月刊むし, (646): 8-
9.

今田舜介 (2025) 福岡県の有人島におけるハムシ・ゾウムシ上科の分布記録. KORASANA, (104): 106-108.

村田巧明・金尾滋史 (2024) 滋賀県東近江市内におけるウスバカマキリの採集記録. 滋賀むしの会会報 Came 虫, 217：17.

金尾滋史（2024）琵琶湖周辺の水田地帯を中心としたハタケノウマオイの分布．滋賀むしの会会報 Came 虫，218：18-21.
桑原康一（2024）水害の歴史と治水から身近な川との付き合い方を考えよう In: 藤岡達也（編），理科で考える自
然災害，東洋館出版社，東京，pp94-97.
加藤秀雄・塚原伸治（2024）五〇年後の民俗学を考える．日本民俗学，318,33-40.
加藤秀雄（2024）書籍紹介 渡部圭一著『読み書きの民俗学』．民具マンスリー.57,21-22.
加藤秀雄（2024）書評・書籍紹介　志村真幸編『南方熊楠の生物曼荼羅－生けとし生けるものへの視線－』．熊楠 WORKS,64,54-55.
加藤秀雄（2024）伝承への倫理.現代思想.　52:136-145
川瀬成吾（2024）琵琶湖の魚類図鑑，藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一（編・著），サンライズ出版（彦根）．
百原　新・山川千代美・斎藤　毅（2024）古琵琶湖層群の後期鮮新世末の大型植物化石群集から復元した古植生．琵琶湖博物館研究報告 No.38，45-54.
根来 健・大塚泰介　（2025）滋賀県安曇川中流域で増殖を始めた外来性ミズワタクチビルケイソウ．陸水研究，12(1)：52-53.
大槻達郎（2024）琵琶湖岸における希少種の生息・生育地保護区で見られる植物の種組成について．滋賀県植物研究会会報，特別号　第 17 号：28-30.
大塚泰介・根来 健（2024）　2）プランクトンの変動．懇話会ニュース．Nippon Suisan Gakkaishi，91(2)：138.
大塚泰介・根来 健（2024）琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究．（公財）令和 5 年度水質保全研究助成報告書，琵琶湖・淀川水質保全機構，10 pp.（published online）
http://www.byq.or.jp/josei/r05/accomplishment_report/1-3_report_ohtsuka.pdf
大槻達郎（2024）琵琶湖に生育する海浜植物の来歴を探る.いしかわ自然史．92 号：5.
大槻達郎（2025）陸封された海浜植物の種子発芽に関与するヒメカクスナゴミムシダマシについて．昆虫と自然，ニューサイエンス社，vol.60 No.1(通巻 800 号)　33-35.
里口保文(2024)琵琶湖博物館第３期リニューアル前後におけるアンケート調査結果について.佐々木亨編，「ミュ ージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究」調査報告書，科研費実施報告書：113-117.
杉山紗南・細川眞理子・妹尾裕介（2024）考古資料と 3D モデル―博物館資料としての活用と課題―．淡海文化論叢第 16 輯，pp.9-14.
妹尾裕介（2024）森と人の関係史――人は森をどう利用してきたのか．琵琶湖博物館研究調査報告 37 号，128p.
田畑諒一（2024）琵琶湖の魚類図鑑，藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一（編・著），サンライズ出版（彦根）
山川千代美・亀田佳代子（2024）博物館活動への参加と理解を促進する仕組みとしての外部資金活用制度．全国科 学博物館協議会，全科協 NEWS，vol.55，No.1,4-6.
山川千代美・百原新（2024）大型植物化石の産出記録に基づいた鮮新―更新統古琵琶湖層群の植物化石相の特徴．琵琶湖博物館研究報告 No.38，32-44.
楊　平（2024）利用価値の変化にともなう水環境との関係の再構築．In:牧野厚史・藤村美穂・川田美紀（編著）『入門・社会学シリーズ 環境社会学　現代的課題との関わりで』 学文社出版，171-189.

(2) 研究調査報告の J-STAGE 掲載とアクセス数

琵琶湖博物館の研究成果をまとめて出版している「琵琶湖博物館研究調査報告」は、2021 年 11 月より、

「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）への掲載を始め、これまでの発行号も含めて、対象のインターネットページでの閲覧が可能になった。これ以降の最新号は基本的に論文ごとの公開をし、過去の号についても順次公開作業を進めている。2025 年 3 月までに、15 号～36 号を公開（一部の号は未公開）。

今年度は、過去号の 15、17、18 号を公開した。2024 年 3 月～2025 年 2 月のアクセス数（いずれもクローラー除く）は次の通り。

・書誌情報閲覧：8,715 件

・PDF ファイルダウンロード：13,987 件

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

学芸職員および特別研究員の研究発表と研究交流の機会として、セミナー室にて毎月第 3 金曜日 13:15～15:15 に、研究セミナーを開催している。2024 年度は以下の通り実施した。なお、特別研究セミナーの開催はなかった。

第 1 回　4 月 19 日　25 人

・芳賀 裕樹ほか「藻採りは南湖の沈水植物の繁茂を抑制していたのか？～統計資料の検討による定量的な採藻（泥）量の推定～」

・橋本 道範「ドジョウ・ワタカと人間―新しいナラティブの創造に向けて―」

・中井 克樹「外来種対策の最近の話題：外来生物法改正と残された課題」

第 2 回　5 月 17 日　31 人

・半田 直人「古琵琶湖層群から見つかった肉食哺乳類化石の分類学」

・加藤秀雄・山本充孝「琵琶湖のアユと人の関係をめぐる環境民俗学―ふえる／へる、ふやす／へらすという視点から―」

・小松原 琢「琵琶湖はなぜ北進するのか？―近畿三角地帯のプレート運動の特異性について―」

第 3 回　6 月 21 日　28 人

・里口 保文「過去の湖環境の変遷について現状のまとめ」

・今田 舜介「ワタミヒゲナガゾウムシ属の寄主利用の解明に向けて」

・菅原 巧太朗「琵琶湖博物館の生態観察池の池干し前の水質の現状把握について」

第 4 回　7 月 19 日　22 人

・林 竜馬「遺跡・湖沼・海洋堆積物から琵琶湖-日本海にかけての花粉化石の時空間分布を考える」

・妹尾 裕介「稲作農耕社会を探る―タイ北部ゾミア山地での調査事例から」

第 5 回　8 月 16 日　36 人

・大久保 卓也「湖の貧栄養化に伴う生態系の変化」

・大塚 泰介「琵琶湖のアオコ 40 年史」

・山川 千代美「歴史的自然史標本の紹介-新島襄採集の神戸層群産植物化石標本-」

第 6 回　9 月 20 日　28 人

・濱口 貴仁「グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究」

・鈴木 隆仁「生態観察池の池干し前後におけるプランクトン層の変化について」

第 7 回　10 月 18 日　30 人

・川瀬 成吾「西洋の博物館から過去の琵琶湖にタイムスリップ～江戸・明治の琵琶湖の魚類相～」

・大槻 達郎ほか「琵琶湖岸の希少生物保護区周辺における種構成の変化－侵入する外来植物の動態と攪乱にともなう昆虫相の変化－」

・芦谷 美奈子ほか「「琵琶湖環流」はパネルだけでどう伝わったかー実演なしの物理展示の伝達効果とその評価ー」

第8回　11月15日　27人

・島本 多敬「明治初期の近江の村絵図に描かれた砂留について」

・柏谷 健二「琵琶湖・余呉湖の湖底堆積物から推定される過去1000年の水文環境変動」

・金尾 滋史「博物館への質問や自然観察会を基点とした地域の自然史情報の発掘」

第9回　12月20日　29人

・田畑 諒一ほか「分子遺伝学的解析から推定されたスゴモロコ類とデメモロコ類の進化史」

・今井 一郎「有害赤潮ラフィド藻 Chattonella の越冬シストについて」

・Robin Smith「分類データの使いやすさを改善する - カイミジンコ（甲殻類）の例」

第10回　1月17日　33人

・西川 真里奈・大久保 実香「滋賀県立琵琶湖博物館はしかけ制度における各グループの運営状況」

・増田 敬祐「「里山」における里と山のレジリエンスを考える-環境倫理学の視点から-」

・米田 一紀「琵琶湖の水位変化がホンモロコの仔魚加入に与える影響（経過報告）」

第11回　2月21日　25人

・奥田 岬「UAV や航空レーザ測量成果を用いた林分状況把握に向けた検討」

・松岡 由子「カヤネズミの歯を用いた成長線を評価する試み」

・桝永 一宏「日本国内におけるアシナガバエ科 Hypocharassus 属の新たな生息地探索」

第12回　3月21日　26人

・大久保 実香「実践共同体による地域資源継承の可能性」

・渡邉 俊洋「滋賀県内中学校における琵琶湖を関連づけた学習の実態調査について」

・桑原 康一「学校団体における体験学習プログラムの展示見学への効果―昔くらし体験を例に―」

(4) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館の研究成果発信の一環として、1月、2月、3月の3回の連続講座である「新琵琶湖学セミナー」を開催した。

2024年度は、3回通じてのテーマを「みんなで調べる！みんなで伝える！市民科学の最前線」とした。琵琶湖博物館が長年取り組んできた、はしかけ、質問コーナー、フィールドレポーターといった活動について取り上げるとともに、館外の講師から、近年取り組まれている参加型調査の手法（環境DNA分析、ふるさと絵屏風、SNSを利用した調査）についてご紹介いただいた。

具体的な内容は下記のとおりである。

・新琵琶湖学セミナー実施内容　計3回、のべ参加者数100人

開催日	内容	参加者数
1月25日	「環境DNAで！ガサガサで！みんなで魚を調べる」 川瀬成吾（琵琶湖博物館）： ″はしかけ″うおの会の活動の博物館における意義 中尾博行氏（琵琶湖博物館はしかけ うおの会）： みんなで楽しく″魚つかみ″を続けてみたら、こんなことが分かった！ー琵琶湖博物館うおの会の活動から 山中裕樹氏（龍谷大学）： みんなで調べる琵琶湖の魚ー新たな調査手法としての環境 DNA	42人

	分析 ※山中氏は当日体調不良のためやむを得ず欠席。代替として下記講演を実施。 菅原巧太朗：新たな調査手法としての環境 DNA 分析	
2 月 22 日	「地元の価値を再発見！」 金尾滋史（琵琶湖博物館）： 観察会や質問から生まれる自然史情報の新発見 上田洋平氏（滋賀県立大学）： 記憶で地域がよみがえる－ふるさと絵屏風によるまちづくり	33 人
3 月 29 日	「SNS で！調査票で！みんなで調べるいろいろな方法」 橋本道範（琵琶湖博物館）： ナレズシ調査にみる調査票調査の醍醐味と課題 石田惣氏（大阪市立自然史博物館）： スーパーに行ってみるだけの簡単な調査の面白さと難しさ	25 人

3. 研究交流

(1) 協力協定（ MOU：Memorandum of Understanding ）に基づく連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化している。協定の締結内容としては、次の５項目である。このほかに、研究および資料、展示についての具体的な協力が行われる場合は、別途協議して協定を結ぶものとしている。

① 研究者等博物館職員の交流
② 共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
③ 専門技術や方法論に関する情報交換
④ 出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）
⑤ 両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2021 年度までに、フランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、中国の中国科学院水生生物研究所と湖南省博物館、韓国の国立洛東江生物資源館、京都大学野生動物研究センターの７つの博物館・研究機関と MOU を締結してきた。2024 年度は新たに（独）大阪府立環境農林水産総合研究所と相互協力協定を 10 月 8 日に締結し、琵琶湖・淀川の希少淡水魚の保全活動を共同で進めていくことになった。

1）京都大学野生動物研究センター（京都府京都市）

京都大学野生動物研究センター（センター）は、絶滅の危機に瀕している大型哺乳類を中心に、野生動物に関する教育研究を行っている施設である。2016年11月25日に、野生動物の生態・行動の理解と保全に関わる情報及び技術の相互交換、並びに共同学術研究を基に、野生動物の教育的展示をより一層発展・促進することを目的として、協力協定(MOU)を締結した。2024年度は、センターの主催する2024年度第6回動物園水族館大学シンポジウム「野生動物と生息地を守る取り組み- 動物園・水族館との協働－」(2月24日）を共催し、発表会「動物園・水族館での試行と創造」(2月23日）に参加した。

2）韓国洛東江生物資源館

2023年度の協議で2年に一度交代で合同セミナーと機関長会議を開催することが決定されたのを受け、亀

田館長以下4名が9月11－13日に訪韓して合同セミナーと機関長会議を行った。この会議で2025年度の洛東江生物資源館の企画展示と2026年度の琵琶湖博物館の企画展示において相互にデータや標本の提供などの協力を行うこと、2026年度以降に共同研究を開始するための準備を行うことが決定した。

３）大阪府立環境農林水産総合研究所

10月8日に相互協力協定の締結式を行い、それぞれが系統保存しているイタセンパラとイチモンジタナゴの交換を行った。また2月26日に勉強会を開催し、当館からは金尾滋史専門学芸員が「琵琶湖と田んぼ、魚、人のつながり」というテーマで講演を行った。

(2) 伊藤忠商事株式会社との連携

1）希少淡水魚の飼育技術確立に関する研究

琵琶湖博物館の保護増殖センターにて系統保存を行っている希少淡水魚のうち、琵琶湖淀川水系にも生息し、かつては琵琶湖にも生息していたアユモドキを対象に取り組みを行った。当館のアユモドキは、旧八木町（現南丹市）産で、水族展示の前身である琵琶湖文化館の時代から40年にもわたって系統保存がなされてきた。この数年は繁殖がうまくいかず、2023年に雌が残っていないことが判明した。そのため、今年度は昨年度に引き続いて、非繁殖期における摂餌量の増加や冬季における低水温経験など飼育条件の改善を行うとともに、同一水系の隣接地域である亀岡市産の雌を淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会および環境省との協議の下、捕獲、導入し、当館の八木町産雄個体と人工授精を行った。その結果、1000個を超える受精卵を得ることができ、3月31日時点にてそのほとんどが生残しているという大きな成功を収めている。

(3) 試験研究機関との連絡活動

1) 県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議（事務局：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）が設置運営されている。

各機関が行っている研究やその成果について広く一般に知ってもらうための研究発表会（ポスター形式）は、琵琶湖博物館アトリウムを会場に11月23日～12月15日を掲示期間とし、15日にポスター前でのプレゼンテーションを行うという形で実施した。当館からは芳賀裕樹上席総括学芸員が「南湖の水草の増減をモニタする」というタイトルで発表した。幹事会は７月1日、９月６日、１月７日にオンラインで行われ、本会議と勉強会、施設見学会が2月27日に対面とオンラインで開催された。本会議では、発表会の報告とともに次年度の行事予定が承認された。

(4) 海外交流活動

1) 研究に関する国際用務

亀田佳代子

- 2024 年 9 月 11 日～9 月 13 日．韓国国立洛東江生物資源館，韓国．MOU の協力内容に関する協議会及び合同セミナーの開催.
- 2025 年 1 月 6 日～1 月 13 日．コスタリカ，サンホセ市．国際水鳥学会・汎太平洋海鳥学会合同大会での研究発表.

川瀬成吾

- 2024 年 9 月 14 日～9 月 29 日．ナチュラリス生物多様性センター(オランダ，ライデン)パリ自然史博物館（フランス，パリ）．科研費基盤 C「博物館における分類学の再考と再構ー生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦ー」に係る標本調査
- 2025 年 3 月 14 日～18 日．韓国，鎮川郡および京畿道．第 80 回魚類自然史研究会韓国大会招待講演な

らびに標本収集.

里口保文

・2024 年 7 月 7 日～2024 年 7 月 12 日．アメリカ合衆国、アラスカ大学 Gorsuch Commons. IODP Expedition 386, 2nd Post-Cruise Meeting への参加および発表

・2024 年 9 月 11 日～9 月 13 日．韓国国立洛東江生物資源館，韓国．MOU の協力内容に関する協議会及び合同セミナーの開催.

妹尾裕介

・2024 年 9 月 11 日～9 月 13 日． 韓国国立洛東江生物資源館， 韓国． MOU の協力内容に関する協議会及び合同セミナーの開催.

・2024 年 9 月 18 日～10 月 1 日．インドネシア共和国 西ジャワ州．科研費基盤 B「和食の成立過程の解明： 湯取り法炊飯からウルチ米蒸しへの転換過程」のための現地調査

芳賀裕樹

・2024 年 9 月 11 日～9 月 13 日．韓国国立洛東江生物資源館，韓国．MOU の協力内容に関する協議会及び合同セミナーの開催.

林竜馬

・2024 年 5 月 26 日～6 月 4 日．チェコ共和国．国際花粉学会議（XVth International Palynological Congres）への参加。科研費基盤 C「過去 50 万年の琵琶湖・海洋花粉分析からみる温暖期の森の脆弱性と日本海効果の評価」成果発表。

・2024 年 7 月 24 日～8 月 10 日.トルコ・アナトリア地域．科研費国際共同研究加速基金「アナトリア地域における火災史解明」に係る現地調査

半田直人

・2025 年 2 月 16 日～3 月 3 日．タイ・ナコンラチャシマ市コラート化石博物館、ミャンマー・ヤンゴン市考古局．科研費基盤 B「モンゴルにおける最初期ホモサピエンスの適応的・行動的多様性の形成」に係る標本調査.

・2025 年 1 月 30 日～2 月 3 日．モンゴル・ウランバートル市，モンゴル科学アカデミー考古学研究所．科研費基盤（B)「モンゴルにおける最初期ホモサピエンスの適応的・行動的多様性の形成」に係る標本調査

楊平

・2024 年 11 月 12 日～15 日．中国，無錫．太湖国際水管理会議（国際シンポジウム）招待講演.

米田一紀

・2024 年 9 月 11 日～9 月 13 日．韓国国立洛東江生物資源館，韓国．MOU の協力内容に関する協議会及び合同セミナーの開催．セミナー発表.

4. 研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版（平成 25 年 1 月 25 日）および「博物館関係者の行動規範」（日本博物館協会平成 23 年 3 月）に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」（2016 年 7 月）を定め、公正な博物館活動を推進している。また、研究活動の不正行為を防止する一環として、毎年研究倫理研修を行っている。2024 年度は次の研修を実施した。

1）第 1 回研究部研修「研究倫理研修」　　参加者：40 名

日時： 11 月 28 日（木）　13:30 － 15:30

場所：琵琶湖博物館ホール

内容：「博物館の諸活動における倫理的・法的・社会的課題（ELSI)」

講師：

岸本 充生氏（大阪大学社会技術共創研究センター（ELSI センター）センター長）

鈴木 径一郎氏（大阪大学社会技術共創研究センター（ELSI センター）特任助教）

鈴木 美香氏（大阪大学社会技術共創研究センター（ELSI センター）講師）

水町 衣里氏（大阪大学社会技術共創研究センター（ELSI センター）准教授）

趣旨：

近年、先端科学技術の社会実装に伴う倫理的・法的・社会的課題（ELSI：Ethical, Legal and Social Issues）をめぐる議論が活発化しており、更に先端科学にとどまらず、全ての研究分野でも取り組むべき課題として意識され始めている。市民、学校、企業、行政機関など多様なステークホルダーと協働して研究を行っている琵琶湖博物館の活動をより適切に推進するためには、ELSI に対する理解を深めることが必要と考えられる。そこで今回の研究倫理研修では、博物館における研究調査、交流、情報発信、資料整備、展示などの諸活動において、どのような ELSI があり得るかをグループワークを通じて探求した。

2) 日本学術振興会　研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

実施期間：1 月 10 日～3 月 30 日まで

受講時間：約 1 時間半

受講人数：42 名（学芸職員の他、特別研究員 12 名を含む）

(2) 薬品類の管理

滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程（2017 年 4 月 1 日より施行）の第 4 章に記述されている通り、化学薬品の保管状況および毒劇物等の使用状況について確認を行うことを目的に、薬品棚卸し作業を年度内に 2 回行った。その結果、毒物、劇物、有害物質、指定物質、第一種指定化学物質について、すべての在庫を確認した。毒劇物の薬品瓶の重量（容器込み）を測定し、薬品管理使用簿に記入した。棚卸しの結果は、化学薬品管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。

また、古くなったり使用見込みがなくなった薬品類をリストアップし、廃棄を進めた。

(3) 研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしている。今年度も、備品台帳の情報を元に、取得金額により対象を区分して備品の確認を行った。その結果に基づき、特に取得年代の古い備品の廃棄・更新を進めている。

(4) 研究環境の整備

新たに着任した学芸職員への対応も含め、各研究室・実験室の再整備を順次進めている。

(5) 研究・事業専念時間設定

事業と研究のバランスをとるための研究専念日の設定と運用は今年度も引き続き実施した。制度も 3 年目となり、運用ルールも定着してきたところであるが、水槽破裂やその後の復興事業・クラウドファンディングなどにより、職員によっては十分な研究専念が行えない事例があった。このため、業務の見直し等によるバランスの再構築が課題となっている。

2　交流活動

1. 利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2024年度の登録者数は177名であった。

フィールドレポーターの主な活動は、年2回のフィールドレポーター調査である。そのため、月2回（原則毎月第1・3土曜日）の定例会、アンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・発行、館内の展示および更新、「自由交流型調査」のまとめと「掲示板」の編集・発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施を行っている。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。 2024年度は、アンケート型調査として「生き物供養碑調査」と「タンポポ調査」を実施した。

「生き物供養碑調査」は、滋賀県にどのような生き物供養碑が建てられているか、どのような碑文が抱えられているかの調査を実施した。スタッフ大河原秀康氏、担当学芸員橋本道範で実施した。その結果、70件の情報が寄せられた。結果については、「フィールドレポーターだより」で公表するほか、2025年6月23日の交流会で発表する予定である。

「タンポポ調査」は、5年に1度実施されているタンポポ調査・西日本に協力する形で、フィールドレポーターでも調査を実施している。スタッフ前田雅子氏、担当学芸員芦谷美奈子で実施した。タンポポの花期に合わせて、年度をまたぐ形で2025年3月1日～2025年5月31日の期間で実施している。

自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計2号（通巻104，105号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、スタッフの椛島昭紘氏が務めた。また、11月16日（土）、17日（日）に行われたびわ博フェス2024では、17日には「「ひかり拓本をやってみよう、みえにくい字や絵を浮かびあがらせよう」と題して大河原秀康氏が中心となってワークショップを実施した。

フィールドレポーターを紹介するYouTube動画「誰でも参加できる琵琶湖の地域調査員！滋賀県にある生き物供養を調査！」を作成した。https://youtu.be/I_JcH31zglg

なお、フィールドレポータースタッフ定例会等の会合・行事を計22回開催している。

月	日(曜日)	内容
4月	6 日(土)	定例会
	20 日(土)	勉強会「地域の神社奉納石造品を調べる」について米田実様講演
5 月	2 日(土)	勉強会「ひかり拓本」講師上椙英之様
	16 日(土)	定例会、交流会準備
6 月	1 日(土)	2024 年度第 1 回交流会
7 月	6 日(土)	定例会
	20 日(土)	定例会
8 月	3日(土)	定例会「生き物供養碑調査」検討
	10 日(土)	定例会「生き物供養碑調査」検討
9 月	7 日(土)	定例会「生き物供養碑調査」検討
	21 日(土)	供養碑見学会
10 月	5 日(土)	定例会、びわ博フェス 2024 内容検討

	19 日(土)	「生き物供養碑調査」調査案内・調査票印刷送付。掲示板 105 号検討
11 月	2 日(土)	定例会、びわ博フェス 2024 内容検討
	16 日(土)	びわ博フェス 2024 準備
	17日(日)	びわ博フェス 2024
12 月	4 日(土)	定例会
	15 日(土)	定例会
1 月	4日(土)	定例会
	18 日(土)	定例会
2 月	1日(土)	定例会
	15 日(土)	定例会
3 月	7日(土)	定例会
	21日(土)	定例会

⑵ はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていこうとする利用者のための登録制度として、2000 年 8 月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらうことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1 年毎に何回でも更新できる。

2024 年度は登録講座をオンラインで 3 回、対面式で 1 回実施した。オンラインの開講期間は 4 月 28 日（日）～5 月 12 日（日）、9 月 8 日（日）～9 月 22 日（日）、2 月 23 日（日）～3 月 9 日（日）で、受講生にはこの期間のうち任意の時間に受講いただいた。対面式では 9 月 28 日（日）に実施した。5 月開催後には 18 名、9 月開催後には 11 名の新規登録者があり、2024 年度末の会員数は 387 人となった。なお、3 月開催分の新規登録者 20 名は 2025 年度より会員となる。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の理念実現への推進力となっている。2024 年度の 9 月頃まで、25 のグループが活動していたが、「ザ！ディスカバはしかけ」および「タンポポ調査はしかけ」が活動終了することとなった。2024 年度 10 月以降は 23 グループが活動を行っている。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行

担当学芸員：田畑諒一、川瀬成吾

会員数：79 名

[設立の趣旨]

「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、魚採りが大好きな人々が集まって結成された。2000 年の発足以来、琵琶湖博物館を活動拠点として、「魚つかみ」を楽しみながら、身近な環境に棲息している魚たちの情報を 21 世紀初頭の姿として記録に残すことを目指している。

［活動の概要］

4 月から 7 月と 9 月から 12 月に月一回、定例調査を琵琶湖流域の各地で開催し、その他に臨時的な活動や県内各地での観察会支援を実施した。なお 4 月の活動は悪天候のため中止となった。また各会員は日常的に調査活動を実施し、うおの会のデータとして記録を残すことに努めた。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、13 名の運営委員が中心となって行った。

2024 年度は定例調査で 65 地点、個人調査で 46 地点の採集データを残すことができた。定例調査は、基本的に 3～6 人程度の調査班を数班編成し実施した。定例調査での魚類の総採集尾数は 2823 尾で、出現種数は 44 種であった。1 月には、勉強会として DNA 分析の基礎知識に関する講座、ウツセミカジカの最新知見を学ぶ講座を開催した。2 月には岐阜県にある世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふの見学会を実施し、通常の観覧のほか、特別にバックヤードを案内して頂いた。定例調査と勉強会、見学会を合わせた全活動の、のべ参加者数は 246 名であった。

その他、県内各地での自然観察会や講演会に数名の会員が講師として参加し、参加者に魚や生息環境についての解説を行った。1 月には琵琶湖博物館の「新琵琶湖学セミナー」にて、うおの会がこれまでに収集してきたデータを元にした、滋賀県内の魚類分布状況に関する発表を行った。

「うおの会」のおもな活動

・2024 年度 定例調査などの活動一覧（のべ参加人数 272 名）

活動日	内　　容	参加者数
4 月 21 日	（中止）第 180 回定例調査　天野川	
5 月 19 日	第 181 回定例調査　野洲川（守山市、野洲市）	16 名
6 月 16 日	第 182 回定例調査　芹川、犬上川（彦根市）	24 名
6 月 23 日	湖魚調理の体験会（琵琶湖博物館）	20 名
7 月 21 日	第 183 回定例調査　天神川（大津市）	17 名
8 月 3 日	夜間調査　和邇川（大津市）	12 名
9 月 15 日	第 184 回定例調査　草津川（草津市・栗東市）	22 名
10 月 20 日	第 185 回定例調査　日野川、善光寺川、惣四郎川（竜王町）	17 名
10 月 27 日	水資源機構新浜ビオトープ観察会への協力（草津市）	5 名
11 月 16 日	びわ博フェス（琵琶湖博物館）ワークショップ参加者約 60 名（付き添い保護者等含む）	13 名
11 月 17 日	第 186 回定例調査　湖岸堤堤脚水路（高島市）	17 名
12 月 15 日	第 187 回定例調査　法竜川（守山市）	22 名
1 月 19 日	第 187 回定例調査　法竜川（守山市）	31 名
2 月 16 日	第 187 回定例調査　法竜川（守山市）	30 名
3 月 30 日	総会（琵琶湖博物館）	26 名

※上記以外に運営会議を 1 回開催

※収集したデータの数：定例調査 65 地点、個人調査 48 地点

・各種行事等への参加･協力一覧

活動日	内　　容	参加者数
5 月 26 日	第二十三回「琵琶湖外来魚駆除の日」　展示出展（草津市・烏丸半島多目的広	1 名
6 月 1 日	龍谷大学スタディツアー　講師　（近江八幡市・沖島）	1 名
6 月 2 日	高島市針江みずすまし水田自然観察会　講師　（高島市・みずすまし水田）	1 名
6 月 9 日	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会　生き物観察会　講師　（東近江市・栗見出在家町）	1 名

7月28日	琵琶湖ネット草津「草津川水辺のふれあい楽校」自然観察会　講師（草津市・草津川）	2名
9月19日	FM草津「モニロケいきいき草津」出演	1名
12月22日	淡海淡水生物研究所「長浜MLGs CAFE」 講演　「びわ湖からの贈り物-この素敵な魚たちをいつまでも守るために-」（長浜市・長浜まちづくりセンター）	1名
1月25日	新琵琶湖学セミナー　講演　「みんなで楽しく“魚つかみ”を続けてみたら、こんなことが分かった」　（草津市・琵琶湖博物館）	1名
2月1～2日	外来魚情報交換会　参加・発表　「琵琶湖のブルーギル繁殖状況調査 -20年前と比べて本当に減ったのか-」　（草津市・琵琶湖博物館）	3名
2月15日	全国ブラックバス防除市民ネットワーク（ノーバスネット）総会（東京・自然環境研究センター）	2名
3月8日	エコノボイス滋賀「エコぶん寄席」　講演　「写真・映像でみるホンモロコ」（草津市・草津市まちづくりセンター）	1名

〇近江 巡礼の歴史勉強会

世話役：福野憲二、吉井　隆、関谷和久、長　昭男　　担当学芸員：橋本道範　　会員数4名

［設立の趣旨］

近江の巡礼について、歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、宗教、郷土史、教育文化、行政など各種専門分野の人々と勉強会、見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を設立した。“近江の祈り”をテーマに、甲賀市で発見された福野家文書「甲賀准四国設置由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八ヶ所(注)の調査活動を行う。

(注)甲賀准四国八十八ヶ所は、滋賀県の四国巡礼として明治４５年に設立された唯一の「写し四国八十八ヶ所」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多くの寺院には設立当時の掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録することに意義があると考える。

［活動の概要］

・「甲賀准四国設置由来」に基づき 8 名の発起人の現在を訪ね甲賀准四国に関する資料等の発掘を行い設立の経緯と巡礼の拡がりを調べる。
・札所の寺院を訪問し住職と面談することで、甲賀准四国の現在の状態を把握し、あわせて新たな資料を発掘する。
・朱印帳などを手掛かりに拡がり具合を調査し人々を巡礼に駆り立てる要因を探る。
・西国三十三所や近江西国三十三所の観音信仰との関連について調査し巡礼の実態を探る。
・専門分野だけでなく広く一般に活動の展開を図る。

【2024年度活動結果報告】　　活動会員数（のべ）9名、一般参加者数（のべ）178名

・甲賀准四国対象寺院の住職との面談と調査は、対象98ヶ寺のうち、調査可能な寺院数は兼帯の寺院も合わせて92ヶ寺、廃寺・老朽化で調査不可能な寺院数は6ヶ寺である。その中で2025年3月までに住職との面談が実施できた寺院数は27ヶ寺（進捗率30.4%）である。
・信楽町杉山で通行途中に偶然にも札所石碑を発見。道路工事中のため迂回路を走行中に甲賀准四国第67番札所の石碑を発見することができた。対象寺院92カ寺のうち56カ寺で石碑の存在を確認した。
・昨年に引き続き、立命館大学食・マネジメント学部のフィールドワークと草津の自然観察グループの活動

を今郷棚田で実施した。
みなくち子どもの森自然館学芸員の解説で今郷棚田の生き物観察を行い、生物多様性を実感した。また、竹の食器を使った新米の食べ比べなど食に関する調査や体験も行った。
立命館大学と今郷棚田集落協定は滋賀県主催の事業である令和6年度しがのふるさと支え合いプロジェクトにも参加している。目的は今郷地域の活性化と豊かな学びの実現。協定における連携・協力事項としては、①今郷棚田米のパッケージデザインに関すること②地域と学生の交流活動に関することである。
・水口町郷土史会主催の石山寺と大津歴史博物館の研修会に役員として参加した。
・当初計画の下記3項目が実施できなかった。
1. 甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示を実施して調査結果を発表する。
2. 甲賀准四国の関係者や巡礼の専門家との第二回目勉強会を開催する。
3. 当グループとしての纏め作業を行う。

「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内容	場所
6月5日	信楽町杉山にて第67番札所の石碑を発見	甲賀市信楽町
6月19日	第67番札所の石碑の再調査	甲賀市信楽町
7月27日	立命館大学フィールドワーク・草津市民グループ自然観察会	甲賀市水口町
10月5日	立命館大学フィールドワーク・草津市民グループ自然観察会	甲賀市水口町
11月1日	水口町郷土史会の研修会（石山寺・大津歴史博物館）	大津市
11月17日	ビワマスの遡上観察会	甲賀市水口町

※「近江 巡礼の歴史勉強会」活動の参加人数について

年　度	活動日数	活動会員数	一般参加者数	合　計
発足前	25	51	0	51
2017年	37	76	82	158
2018年	21	42	*627	669
2019年	19	44	*543	587
2020年	3	12	95	107
2021年	9	20	110	130
2022年	22	38	*576	614
2023年	16	26	176	202
2024年	6	9	178	187
合　計	158	318	2387	2705

*甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示実施して調査結果を発表した。岩上自治振興会の歴史講座や研修を実施した。（2018年・2019年）
*「近江のなれずし製造技術」と「甲賀売薬の製造・販売用具」の民族文化財登録の記念講演会参加人数を含む。(2022年)

○淡海スケッチの会
担当学芸員：桝永一宏　　会員数：9名

［設立趣旨］
「外へ誘う博物館」を実践し、滋賀県内の各所へ赴き、絵画等により風景やものを観察、写生することで記録を残すことを目的とする。
［活動概要］
月１回（基本的に第４日曜日）、滋賀県内各地でスケッチ会等を開催。
また、気候が厳しい真夏や真冬、雨天時は琵琶湖博物館内でスケッチおよび吟行句会を行う。
2015 年秋に設立。
風景に限らず植物や、博物館内の剥製、水族展示室の魚などをスケッチし、専門家の話を伺う機会も設けている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内　　容	場　　所	参加者数
4 月 28 日	写生会	花緑公園（野洲市）	2 名
5 月 26 日	吟行	立木観音（大津市）	3 名
6 月 23 日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	3 名
7 月 28 日	休止	琵琶湖博物館	0 名
8 月 25 日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	2 名
9 月 22 日	吟行	水生植物園（草津市）	2 名
10 月 27 日	休止	－	0 名
11 月 24 日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	2 名
12 月 22 日	ミーティング	琵琶湖博物館	3 名
1 月 26 日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	3 名
2 月 23 日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	5 名
3 月 23 日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	5 名

※総活動人数 30 名

○近江はたおり探検隊
運営：辻川智代　担当学芸員：橋本道範
［設立の趣旨］
2004 年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。
［活動の概要］
博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成 18 年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日		内　　容	場　　所	参加者
4	6	織姫の会	生活実験工房	4 名
4	24	織姫の会	生活実験工房	2 名
5	18	織姫の会	生活実験工房	7 名
5	29	織姫の会	生活実験工房	5 名

6	15	織姫の会	生活実験工房	5名
6	26	織姫の会	生活実験工房	5名
7	10	織姫の会	生活実験工房	4名
7	27	織姫の会	生活実験工房	4名
9	7	織姫の会	生活実験工房	5名
9	25	織姫の会	生活実験工房	7名
10	9	織姫の会	生活実験工房	7名
10	16	びわ博フェス「樹皮を編んでストラップを作ろう」	生活実験工房	5名 参加者：19名
10	26	織姫の会	生活実験工房	5名
11	7	織姫の会	生活実験工房	6名
11	27	織姫の会	生活実験工房	3名
12	7	織姫の会	生活実験工房	2名
1	11	織姫の会 （わく探と共催「綿に触れてみよう」）	生活実験工房	3名
1	29	織姫の会	生活実験工房	5名
2	8	織姫の会	生活実験工房	1名
2	26	織姫の会	生活実験工房	3名
3	8	織姫の会	生活実験工房	5名
3	26	織姫の会	生活実験工房	4名

〇大津の岩石調査隊

代表者：斉藤文子(～2025年1月）梅澤正夫(2025年2月～)　担当学芸員：里口保文　会員数：21名

[設立の趣旨]

市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要]

隊員各自が計画し、野外調査も勉強会も行うことが定着し、計画立案から調査後の報告まで行った。これにより、全体が見えるようになり、大変さも増えたが、発見する楽しみ、人に喜ばれる楽しさも増えた。

調査研究においては、花崗岩のグライゼン、大津市西南部での数個の流紋岩質岩脈の確認、近江八幡周辺での花崗岩と火砕岩の並存に関する仮説の提起等、着実な進歩があった。

また、湖国もぐらの会と琵琶湖博物館が共催するギャラリー展示「鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る」への展示に参加して滋賀県の花崗岩を紹介したほか、はしかけグループ「びわたん」と共同での体験イベントを実施した。他との調整、手違い等もあって容易ではなかったが開催でき、PR 出来たことは今後の励みとなった。

室内勉強会では、採取岩石を持ち寄り、情報交換と岩石の同定を試みた。一方、びわ博フェスのワークショップに参加して、「石を比べてみよう、石に顔を描いてみよう」のタイトルで、小さな子供たちと石とのふれ合いの中で、楽しい時間を共有できた。

「はしかけ大津の岩石調査隊」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
3月16日(土)	ギャラリー展示鉱物・化石展に展示する花崗岩採取	野洲市	8名

4月12日(金)	ギャラリー展示鉱物・化石展の展示準備	琵琶湖博物館	5名
4月20日(土)	夜久野オフィオライト調査・巡検	大飯郡おおい町	11名
5月18日(土)	野外調査	大津市大石東付近・瀬田川	10名
6月13日(木)	岩石標本採取	多賀町	12名
7月21日(日)	薄片観察会	琵琶湖博物館	13名
9月24日(火)	野外調査・岩石標本採取	湖南市・野洲川	7名
10月14日(月)	野外調査	高島市・比良山地付近	7名
11月16日(土)・17日(日)	びわ博フェス参加	琵琶湖博物館	7名
12月14日(土)	わくわく探検隊実施（「びわたん」と共同)	琵琶湖博物館	4名
1月28日(火)	岩石持ち寄り情報交換会	琵琶湖博物館	8名

〇温故写新

連絡係：　　担当学芸員：金尾滋史・加藤秀雄　　会員数：11名

[設立の趣旨]

写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動概要]

2024年度は琵琶湖博物館が所蔵する大橋宇三郎コレクションの各写真が撮影された場所を訪ね、その移り変わりを写真に収める活動を行ってきました。また琵琶湖博物館に所蔵されている温故写新関係の資料や、その他の画像資料を活用するためにどのようなことができるか検討する場も設けられました。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4月13日（土）	総会	琵琶湖博物館	9名
5月18日（土）	おでかけ撮影会 in 彦根	彦根市	5名
6月15日（土）	おでかけ撮影会 in 八日市	東近江市	5名
7月13日（土）	おでかけ撮影会 in 長浜	長浜市	7名
8月17日（土）	2024年度後半の活動に関する打ち合わせ	琵琶湖博物館	8名
9月8日（日）	琵琶博所蔵「温故写新」関係資料の確認	琵琶湖博物館	8名
10月19日（土）	びわ博フェス出展内容に関する打ち合わせ	琵琶湖博物館	5名
11月9日（土）	びわ博フェス出展写真の印刷	琵琶湖博物館	7名
11月16日（土）、17日（日）	びわ博フェスへの参加とその様子の写真撮影	琵琶湖博物館	8名
12月15日（土）	おでかけ撮影会 in 堅田	大津市	3名
2月24日（月）	金尾学芸員による撮影技術講座	琵琶湖博物館	10名

3 月 23 日（日）	総会	琵琶湖博物館	9 名

〇暮らしをつづる会
代表：中尾京子　　担当学芸員：大久保実香　　会員数：1 名
［設立の趣旨］
　地域の生活のあり方を考えながら地域の生活誌を記録に残し、伝えていくことを目指している。
［活動の概要］
　事情により活動休止期間があったため、2024 年度は、来年度の活動再開に向けたメンバー募集を行った。びわはくフェス（11/16、11/17）においては、ポスター展示を実施した。

〇古琵琶湖発掘調査隊
会長：堀田　博美　　事務局長：安原　輝　　担当学芸員：山川千代美　会員数：27 名
［設立の趣旨］
　多賀町四手で計画された 180～190 万年前の古琵琶湖層群調査（多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト）において、市民参加の方々を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。
［活動の概要］
　本年度は「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」での発掘調査が行われなかった。
　活動としては、4 月に元琵琶湖博物館学芸員の八尋克郎先生にお越しいただき、昆虫化石の勉強会と第十次発掘調査で採取された昆虫化石の観察を行った。古琵琶湖発掘調査隊で取り組んできた第十次発掘調査で採取された植物化石・昆虫化石・咽頭歯化石のクリーニングについても一区切りつけることができた。
　多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトの発掘調査地や多賀町立博物館で行われた研修会にも参加した。多賀町発掘お助け隊や多賀町立博物館ミュージアムサポーターの皆様と一緒の研修会で、参加されていた方々と共に学び、交流することができた。
　古琵琶湖発掘調査隊として、自分達自身で取り組む屋外調査も実施した。本年度は新たに観察できる場所として、愛知川河床での観察・調査を行った。活動に向けての現地下見に始まり、現地調査では、多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトへの参加で経験したことや今までのフィールドでの活動経験をいかして調査を行った。採取した化石は各自持ち帰り、クリーニングを行った。後日、活動の振り返りを行い、採取した化石を持ち寄り、各メンバーより採取した化石についての報告を行い、皆で何の化石か検討した。産出状況の確認や気づいたこと、疑問に思ったことなどについて、互いに意見を出し合う報告会となった。
　8 月には、メンバーの一人が講師となり、植物化石の勉強会を行った。豊富なフィールド調査での実体験に基づいた講義は、参加したメンバーの大きな学びとなった。
　4 月 20 日～6 月 2 日まで、琵琶湖博物館 企画展示室にて開催された「ギャラリー展示 鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る」（主催：湖国もぐらの会・琵琶湖博物館）に、古琵琶湖発掘調査隊の活動紹介のポスターを展示した。
　「びわ博フェス 2024」では、アトリウムへの活動紹介ポスターの掲示と、そのポスター前での化石展示を行った。化石の展示では、今までの活動で採取してきた化石を展示した。展示する化石の選び出しや、綿を入れたビンに植物化石をセットして展示の際に見やすくする技術も新たに習得するなど、事前準備に取り組んだ。当日はメンバー達がポスター前にて、活動紹介と合わせて古琵琶湖層群についてや展示化石の解説を対話にて行い、来館者の方々との双方向での交流を行った。
　琵琶湖博物館の公式 YouTube チャンネル「びわこのちからチャンネル」の、「はしかけ」制度の紹介 YouTube 動画の撮影にも協力し、2024 年 12 月 27 日に動画が公開された。
　本年度は、メンバー達の今までの経験をいかした様々な活動を展開しつつ、新たなことにも挑戦した一年

となった。また、古琵琶湖発掘調査隊の活動の様子についても、多くの方々に知っていただくことができた。

「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

〔屋内活動〕

・昆虫化石についての勉強会

日　時：4 月 13 日（土）13：00～16：00

場　所：琵琶湖博物館　実習室１

参加者：9 名

元琵琶湖博物館学芸員の八尋克郎先生にお越しいただき、昆虫化石の勉強会及び第十次発掘調査で採取された昆虫化石の観察を行った。

・①6 月 16 日実施の愛知川河床での活動の振り返り

②「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採取された植物化石のクリーニング

日　時：7 月 21 日（日）14：00～17：00

場　所：琵琶湖博物館 実習室１

参加者：7 名

・植物化石の勉強会

日　時：8 月 25 日（日）13：00～16：00

場　所：琵琶湖博物館 実習室１

参加者：７名

メンバーの一人が講師となり、実体験に基づいた化石の採集方法や植物化石についての講義を行った。

・「びわ博フェス 2024」の準備(1 回目)

日　時：9 月 10 日（火）13：00～

場　所：琵琶湖博物館 地学研究室

参加者：２名

・「びわ博フェス 2024」の準備(2 回目)

日　時：10 月 26 日（土）13：00～16：00

場　所：琵琶湖博物館 実習室１

参加者：５名

・「びわ博フェス 2024」への参加

日　時：11 月 17 日（日）13：25～13：50(1 回目)　14：30～14：50(2 回目)

場　所：琵琶湖博物館　アトリウム

参加者：4 名

アトリウムに掲示されている古琵琶湖発掘調査隊のポスター前にて、メンバーによる活動紹介と化石の展示を行った。

・古琵琶湖発掘調査隊　総会

日　時：3 月 1 日（土）13：00～15：30

場　所：琵琶湖博物館 実習室１

参加者：6 名

〔屋外活動〕

・屋外活動のための下見

日　時：5 月 12 日（日）10：00～13：00

場　所：滋賀県東近江市　愛知川河床

参加者：4 名

・化石林の観察及び植物化石の採取・調査

日　時：6 月 16 日（日）10：00～13：00

場　所：滋賀県東近江市　愛知川河床

参加者：9 名

〔その他〕

・活動紹介のポスター展示

琵琶湖博物館 企画展示室で開催された「ギャラリー展示　鉱物・化石展 2024 大地に夢を掘る」（開催期間：4 月 20 日～6 月 2 日、主催：湖国もぐらの会・琵琶湖博物館）にて、古琵琶湖発掘調査隊の活動紹介のポスターを展示した。

・琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル「びわこのちからチャンネル」の、「はしかけ」制度の紹介 YouTube 動画の撮影に協力

日時：10 月 13 日（日）9：30～16：00

場所：〈午前〉滋賀県湖南市（屋外）

〈午後〉琵琶湖博物館　実習室１

参加者：6 名（午前中 5 名、午後から 1 名追加で参加）

・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト・多賀町立博物館ミュージアムサポーター研修会

日　時：11 月 9 日（土）9：00～16：30

場　所：〈午前〉多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト発掘調査地

（滋賀県犬上郡多賀町四手）

〈午後〉多賀町立博物館

参加者：3 名

・撮影協力した YouTube 動画の編集チェック

事務局（会長・事務局長）と担当学芸員等で「びわこのちからチャンネル」にアップする YouTube 動画の編集チェックを行った。

・撮影協力した YouTube 動画が公開

公開日：2024 年 12 月 27 日

「びわこのちからチャンネル」に撮影協力した YouTube 動画が公開された。

〇ザ！ディスカバはしかけ

担当学芸員：米田一紀　会員数：－ 名

［設立の趣旨］

子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

［活動の概要］

2024 年 9 月にグループ解散しました。

〇里山の会

担当学芸員：奥田　岬　　会員数：23 名

［設立の趣旨］

交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001 年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ方」を模索している。

［活動の概要］

里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006 年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり小径木や灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床にも新たな芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の野草観察、夏の昆虫・生物観察、秋の木の実集め、冬の焚き火や花炭づくりなど四季様々な里山の利用を通じて、その恵みや価値を感じている。このフィールドは「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動の地域での認知度も高まってきている。

「里山の会」のおもな活動

活動日	行事名	場所	参加人数
4 月 13 日	里山体験教室(春)下見	野洲市大篠原地先	11 名
4 月 21 日	里山体験教室(春)本番「里山の春を探そう」	野洲市大篠原地先	15 名
5 月 9 日	潮干狩り	三重県御殿場浜	5 名
5 月 25 日	はしかけの森整備、お楽しみ会	野洲市大篠原地先	7 名
6 月 29 日	里山体験教室(夏)下見	野洲市大篠原地先	4 名
7 月 7 日	里山体験教室(夏)本番「里山の夏を楽しもう」	野洲市大篠原地先	中止
9 月 28 日	ハンモック虫干し、道具整備	琵琶湖博物館生活実験工房	3 名
10 月 12 日	里山体験教室(秋)下見	野洲市大篠原地先	7 名
10 月 20 日	里山体験教室(秋)本番「里山の秋を探そう」	野洲市大篠原地先	18 名
11 月 16 日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	68 名
12 月 21 日	凧作り・凧あげ	琵琶湖博物館生活実験工房	中止
1 月 11 日	里山体験教室(冬)下見	野洲市大篠原地先	7 名
1 月 19 日	里山体験教室(冬)本番「里山の冬遊び」	野洲市大篠原地先	10 名
3 月 1 日	キノコ菌打ち・総会	琵琶湖博物館生活実験工房	7 名

○植物観察の会

代表者：辻いずみ　　担当学芸員：芦谷美奈子　　会員数：7 名

［設立の趣旨］

2004 年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、「はしかけ」本来の自主的活動とするため、2017 年からメンバー登録し、月に１度「定例会」、年に数回「お出かけ観察会」を行う形とした。

［活動の概要］

2017 年４月から登録制とし、月に１回定例会を行っている。

定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、外部へのお出かけ観察、芦谷先生に水草について教えて頂くなど、季節や天候によって変えながら行った。はしかけ登録者全体へ呼びかけていた「お出かけ観察会」は、新型コロナ発生時の 2020 年度から行っていない。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内　　容	場　　所	参加者
4月 7日(日)	博物館周辺の観察	琵琶湖博物館周辺、樹冠トレイル	6名
5月 3日(日)	お出かけ観察	みなくち子どもの森（甲賀市）	4名
6月 2日(日)	お出かけ観察	栗東自然観察の森（栗東市）	3名
7月	都合によりお休み		0名
8月	猛暑のため　例年お休み		0名
9月15日(日)	お出かけ観察（水草観察⑤）	長浜市 豊公園	2名
10月 6日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館　実習室	4名
11月 3日(日)	博物館企画展 水草とヒトの暮らしの関わり	琵琶湖博物館　企画展示室	3名
12月	都合によりお休み		0名
1月 5日(日)	博物館周辺の観察	琵琶湖博物館周辺、樹冠トレイル	4名
2月	例年お休み		0名
3月 2日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館　実習室	3名

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

・今年度も初めてのものを見たり教えてもらったりすることができた。　１人でも観察はできるが、メンバー同士で植物の話をしながら観察することが、やはり楽しい。一人で調べていても分からないことでも、メンバー同士の知識や複数の図鑑を見比べることで、分かってくることが多い。

・他種類の図鑑を芦谷先生に準備して頂けること、それによってスマホで調べるより確かな情報が得られること、実習室やラボの実態顕微鏡、顕微鏡を使えることは、この「はしかけ」活動の大きな利点である。

・ほぼ毎年行っている「水草観察 5」(芦谷先生に教えていただく)を、今年度も行うことができた。以前教えていただいたことを忘れてしまっていることが多く、年１回水草を覚え直せることが嬉しい。新しい発見と共に水の中に生息する水草たちの命を受け継ぐ戦略には、いつも驚かされる。これからも、芦谷先生に教えていただきながら行う「水草観察」をできる範囲で続けていきたい。

・他の「はしかけ」活動を兼ねているメンバーが多く、それぞれの活動日が重なることがあり、どちらを優先して選ぶかで参加人数が減ってしまう結果となっているが、それぞれが得た新しい情報を聞かせてもらえることも楽しい。

・新メンバーが１人 確定？　登録講座の際には、数人の方が興味を示してくださっているようだが、その後の活動に参加してもらえないことがほとんど、という現状が今の課題だ。

・また、私自身の怪我による「お休み」があったり、各メンバー御自身の体調具合によって「退会」となってしまったり・・など、これからの会の活動についても考えさせられる年であった。この際、他の「はしかけ」グループとの協力や共同活動なども視野に入れる必要があると感じた。

〇たんさいぼうの会

会長：津田久美子　担当学芸員（影の会長）：大塚泰介

会員数：正会員（活動実績有）15名・準会員（メーリングリスト会員）10人

[設立の趣旨]

珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

［活動の概要］

2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞）の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。

コロナ渦以降、総会や、サンプル採取・研修旅行である「たんさいぼうの小さな旅」などで会員が集まる機会が減ったため、メールリングリスト（以下、ML）での情報交換を積極的に行ってきた。しかしながら、MLのみで活動実績が無い会員も多くなってきたため、年度当初に会の規約変更を行い、会の運営方法の見直しと、会員名簿の整理などを行った。また、個人で進められる顕微鏡写真撮影や珪藻の同定などを進めるとともに、成果を論文として発表することに努めた。ただし、会長、影の会長とも多忙な状況が続き、同定の確認や論文の仕上げが進んでいない。また、会員を主著者あるいは共著者とする研究発表がいくつか行われたが、こちらもたんさいぼうの会名義のものはなかった。

会としては、「たんさいぼうの小さな旅」などで採集された、瀬田公園（滋賀県大津市）、愛知県の鉱質土壌湿原群、野田沼・曽根沼（滋賀県彦根市）、安曇川（滋賀県大津市・高島市）、黒沢湿原、堅田内湖などの現生珪藻植生の研究を進めており、順次、論文として発表していく予定である。このほかに、会員の個人研究も進められており、このうち一本は投稿されて査読中である。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内　　容	場　　所	担当者・参加者
4月7日	たんさいぼうの会 第77回総会	研究交流室	担当：津田 参加者：4名
4月14日	たんさいぼうの小さな旅 安曇川調査（ミズワタクチビルケイソウ）	安曇川朽木地区（高島市）	担当：根来 参加者：3名
6月22・23日	日本珪藻学会第45回大会に参加	北海道	参加者：3名
9月23日	たんさいぼうの会第78回総会	研究交流室／オンライン	担当：三村 参加者：11名
10月19・20日	日本珪藻学会第43回研究集会 根来健さんが実行委員長を務め、影の会長が学会長として公開シンポジウムを主催、会員が講演者、大会委員、スタッフとして参加	セミナー室	担当：根来 参加者：10名
11月16・17日	「びわ博フェス」でマイクロアクアリウムを占拠、ワークショップ開催（琵琶湖の小さな生き物を観察する会と共催）	マイクロアクアリウム	担当：津田 参加者：3名
11月28・29日	日本水処理生物学会　第39回水処理生物基礎講座	実習室１・２	担当：根来 参加者：2名
1月4日～2月28日	勉強会「珪藻の詰め込み教育」	オンライン	担当：大塚 課題提出者：2名
2月8日	観察会「顕微鏡で藻の世界をのぞこう！」の講師	国見の森公園（兵庫県宍粟市）	担当：西坂、大塚 参加者：0名（大雪により中止）
3月15・16日	日本プランクトン学会シンポジウム「珪藻研究の最前線」　（ハイブリッド開催）	東京海洋大学	担当：大塚 参加者（会場）：3名

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：鈴木隆仁　会員数：8名

［設立の趣旨］

滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、そこに生息する大型鰓脚類などの生物の分布や生態を調査する。

［活動の概要］

毎年 5 月、6 月に、滋賀県各地の水田においてホウネンエビ、カブトエビ類、カイエビ類の分布を調査して標本を同定するとともに、採集データを登録して分布図を作成する活動を行っている。2024 年度も、5 月中旬から 6 月中旬にかけて、湖北、湖東、東近江、近江南部の各地域において、3 次メッシュコード単位で未調査になっていた 45 メッシュで大型鰓脚類の分布調査を行い、42 メッシュでエビ類の生息を確認した。特筆すべき点として、これまで愛知川および和邇川より南西側と、長浜市の北陸自動車道長浜 IC の南から南東側の一部のみで生息が確認されていたトゲカイエビを、愛知川中流の右岸にあたる愛荘町川原にある 2 筆の水田ではじめて確認したことがあげられる。また、湖北地域では、これまで「いない」と報告されていた旧浅井町の 1 メッシュで新たにホウネンエビの生息を確認するとともに、旧高月町の 1 筆で新たにヒメカイエビ類の生息も確認した。

2023 年の調査では、大津市以外の滋賀県内では初めて、近江八幡市安土町内野の水田においてアジアカブトエビが採集された。そこで、5 月 18 日に同地区におけるカブトエビ類の生息状況についてより詳細な調査を行った。その結果、調査した 29 筆の水田のうち 4 筆で 2 種のカブトエビの双方を、また、4 筆でアジアカブトエビの生息を確認した。

2022 年から琵琶湖博物館屋上に 40 ㎝四方、深さ 30㎝ 程度の大きさのミニ水田を 2 個設置してカブトエビ類の飼育実験を行っている。2024 年度も 5 月 12 日に稲の苗を植えたところ、5 月 24 日に一方のミニ水田で大きさ 5㎜ 程度のアメリカカブトエビ 1 個体の発生を確認した。しかし、大きく成長するには至らなかったため、大津市の水田で採取したアメリカカブトエビとアジアカブトエビをそれぞれのミニ水田に放流し、飼育実験を継続した。この時期は連日調査に出かけるため博物館屋上のミニ水田の状況を日々確認することが困難であるため、2023 年より代表の自宅にも同様のミニ水田を 1 個設置して飼育実験を行っている。こちらのミニ水田でも、5 月 12 日の苗植付けから 12 日後の 5 月 24 日にアメリカカブトエビ 1 個体の発生が確認され、6 月 11 日までの 19 日間生存させることができた。

2024 年度における「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内　　容	場　所	参加者
4 月 5、6、10、11、13、17、18 日	本年度広域調査を予定している地域のうち、旧八日市市西部、近江八幡市安土町南部、彦根市西部と豊郷町、愛荘町に広がる水田の下見を行った。	近江八幡市、東近江市、愛荘町、豊郷町、彦根市	1 名
4 月 4、12、25 日 5 月 2、8 日	琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成したミニ水田で、耕耘、注水、代掻作業を順次行った。	琵琶湖博物館	1 名
5 月 10 日	本年度広域調査を予定している地域のうち、長浜市木之本町と高月町に広がる水田の下見を行った。	長浜市	1 名
5 月 12 日	5 月 18、25 日および 6 月 2、9 日実施予定の合同調査の打合せと、調査に用いる採集瓶の準備，マニュアル、GPS の配布を行った。琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成したミニ水田の田植えを行った。	琵琶湖博物館	5 名
5 月 14、24、26 日 6 月 1、4、8、11、13、14、16、17、19 日	草津市下笠町と下寺町、野洲市の野洲駅から近江八幡市篠原駅周辺と安土駅周辺、東近江市五個荘地区および能登川地区、愛荘町愛知川地区、長浜市内保町等の水田において、大型鰓脚類の分布調査を行った。	草津市、野洲市、近江八幡市、東近江市、愛荘町、長浜市	1 名

5 月 16、17、21、22、29、30 日、6 月 6 日	近江八幡市安土町南部から東近江市西部にかけての箕作山周辺に広がる水田、彦根市南西部から豊郷町、愛荘町にかけての愛知川と宇曽川に挟まれた地域に広がる水田、および、長浜市木之本町から高月町にかけての高時川流域の水田において、5 月 18、25 日と 6 月 2、9 日実施予定の合同調査の下見を兼ねて大型鰓脚類の分布調査を行い、調査筆の確定を行った。	近江八幡市, 東近江市、 愛荘町、 豊郷町、 彦根市、 長浜市	1 名
5 月 18 日	小脇山西側から瓶割山北側の近江八幡市南部に広がる水田の 6 地点で、大型鰓脚類の分布調査を行った。	近江八幡市	3 名
5 月 25 日	近江八幡市安土町南部の東海道新幹線沿い、および、東近江市西部の箕作山東麓および南麓に広がる水田の計 7 地点で、大型鰓脚類の分布調査を行った。	近江八幡市、 東近江市	6 名
6 月 2 日	彦根市南西部から豊郷町、愛荘町にかけて広がる水田の 4 地点で、大型鰓脚類の分布調査を行った。	愛荘町、豊郷町、彦根市	4 名
6 月 3 日	大津市内の水田で採集した 2 種のカブトエビ 10 個体前後ずつを、それぞれ琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成した 2 個のミニ水田に放流した。	琵琶湖博物館	1 名
6 月 9 日	長浜市木之本町および高月町と、東近江市から近江八幡市にかけての安土山周辺に広がる水田の計 4 地点において、大型鰓脚類の分布調査を行った。	近江八幡市、東近江市、 長浜市	3 名
7 月 14 日	本年度の調査で採集した標本の同定作業を行った。	琵琶湖博物館	7 名
8 月 11 日	本年度の調査を分析した結果を報告し、検討した。	琵琶湖博物館	6 名
10 月 9 日	元琵琶湖博物館学芸員の Mark J. Grygier 博士とともに、カブトエビ類の標本の確認作業を行った。	琵琶湖博物館	2 名
10 月 26 日 11 月 12 日	琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成したミニ水田で、稲穂の刈取、落水、耕起、屋根の設置による乾燥、土の粉砕を順次行った。	琵琶湖博物館	1 名
10 月 30 日	本年度の調査でアジアカブトエビが見つかった近江八幡市安土町内野地区で、水路網の調査を行った。	近江八幡市	1 名
11 月 16、17 日	本年度までの調査で得られた滋賀県内のエビ類の分布図を掲載したポスターを展示した。	琵琶湖博物館	1 名
12 月 15 日	第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会で、ポスター発表を行った。	琵琶湖博物館	1 名
3 月 22 日	本グループの総会を開催し 2024 年度の活動報告を承認するとともに、2025 年度の活動計画を立案した。	琵琶湖博物館	5 名

[2024 年度業績]

2024 年 12 月 15 日　第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会　ポスター発表

「滋賀県の水田における 2 種のカブトエビとトゲカイエビの新たな生息地の記録」

〇タンポポ調査はしかけ

代表者：不在　担当学芸員：芦谷美奈子　会員数：　－　名

〔設立の趣旨〕
「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。
〔活動の概要〕
2024 年 8 月にグループ解散した。

〇ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」
担当学芸員：中村久美子、大久保実香
会員数：5 名（2025. 3. 31 現在）
［設立の趣旨］
　幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指しています。
［活動の概要］
　2012 年度環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015 年度には「親子自然遊びの広場」、そして 2016 年 9 月からはしかけ活動として立ち上がりました。毎月おおよそ第 3 水曜日に、約 10 組の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑で作物を作ったり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施しています。おおよそ 2 歳～4 歳の幼児と保護者が楽しんでいますが、時にはお腹が大きくなったお母さんが来られ、しばらくして産まれてすぐの赤ちゃんを連れてきてくださることもあったりと、0 歳児から小学生高学年までが年齢幅広く、自然の中で遊んでいます。
　今年度も、多くの親子がちこあそで楽しんでくださりました。毎回やることは決めていないのですが、工房の周りの自然が遊びや体験を提供してくれます。主要なものを紹介すると、4 月はたけのこ掘り、5 月は野菜の苗植え、6 月は夏の虫探し、7 月は田んぼの生き物、9 月はお米のポップライスづくり、10 月はサツマイモの芋掘り、11 月はびわ博フェス、12 月は焼き芋、1 月はフキノトウ、2 月は吹雪のホワイトビーチ、3 月は昔遊びと、季節の自然と共に遊びました。毎回来てくださる親子は、季節の変化に驚き、自然の移り変わりを体験してくださっています。
　普段の親子の暮らしを振り返ってみると、できないことがたくさんあります。好きなだけ水に触れてはしゃいだり、土や泥に触れたり、棒を振り回したりすることは禁止されていることもあります。また自然のものを食したり、はじめて見る植物や昆虫に触れたり、森の中へ探検してみることは、自然の中で過ごす経験が少ない親子では、戸惑うことも多いです。しかし、ちこあそに来ると、ガチャコンポンプで水遊び、畑でミミズを捕まえ、冬眠中の虫に驚き、ホワイトビーチで走り回り、タケノコを掘ってお家でお料理したり、焚き火の炎を見つめたりすることができます。少し前は当たり前に体験できていた自然との関わりが少なくなっているからこそ、ちこあそで幼児期から自然、四季の暮らしに触れることが大切だと思います。

写真で振り返る「ちこあそ」の１年

４月　タケノコ掘れたよ

５月　苗植え

６月　ナナフシモドキいたよ

７月　虫つかまえた

９月　水遊び中！

10 月　サツマイモを掘ろう

11 月　びわ博フェス メンバーで

12 月　焼き芋

１月　フキノトウが出たよ

２月　雪だー

〇琵琶湖の小さな生き物を観察する会
会長：渡辺圭一郎　担当学芸員：大塚泰介 会員数：37 名
［設立の趣旨］
　私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。
［活動の概要］
　琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・ 多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。月に１回集まって、琵琶湖などの小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察を行う。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4 月 21 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	8 名
5 月 19 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	12 名
6 月 30 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	15 名
7 月 13 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	5 名
8 月 18 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7 名
9 月 15 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	12 名
10 月 14 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7 名
11 月 2 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	5 名
11 月 16 日 11 月 17 日	びわ博フェス ワークショップ	琵琶湖博物館	5 名
12 月 7 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7 名
1 月 13 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	11 名
2 月 16 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	12 名
3 月 30 日	採集・観察会	琵琶湖博物館	11 名

〇びわたん
担当学芸員　：　安達克紀・渡邉俊洋　会員数：13名
［設立の趣旨］
　「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。
［活動の概要］
　活動内容は、主にわくわく探検隊イベントの準備･ 実施･ 片付け･ 振り返りである。

2024 年度　「びわたん」のおもな活動「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内　容	一般参加者	びわたん
5 月 11 日	春の草花でしおりをつくろう	23 名	4 名
5 月 18 日	大津の岩石調査隊活動参加(※12 月事前準備)		2 名
6 月 8 日	光とかげで写真をとろう	12 名	4 名
6 月 13 日	大津の岩石調査隊活動参加(※)		3 名

7 月 13 日	ほねにふれてみよう	25 名	3 名
9 月 14 日	プランクトンを見よう	15 名	6 名
9 月 24 日	大津の岩石調査隊活動参加(※)		3 名
9 月 28 日	はしかけ登録講座でびわたん紹介		1 名
11 月 16 日	びわ博フェス腕にはめる日時計をつくろう！	15 名	4 名
12 月 7 日	JICA 研修生へびわたん紹介		1 名
12 月 14 日	岩石標本箱をつくろう	15 名	6 名
1 月 11 日	綿にふれてみよう	18 名	6 名
2 月 8 日	水鳥を観察しよう	13 名	5 名
3 月 8 日	ミニ水族館をつくろう	20 名	13 名

○ほねほねくらぶ
会長：西村 有巧　副会長：榎本、納屋内　広報担当：宇野　担当学芸員： 半田直人、松岡由子
会員数：大人 22 名　子ども 0 名　計 22 名
[設立の趣旨]
　現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。
[活動の概要]
　2002 年 7 月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれる哺乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月 1～2 回の例会が活動の中心である。
　2024 年度は、前年度から引き続いて標本制作を行いながら、4 月 20 日～6 月 2 日に開催されたギャラリー展「鉱物・化石展 2024－大地に夢を掘るー」にて展示をさせていただいたり、7 月には、はしかけグループの『びわたん』さんと協力して、わくわく探検隊のプログラムとして「骨にふれてみよう！」を実施しました。
　また、例年同様、琵琶湖博物館で開催された、琵琶博フェス 2024 に参加、来館者との交流活動を行いました。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日		内　容	場　所
4 月例会	6 日	猿の骨のスケッチ、ギャラリー展に向けた準備	琵琶湖博物館
	20 日	ハクビシンの解剖、鳥の解剖、猿の骨のスケッチ、骨格標本の補修	
5 月例会	11 日	カミツキガメの解剖、猿の骨のスケッチ、鳥の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	25 日	ハクビシンの解剖、タヌキの解剖	
6 月例会	2 日	イタチの解剖、カメの解剖	琵琶湖博物館
	22 日	タヌキの解剖、アライグマの解剖	
7 月例会	7 日	カメの骨のクリーニング、 7 月 13 日開催のわくわく探検隊の準備作業	琵琶湖博物館
	13 日	わくわく探検隊のプログラム「骨にふれてみよう！」をはしかけグループの『びわたん』さんと共催	
	28 日	カミツキガメの解剖、イシガメの解剖	

8月例会	10日	イタチの解剖、タヌキの解剖、カミツキガメの解剖	琵琶湖博物館
	25日	イタチの解剖、イシガメの解剖、カミツキガメの解剖、 ツキノワグマの骨のクリーニング	
9月例会	7日	ツキノワグマの骨のクリーニング、 アカミミガメの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	28日	アライグマの解剖、イタチの解剖、タヌキの解剖、 キツネの組み立て	
10月例会	6日	タヌキの解剖、トビの徐肉、カメの骨の組み立て、 キツネの骨の組み立て、シカの骨の組み立て、 博物館のYouTube動画の撮影協力	琵琶湖博物館
	26日	イタチの解剖、バイカルアザラシの骨のクリーニング、 キツネの骨の組み立て	琵琶湖博物館
11月例会	3日	バイカルアザラシの骨のクリーニング、キツネの骨の組み立て	琵琶湖博物館
	17日	琵琶博フェス 2024にて来館者の方との交流活動	
	30日	イタチの解剖、アザラシの骨のクリーニング、 キツネの組み立て	
12月例会	8日	イタチの解剖、コウライニゴイの解剖、カメの解剖、 カメの骨の組み立て、キツネの組み立て	琵琶湖博物館
	21日	イタチの解剖、アライグマの解剖	
1月例会	12日	イタチの解剖、コウライニゴイの解剖、シマリスの解剖	琵琶湖博物館
	18日	イタチの解剖、タヌキの解剖、シマリスの解剖、イノシシの解剖、 キツネの組み立て	
2月例会	1日	イタチの解剖、コウライニゴイの解剖、カメの解剖、 カメの骨の組み立て、キツネの組み立て	琵琶湖博物館
	16日	イタチの解剖、アライグマの解剖	
3月例会	15日	タヌキの解剖、豚足のクリーニング、カミツキガメのクリーニング	琵琶湖博物館

〇緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ　担当学芸員：大槻達郎　会員数：27名

［設立の趣旨］

薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト８名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

［活動の概要］

琵琶湖博物館と協力して実施している季節の植物でアロマウォーターを作ろうは、春と秋の２回、また生活実験工房の田んぼ体験の12月の活動、しめ縄作りにも参加させて頂きました。

びわ博フェスでは、活動で準備していたハーブを利用して「匂い袋を作ろう」のワークショップを開催しました。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内　　容	場　　所	担当者・参加者
5 月 11 日	お茶摘み体験	甲賀市鳥居野	参加者：19 名
5 月 14 日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（春：ヨモギ）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：6 名
6 月 29 日	小豆ピロー作り	琵琶湖博物館 実習室２	参加者：14 名
6 月 29 日	お香作り	琵琶湖博物館 実習室２	参加者：18 名
8 月 4 日	藍のたたき染めと野菜スタンプ	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：16 名
8 月 4 日	こんにゃく湿布体験と虫よけスプレー作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：14 名
9 月 29 日	生水の郷針江「かばた見学」	高島市新旭町針江	参加者：10 名
11 月 4 日	柿酢作りの勉強会	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：4 名
11 月 4 日	流木クラフト作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：6 名
11 月 12 日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（秋：フウ）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：6 名
11 月 17 日	びわ博フェス「匂い袋を作ろう」	琵琶湖博物館 実習室２	参加者：5 名
12 月 8 日	しめ縄作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：12 名
12 月 22 日	田んぼ体験　「しめ縄作り」	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：4 名
1 月 19 日	廃油石鹸作り	琵琶湖博物館 実習室２	参加者：10 名
2 月 15 日	七味・ハーブソルト作り	琵琶湖博物館 実習室２	参加者：12 名
3 月 8 日	年度末総会	琵琶湖博物館 研究交流室	参加者：8 名

○虫架け

代表者：八尋克郎　担当学芸員：今田舜介　会員数：26 人

[設立の趣旨]

昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。また、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていこうと考えている。2017 年設立。

[活動の概要]

今年度は 12 回の定例会を開催した。延べ参加人数は、122 名であった。野外活動については、ライトトラップを含む滋賀県内の昆虫の分布調査を計７回行った。また、生活実験工房行事「田んぼ体験　昆虫採集」をサポートした。びわ博フェスのワークショップでは、「土の中から虫を探そう！」を行った。吸虫管を使って微小な虫を採集するという普段体験したことのないイベントであったこともあり、子供たちを中心に参加

者の反応は良かった。土の中には多くの種類の微小な虫が生息することや微小な虫の採集方法を学ぶいい機会になった。参加者は35名と盛況であった。さらに、近鉄百貨店草津店で実施された「夏休み自由研究応援展」（7/10～7/16）に展示協力した。「虫架け通信」第66号から第78号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有した。

「虫架け」のおもな活動

定例会

活動日	内容	場所	参加者
4月7日	早春の昆虫、越冬昆虫の採集・観察	長浜市余呉町	11名
5月19日	新緑の季節の昆虫採集・観察	高島市マキノ高原	10名
6月1日	大津市伊香立のクヌギ林の昆虫と葛川上流部でのライトトラップ	大津市葛川足尾谷	10名
7月7日	初夏の季節の昆虫採集・観察、ライトトラップ	高島市マキノ高原、朽木小入峠	10名
7月28日	生活実験工房行事「田んぼ体験　昆虫採集」サポート	琵琶湖博物館	9名 （一般参加者19名）
8月10日	ライトトラップ	大津市北比良イン谷口	10名
9月14日	昼行性昆虫の観察	甲賀市水口町大池寺周辺	11名
10月19日	びわ博フェスの準備	琵琶湖博物館	2名
11月9日	びわ博フェスのリハーサル	琵琶湖博物館	9名
11月17日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	11名 （一般参加者35名）
1月18日	オオムラサキ幼虫探し、冬のオサ掘り	長浜市小谷郡上町	8名
2月22日	昆虫の標本作り	琵琶湖博物館	10名
3月2日	総会	琵琶湖博物館	11名

虫架け通信の発行

発行日	号数	おもな内容
3月24日	虫架け通信66号	3月例会報告、昆虫豆知識（62）、ＬＢＭ虫日記（29）、最後に
4月24日	虫架け通信67号	4月例会報告、ＬＢＭ虫日記（30）、昆虫豆知識（63）、記録・報告、最後に
5月26日	虫架け通信68号	5月例会報告、ＬＢＭ虫日記（31）、昆虫豆知識（64）、記録・報告、最後に
6月24日	虫架け通信69号	6月例会報告、ＬＢＭ虫日記（32）、昆虫豆知識（65）、最後に
7月18日	虫架け通信70号	7月例会報告、ＬＢＭ虫日記（33）、昆虫豆知識（66）、連絡、最後に
8月24日	虫架け通信71号	7月工房行事と8月例会報告、ＬＢＭ虫日記（34）昆虫豆知識（67）、最後に
9月19日	虫架け通信72号	9月例会報告と連絡、ＬＢＭ虫日記（35）昆虫豆知識（68）、記録・報告
10月28日	虫架け通信73号	10月例会報告、ＬＢＭ虫日記（36）昆虫豆知識（69）、記録・報告、最後に

11 月 24 日	虫架け通信 74 号	11 月例会報告、昆虫豆知識（70）、ＬＢＭ虫日記（37）、最後に
12 月 8 日	虫架け通信 75 号	12 月例会報告と連絡、昆虫豆知識（71）、ＬＢＭ虫日記（38）、最後に
1 月 26 日	虫架け通信 76 号	1 月例会報告、昆虫豆知識（72）、ＬＢＭ虫日記（39）、最後に
2 月 26 日	虫架け通信 77 号	2 月例会報告、昆虫豆知識（73）、ＬＢＭ虫日記（40）、最後に
3 月 5 日	虫架け通信 78 号	3 月例会報告、昆虫豆知識（74）、ＬＢＭ虫日記（41）、最後に

○森人（もりひと）

代表者：三輪　ゆう子　　担当学芸員：林竜馬　会員数：10 名

［設立の趣旨］

2015 年度に「はしカフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し 2016 年度から活動を開始した。

［活動の概要］

2024 年度の活動は前年度の 18 回に対し、下記の通り 22 回（3 月 23 日実施予定を含む）を実施することができた。 例年どおり観察会や屋外展示の森の除草、びわ博フェスでの屋外展示などを回るクイズラリーを行った。 また、新たな活動として、訪れた方に少しでも屋外展示へ足を運んでもらえるような工夫をしたいとの思いから「フォレストマスター」と名付けたクイズ形式（裏に解答と解説を印刷）のものを作成し、屋外展示側の出入り口に設置した。これは、来館者の方々に沢山手に取ってもらえたようで嬉しかった。また、屋外展示への誘い第２弾として、１月には針葉樹やフウなどびわ博で見られる木のみを使って大きなリースを作り、簡単に種名や見分けクイズも添える形とした。 これからも、来館者の方々に屋外展示も楽しんで頂けるように、「フォレストマスター」を手直ししたり、季節の限定版を増やしたりしていけるように自分たちの実力アップを図りたい。

「森人」のおもな活動

活動日	内　　容	場　　所	参加者
4 月 13 日(土)	大阪へお出かけ　「標本展」	大阪市自然史博物館	6 名
4 月 27 日(土)	植物観察会	坂本　大宮林道	4 名
5 月 11 日(土)	「びわたん」お手伝い　春の植物のしおりづくり	琵琶湖博物館　実習室２	7 名
5 月 25 日(土)	屋外展示 PR 方法について検討	琵琶湖博物館　C 展示室他	5 名
6 月　8 日(土)	植物観察会	比叡山　根本中堂周辺他	3 名
6 月 22 日(土)	森の探険マップづくり、おすすめの木ガイドについて	琵琶湖博物館　交流室	4 名
7 月 13 日(土)	森の探険マップづくり、おすすめの木ガイドについて	琵琶湖博物館　交流室	5 名
7 月 27 日(土)	森の探険マップづくりについて	琵琶湖博物館　交流室	5 名
8 月 24 日(土)	森の探険マップづくりについて	琵琶湖博物館　交流室	5 名
9 月 14 日(土)	森の探険マップづくりについて	琵琶湖博物館　交流室	5 名
9 月 28 日(土)	「フォレストマスター」づくり、樹名板取り付けと除草	琵琶湖博物館　交流室他	5 名
10 月 12 日(土)	「フォレストマスター」づくり	琵琶湖博物館　交流室	5 名
10 月 26 日(土)	「フォレストマスター」づくり	琵琶湖博物館　交流室	6 名

11 月　9 日(土)	びわ博フェス準備、クイズラリー検討	琵琶湖博物館　交流室他	5 名
11 月 17 日(日)	びわ博フェスにてワークショップ（屋外クイズラリー)、「はしかけ」交流会にて３分間トーク	琵琶湖博物館　屋外他	6 名
12 月 14 日(土)	冬限定版「フォレストマスター」づくり	琵琶湖博物館　交流室	6 名
1 月 11 日(土)	冬限定版「フォレストマスター」づくり	琵琶湖博物館　交流室	5 名
1 月 25 日(土)	木の実のリースづくり	琵琶湖博物館　実験工房	7 名
2 月　8 日(土)	大雪のため中止		
2 月 22 日(土)	３月と来年度の計画について	琵琶湖博物館　交流室	5 名
3 月　8 日(土)	冬限定版「フォレストマスター」づくり	琵琶湖博物館　交流室	6 名
3 月 23 日(日)	樹冠トレイル周辺のクズなどの除去作業	琵琶湖博物館　交流室	6 名

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

・春から初夏にかけての時期に、外部の博物館の企画展や観察会に出かけることができて良かった。 特に坂本方面には、自然環境が良い状態で残っているところが多くあり、多くの植物を観ることが出来て満足だった。

・来館者の方々にＣ展示からの繋がりを活かして屋外展示へ出かけてもらおうと考え、５月に「森のマップづくり」を始めた。しかし、マップ形式だけでは、なかなか足を運んでもらえないのではないかということになり、マップの中に場所を示す番号と５問程度のクイズを作成した。名前を「フォレストマスター」とし、レベル１～レベル３まで考え、実際にその場所の物がクイズに適しているかも確かめた。表面のクイズは子ども向けにし、それぞれの裏面には、解答と大人向けの解説を入れた。レベルを３段階にしたことで、手に取りやすくなったようだった。少しでも屋外展示の植物やオブジェに興味関心を持ってもらえたならば、嬉しい。

・今年度までの活動内容の方向性はそのままに、来年度はさらにそれをブラッシュアップし、より多くの人に琵琶博の展示や森に対して親しみや興味を持ってもらえるような活動にしていきたい。

〇琵琶湖梁山泊

担当学芸員：大塚泰介　　会員数：1 名

[設立の趣旨]

地域の自然や文化を研究する中高生の若者を中心として、2018 年に設立されたグループです。研究が進みすぎてご家族や学校のサポートが及ばなくなった若者が、博物館の学芸員や大人メンバーのサポートを受けてさらに研究を進めるとともに、興味・関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間を見つけて互いに切磋琢磨する場になることを目指しています。

[活動の概要]

若者の研究活動を進めるため、博物館の学芸員や大人メンバーが相談対応や助言などの支援を行い、研究のレベルアップをめざします。2020 年 3 月以降は COVID-19 感染拡大のため、以前のような活動は十分にできない状況が続きました。2021 年 5 月には新しい試みとして Zoom による「オンライン総決起集会」を開催し、中高生会員および卒業生による 4 題の研究の成果が発表されました。その後も 2022 年度までは細々と活動が続いていましたが、2023 年度には中高生の会員がいなくなり、ほぼ完全に活動休止状態となっていました。2024 年 9 月の登録講座で久しぶりに中学生の新入会員 1 名を迎え、現在、巻き返しを図っています。

「琵琶湖梁山泊」のおもな活動

活動日	内　　容	場　　所	担当者・参加者
11 月 16･17 日	「びわ博フェス」でポスター掲示	琵琶湖博物館アトリウム	担当：大塚 参加者１名

〇サロン de 湖流

会長：岩木真穂　担当学芸員：西川真里奈　会員数：8 名

[設立の趣旨]

琵琶湖や周辺地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象（湖流・河川流・地下水流などや気象現象など）について気軽に語り合いながら、フィールドでの観測・背景原理を確かめる実験・数学や統計などの勉強会・生物現象や化学現象あるいは人文社会事象との関連の考察・物理現象を理解するための自分なりの方法の探究などへ発展を目指す。

[活動の概要]

実際に湖上で観測を行う活動がコロナ禍で中断して以来、系統的な活動を再開するには至っておらず、新たな活動の方向を探ろうとしているが議論は進んでいない。その中で、前年度にびわ博フェスの 3 分間トークでも披露した「琵琶湖の深呼吸」に関する原理を確かめる簡単な水槽実験を、今年度びわ博フェスの「フェスステージ発表会」のほか「はしかけ登録講座」でも披露した。

「サロン de 湖流」のおもな活動

活動日	内　容	場　所	参加者数
9 月 28 日	はしかけ登録講座での実験実演	琵琶湖博物館セミナー室	1 名
11 月 17 日	びわ博フェス参加	琵琶湖博物館セミナー室	1 名
1 月 26 日	新メンバーを迎えての打合せ	琵琶湖博物館会議室	2 名

〇水と暮らし研究会

代表者：杉田　薫　　担当学芸員：楊　平　　会員数：7 名

[設立の主旨]

琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間、様々なエリアにおいて、人々は湧水、山水、川水などのさまざまな地表水、地下水と密接な関係にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながり「文化」をみることができる。

古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地移動が困難であった時代に土地を守り、生き抜くために、各集落で各家庭の生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水含め山水、川水など、水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし［文化」の継承状況を調査し先人たちの水に対する「想い」を発信し記録とし、また、他地域との交流の一助とならんことを願い、研究会を立ち上げた。

[活動の概要]

【活動方針】

テーマ１：古人の想い。暮らしと川とのかかわりを探る。

　　：暮らしと川とのかかわりあいの歴史から未来を探る。

テーマ２：琵琶湖博物館行事に参加、協力。

【活動の概要】

水とかかわりあって生きていく暮らしに焦点を当て、その暮らしの実態を現地調査し、地域でのヒアリングを通じ、先人たちから受け継いだ現代人の生活の実態を記録し発信していく。また活動テーマに関連する講座、シンポジウム等あれば、積極的に参加する。活動計画は、事前に調査先のリストを作成し、情報収集の効率アップに努め、調査終了後には各人の担当に基づく記録作成を速やかに実施する。また、博物館行事への積極的参加は、はしかけ活動の一環として重要事項との認識に基づくものであると考える。

「水と暮らし研究会」のおもな活動

テーマ 1

活動日	調査地域	参加者
4 月 11 日	東近江市大覚寺町　現地調査	7 名
5 月 9 日	東近江市百済寺本町　現地調査	7 名
6 月 13 日	犬上郡豊郷町　現地調査	6 名
7 月 11 日	東近江市北坂町　　現地調査	6 名
8 月 8 日	東近江市上山町・百済寺甲町　現地調査	6 名
9 月 12 日	東近江市愛東外町　現地調査	7 名
10 月 17 日	東近江市下中野町　現地調査	7 名
11 月 28 日	東近江市伊野部町　現地調査	5 名
12 月 19 日	東近江市平尾町　現地調査	5 名
1 月 9 日	東近江市妹町　　現地調査	6 名
2 月 13 日	東近江市上中野町　現地調査	6 名
3 月 20 日	東近江市曾根町　現地調査	7 名

テーマ 2

活動日	調査地域	参加者
4 月 7 日	市民大学たかしまアカデミー講座	1 名
7 月 19 日	びわ博研究セミナー	2 名
8 月 16 日	びわ博研究セミナー	1 名
11 月 2 日	岡山理科大　相関災害科研研究会	4 名
11 月 16～17 日	びわ博フェス 2024　発表とポスター展示	10 名
2 月 9 日	第 38 回地学研究発表会	1 名

〇海浜植物守りたい

会長：百木義忠　　担当学芸員：大槻達郎　　会員数：5名

[設立の趣旨]

本来海岸に生育する海浜植物が何故か、淡水の琵琶湖に生育している。

これらの植物は独自の進化をしており貴重であり、保護活動をすることにした。

[活動の概要]

主に新海浜(彦根市)における海浜植物の保護活動を行う。

活動する公園名：湖岸緑地　新海薩摩地区

「海浜植物守りたい」のおもな活動

活動日	活動時間	内　　容	参加者
4 月 2 日	9:30～11:30	①総会（2023 年度事業報告、会計報告、2024 年度計画） ②保護区内の除草 ③松葉散布 ④防風ネット設置(高さ 2m×長さ 10m　目開き 4mm)	5 名
4 月 19 日	9:30～11:30	①レンゲソウプランター設置 ②ツルニチニチソウの除草 ③保護区外東に防草シート設置（1m×10m　2 枚）	5 名
5 月 17 日	9:30～11:30	①保護区南側草刈り ②保護区内除草 ③宇野さんと情報交換	4 名
6 月 4 日	9:30　～ 11:30	①ツルニチニチソウの除草 ②保護区内の除草 ③アメリカネナシカズラ駆除（2 か所）	7 名
7 月 5 日	9:30～11:30	①アメリカネナシカズラ駆除（1 か所） ②保護区内除草	2 名
7 月 19 日	9:30～11:30	①保護区内除草 ②保護区南側草刈り ③アメリカネナシカズラ駆除 2 か所	4 名
7 月 23 日	9:00～12:00	①ＮＨＫ（彦根）取材対応 ②松林南側及びツルニチニチソウの草刈り	3 名
8 月 6 日	9:30～11:45	①保護区内の除草 ②アメリカネナシカズラ　見当たらない ③ハマゴウ繁殖地の除草	4 名
8 月 16 日	9:30～11:45	①保護区内の除草 ②アメリカネナシカズラ　1 か所駆除 ③ハマゴウ繁殖地の除草	5 名
9 月 3 日	9:30～11:30	①ツルニチニチソウの除草 ②管理区域柵外（駐車場側）に１ｍ×３ｍ耕作（レンゲ畑用） ③アメリカネナシカズラ　1 か所駆除	6 名
9 月 20 日	9:30～11:30	①「海浜植物守りたい」看板取り換え ②レンゲ畑の草取り ③保護区内の除草	5 名
10 月 1 日	9:30～11:30	①保護区内の除草 ②ツルニチニチソウの除草 ③アメリカネナシカズラ　1 か所駆除	6 名
10 月 18 日	9:30～11:30	①保護区南側草刈り ②レンゲ畑草取り、整地、散水後種まき	4 名
11 月 5 日	9:30～11;30	①ツルニチニチソウの除草 ②アメリカネナシカズラ　1 か所駆除 ③保護区内の除草	6 名
11 月 15 日	9:30～11:00	①保護区内の除草 ②ツルニチニチソウの除草	5 名
12 月 3 日	9:30～11:30	①保護区内の除草 ②ツルニチニチソウの除草	6 名

12 月 20 日	9:30～11:30	①ツルニチニチソウの除草 ②ハマエンドウの生育面積測定（約 270m² 2022 年比 1.7 倍）	6 名
2 月 28 日	9:30～11:30	①保護区内の除草 ②ツルニチニチソウ周りの竹の切株掘り起こし ③ツルニチニチソウの除草	4 名
3 月 21 日	9:30～11:30	①保護区内の除草 ②ツルニチニチソウの除草	6 名

作業回数：19 回　　延べ人数:93 人

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター　（登録者数　177 名）

楠岡　泰	松田道一	辻　いずみ	椛島昭紘	松本　勉	松里香織	松里　凛
矢野典子	前田雅子	桑垣　瑞	熊谷明生	熊谷明美	宇野啓明	保科秀行
保科雅子	保科政秀	保科明俊	山田美智子	奥村惠子	中野敬二	矢野　修
矢野としこ	山本　篤	小篠伸二	向田直人	中場弘二	鈴木正範	三浦真紀
猪飼　徹	平井政一	角井俊明	加藤美由紀	福岡敏雄	市原　龍	山川栄樹
山川佳那子	遠藤吉三	楠居里奈	寺田誠	前田博美	後藤真吾	杉田　薫
宮本直興	川北浩史	濱道　秀	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	寺澤孝之
青木　環	青木春乃	堀田修身	堀田博美	畑中清司	片山慈敏	井野勝行
谷村啓子	大橋義孝	青山喜博	片岡庄一	小野麻代	上田修三	手良村知央
手良村昭子	飯田俊宏	岡田宗一郎	津田國史	村上義信	村上　瞳	筈井美智子
北側忠次	水戸基博	水戸涼乃	水戸涼介	矢原　功	阿部一広	津田久美子
北川眞造	松本　隆	坂本大介	小林隆夫	吉野和夫	小山　勝	岸田教敬
大河原秀康	中尾博行	江間瑞恵	宮崎　猛	宮崎　真	宮崎晴香	宮崎　哲
杉江ミサ子	井上修一	百木義忠	今井　洋	手良村知功	川村絵美	川村実愛
川村郁人	川村梓月	佐藤良太郎	尾原直行	間所忠昌	土田正文	谷口雅之
三村武士	十塚正治	吉川秀司	堀江夏妃	飯田隆行	飯田貞美	青木重樹
本村香澄	本村彦太朗	桝元智子	河原　豪	河原絵里	成子邦夫	森田　存
坂本颯太	山内孝子	西木正枝	浦畑龍司	浦畑美加	浦畑里帆	安達　誠
西岡　陸	中井賀津雄	粟田久仁和	真崎　健	浅野泰輝	一瀬　諭	ダニエルフォルスター
橘川　洸	橘川温子	木本裕也	村上優生	保木　覚	保木智子	保木久美子
坂本健太郎	木下恵理	木下桂典	木下大輔	木下雄介	牧原弘和	川森江美
土屋範幸	土屋雅人	上中葵衣	鍵本奈々美	妹尾和彦	中森あゆみ	大石　巌
田中宏樹	布施千晶	布施篤延	村野久美	早田玲子	脇田哲志	

◇はしかけ　（登録者数　387 名）

楠岡　泰	藤田　成子	山本　阿子	山本　真里子	芦田　弘美	松田　道一	辻　いずみ
谷本　正浩	谷本　由美	北田　稔	吉田　圭一	中川　優	川田　裕元	笹生　正則
松本　勉	若代　隆行	若代　智子	石上　三雄	根来　健	松里　香織	松里　凛
矢野　典子	前田　雅子	井上　晴絵	桑垣　瑞	熊谷　明生	熊谷　明美	宇野　啓明
酒井　陽一郎	山田　美智子	奥村　惠子	松川　郁子	中野　敬二	辻川　智代	矢野　修

矢野　としこ　小篠　伸二　向田　直人　斉藤　文子　中場　弘二　村山　和夫　樽本　祥子
樽本　直　山野井　邦彦　齊藤　眞琴　齊藤　眞由美　鈴木　正範　三浦　真紀　石田　勉
猪飼　徹　安原　輝　納屋内　高史　加藤　美由紀　大沢　果那　清田　輝夫　福岡　敏雄
草加　伸吾　西村　有巧　木村　誠二　木村　爽　市原　龍　石井　千津　山川　栄樹
山川　佳那子　西川　美喜　遠藤　吉三　楠居　里奈　前田　博美　後藤　真吾　杉田　薫
吉井　隆　吉岡　伸子　冨田　久仁枝　宮本　直興　伊東　文彦　伊東　彬良　安井　加奈惠
池田　勝　川北　浩史　濱道　秀　村田　博之　竹元　冴矢　佐々木　由巳子　佐々木　遼太郎
佐々木　亜弥子　國分　政子　寺澤　孝之　神谷　悦子　竹谷　満弘　梅澤　正夫　青木　環
青木　春乃　堀田　修身　堀田　博美　黒柳　信之　堀田　恵子　片山　慈敏　福永　和馬
水谷　智　山田　正樹　山田　恵美　山田　和毅　杉山　國雄　川南　仁　青山　喜博
田中　治男　田中　雅也　片岡　庄一　小野　麻代　上田　修三　手良村　知央　大堀　忠厚
肥田　嘉文　北野　大輔　大橋　洋　寺尾　尚純　手良村　昭子　飯田　俊宏　津田　美佐子
岡田　宗一郎　津田　國史　村上　義信　村上　瞳　金山　正之　金山　美佐子　鈴木　直子
柳原　德子　山本　由里子　飯住　達也　水戸　基博　水戸　涼乃　水戸　涼介　山本　道子
深田　元子　立石　文代　森田　光治　矢原　功　阿部　一広　津田　久美子　北川　眞造
大喜　のぞみ　田中　喜久　松本　隆　坂本　大介　小林　隆夫　神戸　道典　徳永　義利
徳永　成美　小西　愼一　小山　勝　岸田　教敬　大河原　秀康　中尾　博行　江間　瑞恵
畠山　寿枝　吉野　まゆみ　宮崎　猛　宮崎　真　宮崎　晴香　宮崎　哲　井上　修一
百木　義忠　中島　財　今井　洋　遠藤　浩子　山本　藤樹　宇野　翔　手良村　知功
川村　絵美　川村　実愛　川村　郁人　川村　梓月　元廣　はるな　尾原　直行　福野　憲二
三輪　祐子　間所　忠昌　南　和美　谷口　雅之　高田　昌彦　中西　寛子　中西　春陽
中西　優一　佐々木　信幸　佐々木　則子　佐々木　結衣　武田　広志　澤田　知之　三村　武士
十塚　正治　吉川　秀司　堀江　夏妃　山中　裕子　飯田　隆行　飯田　貞美　吉田　達矢
吉田　範香　富　小由紀　中村　聡一　岩西　紗江子　大橋　正敏　高垣　重和　坪井　一代
坪井　修生　岡谷　崇宏　河原　豪　河原　絵里　小松原　正志　成子　邦夫　西坂　一成
北村　純平　松田　征也　森田　存　吉崎　早苗　井ノ口　昭雄　坂本　颯太　中川　信次
中川　歩　中川　柚葉　河原　澪　石田　大典　石田　美穂　石田　藍子　正木　紫苑
戸田　孝　山内　孝子　木下　ゆみか　西木　正枝　浦畑　龍司　浦畑　美加　浦畑　里帆
巻藤　美重　大嶋　陽子　大嶋　信介　大嶋　了爾　大嶋　千恵　井原　順司　井原　理恵
井原　凛子　井原　翠子　河野　芳明　安達　誠　藤岡　康弘　熊谷　弥生　新岡　良平
西岡　陸　田中　良平　田中　周　吉野　千栄子　中井　賀津雄　粟田　久仁和　鈴木　幸子
鈴木　悠季野　八尋　克郎　矢守　永生　矢守　永和　真崎　健　江島　凡子　加山　基
山下　直子　山下　悟　ケイシ　浅野　泰輝　近藤　由隆　近藤　暁悠　市野　慎次　市野　翔大
魚住　敏治　塩谷　えみ子　一瀬　諭　河上　新大　岩本　健也　伏見　瞳　ﾀﾞﾆｴﾙ　ﾌｫﾙｽﾀｰ
伏見　圭司　関戸　ユキ　関戸　慧　関戸　悠人　橘川　洸　橘川　温子　木本　裕也
田中　芙実　村上　優生　吉田　満　早野　陽介　早野　里佳　早野　友貴　保木　覚
保木　智子　保木　久美子　清水　範子　三原　秀幸　石田　義之　石田　弘子　石田　つなぐ
中西　元章　田口　裕　伏見　環多　坂本　健太郎　中田　聖月　林　岳宏　田村　彩華
久野　純平　奥村　将太　奥田　覚子　鈴木　裕之　辻　開心　辻　仁司　井上　聖花
木下　恵理　木下　桂典　木下　大輔　木下　雄介　久野　香菜　鍵本　奈々美　小川　由佳
藤崎　雄大　山仲　悠真　宇留島　幸子　妹尾　和彦　杉田　大知　杉田　泉　上中　葵衣
石崎　桂右　石崎　佑　土屋　範幸　土屋　雅人　中森　あゆみ　山﨑　恵理子　大石　巌
田中　宏樹

2. 一般利用者へのサービス事業

(1) 観察会・見学会等

博物館周辺や県内各地で、交流イベント（観察会・見学会等 23 回および講座（はしかけ登録講座 4 回（うち、対面 1 回、オンライン 3 回)、琵琶湖地域の水田生物研究会 1 回、新琵琶湖学セミナー3 回、里山体験教室 3 回、田んぼ体験 8 回、びわ博フェス 1 回）計 42 件を実施した。

開催日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4 月 17 日(日)	ちっちゃな子どもの自然遊び･4 月	10 組	26	ちこあそ(はしかけ)
4 月 21 日(日)	里山体験教室（春）	30	9	里山の会(はしかけ)
5 月 12 日(日)	田んぼ体験　田植え	20	19	
5 月 14 日(火)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	5	緑のくすり箱(はしかけ)
5 月 15 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･5 月	10 組	17	ちこあそ(はしかけ)
6 月 19 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･6 月	10 組	26	ちこあそ(はしかけ)
7 月 7 日(日)	里山体験教室（夏）【熱中症警戒の為中止】	30	中止	里山の会(はしかけ)
7 月 17 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･7 月	10 組	22	ちこあそ(はしかけ)
7 月 28 日(日)	田んぼ体験　昆虫採集	20	19	
9 月 8 日(日)	田んぼ体験　稲刈り・ハサ掛け①	20	25	
9 月 18 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･9 月	10 組	21	ちこあそ(はしかけ)
10 月 13 日(日)	田んぼ体験　稲刈り・ハサ掛け②	20	21	
10 月 16 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･10 月	10 組	20	ちこあそ(はしかけ)
10 月 20 日(日)	里山体験教室（秋）	30	12	里山の会(はしかけ)
11 月 12 日(火)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	5	緑のくすり箱(はしかけ)
11 月 20 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･11 月	10 組	19	ちこあそ(はしかけ)
12 月 18 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･12 月	10 組	24	ちこあそ(はしかけ)
12 月 22 日(日)	田んぼ体験　しめ縄づくり	20	20	
1 月 15 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･1 月	10 組		ちこあそ(はしかけ)
1 月 19 日(日)	里山体験教室（冬）	30	6	里山の会(はしかけ)
2 月 9 日(日)	田んぼ体験　わら細工	20	11	
2 月 19 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･2 月	10 組		ちこあそ(はしかけ)
3 月 19 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び･3 月	10 組		ちこあそ(はしかけ)

(2) 講座・セミナー

2024 年度は、以下のような講座・セミナーを開催した。

回	開催日	内容	人数制限	参加者数	その他
1	4 月 28 日～5 月 12 日 9 月 8 日～9 月 22 日 2 月 23 日～3 月 9 日	はしかけ登録講座 (オンライン)	なし	44 20 30	
2	9 月 28 日(土)	はしかけ登録講座 (博物館)	なし	11	

3	12月15日(日)	琵琶湖地域の水田生物研究会	なし	212 (うちオンライン 120 名)	口頭発表　10 件 ポスター発表　15 件 シンポジウム　件
4	1 月 25 日(土) 2 月 22 日(土) 3月29日(土)	新琵琶湖学セミナー	なし	42 33 25	
5	2月16日(日)	野生動物研修会 一般市民講座 伊吹山の野生動物	なし	65	

(3) 体験教室

1) 里山体験教室

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どものころは野山で遊んだが久しく行っていない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室をはしかけ「里山の会」との共催により開催している。

里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林にとどまらず、周辺を散策して、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しみながら知ってもらうため、春・夏・秋・冬の年４回実施している。春は里山を歩き、野草を中心に観察を行った。午後からは丸太切りを行い、木の名札を作成した。夏は虫取りや昆虫の観察会を予定していたが、猛暑により中止とした。秋は里山を散策して、木の実や紅葉などの秋探しを行った。午後からは里山整備やハンモックづくりを行った。冬は、散策をして材料集めを行った後、火おこしと花炭づくりを行った。午後からは間伐材を利用して丸太のベンチづくりを行った。

里山体験教室の開催

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	４月 21 日	里山の春を見つけよう	9	奥田、加藤、武政、青木
2	7 月 7 日	里山の夏を楽しもう	中止	奥田、今田、武政、青木
3	10 月 20 日	里山の秋を探そう	12	奥田、青木、瀬山
4	1 月 19 日	里山の冬遊び	6	奥田、渡邉、武政、青木

散策

花炭材料集め

ハンモック遊び

2) 生活実験工房　田んぼ体験

生活実験工房では年間を通して、一般参加者と、はしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施している。5 月から 10 月中旬までは主に水稲栽培に関する体験を行い、12 月から翌年 2 月までは藁など収穫した材料や工房周辺にある材料を使って体験活動を実施している。

水稲栽培の体験活動では、田植え、稲刈りまでを手作業で行っている。農閑期となる冬季には工房内でし

め縄やわら細工など、主に藁を有効活用した体験活動を行っている。つまり、生活実験工房では農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んでいる。

2024 年度は当初予定通りに、活動を全て実施できた。本年度の活動も引き続き予約制とし、参加人数に制限を設けたが、今後は、定員について最適な人数を模索していく必要がある。また、夏の活動日には、体調不良者がでないよう、活動内容の工夫や、熱中症対策も引き続き行っていく必要がある。

田んぼ体験の活動を通じ、自然に触れ、親と子の絆を深める良い機会として頂き、参加者の多くの方に満足して頂くことができた。

「生活実験工房　田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内　　容	イベント	参加者数
4 月 13 日	種まき、苗代づくり	−	職員対応
5 月 12 日	田植え	実施	19 名
7 月 28 日	昆虫採集	実施	19 名
9 月 8 日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	実施	25 名
10 月 13 日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	実施	21 名
12 月 22 日	しめ縄づくり	実施	20 名
1 月 14 日	どんど焼き	−	職員対応
2 月 9 日	わら細工	実施	11 名

9 月　稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け

12 月　しめ縄づくり

(4) 体験学習

「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

（担当：渡邉俊洋、桑原康一）

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営している。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届けるため、第２土曜日の午後に開催している。滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことを大切にしながら「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに関わっている。今年度は、年間８回、計１５１名の参加者に楽しんでもらうことができた。

わくわく探検隊の活動内容

回	月　日	館内の事業	参加者数
1	5月11日	春の草花でしおりをつくろう！	23名
2	6月8日	光とかげで写真をとろう～水の中の植物編～	15名
3	7月13日	骨にふれてみよう！	25名
4	9月14日	プランクトンを見よう！	15名
5	12月14日	岩石標本箱をつくろう	32名
6	1月11日	綿にふれてみよう	18名
7	2月8日	水鳥を観察しよう！	13名
8	3月8日	ミニ水族展示を作ろう！	20名

(5) 質問コーナー・フロアトーク

琵琶湖博物館では、開館当初から"学芸員の顔が見える博物館"づくりを行っており、おとなのディスカバリー内に設置された「質問コーナー」において博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーには学芸員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に応えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっており、学芸員からの一方通行の情報伝達だけではなく、利用者からもたらされた情報が科学的に重要な知見に繋がった事例もある。その日に担当する学芸員の予定は博物館ホームページやおとなのディスカバリー入口壁に掲示されており、専門分野の担当者がいる日に質問ができる仕組みとなっている。それぞれの質問は、担当学芸員がその場で対応するようにしているが、分野が異なったり、専門的な内容で質問コーナー担当学芸員が回答できない場合は、それぞれ専門の学芸員に回答を依頼したり、調べて後日メールや電話で回答している。博物館への質問については、質問コーナーに来室されるほか、電話やメールによる質問や相談に応じている。

質問コーナーの当日担当学芸員が行う展示交流「フロアトーク」では、月１回学芸員の会議が行われる第３金曜日を除く開館日に、１日１回約 30 分間、展示室やオープンラボを使用して実施している。フロアトークの場所や内容、時間は当日担当の学芸員が決定し実施した。

質問コーナーおよび電話における質問受付数

期間	2024年4月1日～2025年3月31日（うち質問コーナー実施日）	
総質問数	942件	
質問形態	来訪による質問	800件
	その他による質問	142件

(6) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館の情報交換サービスを充実させるため、開館以来、学芸員への質問、相談などを受け付けるための専用電子メールアドレス（query@biwahaku.jp）を設定している。これらのメールは受付担当者が受信し、メールの内容に応じて専門の学芸員や関連職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2024年度は総数1237　件であった。届いたメールのうち、専門的な質問については各学芸員が対応している。これらの中には、このような質問をきっかけとして自由研究に取り組んだり、身近な自然に興味をもつようになったりするなど、リピーターとなる方もいた。本年度は、学校の自己学習に関連する質問や問い合わせが20件

以上寄せられた。事前学習の資料提案を行いながら、学習テーマを絞っていくなどの対応をしているが、学習カリキュラムの改訂により今後もこのような問い合わせが増えると考えられる。年々営業メールや迷惑メールが増える傾向があり、実に73%が質問と関係のないメールになる事態が発生している。ただし、ウイルスメールはセキュリティによりしっかり対処されており、本サービスの継続にはセキュリティ対策が不可欠である。

「Query」による質問件数

項目	件数
専門的な内容を含む質問 生物（魚類 35・その他水生生物 11・プランクトン 8・昆虫 21・哺乳類 4・ 鳥類 6・両生類 6・爬虫類 4・植物 14)、琵琶湖・湖沼 9、地学 8、 歴史・民俗・考古 7、博物館関係 5、研究 8	146
講師依頼、研究依頼、写真利用など	47
施設利用や行事の問合せ・予約確認・案内資料請求	24
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	12
広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	25
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等）	11
営業関係のメール（セキュリティ隔離 346 件含む）	914
その他の問い合わせ等	58

3. 学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。昨年度と比較すると、学校団体による来館者数は減少した。特に小学校の利用が、県内県外ともに減少した。ただし、次項で示す学校団体向け体験活動を利用した小・中・高等学校数は増加した。

1) 学校団体の受け入れ（担当：渡邉俊洋、桑原康一、樋上和史、黒川明）

地域	校　種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		R5 年度	今年度	増減	R5 年度	今年度	増減
県内	小学校	195	190	−5	12,968	12,475	−493
	中学校	13	16	3	1,084	1,449	365
	高等学校	14	11	−3	338	302	−36
	特別支援学校	16	22	6	202	377	175
	大学など	12	8	−4	944	711	−233
	合　計	250	247	−3	15,536	15,314	−222
県外	小学校	185	177	−8	150,206	14,963	−243
	中学校	58	55	−3	7,451	5,558	−1,893
	高等学校	29	23	−6	3,450	3,820	370
	特別支援学校	16	16	0	396	401	5
	大学など	16	27	11	537	1,008	471
	合　計	304	298	−6	27,040	25,750	−1,290
総合計		554	545	−9	42,576	41,064	−1,512

2）**学校団体向け体験学習**（担当：渡邉俊洋、安達克紀、樋上和史、黒川 明）

学校団体向け体験学習は、展示室見学をより深く学ぶための手助けとなることを目的に行っている。今年度は、多くの学校に体験してもらうことができた。

校　種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖の概要、博物館の展示、昔のくらしなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップづくり、昔くらし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）、プランクトンの採集と観察、落ち葉で魚型のしおりづくり、質問対応
中学校	講義（琵琶湖の概要、博物館の展示など）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、シジミストラップづくり、プラスチック粘土を使った琵琶湖づくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖の概要、博物館の展示、職業講話など）、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、質問対応
特別支援学校	昔くらし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）

■体験学習実施数

校　種	県　内		県　外		合　計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	53	3,657	34	2,430	87	6,087
中学校	6	1,122	19	1,351	25	2,473
高等学校	8	201	2	149	10	350
特別支援学校	1	5	1	9	2	14
大学など	0	0	0	0	0	0
合　計	68	4,985	56	3,939	124	8,924

■体験学習のようす

3）**ミュージアムスクールの運営**（担当：渡邉俊洋、桑原康一）

2024 年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

立命館守山中学校１年生が琵琶湖博物館で展示見学、講義、体験学習（プランクトンの採集・観察、プラスチック粘土を使った琵琶湖づくり）を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。その後、学校文化祭で教室パビリオンを作製して来場者と交流したり、「琵琶湖をバズらせる シン・MLGs フェス ～私たちは〇〇やってみた～」というプロジェクトで環境学習だけでなく多方面に学習の場を広げ、MLGs のそれぞれの分野に分かれて活動し、学習発表会でそれぞれの活動の発表をしたりした。

○ 2024 年 7 月 10 日（水）於：琵琶湖博物館

・講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の展示について」

・プランクトンの採集と観察

・プラスチック粘土を用いた琵琶湖づくり

4）自然調査ゼミナール（担当：渡邉俊洋、桑原康一）

この活動は、毎年夏休みに滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、滋賀県内の中学生に対し、自然調査の手法を身につける機会の提供をしている。自然環境とじっくり向き合い、身に付けた自然調査の手法を自らの得意分野やフィールドで活かすことができる滋賀の子どもを育てることを目指し、1977 年より開催されている自然観察研修会である。1997 年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行っている。※2020－2022 年度は新型コロナ感染拡大防止のため中止

■内容　(2024年度)

午前の部		午後の部	
9:00 ～ 9:30	受　付	12:45～14:15	班別調査活動Ⅱ
9:30 ～10:00	開講式・オリエンテーション		（各活動場所）
10:00 ～12:00	班別調査活動Ⅰ	14:15～15:50	調査結果のまとめ
	（各活動場所）	16:00～16:45	調査報告会（ホール）
12:00 ～12:45	昼食および休憩	16:45～17:00	講評・閉講式
	展示室見学		

■班別テーマ　(2024年度)

調査班	テーマ	生徒数	教員数	講師
昆虫班	昆虫の生態を調べ，標本をつくろう	９名	３名	今田舜介 (学芸員)
植物班	採集や種類分けを通して生態を調べよう	６名	３名	大槻達郎 (学芸員)
湖岸と環境班	湖岸のそれぞれの地点の違いから環境（水質、魚、ゴミ等）を調べよう	１０名	３名	渡邉俊洋 (博物館職員)
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて調べよう	１２名	３名	鈴木隆仁 (学芸員)
魚類班	魚の解剖を通して，生態を調べ、外来魚問題を考えよう	１４名	６名	飯住達也 宮﨑亮平 (教員)
貝類班	貝の採集を通して生態を調べよう	１０名	３名	菅原巧太朗 (学芸員)

■自然調査ゼミナールのようす

(2) 教育指導者等研修（担当：渡邉俊洋、桑原康一）

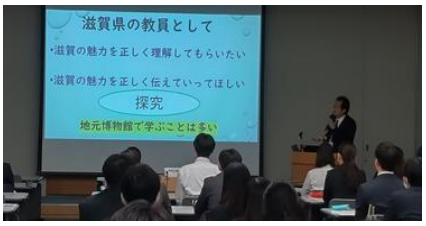
教職員研修

本年度もフローティングスクール連携に関わる教員研修や県総合教育センターなどと連携した初任者教員研修を行った。フローティングスクール連携に関わる教員研修では講義（琵琶湖の概要）、プランクトンの採集・観察を行った。初任者教員研修は講義（琵琶湖の概要、博物館の使い方）、プランクトン採集・観察などの体験的な研修、琵琶湖博物館を校外学習の活用の仕方などを考える研修を行った。これらの研修で県内の学校の先生方に琵琶湖博物館の使い方を知って、生徒たちと深く学べる工夫を知る機会となった。

教員研修の実施状況

実施日	講座名	参加人数	共催・後援・協力
８月２日(金)	フローティングスクール連携教員研修会	４２名	滋賀県フローティングスクール
9 月 24 日(火)	初任者研修（特別支援学校）	２９名	滋賀県総合教育センター
9 月 26 日(木)	初任者研修（特別支援学校）	２５名	滋賀県総合教育センター
11 月 5 日(火)	初任者研修（小学校）	４９名	滋賀県総合教育センター
11 月 7 日(木)	初任者研修（小学校）	４０名	滋賀県総合教育センター
11 月 12 日(火)	初任者研修（小学校）	４１名	滋賀県総合教育センター
11 月 14 日(木)	初任者研修（小学校）	３８名	滋賀県総合教育センター

■教員研修のようす（初任者研修）



4. 地域との交流事業

(1) 地域連携（館内）

実施日	内容・テーマ	参加団体（依頼者）	参加者数	対応者
6 月 15 日	琵琶湖の成り立ちとすむ生き物についての講演	株式会社日立建機ティエラ	100	田畑諒一
6 月 16 日	琵琶湖のプランクトンについて	ボーイスカウト大津第 23 団	40	鈴木隆仁
6 月 22 日	博物館資料保存論	京都文教大学総合社会学部	25	加藤秀雄

6 月 27 日	自然のいのちの尊厳・人間のいのちの尊厳	吹田市人権啓発推進協議会	35	大久保実香
7 月 6 日	フィールドワーク演習Ⅰ	京都先端科学大学人文学部	7	加藤秀雄
7 月 19 日	世界農業遺産琵琶湖システム、魚のゆりかご水田について	全国土地改良事業団体連合会財産管理制度等活用推進委員会	10	西川真里奈
7 月 20 日	プランクトン観察	総合企画部企画調整課長	30	鈴木隆仁
7 月 22 日	田んぼの生物に関する講義	TANAKAMI こども環境クラブ	20	金尾滋史
7 月 22 日	ハノイエ工科大学インターンシッププログラム	商工観光労働部労働雇用政策課	13	大久保実香
8 月 1 日	夏休み環境学習会	ダイハツ工業株式会社	25	芦谷美奈子
8 月 3 日	ハッタミミズに関する講義	NPO 法人河北潟湖沼研究所	10	大塚泰介
8 月 6 日	水産増殖学実習	近畿大学農学部水産増殖学研究室	28	米田一紀 川瀬成吾
8 月 9 日	ヨシに関する講義	草津市児童育成クラブのびっ子草津	52	渡邉俊洋
8 月 21 日	吉野郡（東）科学研究会	吉野郡科学教育研究会	10	米田一紀
8 月 27 日	水産生物学実習	近畿大学農学部水産生物学研究室	15	米田一紀
8 月 31 日	第 27 回国際昆虫学会議エクスカーション	第 27 回国際昆虫学会議組織委員会	50	ロビン J. スミス
9 月 7 日	令和 6 年度「びわ湖の日」情報発信事業	環境政策課	20	菅原巧太朗
10 月 2 日	博物館の概要・展示の見どころについて	八尾市立大畑山青少年野外活動センター	50	川瀬成吾
10 月 23 日	45 期びわこ環境学科選択講座	滋賀県レイカディア大学	22	芳賀裕樹
10 月 27 日	サスティナブルコミュニティ論	早稲田大学	20	奥田　岬
10 月 30 日	2 年生校外実習	名古屋 ECO 動物海洋専門学校	51	川瀬成吾
11 月 3 日	プランクトン観察	NPO 法人自然と緑　第 29 期自然大学	40	大塚泰介 鈴木隆仁
11 月 6 日	水・琵琶湖と人々、地域との関わり、マザーレイクゴールズでの取り組みについて	兵庫丹波の森協会	40	川瀬成吾
11 月 19 日	世界農業遺産琵琶湖システム、魚のゆりかご水田について	米沢平野土地改良区	23	西川真里奈
11 月 24 日	淡水産無脊椎動物研修	大阪府立豊中高等学校	20	鈴木隆仁
11 月 29 日	食の循環実習Ⅰ	龍谷大学農学部	250	金尾滋史 西川真里奈
12 月 5 日	令和 6 年度農業土木技術研修	農政水産部	15	西川真里奈
12 月 13 日	食の循環実習Ⅰ	龍谷大学農学部	250	金尾滋史 西川真里奈
2 月 8 日	京都外国語大学卒業生滋賀支部講演会	京都外国語大学卒業生滋賀支部	15	加藤秀雄

2 月 27 日	琵琶湖の民俗史	成安造形大学	90	加藤秀雄
3 月 8 日	読売テレビ 24 時間テレビ びわ湖プロジェクト	読売テレビ 24 時間テレビチャリティー事務局	210	里口保文
3 月 12 日	滋賀県高等学校等理科教育研究会生物部会兼環境委員会教員研修会	滋賀県高等学校等理科教育研究会	20	渡邉俊洋 金尾滋史
3 月 15 日	亀岡生き物大学特別講座「親子で行こう！滋賀県立琵琶湖博物館」	亀岡市	32	鈴木隆仁
3 月 26 日	プランクトン観察実習	利根山高等学校	15	鈴木隆仁
3 月 27 日	春休み環境学習会	ダイハツ工業株式会社	16	松岡由子 金尾滋史

(2) 地域連携（館外）

実施日	内容・テーマ	場所	参加団体（依頼者）	参加者数	対応者
4 月 7 日	市民大学・たかしまアカデミーオープン講座	高島市安曇川公民館	滋賀県立大学地域共生センター	50	楊平
4 月 27 日	2024 奥びわ湖・山門水源の森現地交流会	ながはま森林マッチングセンター	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	50	山川千代美
5 月 10 日	摂南大学農学部講義	摂南大学農学部	摂南大学農学部応用生物科学科	100	大塚泰介
5 月 16 日	膳所歴史サークル例会	膳所市民センター	膳所歴史サークル	30	里口保文
5 月 18 日	守山市立埋蔵文化財センター令和６年度春季講演会	守山市立埋蔵文化財センター	守山市立埋蔵文化財センター	80	妹尾裕介
5 月 18 日	河川環境調査法（魚類）の講義および実習指導	高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）	大阪府立高津高等学校	45	川瀬成吾
6 月 3 日	「働く人から学ぶ」講演	大津市立仰木の里東小学校	おうみ未来塾「仕事人と語ろう！」グループ	40	松岡由子
6 月 11 日	東鯷人カフェ（第 2 回）ーナレズシと鯰：アジア史と郷土史ー	公立鳥取環境大学	東鯷人ナマズ食の会	50	橋本道範
6 月 22 日	須原魚のゆりかご水田観察会	野洲市須原	せせらぎの郷須原	150	金尾滋史
6 月 22 日	キャンディーファーム水田調査	ラ コリーナ近江八幡	（株）たねや	20	鈴木隆仁 今田舜介

6月23日	あいがもけんぶん塾	蒲生コミュニティセンター	東近江市立蒲生コミュニティセンター	30	里口保文
6月23日	しがのふるさと支えあいプロジェクト生き物観察会	高島市マキノ町知内	高島農業農村振興事務所田園振興課	80	菅原巧太朗
6月29日	化石レプリカ作り	岡山コミュニティセンター（近江八幡市）	岡山学区子ども会育成会	50	渡邉俊洋 桑原康一
6月30日	米原市伊吹薬草の里文化センター設立30周年記念シンポジウム「伊吹山と草花」　コーディネーター	米原市伊吹薬草の里文化センター	伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団	300	大槻達郎
7月15日	かつべ水フェスタ		勝部自治会	50	金尾滋史
7月20日	干潟交流館「なな海」主催事業	干潟交流館「なな海」	佐賀大学農学部	20	大塚泰介
8月6日	川の生き物観察会	彦根市	快適環境づくりをすすめる会	30	金尾滋史
8月24日	令和6年度歴史文化セミナー簡修館	大阪府立狭山池博物館	大阪狭山市教育委員会	22	島本多敬
9月17日	東洋英和女学院小学部　講義	リオグランデ船上	琵琶湖汽船株式会社	70	金尾滋史
9月28日	「びわ湖の日」連続講座	龍谷大学深草キャンパス	環境政策課	170	島本多敬
10月5日	環境学習イベント「まるっと体感八郎湖」	八郎湖（秋田県）	三湖伝説連絡協議会	15	菅原巧太朗
10月15日	楽しく学ぶ歴史教室	コミュニティセンターみかみ	コミュニティセンターみかみ	40	里口保文
10月15日	2024年下半期全社員大会	ホテルニューオウミ（近江八幡市）	滋賀スバル自動車株式会社	125	金尾滋史
11月9日	八幡学区　秋のつどい	八幡コミュニティセンター（近江八幡市）	八幡学区まちづくり協議会	50	山川千代美
11月9日	近畿「子どもの水辺」交流会in滋賀魚観察会	ビアンカ船上	近畿「子どもの水辺」交流会実行委員会	150	川瀬成吾
11月9日	絶滅危惧種の保全活動	佐波江浜湖岸動植物生息・生育地保護区	佐波江地区自治会	30	大槻達郎
11月19日	八郎湖の環境学習	潟上市立大豊小学校	潟上市立大豊小学校	37	菅原巧太朗
11月23日	下物ビオトープ池の水抜き観察会	下物ビオトープ（草津市）	琵琶湖保全再生課	30	金尾滋史

11 月 30 日	TED×DoushishaU	同志社大学　寒梅館	TED×DoshishaU スピーカーチーム	100	亀田佳代子
12 月 6 日	水族館実習	オンライン	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部	55	金尾滋史
12 月 12 日	探求授業(中学3年生)	雲雀丘学園中学校	雲雀丘学園高等学校	30	米田一紀
12 月 13 日	探求授業(中学3年生)	雲雀丘学園中学校	雲雀丘学園高等学校	30	米田一紀
1 月 20 日	令和 6 年度茅採取文化財保存技術（伝承）研修	近江八幡市	一般社団法人　日本茅葺き文化協会	25	林竜馬
1 月 25 日	高島市の農業を考える：田んぼの生き物調査報告会	高島市観光物産プラザ	西日本アグロエコロジー研究会	10	米田一紀
2 月 8 日	宍粟環境講座	兵庫県立国見の森公園	西播磨里人倶楽部	中止	大塚泰介
2 月 16 日	下之郷遺跡　弥生のお話会	守山市下之郷史跡公園	守山市教育委員会	30	林竜馬
2 月 20 日	視覚障害者を対象とした講座	滋賀県立視覚障害者センター	滋賀県立視覚障害者センター	中止	奥田岬
2 月 23 日	市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 2025	龍谷大学深草キャンパス	日本ボランティアコーディネーター協会	30	鈴木隆仁
3 月 9 日	令和 6 年度南比良自主防災会研修会	大津市南比良公民館	大津市南比良自治会	90	島本多敬
3 月 14 日	龍谷大学　生物多様性科学研究センターシンポジウム「ネイチャーポジティブへの挑戦ー生物多様性の喪失は誰の問題で誰がどう解くのか」	龍谷大学大宮キャンパス	龍谷大学生物多様性科学研究センター	80	今田舜介
3 月 22 日	もう 6 ケ（ホンモロコに関するイベント）	草津市市民交流センター	エコノボイス滋賀	50	米田一紀
3 月 26 日	対話型トークイベント『むぬトーク』	應典院	Deep Care Lab	20	加藤秀雄

(3) びわ博フェス 2024

琵琶湖博物館が目指す「出あい、学びあい、琵琶湖を世界へ発信する博物館へ」を実現するためには、博物館に関わって主体的に活動しているフィールドレポーターやはしかけグループ、および博物館の理念とも

合致して地域で様々な活動を実施している個人・団体・企業や県民・来館者が出会い、学びあえる機会をともに作り上げていくことが重要である。そこで、それらが一堂に会するびわ博フェスを開催し、フィールドレポーターやはしかけグループ、および個人・団体・企業が情報を発信して、県民・来館者も交えて相互に交流を行い、新たな発見や興味を引き出して、それぞれの活動がより豊かで活発なものとなること、新たなネットワークが生み出されることを目指すことが本事業の目的である。

実施日時：2024 年 11 月 16 日（土）～17 日（日）　9：30～17：00

会　場：滋賀県立琵琶湖博物館

テーマ：博物館の新たな可能性 - つながることでできること -

プログラム：びわ博フェス特別企画、ワークショップ、フェスステージ発表会、
学芸員と展示室でつながろう、ポスター展示

概要

1）参加者数（入館者数）：11 月 16 日（土）3,345 人、11 月 17 日（日）5,277 人、計　8,622 人

2）フェスとも

びわ博フェス 2024 開催にあたり、博物館とともに運営を行うため、フィールドレポーター・はしかけ、企業・地域団体・学校関係者から、計画・運営に参加する「フェスとも」を募集した。「フェスとも」構成員 10 人（フィールドレポーター、はしかけ、企業、学校関係の方々）。

フェスともが参加するミーティングを 2 回開催し、びわ博フェスについての提言をいただいた。

第 1 回フェスともミーティング

2024 年 8 月 22 日（木）16 時～／8 月 24 日（土）14 時～

第 2 回フェスともミーティング

2024 年 11 月 21 日（木）16 時～／11 月 23 日（土）14 時～

3）参加団体

フィールドレポーター・はしかけ 23 団体、企業 8 社・地域団体 8 団体、行政 1 部局の計 41 団体が参加した（生物多様性びわ湖ネットワーク・湖南企業いきもの応援団はそれぞれ 1 社としてカウントしてある）。

はしかけ：うおの会・近江　巡礼の歴史勉強会・淡海スケッチの会・近江はたおり探検隊・大津の岩石調査隊・温故写新・暮らしをつづる会・古琵琶湖発掘調査隊・里山の会・植物観察の会・たんさいぼうの会・田んぼの生き物調査グループ・ちっちゃなこどもの自然あそび・琵琶湖の小さな生き物を観察する会・びわたん・ほねほねくらぶ・緑のくすり箱・虫架け・森人・琵琶湖梁山泊・サロン de 湖流・水と暮らし研究会・海浜植物守りたい

企業：トヨタ紡織滋賀株式会社・生物多様性びわ湖ネットワーク・愛（マナ）ミュージック・アカデミー・株式会社　コクヨ工業滋賀・湖南企業いきもの応援団・株式会社村田制作所・株式会社 SCREEN ホールディングス・株式会社レゾナック

地域団体：針江生水の郷委員会・日本野鳥の会滋賀・湖国もぐらの会・ＮＰＯ法人まるよし・ＮＰＯ法人葛川共創ネットワーク・（公社）滋賀県獣医師会・放鳥’ｓ・ホタルの学校

行政：滋賀県琵琶湖保全再生課

4）びわ博フェス特別企画

開会式・閉会式を実施するとともに、特別企画として企画展示ツアーを実施した。二日　間の総計で、参加団体構成員 11 人、一般 60 人、計 71 人の参加があった。

5）ポスター展示

アトリウムにおいて、参加団体を紹介するポスター展示を行った。37 団体（フィールドレポーター・はしかけ 23 団体、企業 4 社・地域団体 8 団体、行政 1 団体）が参加した（「湖南企業いきもの応援団」は 1 社としてカウントしている）。

6）ワークショップ

実習室1・2、会議室、マイクロアクアリウム、生活実験工房、オープンラボ、うみっこ広場において参加21団体（フィールドレポーター、はしかけ12団体、企業4社、地域団体4団体）によるワークショップを開催した。その結果、総数1,508人の参加があった。

7）フェスステージ発表会

セミナー室において、参加団体による活動紹介（3分間トーク）と学芸員及びはしかけ構成員による「びわフェストーク」を行った。11月16日（土）は11団体、11月17日（日）　は5団体が参加した。

8）学芸員トーク

初めての試みとして、学芸員が一斉に展示室でフロアートークをする「学芸員トーク」を実施した。11月16日（14時～14時30分）は参加学芸員16人、11月17日（14時～14時30分）は参加学芸員16人であった。

9）講演会及び閉会式

ホールにおいて、琵琶湖博物館の研究成果でもある『琵琶湖の魚類図鑑』の刊行を記念する講演会「琵琶湖の魚の保全をめぐって～つながることで できること～」を開催した。その結果、144人の参加があった。

橋本道範「趣旨説明」／藤岡康弘「知る：新たな図鑑でわかったこと」／マーシーの獲ったり狩ったり「伝える：YouTubeで発信する」／琵琶湖保全再生課「つなぐ：MLGsでつながる」／叶 匠寿庵「結ぶ：里山環境を守る叶匠寿庵・寿長生の郷の挑戦」／MLGs推進委員会「MLGｓ体操」／川瀬成吾「まとめ」

10）交流会

セミナー室において参加団体相互の懇親をはかる交流会を実施した。フィールドレポーター1人、はしかけ7人、企業5人、地域団体17人、行政1人及び博物館職員21人、計52人が参加した。

11）もじあつめ

初めての試みとして、館内各所に「文字」を配置し、それを組み合わせると一つの単語になって景品がもらえるという「もじあつめ」を実施した。二日間で計1,121人という多数の参加者があった。

12）県政PR

初めての試みとして、滋賀県庁各部局が常設展示室内で県政のPRを行うという「県政PR」を実施した。流域政策局、水産課、森林政策課、農政課、農村振興課、耕地課の6部局が参加した。

13）ミュージアムショップとの連携

ミュージアムショップにおいて、会期中に限定して企画展示観覧者に企画展示関連商品の割引サービスを行った。

14）広報

ワークショップ等プログラムの詳細については、webサイトに掲載し、随時更新した。また、資料提供（プレスリリース）を行い、京都新聞11月10日付朝刊、びわ湖大津経済新聞11月12日付web、京都新聞11月18日付朝刊に情報が掲載された。

事業の評価

今年度は、①開催目的の整理、②「フェスとも」の創設、③企業・地域団体との連携拡大、④「もじあつめ」の実施、⑤講演会への人気ユーチューバーの登用、⑤学芸員の一斉フロアートーク、⑥常設展示室内での県政 PR の実施など新たな事業に取り組んだ。市民参加型博物館として博物館運営に市民の参加を求めることは開設当初からの目標、課題であったが、「フェスとも」の創設はその第一歩となった。また、ワークショップの参加者人数や参加状況などを把握することができた。

さらに、企業・地域団体との連携拡大を今年度の重点課題としたが、学芸職員と連携している企業・地域団体のリストを作成した上で、担当学芸員から参加依頼を行った。その結果、企業９社、地域団体７団体の参加があった。

また、運営上の工夫として、①開会式・閉会式を実施する、②参加団体による活動紹介（3分間トーク）・

講演会とワークショップを重複させない、③12 時から 13 時までの間にも企画を入れる、④すべての時間帯になんらかのイベントを入れることなどに留意した。

ワークショップ主催者を対象としたアンケートでは、びわ博フェス全体を通して「とてもよかった」が約 36%、「よかった」が約 61%を占めており、「よくなかった」とする回答はなかった。また、ワークショップ参加者を対象としたアンケートでも、全体を集計すると、「とてもよかった」が約 71%、「よかった」が約 23%であり、「よくなかった」とする回答はなかった。さらに、講演会参加者を対象としたアンケートでは、講演会全体を通して「とてもよかった」が約 63%、「よかった」が約 38%であり、「よくなかった」とする回答はなかった。ある程度のバイアスはかかっているとしても、全体的に大きく評価されたといえよう。

5. 琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページや SNS などにより発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

1)環境学習に関する相談対応等

相談件数　219 件　　教材貸出件数　53 件

（昨年度実績　相談件数　222 件　　教材貸出件数　73 本）

2)環境学習情報のホームページ「エコロしーが」の運用

教えてくれる人登録者　134 人　学習プログラム　178 本　学べる場所　31 か所

3)SNS フォロワー数

X　480 人　　Instagram　411 人　　Facebook　103 人

(2)環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

「水草を知ろう！―水草のしおり作り―」

期日：令和 6 年 10 月 19 日（土）

場所：琵琶湖博物館　実習室 1・企画展示室、琵琶湖湖岸

内容：水草の採取、同定、しおり作りを行い、学びを深めた。希望者には企画展示の展示解説を行った。

参加者：15 人（大人 10 人、小ども 5 人）

2) こどもエコクラブ事業

こどもエコクラブ登録団体：62 団体、メンバー：5414 人

・絵日記・壁新聞コンクール

募集期間：令和 6 年 9 月 1 日（日）～11 月 15 日（金）

展示場所：琵琶湖博物館　企画展示室

壁新聞応募数：11 作品（11 クラブ）　絵日記応募数：137 作品（5 クラブ）

展示期間：2024 年 12 月 7 日（土）～2025 年 1 月 13 日（月）

内容：こどもエコクラブに登録しているクラブの活動成果をまとめた壁新聞・絵日記の展示および表彰を実施。

・淡海こどもエコクラブ活動交流会

期日：令和 6 年 12 月 8 日（日）

場所：琵琶湖博物館　ホール・企画展示室

参加クラブ数：11 クラブ　参加人数：160 人（大人：75 人、子ども：85 人）

壁新聞発表団体：11 団体
内容：絵日記・壁新聞コンクールの壁新聞の発表および表彰（壁新聞：大賞 1 件、奨励賞 2 件　絵日記：優秀作品賞 5 件）。

3）環境保全活動者交流会

「2024 年度　環境保全活動者交流会」
期日：令和 6 年 8 月 21 日（水）
場所：積水樹脂株式会社滋賀工場　会議室・ビオトープ
内容：事業者の環境保全活動がより活発になることを目的として「トンボ」をテーマに実施した。3 社（積水樹脂株式会社滋賀工場・ダイハツ工業株式会社竜王工場・旭化成住工株式会社滋賀工場）の環境保全活動の事例紹介と専門家によるトンボに関する講演、工場内のビオトープで、トンボの採取と観察を行った。
参加者：9 人（9 社）

(3)環境学習への誘い事業

・2024 年度ギャラリー展「鉱物・化石展 2024　大地に夢を掘る」
期日：令和 6 年 4 月 20 日（土）～6 月 2 日（日）
場所：琵琶湖博物館企画展示室
主催：琵琶湖博物館・湖国もぐらの会
内容：滋賀県やその周辺地域で鉱物や化石の採集活動を行う地域の方々で構成された団体「湖国もぐらの会」の収集物を展示した。また、環境学習センターで貸し出しを行っている環境学習用具の展示もおこなった。
関連ワークショップを実施した。
「鉱物ハンマーを使ってみよう！」
期日：令和 6 年 5 月 4 日（土）、5 日（日）
場所：琵琶湖博物館実習室 1
内容：貸出用具の 1 つである化石・鉱物採集セットを用いて花崗岩を割り、観察した。
参加者：8 組 23 人（大人：11 人、子ども：12 人）
・ビバシティ平和堂での「びわこの日」関連イベントでのパネル展示
期日：令和 6 年 6 月 25 日（火）～7 月 1 日（月）
場所：ビバシティ平和堂センタープラザ
内容：ビバシティ平和堂で実施される「びわこの日」関連イベントで、ヨシに関するパネル展示を行った。
・「夏休み！自由研究応援展」
期日：令和 6 年 7 月 10 日（水）～7 月 16 日（火）
場所：近鉄百貨店　草津店
内容：環境学習センターで貸し出しを行っている環境学習用具の活用促進と地域で活動されている方々の紹介を目的として、貸出用具の展示、「はしかけ」と「生物多様性びわ湖ネットワーク（BBN）」のパネル展示を行った。
関連ワークショップを実施した。
「虫博士と作ろう！魅惑の昆虫標本」
期日：7 月 13 日（土）、14 日（日）　14：00～15：00　計 2 回実施
内容：貸出用具と簡易展翅板を用いて、チョウの標本を制作した。
参加者：7 組 21 人（大人：11 人、子ども：10 人）
・ビバシティ平和堂で「びわこのちから」パネル展示

期日：令和 6 年 11 月 23 日（土）・24 日（日）
場所：ビバシティ平和堂センターモール
内容：琵琶湖を含む滋賀県の魅力を紹介するパネルと移動博物館キットを展示した。

(4) その他

・2025年1月28日（火）～2月24日（月）　琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ100大作戦　～滋賀のトンボを救え～」　-生物多様性びわ湖ネットワーク-　展示活動支援
琵琶湖博物館アトリウムにおいて、「生物多様性びわ湖ネットワーク（BBN）の生物保全活動成果発表展示

3　情報発信・広報 PR 活動

1.　インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週 15 回程度である。このほか、収蔵資料の情報の公開もしている。今年度はトンネル水槽再開やクラウドファンディング第２弾があり、より一層の情報提供や SNS 発信に注力することで、多角的な博物館情報の発信を推進した。2024 年度は、解析結果からウェブページの閲覧者数が増加しており、例年より多くの利用者がウェブページを介して琵琶湖博物館の情報を得ていることが読み取れた。インターネットを利用した館外への情報提供は、来館者 50 万人達成（2000 年度以来、24 年ぶり）にも寄与したと考えている。

(1) ウェブページの閲覧状況

ウェブサイトとアプリの両方からイベントベースのデータを収集する Google アナリティクス 4（GA4）による、2024 年 4 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日までの利用状況およびアクセスに関する解析結果はつぎのグラフの通りである。

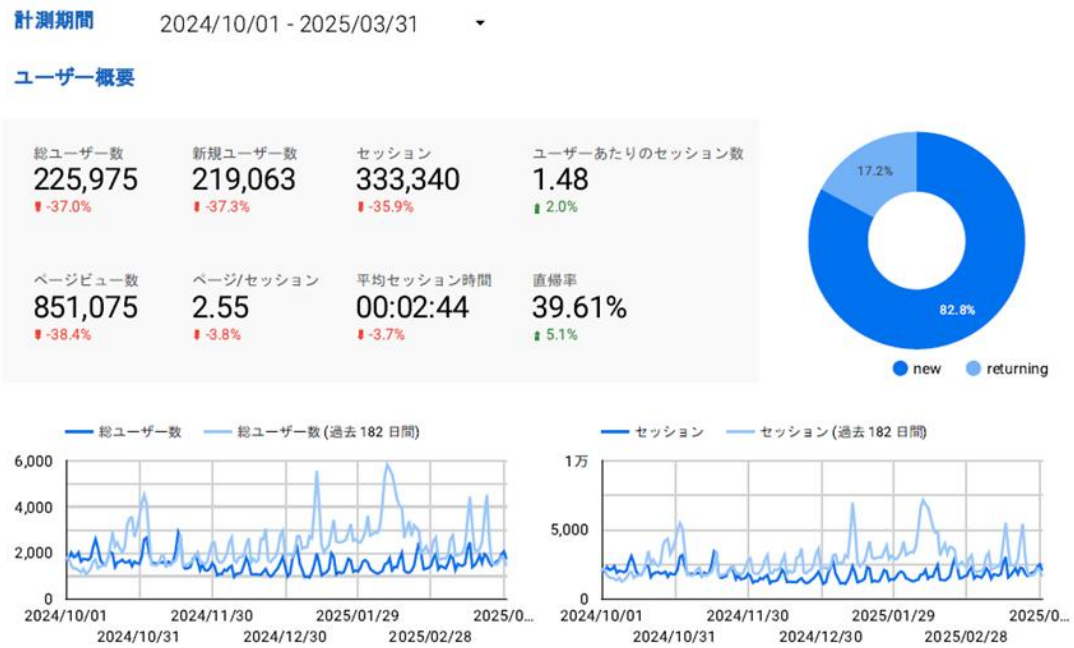
GA4 を使ったデータ収集は 2023 年 6 月 17 日から開始したため純粋な比較はできないが、参考までに、それ以前のグーグルアナリティクス（2023 年 4 月 1 日から 2023 年 6 月 16 日）と GA4（2023 年 6 月 17 日から 2023 年 9 月 30 日）を合算した値と、2024 年度上半期の利用状況と比較する。総ユーザー数 12.3%増（2024 年度 359,560、2023 年度合算 320,229）、セッション数 18.7%増（2024 年度は 521,749、2023 年度合算 439,430）、ページビュー数 8.6%増（2024 年度 1,386,531、2023 年度合算 1,276,830）であった。

人気コンテンツ

	ページタイトル	セッション
1.	滋賀県立琵琶湖博物館	世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	313,706
2.	料金について	滋賀県立琵琶湖博物館	131,653
3.	展示紹介	滋賀県立琵琶湖博物館	78,301
4.	アクセス	滋賀県立琵琶湖博物館	74,197
5.	開館情報	滋賀県立琵琶湖博物館	51,374
6.	利用案内	滋賀県立琵琶湖博物館	49,327
7.	水族展示室	滋賀県立琵琶湖博物館	43,207
8.	レストラン にほのうみ	滋賀県立琵琶湖博物館	24,118
9.	A展示室	滋賀県立琵琶湖博物館	23,167
10.	観察会・見学会	滋賀県立琵琶湖博物館	22,497

閲覧されているウェブページの上位は、トップページをはじめ、料金、展示紹介、アクセスなど、当館の基本的な情報を掲載したページが中心であり、ウェブページの閲覧の主目的は、来館者が情報を得ることであることが読み取れる。

2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの利用状況およびアクセスに関する解析結果はつぎのグラフの通りである。



2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日は総ユーザー数 0.5%増(2024 年度 225,975、2023 年度 224,805)、セッション数 2.2%増(2024 年度 333,340、2023 年度 326,214)、ページビュー数 2.9%減(2024 年度 851,075、2023 年度 876,280)であった。2023 年度よりも総ユーザー数とセッション数が微増しているものの、ページビュー数が減少している。その理由は、2023 年度にクラウドファンディング関連情報へのアクセスがあったことが大きい。また、上半期（2024 年 4 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日まで）と下半期（2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）を比較すると、下半期の利用状況は約 30%と減少していることが分かる。当館の来館者数の推移傾向として、上半期よりも下半期の方が少ないことを踏まえると、web ページの閲覧の多くは来館者（来館予定者）によるものである蓋然性が高い。下半期の web ページの閲覧数を増加させることは、閑散期の来館者数増に向けた対応につながることが想定できるため、今後の重要課題である。

人気コンテンツ

	ページ タイトル	セッション
1.	滋賀県立琵琶湖博物館 | 世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	195,463
2.	料金について | 滋賀県立琵琶湖博物館	67,644
3.	展示紹介 | 滋賀県立琵琶湖博物館	44,361
4.	アクセス | 滋賀県立琵琶湖博物館	40,778
5.	開館情報 | 滋賀県立琵琶湖博物館	32,283
6.	利用案内 | 滋賀県立琵琶湖博物館	25,985
7.	水族展示室 | 滋賀県立琵琶湖博物館	25,523
8.	レストラン にほのうみ | 滋賀県立琵琶湖博物館	14,517
9.	A展示室 | 滋賀県立琵琶湖博物館	14,293
10.	観察会・見学会 | 滋賀県立琵琶湖博物館	12,504

下半期で閲覧されているウェブページの上位は、上半期と変化がない。

(2) ウェブページの更新

利用者に資する様々な情報発信のために掲載内容を高頻度で更新をしている。主なものは、びわ博ニュース（資料提供やお知らせなど)、企画展示・その他の展示（企画展やギャラリー展・トピック展示の情報)、イベント情報（観察会、研究セミナー情報など)、出版物掲載（フィールドレポーターだより、はしかけニューズレターなど）また、臨時休館や関西文化の日で常設展無料など、多くの利用者にとって広く発信すべき内容については、トップページ上部へ掲載するバナーを作成、掲載した。

主な情報発信件数は以下のとおり（日常的な修正を除く)。　　合計 151 件

項目	件数
びわ博ニュース	107 件
企画展示・その他の展示	16 件
イベント情報	52 件
出版物掲載	10 件

このほか、より利用しやすいウェブページとするべくコンテンツ追加やレイアウト等の更新を実施した。以下に主な更新内容を示す。

・トップページに SNS 情報発信用の窓を設置し、常に投稿した最新情報を瞬時に確認できるレイアウトへと変更
・びわ博ニュース一覧の表示件数増加（3 件から 10 件へ）および新規 3 件の対し NEW 表示
・利用案内の内容変更（料金、学校利用、団体利用）
・博物館の観覧料を無料とする対象者の拡大にともなう料金表の更新、団体利用申込書の更新にともなう新様式への差し替え

2. 情報システムの整備・更新

(1) 端末機器の更新

2024 年度は 5 年リース契約をしている端末機器の終了年度に当たり、あらためてリース契約を結び、最新の端末機器に更新した。昨今のファイルのデータ量や画像編集作業の増加にともなうメモリ負荷が高まっていることを考慮し、より効率的に迅速な作業が実施できる端末機器を選択した。

(2) セキュリティ等

2023 年度より運用している滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの中で常時監視をしている。さらに、研究利用等で頻繁にインターネット接続をする端末に対してのセキュリティ強化を目的に、Microsoft Defender と連携した、EDR（Endpoint Detection and Response：ユーザーが利用するパソコンやサーバーに

おける不審な挙動を検知し、迅速な対応を支援するセキュリティソリューション）である FFRI yarai をインストールすることで、ウィルス等への頑強性を高めている。

(3) ホームページ等

中長期計画の一環として本館で掲げている「ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」を推進するべく、トップ画面で本日の開館状況、休館情報、SNS 発信情報などが一目で分かるレイアウトにすべく更新した。また、昨今の利用状況の分析からスマートフォンによる閲覧が多数を占めることを考慮し、スマートフォン版のホームページ画面は縦読みで効率よく情報が読み取れるレイアウトへと更新した。さらに、学ぶ・調べる項目に、新たにデジタル琵琶湖博物館のページを作成し、博物館資料の電子図鑑（哺乳類、両生類、魚類）、3D モデル（土器や骨格標本）、びわはく GIS（鳥類標本と民具）を公開した。

(4) 音声ガイドの更新

中長期事業目標 4「もっと使いやすい博物館へ」に従い、琵琶湖博物館では視覚障がい者と外国語使用者へも対応できる「ポケット学芸員」を用いた音声ガイドを導入している。これまで常設展示室の合計 91 カ所の展示に日本語と英語の音声ガイドを導入、運用している。これに加えて、今後のよりよい利用環境を整備するために、外国語使用者に向けて四か国語（中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語）の音声ガイドの作成をすすめた。

3. デジタルサイネージ

琵琶湖博物館では、来館者向け利用案内の向上を目的としてデジタルサイネージを導入、運用している。今年度は 8 台 のサイネージを運用している（表）。表示している情報は一般的な利用案内情報（利用料金、利用案内）を発信している。 券売カウンター横の 2 台では、企画展示のほか館内で実施している様々な事前申込を要さないイベントを案内している。今年度は企画展示情報、クラウドファンディングのお知らせ、経過、結果報告を追加した。現時点では長期的なイベント情報を中心に情報を更新し、更新頻度は 10 回程度となっている。 券売カウンターの 3 台については、観覧料のみを表示している。

【デジタルサイネージの設置場所と運用状況】

	設置場所	画面サイズ	形式	表示内容
1，2	券売カウンター横	55 インチ	固定	展示案内（企画展示など）、感染対策や水槽の破損のために休止しているサービスの案内、YouTube 動画、クラウドファンディン グの募集・経過報告・結果発表
3，4，5	券売カウンター	43 インチ	固定	観覧料の案内
6	1 階エスカレーター前	43 インチ	可搬	エスカレーター案内
7	正面入口	55 インチ	可搬	利用料金、利用案内
8	C 展示室	55 インチ	可搬	展示物紹介

4. 印刷物一覧

2024 年度の印刷物は下記のとおりである。

月	品名	サイズ	ページ数	印刷部数
4 月	ギャラリー展「鉱物・化石展 2024　大地に夢を掘る」チラシ	A4	2	3,000
5 月	びわはく第 8 号	A4	12	5,500
5 月	企画展「湖底探検Ⅱ－水中の草原を追う―」チラシ	A4	2	24,000
5 月	企画展「湖底探検Ⅱ－水中の草原を追う―」ポスター	A1	1	1,000
6 月	学習ガイド	A4（２つ折り）	4	3,000
6 月	淡海こどもエコクラブ「絵日記・壁新聞コンクール」作品募集チラシ	A4	2	3,500
6 月	企画展「湖底探検Ⅱ－水中の草原を追う―」図録	B5	128	800
7 月	招待券 共通券・一般 共通券・高大	－	－	1,000 10,000 20,000
7 月	クラウドファンディング事前 PR チラシ	A4	2	4,000
8 月	クラウドファンディングチラシ	A4	2	30,000
9 月	リーフレット	210 ㎜×395 ㎜	8	100,000
9 月	びわ博フェスチラシ	A4	2	5,000
10 月	クラウドファンディングチラシ	A4	2	20,000
11 月	年間観覧券	54mm×85mm	2	2,000
12 月	クラウドファンディング寄附金受領証明書	A4	1	1,000
1 月	年間観覧券	54mm×85mm	2	1,500
1 月	観光券不参加証明書	220mm×310mm	1	300
1 月	研究調査報告書第 37 号「森と人の関係史－人は森をどう利用してきたのか」	A4	128	300
2 月	貸出備品 PR チラシ	A4	1	5,000
3 月	クラウドファンディング特別感謝状（お魚ポスター特別版）	A1	1	150
3 月	クラウドファンディング特別感謝状（日本のナマズ 4 種）	A1	1	150
3 月	クラウドファンディング特別感謝状（お魚ポスター特別版クリアファイル）	220mm×310mm	1	300
3 月	琵琶湖博物館チラシ「びわこのちからの博物館」	A4	2	24,000
3 月	万博向け PR チラシ	A4	2	24,000

３月	研究報告会「江戸時代のフナズシに、挑戦する」チラシ	A4	2	1,000
３月	研究報告会要旨「江戸時代のフナズシに、挑戦する	A4（冊子）	16	300
３月	共通券・一般 共通券・大	－	－	12,000 2,000

5. 広報 PR 活動

広報活動は、琵琶湖博物館ウェブページでの発信以外に、当館からの情報を資料提供や記者発表として発信するほか、今年度は YouTube チャンネルや SNS プラットフォームを使い、博物館活動を伝えるほか、博物館の使い方、見どころと言った、琵琶湖博物館の活用方法を紹介し、博物館利用をスムーズに実施するための動画を作成した。

YouTube チャンネルは 23 件の動画と 10 件のショート動画を公開し、Facebook は 410 件、Instagram へ 357 件、X へ 410 件の記事の投稿を行った。有料広告は３件、資料提供・記者発表を 77 件、テレビ等放送が 57 件、新聞、雑誌掲載 481 件、学校等団体への広報活動として、38 件の会合等への出席と学校 113 校へ訪問して博物館の紹介等を行った。

また、広報業務委託による広報活動を実施し、パブリシティ活動や認知度向上に向けた各種事業を展開した。その内容は下記の通りである。

・PR 事務局設置（メディア問い合わせ対応）＊
・メディアリストメンテナンス
・配信業務*
・PR ツール作成
・メディアプロモート活動*
・メディアコンタクトレポート作成
・月次露出報告書作成
・露出記事クリッピング
・水族展示室復旧に向けた PR 活動（クラウドファンディング結果報告、トンネル水槽再開など）
・テレビ制作協力
・YouTube 動画制作*
・ミーティング実施
・認知度調査実施　　(*のついた項目の件数等は、表を参照。)　　(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	掲載・放映に至った件数
PR 事務局問い合わせ対応	23	14	15	12	5	9	9	9	10	8	13	12	—
配信業務（回）	3,577	811	3,008	3,923	1,615	1,963	1,299	3,266	1,980	2,623	1,632	2,276	—
-メール	2,529	550	2,023	2,580	1,075	1,314	876	2,190	1,320	1,760	1,100	1,526	—
-FAX	823	211	785	1,043	440	499	323	826	510	663	407	575	—
-PRTIMES［プレスリリース配信サー	225	50	200	300	100	150	100	250	150	200	125	175	—
メディア露出件数-TV・通信社	7	5	5	7	5	3	3	4	9	4	2	3	57
-新聞・雑	45	37	46	42	38	48	36	44	23	37	49	36	481
-WEB	464	133	289	411	236	208	169	317	254	256	172	269	3178
-YouTuber	516	175	340	460	279	259	208	365	286	297	223	308	3716

YouTube 動画の公開 [制作委託会社による動画、限定公開動画、ショートを含む]	0	2	2	1	2	3	6	9	2	3	4	4	38

(1) YouTube による発信

1) 公式 YouTube チャンネル「びわこのちからチャンネル」での発信

琵琶湖博物館の認知度向上活動内容について詳しくより知ってもらうために、研究活動や博物館事業に関する動画を中心に公開した。

	登録者数	閲覧回数	再生時間（時間）	インプレッション数
総数	9,050	1,297,309	70179.8	2,159,399
2024 年度	1,776	505,656	28683.3	845,261

以上、2025 年 3 月 31 日現在

2024 年度は以下の 21 件の動画を作成・公開した。また、9 件のショート動画を作成、公開した。YouTube 動画には、英語による字幕をつけ、海外に向けた発信を意識した。

公開日	タイトル（＊印については広報委託事業による制作）	担当
2024 年 5 月 2 日	みんなでつくろう水族展示！「水族イラスト展」第 1 期イラスト集	川瀬成吾
2024 年 5 月 31 日	第 2 期イラスト集みんなでつくろう水族展示！「水族イラスト展」	川瀬成吾
2024 年 6 月 4 日	第 3 期イラスト集！みんなでつくろう水族展示！「水族イラスト展」	川瀬成吾
2024 年 6 月 28 日	オオサンショウウオの豆知識	川瀬成吾
2024 年 7 月 29 日	びわ博のカヤネズミ	川瀬成吾
2024 年 8 月 8 日	【Vlog】琵琶湖博物館の歩き方！水族展示など見所を現役学芸員さんが案内. A curator of the Museum will guide you through the exhibits	鈴木隆仁
2024 年 8 月 9 日	バイカルアザラシのトレーニング	松岡由子
2024 年 9 月 13 日	【徹底解説】びわ博の体験学習って何があるの？各エリア紹介と団体利用について	桑原康一
2024 年 10 月 4 日	【徹底解説】びわ博の体験学習って何ができるの？	桑原康一
2024 年 10 月 25 日	【お知らせ】琵琶湖博物館「学校団体利用のお申し込みについてご案内」	渡邉俊洋
2024 年 11 月 12 日	琵琶湖博物館クラウドファンディング第２弾が目標の 50%を達成しました！	松岡由子
2024 年 11 月 20 日	琵琶湖博物館クラウドファンディング第 2 弾が目標の 70%を達成しました！！	田畑諒一
2024 年 11 月 30 日	Google マップで琵琶湖一周！琵琶湖博物館の学芸員視点でビワイチを解説してみた！ Going around Lake Biwa on Google Maps with a curator!	鈴木隆仁
2024 年 12 月 11 日	びわ博フェス 2024 講演会「琵琶湖の魚の保全をめぐって」	川瀬成吾・橋本道範

2024年12月13日	【骨格標本作り方】琵琶湖博物館のほねほねクラブの活動日記。[Making a skeletal specimen] The Hone Hone Club at the Lake Biwa Museum	半田直人
2024年12月27日	古琵琶湖層群で化石を発掘！化石の発掘から保存まで解説！【はしかけ活動】	山川千代美
2025年1月30日	誰でも参加できる琵琶湖の地域調査員！滋賀県にある生き物供養を調査！	橋本道範・川瀬成吾
2025年2月7日	滋賀県には天井川がたくさんあるのって知ってる？琵琶湖博物館の学芸員が解説！	島本多敬
2025年2月21日	【1日ルーティン】琵琶湖博物館の水族飼育員の1日に密着！	田畑諒一
2025年2月22日	飼育員さん視点で撮影したバイカルアザラシが可愛い！	田畑諒一
2025年3月13日	Lake Biwa Museum, The largest lake in Japan｜Feel the nature and culture of Japan!	ロビン・ジェームス・スミス

(YouTubeショート動画)

公開日	タイトル	担当
2024年9月9日	【Vlog】琵琶湖博物館の歩き方！	鈴木隆仁
2024年11月8日	【クイズ】びわ博の体験学習って何ができるの？	桑原康一
2024年11月19日	琵琶湖博物館クラウドファンディング第2弾が目標の60%を達成しました！！	金尾滋史
2024年11月22日	【徹底解説】びわ博の体験学習って何ができるの？	桑原康一
2025年1月17日	骨格標本作り方をご紹介	半田直人
2025年1月20日	Googleマップで琵琶湖一周！	鈴木隆仁
2025年2月13日	古琵琶湖層群で化石を発掘！	山川千代美
2025年2月28日	滋賀県には天井川がたくさんあるのって知ってる？	島本多敬
2025年3月7日	【1 日ルーティン】琵琶湖博物館の水族飼育員の1日に密着！	鈴木隆仁

(2) SNSによる発信

琵琶湖博物館のさまざまな活動等をより知ってもらうために、展示をはじめとするさまざまな活動や学芸員紹介、研究活動などの紹介記事のほか、展示室や、屋外展示、周辺地域などでその時期に観察できるものなど、時期限定の即時性が求められる内容の記事を、写真や動画を含めて投稿した。

	フォロワー数	いいね！数	2024年度投稿数
Facebook	6,141	4,502	410（＊英文 67　件）
Instagram	4,570		357（＊英文 67 件）
X（旧Twitter）	7,802		410（＊英文67 件）

以上、2025年3月31日現在

⑶　有料広告の掲載

本年度は下記の 3 件の有料広告を掲載した。

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数	内容
8 月 28 日	産経新聞	タブロイド判	モノクロ 7 段（縦 238mm×横 380mm）	東海・北陸・福井・三重	約 1 万部	クラウドファンディングについて
10 月 1 日	『湖国と文化』189 号・秋号	B5 判	本文中カラー 1 頁	県内	3,000 部	クラウドファンディングについて
12 月 16 日	リーフレット『はれ旅物語 in 滋賀福井』	A4 判	カラー（縦 55mm×横 80mm）	県内	4,000 部	博物館の展示紹介

⑷ 資料提供・記者発表

本年度は下記の 77 件について実施した。

提供日	件　名
4 月 12 日	黒川琉伊さんの「水族展示再生支援寄附」に対するご寄附にかかる感謝状贈呈式を開催しました
4 月 16 日	琵琶湖博物館「トンネル水槽」再開します！
4 月 19 日	ギャラリー展示「鉱物・化石展 2024－大地に夢を掘る－」を開催します
4 月 19 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（ダイハツ工業株式会社）
4 月 19 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（株式会社一金工業社・株式会社日吉・株式会社寺嶋製作所・株式会社パンテック・環境創研株式会社・株式会社日立建機ティアラ・東レエンジニアリング株式会社・株式会社コーガアイソトープ）
4 月 23 日	水族トピック展示「日本で最も珍しい魚！？タンゴスジシマドジョウ」の展示を行います
4 月 26 日	環境学習・交流イベント「鉱物ハンマーを使ってみよう！」を実施します
4 月 26 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催しました（株式会社一金工業社・株式会社日吉・株式会社寺嶋製作所・株式会社パンテック・環境創研株式会社・株式会社日立建機ティアラ・東レエンジニアリング株式会社・株式会社コーガアイソトープ）
4 月 26 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催しました（ダイハツ工業株式会社）
5 月 24 日	フィールドレポーター調査の成果を報告をします

5 月 28 日	比良山麓地域にのこる生態系を活かした防災・減災に関する 調査研究成果が出版されました
6 月 5 日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します （東レエンジニアリング株式会社）
6 月 12 日	日刊地域制作研究会視察団が琵琶湖博物館を訪問しました
6 月 14 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催しました （東レエンジニアリング株式会社）
6 月 18 日	湖南省政府代表団・湖南省人民対外友好協会代表団が琵琶湖博物館を訪問されました
6 月 19 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します （住友電工プリントサーキット株式会社）
6 月 26 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します （株式会社叶匠寿庵・株式会社パールライス滋賀・株式会社堀場製作所）
6 月 27 日	水族展示室「よみがえれ！日本の淡水魚」コーナーほかの展示を再開しました
6 月 27 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催しました（住友電工プリントサーキット株式会社）
7 月 1 日	「琵琶湖の水草」の企画展示を開催します
7 月 3 日	近鉄百貨店　草津店にて　「夏休み！自由研究応援展　自然と親しむ貸出キットを紹介します」を開催します！
7 月 5 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催しました （株式会社叶匠寿庵・株式会社パールライス滋賀・株式会社堀場製作所）
7 月 17 日	水族トピック展示　「滋賀県の地名にちなんだ名を持つ魚・ゼゼラ」を開催します
7 月 17 日	プランクトンの動画付き書籍　「びわ湖のプランクトン　フォト＆ムービー」が出版されました
7 月 17 日	企画展示開催にかかるオープニング式典を開催します！
7 月 19 日	湖上交通を活用した体験型観光・環境学習連携事業の実施～琵琶湖博物館・おごと温泉観光協会・（株）杢兵衛造船所～
7 月 19 日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会　令和６年度第１回会議を開催します
7 月 22 日	「淡海こどもエコクラブ　絵日記・壁新聞コンクール」の作品を募集します！
7 月 22 日	「2024 年度　　環境保全活動者交流会」を開催します！
7 月 31 日	湖上交通を活用した体験型観光・環境学習連携事業　第一回目を実施しました

8月9日	滋賀県の野外水域で「第３の外来種」環境用メダカを初確認　在来生態系に影響の恐れ、観賞魚の放流に警鐘
8月20日	琵琶湖博物館学芸員らが編集した「琵琶湖の魚類図鑑」が刊行されました
8月28日	日本唯一にして世界有数の古代湖　琵琶湖のシンボル“ビワコオオナマズ”　破損した大型水槽復活へ クラウドファンディング第２弾を８月28日（水）より開始
8月30日	絶滅危惧種シロヒレタビラの遺伝的な地域差から人為的に持ち込まれた新証拠が判明
9月3日	琵琶湖博物館のクラウドファンディングに対する「応援ラッピングカー」が運行しています －株式会社木下カンセー　X　琵琶湖博物館 による連携事業－
9月10日	韓国国立洛東江生物資源館と琵琶湖博物館の合同セミナーおよび両機関の協力に関する協議を行います
9月12日	水族トピック展示「７年ぶりの繁殖成功！天然記念物・アユモドキ」の展示を行います
9月19日	福井県年縞博物館にて琵琶湖博物館の所蔵品を展示します 第32回企画展示「湖底探検Ⅱ－水中の草原を追う－」をパネルや映像で紹介します
9月27日	ビワコオオナマズ水槽等の解体・新設にむけて、水族展示室の一部を閉鎖およびトピック展示「日本のナマズ展　～水槽再生に向けて～」の開催について
9月27日	今回は琵琶湖博物館で開催！！「環境・ほっと・カフェ　水草について知ろう！【水草のしおり作り】」にご参加下さい！！
10月2日	滋賀県立琵琶湖博物館と（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所との連携協定締結に際して、連携協定締結式および連携展示を開催します
10月10日	滋賀県東部の河川で放流された可能性の高いオオサンショウウオ交雑個体（特定外来生物）を確認
10月17日	韓国国立洛東江生物資源館との機関長会議と合同セミナーを実施しました
10月21日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します （日本黒鉛工業株式会社・日野精機株式会社・森島商事株式会社）
11月5日	日本トンボ学会公開シンポジウム「みんなでつなごう！ひろげよう！トンボのいる自然～トンボでつなぐ近江の水辺～」を開催します
11月5日	びわ博フェス2024を開催します
11月5日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します （株式会社SCREENホールディングス・日本大学校友会滋賀県支部）
11月8日	フィールドレポーター調査　生き物の供養碑の調査を実施します
11月8日	「近江のナレズシ県民大調査」の成果が公表されました

11 月 11 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します （株式会社ダイフク）
11 月 15 日	びわ湖と人々を支える「令和６年度滋賀県試験研究機関研究発表会」を開催します
11 月 15 日	第 32 回企画展示「湖底探検Ⅱ」好評につき、観覧者が４万人達成しました！
11 月 29 日	琵琶湖博物館の上半期の来館者が過去 4 番目の人数を達成しました
11 月 29 日	琵琶湖博物館クラウドファンディング第２弾　総額 17,739,702 円、合計 866 人の方からご支援をいただきました
12 月 6 日	新琵琶湖学セミナー「みんなで調べる！みんなで伝える！市民科学の最前線」を開催します
12 月 6 日	琵琶湖の水中遺跡発見 100 年記念講演会で当館学芸員が講演します
12 月 6 日	「淡海こどもエコクラブ　絵日記・壁新聞コンクール応募作品展」おぴょび「淡海こどもエコクラブ活動交流会」を開催します！
12 月 12 日	第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会を開催します
12 月 12 日	冬の琵琶湖の風物詩！氷魚（ひうお）展示が始まりました
12 月 20 日	子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」年間人気ランキングで琵琶湖博物館が 2024 年上位にランクインしました
1 月 7 日	「淡海こどもエコクラブ活動交流会」を開催しました
1 月 7 日	世界湖沼の日制定記念展示「琵琶湖博物館と海外とのつながり」を実施しています
1 月 24 日	琵琶湖博物館「はしかけ」お活動紹介を YouTube にて公開しました
1 月 24 日	トピック展示「トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！」を開催します
1 月 28 日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会、令和６年度第 2 回会議を開催します
1 月 30 日	琵琶湖博物館学芸員が研究代表を務めるナレズシ研究の成果が公表されました
1 月 30 日	クラウドファンディング第 2 弾の返礼としてナイトミュージアムを実施しました
1 月 31 日	琵琶湖博物館の累計来館者数 1，300 万人が目前となりました
2 月 12 日	琵琶湖博物館累計来館者数 1,300 万人を達成しました
2 月 21 日	水族トピック展示「新種記載されたスナヤツメの仲間」がはじまりました！
2 月 28 日	フィールドレポーター調査「タンポポ調査」を実施します

2月28日	江戸時代のフナズシの再現実験の成果を発表します
3月11日	琵琶湖博物館で飼育していたタンゴスジシマドジョウが京都水族館で展示されます
3月14日	琵琶湖博物館２０２４年度来館者数が５０万人達成目前となりました
3月14日	在ニカラグア特命全権大使が琵琶湖博物館を視察されました
3月21日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催しました （近江鍛工株式会社）
3月21日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催しました （株式会社市金工業社・巖本金属株式会社・第一工業製薬株式会社・ダイハツ工業株式会社・日本ソフト開発株式会社・日本メンテナスエンジニヤリング株式会社・株式会社藤田・株式会社杢兵衛造船所・レンゴー株式会社）

⑸ テレビ放映記録　直接関わったもの54件

放送日	番組名	内容	局名	担当者
4月16日	ニュース滋賀いろ	琵琶湖博物館・「トンネル水槽」２３日に再開	びわ湖放送	広報
4月17日	ニュース滋賀いろ	ラインナップ・トンネル水槽・再開に向け注水	びわ湖放送	広報 川瀬
4月22日	ＮＨＫニュース おはよう日本	琵琶湖博物館のトンネル水槽　修理が完了し内覧会	NHK大阪	田畑
4月22日	ほっと関西	琵琶湖博物館のトンネル水槽　修理が完了し内覧会	NHK大阪	田畑
4月22日	ニュース滋賀いろ	琵琶湖博物館　トンネル水槽あす再開	びわ湖放送	亀田 田畑
4月23日	ｎｅｗｓランナー	琵琶湖博物館　トンネル水槽が復活	関西テレビ	広報
4月30日	ニュース滋賀いろ	琵琶湖博物館　愛好家が収集「鉱物・化石展」 ▽草津市にある県立琵琶湖博物館では今、県内の愛好家が集めた鉱物や化石の展示が行われている。	びわ湖放送	吉田
5月5日	BBCニュース	きょうは「こどもの日」・子どもの割合・滋賀県は全国２位	びわ湖放送	広報
5月16日	あさイチ	＜愛でたいｎｉｐｐｏｎ＞♪ゴイゴイ～ス～ススス～・ダイアンの地元・滋賀県がスゴい	NHK	松岡（由）
5月17日	金曜オモロしが	＜オモロみつけ旅＞草津市・湖をテーマにした日本最大級の博物館・滋賀県立琵琶湖博物館	びわ湖放送	鈴木

5月24日	金曜オモロしが	＜オモロみつけ旅（草津市の旅）＞湖をテーマにした日本最大級　滋賀県立琵琶湖博物館	びわ湖放送	鈴木
5月31日	おうみ発630	＜しがトク＞雨でも楽しい！琵琶湖博物館	NHK大津	鈴木
6月4日	羽鳥慎一モーニングショー	＜巨大外来ナマズ・繁殖の危機・固有種激減の過去＞	テレビ朝日	米田
6月14日	石川さん情報Ｌｉｖｅ　リフレッシュ	＜ぷれ旅＞梅雨に最適！滋賀県草津市	石川テレビ	鈴木
6月16日	ＮＨＫ俳句　題「鮎」	＜兼題「鮎」＞写真提供	Ｅテレ	広報
6月21日	ＺＩＰ！	＜プレゼンＺＩＰ！＞滋賀をこよなく愛す西川貴教・滋賀県立琵琶湖博物館　亀田館長より西川氏へのメッセージ送付	日本テレビ	亀田
6月21日	めざまし８	＜きょうのミダシ＞脅威・田んぼやレンコン畑に“地球上最悪の侵略的植物”	フジテレビ	中井（特別研究員）
7月4日	ニュース滋賀いろ	＜県立琵琶湖博物館　水槽展示が一部再開＞	びわ湖放送	田畑
7月10日	おうみ発６３０	＜きゅんしが＞びわ湖のやっかい者がおしゃれ料理に大変身！ブラックバスの映像（琵琶湖博物館・２００３年撮影）。	ＮＨＫ大津	広報
7月11日	ｎｅｗｓ　おかえり	＜いっとこ　Ｆｕ！Ｆｕ！　いっとこ　Ｆｕ！Ｆｕ！滋賀・草津エリア　淡水の生き物に会いに行こう！＞	朝日放送	鈴木
7月22日	ぐるっと関西　おひるまえ	＜びわ湖のやっかい者が大変身！！＞ブラックバスの映像（琵琶湖博物館・２００３年撮影）。	ＮＨＫ大阪	広報
7月24日	おうみ！かわら版（滋賀）	＜琵琶湖博物館企画展示「湖底探検Ⅱ－水中の草原を追う－」＞	ZTV滋賀放送局	鈴木
7月29日	newsランナー	＜（特集）　外来種　“ジャンボタニシ”　年に数十回産卵！？＞	関西テレビ	椛島（フィールドレポーター）

7月30日	イチオシ！！	＜特定外来生物が江別に…なぜ「アメリカナマズ」が道内に！？＞アメリカナマズ映像：撮影：琵琶湖博物館。	北海道テレビ放送	鈴木
8月12日	グッド！モーニング	＜けさ知っておきたいニュースまとめ＞観賞用メダカ・琵琶湖で初確認＞	テレビ朝日	川瀬
8月12日	スーパーＪチャンネル	＜ｎｅｗｓ　ＢＯＸ＞“いないはずの魚”目撃・不安広がる＞アメリカナマズ映像：撮影：琵琶湖博物館。	テレビ朝日	鈴木
8月13日	グッド！モーニング	＜北海道で“いないはずの魚”目撃＞アメリカナマズ映像：撮影：琵琶湖博物館。	テレビ朝日	鈴木
8月23日	めざましテレビ	＜シェアＴＯＰＩＣＳ　厳選・夏休みに達人オススメ！学べるユニーク水族館＞	フジテレビ	鈴木
8月28日	おうみ発６３０	＜県立琵琶湖博物館　ビワコオオナマズ水槽再建へ＞	ＮＨＫ大津	亀田 山川 杲
8月28日	おうみ８４５	＜県立琵琶湖博物館　ビワコオオナマズ水槽再建へ＞	ＮＨＫ大津	亀田 山川 杲
8月28日	ニュース滋賀いろ	＜琵琶湖博物館クラファン第２弾ビワコオオナマズ水槽など再建へ＞	びわ湖放送	亀田 山川 杲
9月2日	おうみ！かわら版（滋賀）	＜琵琶湖博物館水槽修復へクラファン実施　（草津市・琵琶湖博物館）＞	ＺＴＶ	広報
9月15日	ニュース（関西）	＜びわ湖の微生物　観察会＞	NHK大阪	大塚 渡辺（はしかけ）
9月16日	ＺＴＶ特集　＃０６	＜滋賀の魅力発信！ご当地ソングを作るゾの巻＞	ＺＴＶ	鈴木
10月7日	あなたの町からハチエモン	＜（あなたの町からハチエモン）火曜は全力！華大さんと千鳥くん＞	関西テレビ	鈴木
10月8日	ニュース滋賀いろ	＜生物対応性保全へ　びわ博が大阪環農水研と連携＞琵琶湖博物館・亀田佳代子館長のコメント。	びわ湖放送	亀田

10月12日	有吉のお金発見 突撃！カネオくん	＜クセつよ職業図鑑①　狙え！ギシ詰め！天然うなぎハンター＞▽琵琶湖博物館うなぎの映像	NHK	金尾
11月8日	ＮＨＫニュースおはよう日本	＜滋賀　在来種と外来種が交雑オオサンショウウオ＞映像提供：滋賀県立琵琶湖博物館。	NHK大阪	金尾
11月22日	ギョギョッとサカナ★スター	＜川を遡上するハス・繁殖期の大変化＞飼育員・杉野潤のコメント。	Ｅテレ	川瀬 鈴木 杉野（富山）
11月26日	開運！なんでも鑑定団	＜出張！なんでも鑑定団　滋賀県草津市＞	テレビ東京	鈴木
12月1日	もえ旅ぶらりーぬ	＜日本最大の湖を学べる・琵琶湖博物館＞	ZTV滋賀	鈴木
12月5日	おうみ発630	＜しがばな＞びわ湖に眠る湖底遺跡の研究者	NHK大津	妹尾
12月10日	おうみ発630	＜湖底遺跡発見から１００年で講演会＞	NHK大津	妹尾
12月13日	ギョギョッとサカナ★スター	＜ビワマス＞	Ｅテレ	田畑 鈴木 桑原（特別研究員） 藤岡（はしかけ）
12月16日	もえ旅ぶらりーぬ	＜開局３０周年スペシャル＞	ZTV滋賀	鈴木
12月27日	おうみ発630	＜琵琶湖博物館「生き物供養碑」の調査進める＞	NHK大津	橋本 フィールドレポーター
12月29日	ニュース（関西）	＜（ニュース）身近な生き物の「供養碑」調査＞	ＮＨＫ大阪	橋本 フィールドレポーター
12月28日	地域を生かす共生の水	2024年12月に韓国で放送	KNN	鈴木 楊 杲

12 月 29 日	ニュース・気象情報（関西）	＜（ニュース・気象情報）身近な生き物の「供養碑」調査＞	ＮＨＫ大阪	橋本 フィールドレポーター
1 月 10 日	所でナンじゃこりゃ！？★デタ！！琵琶湖から平安の土器＆１０年に一度の絶景	＜ナンじゃこりゃ！？スクープバトル　琵琶湖に刺さる無数の謎物体＞	テレビ東京	妹尾
2 月 18 日	めざまし 8	＜なぜ・水面も緑・カピバラ全身緑色・ペンキのように＞	フジテレビ	中井（特別研究員）
2 月 28 日	おうみ発 630	＜しが生き物図鑑＞ウキゴリ：琵琶湖博物館・川瀬成悟学芸員のコメント。	NHK 大津	川瀬
3 月 17 日	テレビ朝日	＜外来生物から 1 人で琵琶湖を守り続ける男 獲りまくっていたらまさかの歴史的大発見＞	テレビ朝日	川瀬
3 月 20 日	びわ湖放送	＜新種記載！水族トピック展示＞	びわ湖放送	金尾 鈴木

(6) ラジオ放送記録　2 件

	放送日	番組名	内容	局名	担当者
1	6 月 18 日	マイあさ！	外来種とどう向きあうか～外来種生物法 20 年 現状と課題～	NHK ラジオ第一放送	中井
2	2 月 19 日	関西ラジオワイド	トンボ 100 大作戦	NHK 大阪ラジオ第一放送	今田+BBN

(7) 新聞雑誌掲載記録　直接関わったもの 433 件

掲載日	記事テーマ	掲載社名
4 月 1 日	カガクにきづく　小さな「花束」の集まり	南日本新聞（鹿児島）
4 月 1 日	カガクにきづく　タンポポ実は「花束」小さい花無数	神戸新聞（神戸）夕刊

	に	
4月3日	カガクにきづく　カガクのとびらを開こう　実は小さな「花束」	伊勢新聞（津）
4月5日	カガクにきづく　小さな花集まるタンポポ　種飛ばすまでへこたれず	新潟日報（新潟）
4月6日	「ふなずし」の歴史や魅力学んで　県がパンフレット作成	中日新聞（県版）滋賀版
4月6日	アカザ　琵琶湖深部初確認　川の中上流域生息「希少種」	読売新聞（県版）滋賀版
4月7日	日曜日に知る琵琶湖の魚たち　オウミヨシノボリ川で探して	産経新聞（県版）滋賀版
4月7日	日曜日に知る琵琶湖の魚たち　オウミヨシノボリ川で探して	産経新聞（県版）京都版
4月7日	カガクにきづく　実は小さな「花束」　種を飛ばすまでがんばる	日本海新聞（鳥取）
4月7日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）植物プランクトンの盛衰：1	朝日新聞（県版）滋賀版
4月9日	高橋さん　名誉館長に　琵琶湖博物館　開設前から貢献	中日新聞（県版）滋賀版
4月11日	遊・YOU・友	朝日新聞（県版）滋賀版
4月12日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　⑬田んぼと生き物　哺乳類	京都新聞（県版）滋賀版
4月12日	琵琶湖博　高橋氏に名誉館長称号	産経新聞（県版）滋賀版
4月13日	ヨシ刈りの効果　見える化　CO_2回収量算定簡単に	産経新聞（県版）滋賀版
4月14日	カガクにきづく　道端の「花束」　タンポポ　種を飛ばすまで頑張る	秋田魁新報（秋田）
4月17日	トンネル水槽　２３日再開　ひび見つかり修理　琵琶湖博物館のシンボル	中日新聞（県版）滋賀版
4月17日	トンネル水槽　２３日再開　琵琶博　ビワマスなど１１種展示へ	読売新聞（県版）滋賀版
4月18日	トンネル水槽23日再開　琵琶博破損事故で閉鎖、440日ぶり	産経新聞（県版）滋賀版
4月18日	まちかど	京都新聞（県版）滋賀版
4月19日	１８０万年前の化石樹公開　メタセコイア　昨年８月　愛知川で出土　東近江・漁協事務所前	中日新聞（県版）滋賀版
4月21日	カガクにきづく　タンポポ　種飛ばすまでへこたれない	山陰中央新報（松江）
4月21日	トンネル水槽、魚と再会　びわ博２３日再開	朝日新聞（県版）滋賀版
4月21日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）植物プランクトンの盛衰：２	朝日新聞（県版）滋賀版

4月21日	凡語	京都新聞（京都）
4月22日	琵琶博「トンネル水槽」復活　昨年破損で休止、ＣＦ募り修繕	京都新聞（京都）
4月22日	トンネル水槽　新景色　琵琶博　ＣＦ寄付者らへ内覧会　あすから一般公開	読売新聞（県版）滋賀版
4月23日	トンネル水槽　悠々と泳ぐ魚　琵琶湖博物館　内覧会で披露	中日新聞（県版）滋賀版
4月23日	琵琶湖博物館：県立琵琶湖博物館　みんなの支援で、水槽再生　きょう「トンネル」再開　ＣＦ寄付者ら内覧	毎日新聞（県版）滋賀版
4月23日	トンネル水槽　魚スイスイ　琵琶博　修理支援者らに披露	産経新聞（県版）滋賀版
4月24日	滋賀県、希少生物保護２事業を初認定　ハリヨとイチモンジタナゴ	京都新聞（県版）滋賀版
4月24日	琵琶湖保全など意見交換　県庁で韓国・世宗市議と県議ら	中日新聞（県版）滋賀版
4月25日	さまよえる琵琶湖、どこへ、誕生から４００万年、北進を続けるか	日本経済新聞（大阪）夕刊
4月25日	琵琶博３０年「来館者身近に」　大型水槽破損　ＣＦで応援受け　高橋前館長　舞台裏振り返り　コロナ禍　職員奮闘たたえ	京都新聞（県版）滋賀版
4月25日	茨城・福島よかっぺ飼育日記　アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	産経新聞（県版）茨城版
4月26日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　⑭田んぼと生き物　鳥類	京都新聞（県版）滋賀版
4月27日	ホンモロコ産卵　琵琶湖岸で乱舞　固有の淡水魚	日本経済新聞（東京）夕刊
4月27日	列島ライトアップ　命の営み　湖底に乱舞	東京新聞（東京）夕刊
4月27日	ホンモロコ命のダンス	奈良新聞（奈良）
4月27日	大型連休　どこに行こう　１８歳未満と保護者無料　こどもの日は県立５施設へ	中日新聞（県版）滋賀版
4月28日	こどもカガク新聞　タンポポじっくり見てみよう	静岡新聞（静岡）
4月30日	琵琶博で企画展　化石や鉱物　奥深き世界　愛好家ら収集１５００点	読売新聞（県版）滋賀版
5月2日	ホンモロコ　乱舞　琵琶湖固有種　産卵始まる	毎日新聞（県版）滋賀版
5月3日	まちかど　ギャラリー展示「鉱物・化石展2024」大地に夢を掘る	京都新聞（県版）滋賀版
5月3日	しがガイド　遊覧選　◇下物探鳥会	中日新聞（県版）滋賀版
5月3日	「湖の主」激情の美食家	読売新聞（県版）滋賀版
5月3日	「湖の主」激情の美食家	読売新聞（県版）京都版

5月4日	カガクにきづく　実は小さな「花束」種を飛ばすまでがんばる	デーリー東北（八戸）
5月5日	花こう岩砕き　親子らが観察	中日新聞（県版）滋賀版
5月5日	鉱物や化石　光る魅力　琵琶湖博物館　愛好家の収集品展	中日新聞（県版）滋賀版
5月5日	極寒しのぐ丸～い体	読売新聞（県版）京都版
5月5日	極寒しのぐ丸～い体	読売新聞（県版）滋賀版
5月5日	アオコ発生　構成種が次々交代	朝日新聞（県版）滋賀版
5月5日	カガクにきづく　小さな「花束」の集まり	沖縄タイムス（那覇）
5月5日	カガクにきづく　種類豊富な「楽園」日本	愛媛新聞（松山）
5月7日	琵琶湖を楽しむ　レジャー施設にぎわい	京都新聞（県版）滋賀版
5月8日	希少　タンゴスジシマドジョウ　琵琶湖博物館に幼魚　展示　近大と飼育や繁殖研究　パネルで保護活動紹介	中日新聞（県版）滋賀版
5月9日	江戸時代の奇石愛好家　木内石亭の収集品を追跡する	京都新聞（県版）滋賀版
5月10日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　豊穣表すトンボとカエル	京都新聞（県版）滋賀版
5月11日	ＧＷ人出　回復鮮明　県内主要観光地まとめ　トンネル水槽復活　琵琶博2.4倍に	京都新聞（県版）滋賀版
5月11日	まちかど　守山　春期講演会「米と人の関係史～弥生からつづく稲作文化を探る」	京都新聞（県版）滋賀版
5月12日	琵琶湖の魚たち　渓流の女王　ヤマメ	産経新聞（県版）滋賀版
5月12日	琵琶湖の魚たち　渓流の女王　ヤマメ	産経新聞（県版）京都版
5月15日	ホンモロコ　命の乱舞　琵琶湖で盛んに産卵	産経新聞（県版）滋賀版
5月16日	滋賀の地域・文化に根差し出版活動	新文化（東京）
5月17日	金曜オモロしが　今日のBBC	京都新聞（県版）滋賀版
5月17日	金曜オモロしが　BBCびわ湖	中日新聞（県版）滋賀版
5月19日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）植物プランクトンの盛衰：４　大塚泰介／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
5月21日	鉱物・化石 夢追った成果 琵琶博 愛好家ら県内外で採集 1500点展示	京都新聞（県版）滋賀版
5月24日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　「水田雑草」表情豊かに	京都新聞（県版）滋賀版
5月25日	カガクにきづく　タンポポ　実は小さな「花束」	東京新聞（東京）
5月29日	希少種保全・飼育 県が活動認定 「ハリヨ」「イチモンジタナゴ」	読売新聞（県版）滋賀版

5月30日	名品手鑑Ⅲ：滋賀の博物館・美術館探訪／１５　琵琶湖博物館　室町時代の手紙、伝わる作法	毎日新聞（県版）滋賀版
5月30日	鮒ずし味わい方　世につれ　食べたことある７６％　酒のあて　楽しむ傾向＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
5月31日	近江のなれずし製造技術　国登録文化財　滋賀県民４分の３「食べた」　琵琶博２０２３年度大調査　あす成果発表	京都新聞（県版）滋賀版
5月31日	NHK大津　おうみ発630	京都新聞（県版）滋賀版
6月2日	ナレズシ県民大調査　報告会	中日新聞（県版）滋賀版
6月2日	琵琶博「フィールドレポーター」交流会	京都新聞（県版）滋賀版
6月2日	ビワハツ　種の多様性を維持　景観守る	朝日新聞（県版）滋賀版
6月2日	カガクにきづく　在来種と外来種　違いは？	熊本日日新聞（熊本）
6月3日	「陸の貝」どこへ　乾燥化、すみか減　都市に居場所なく	毎日新聞（東京）※夕刊
6月3日	「陸の貝」どこへ　乾燥化、すみか減　都市に居場所なく	毎日新聞（大阪）※夕刊
6月3日	「陸の貝」どこへ　乾燥化、すみか減　都市に居場所なく	毎日新聞（北九州）※夕刊
6月5日	夏休み　イベント　注目度ランキング	関西ウォーカー
6月5日	古代湖の生態系と歴史に触れよう！	プレジデントFamily
6月8日	ドジョウ　底知れぬ魅力　琵琶湖博物館　絶滅危惧種を展示	読売新聞（県版）滋賀版
6月9日	滋賀で交雑により絶滅した淡水魚	産経新聞（県版）滋賀版
6月9日	滋賀で交雑により絶滅した淡水魚	産経新聞（県版）京都版
6月10日	400万年の歴史の旅へ	旅の手帖
6月13日	日本で最も珍しい魚!?見に来て	産経新聞（県版）滋賀版
6月14日	学生らナマズのなれずしを試食　環境大まちなかキャンパスで	日本海新聞（鳥取）
6月14日	「針江生水の郷委員会」　発足２０周年　高島　湧水活用「川端」の住民グループ　写真家の今森さんらゲスト	京都新聞（県版）滋賀版
6月14日	おこめと私たち　なぜ田んぼに水を張るのか？　雑草抑え、管理しやすく	京都新聞（県版）滋賀版
6月14日	滋賀県で視察研修	紀州新聞（御坊）
6月15日	カガクにきづく　実は何十、何百の「花束」	宮崎日日新聞（宮崎）
6月15日	ジャンボタニシ　生息拡大　県指定外来種　草津や瀬田川　湖岸、河川	読売新聞（県版）滋賀版

6 月 16 日	凡語　６月１６日　ふなずしの季節	京都新聞（京都）
6 月 16 日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）滋賀の希少植物の保全：２　大槻達郎　／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
6 月 18 日	［関心アリ！］淡水魚の魅力　専門水族館で	読売新聞（札幌）
6 月 18 日	［関心アリ！］淡水魚の魅力　専門水族館で	読売新聞（高岡）
6 月 18 日	［関心アリ！］淡水魚の魅力　専門水族館で	読売新聞（名古屋）
6 月 18 日	［関心アリ！］淡水魚の魅力　専門水族館で	読売新聞（福岡）
6 月 18 日	［関心アリ！］淡水魚の魅力　専門水族館で	読売新聞（東京）
6 月 18 日	［関心アリ！］個性派ぞろい　淡水魚水族館	読売新聞（大阪）
6 月 19 日	湖南省代表団が琵琶湖博物館を訪問【中国―経済】	日刊香港ポスト
6 月 20 日	「ビワイチカレー」復活の兆し	産経新聞（県版）滋賀版
6 月 24 日	日本一珍しい魚!?見に来て　琵琶湖博物館	産経新聞（県版）京都版
6 月 25 日	琵琶湖のプランクトン　一冊に　滋賀大名誉教授ら生態など執筆・出版　映像ＤＶＤ付属　「絵本のように」	京都新聞（県版）滋賀版
6 月 28 日	おこめと私たち　色や形　バリエーション豊富	京都新聞（県版）滋賀版
6 月 30 日	琵琶博 6 水槽　装い新た	読売新聞（県版）滋賀版
6 月 30 日	ビワハツ　伊吹山の「薬草園伝説」検証	朝日新聞（県版）滋賀版
6 月 30 日	ご相伴　三重ごはんパワーの源は自家製蜜	中日新聞（県版）三重版
7 月 5 日	びわこベースで思い出を　開館２年　各地で催し移動水族館や写真展＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
7 月 9 日	［農ぱーそん／環境を思いながら］土にかえる　大麦ストロー	読売新聞（大阪）
7 月 9 日	［農ぱーそん／環境を思いながら］土にかえる　大麦ストロー	読売新聞（県版）広島版
7 月 9 日	［農ぱーそん／環境を思いながら］土にかえる　大麦ストロー	読売新聞（県版）岡山版
7 月 9 日	［農ぱーそん／環境を思いながら］土にかえる　大麦ストロー	読売新聞（県版）島根版
7 月 9 日	［農ぱーそん／環境を思いながら］土にかえる　大麦ストロー	読売新聞（県版）兵庫版
7 月 9 日	［農ぱーそん／環境を思いながら］土にかえる　大麦ストロー	読売新聞（県版）鳥取版
7 月 11 日	外国人学生に日本体験提供　県とイトーキが覚書締結	中日新聞（県版）滋賀版
7 月 11 日	6 水槽の展示を再開　琵琶湖博物館　ひび見つかり改修	中日新聞（県版）滋賀版

7月12日	おこめと私たち　中干しの効果と歴史	京都新聞（県版）滋賀版
7月13日	カタツムリ、どこへ？近畿では半数が絶滅危機	宇部日報（宇部）
7月13日	カタツムリ、どこへ？近畿では半数が絶滅危機	苫小牧民報（苫小牧）
7月14日	カタツムリ、どこへ？近畿では半数が絶滅危機	函館新聞（函館）
7月14日	梅雨なのにカタツムリどこへ？	信濃毎日新聞（長野）
7月14日	カラドジョウ　じわり分布拡大中	産経新聞（県版）滋賀版
7月14日	カラドジョウ　じわり分布拡大中	産経新聞（県版）京都版
7月15日	OTSU　SHIGA　PREE.	THE JAPAN TIMES（東京）
7月15日	スクリーン駅「前」付かない企業名駅	産経新聞（県版）滋賀版
7月18日	魚通じて環境問題関心を	京都新聞（県版）滋賀版
7月18日	カタツムリ、どこへ？近畿では半数が絶滅危機	津山朝日新聞（津山）
7月19日	カタツムリどこ行った？　近畿地方　半数が絶滅危機	神戸新聞（神戸）
7月19日	さざなみ　水槽の中には	中日新聞（県版）滋賀版
7月19日	琵琶湖の恵み、復活を	中部経済新聞（名古屋）
7月22日	破損で一部展示休止、修繕　琵琶博　６水槽が再開生息地の環境再現、生態紹介	京都新聞（京都）
7月22日	破損で一部展示休止、修繕　琵琶博　６水槽が再開生息地の環境再現、生態紹介	京都新聞（県版）滋賀版
7月24日	夏休みにクルーズ　おごと温泉－琵琶湖博物館　２８日から６回　予約受け付け	中日新聞（県版）滋賀版
7月25日	まちかど　２５日　滋賀	京都新聞（県版）滋賀版
7月25日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
7月25日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
7月25日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
7月25日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
7月25日	でんでん虫、どこ行った？／市街地化進展　カタツムリ減少／都市の公園「乾燥化」／近畿で半数絶滅危機梅雨の時期、公園などでよく見かけられたカタツムリの姿が少なくなっている。識者は市街地化の進展や乾燥化が	河北新報（仙台）
7月26日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
7月26日	おこめと私たち　スマート農業と古代農法	京都新聞（県版）滋賀版
7月26日	しがガイド　遊覧選　催し	中日新聞（県版）滋賀版

7 月 29 日	路線バスで巡るラリー	交通新聞（東京）
7 月 29 日	カタツムリ、どこへ消えた　近畿、種の半数が絶滅危機	日本経済新聞（名古屋）
7 月 29 日	カタツムリ、どこへ消えた　近畿、種の半数が絶滅危機	日本経済新聞（大阪）
7 月 29 日	カタツムリ、どこへ消えた　近畿、種の半数が絶滅危機	日本経済新聞（福岡）
7 月 29 日	カタツムリ、どこへ消えた　近畿、種の半数が絶滅危機	日本経済新聞（東京）
7 月 29 日	カタツムリ、どこへ？近畿では半数が絶滅危機	釧路新聞（釧路）
7 月 31 日	様々な水草　じっくり観察　琵琶博で企画展　在来 13 種など	読売新聞（県版）滋賀版
8 月 1 日	学習事業：湖上交通活用し学習	毎日新聞（県版）滋賀版
8 月 1 日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
8 月 1 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
8 月 1 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
8 月 1 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
8 月 1 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
8 月 2 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
8 月 2 日	夏休みに湖上体験いかが　琵琶博見学も　滋賀	産経新聞（県版）滋賀版
8 月 3 日	近江バス夏休みの大冒険　スタンプラリー、一日乗車券販売	中日新聞（県版）滋賀版
8 月 3 日	企画展示「湖底探検２（ローマ数字の２）－水中の草原を追う－」	中日新聞（名古屋）
8 月 3 日	企画展示「湖底探検２（ローマ数字の２）－水中の草原を追う－」	北陸中日新聞（金沢）
8 月 4 日	除草に利用されたソウギョ	産経新聞（県版）滋賀版
8 月 4 日	除草に利用されたソウギョ	産経新聞（県版）京都版
8 月 6 日	「ます」つながり　演奏会やります　シューベルト聞いて　固有種「ビワマス」学ぶ　大津で１０日開催	中日新聞（県版）滋賀版
8 月 7 日	シューベルトの名曲　「鱒」堪能しマス知識深め　１０日、大津でコンサート	京都新聞（県版）滋賀版
8 月 8 日	琵琶博へ屋形船運航　おごと温泉観協など	読売新聞（県版）滋賀版
8 月 9 日	おこめと私たち　滋賀県でみつかった古代農耕具	京都新聞（県版）滋賀版
8 月 16 日	しがガイド　遊覧選　催し	中日新聞（県版）滋賀版
8 月 21 日	水草と琵琶湖　考える　南湖の繁茂問題など紹介	京都新聞（県版）滋賀版

	琵琶博	
8 月 22 日	破損修繕完了の水槽　見せ方変え一部再開	福井新聞（福井）
8 月 22 日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
8 月 22 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
8 月 22 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
8 月 22 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
8 月 22 日	産官学のフューチャープラン	電子デバイス産業新聞（東京）
8 月 23 日	水草と生き物の関わり　探る　琵琶湖博物館で企画展　江戸時代の「藻採り」再現	中日新聞（県版）滋賀版
8 月 23 日	おこめと私たち　鍬と鋤の出現と展開	京都新聞（県版）滋賀版
8 月 23 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
8 月 24 日	観賞魚メダカ：観賞魚メダカ、野外で発見　在来種に脅威　共同研究グループ「絶対に放流しないで」　／滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
8 月 26 日	特別展：湖底の草原から自然環境学ぼう　琵琶博で特別展「探検Ⅱ」　模型や写真パネル、調査結果を解説／滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
8 月 28 日	観賞用メダカ生態系に脅威　「第３の外来種」全国で放流確認	産経新聞（大阪）
8 月 28 日	県ゆかり「ゼゼラ」知って　琵琶博で淡水魚展示	読売新聞（県版）滋賀版
8 月 28 日	琵琶湖水草　必要性問う	福井新聞（福井）
8 月 28 日	琵琶博　30 周年向け完全復活へ　しが note	産経新聞（県版）滋賀版
8 月 29 日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
8 月 29 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
8 月 29 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
8 月 29 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
8 月 29 日	琵琶博　ＣＦ第２弾開始	京都新聞（京都）
8 月 29 日	琵琶博　ＣＦ第２弾開始　11 月下旬まで　2 千万円目標	京都新聞（県版）滋賀版
8 月 29 日	より魅力的に改修します！　ビワコオオナマズ水槽昨年２月に破損　琵琶湖博物館　ＣＦで費用募るバックヤードツアーなど　返礼品多彩に	中日新聞（県版）滋賀版
8 月 29 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
9 月 1 日	改良メダカ放流　交雑危惧　琵琶湖、大津の池で確認	読売新聞（県版）滋賀版

9月1日	琵琶湖博物館：破損の水槽再建へＣＦ　ビワコオオナマズ、より魅力的に　草津の琵琶博、１１月２５日まで	毎日新聞（県版）滋賀版
9月4日	観賞魚メダカ、滋賀の野外水域で初確認　琵琶博など発表、生態系に影響の恐れ	産経新聞（県版）滋賀版
9月5日	観賞魚メダカ　琵琶湖で確認　人工改良「第３の外来種」　生態系への影響懸念	中日新聞（県版）滋賀版
9月5日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
9月5日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
9月5日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
9月5日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
9月5日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
9月6日	琵琶博のCF　ゴミ収集車で応援	産経新聞（県版）滋賀版
9月7日	深掘り近江　観賞用「改良メダカ」　琵琶湖で初確認　放流の可能性、大津の池でも　専門家　在来種と交雑「生態系へ脅威」	京都新聞（県版）滋賀版
9月7日	推し博物館、寄付いかが　クラウドファンディング活況	日本経済新聞（東京）
9月7日	推し博物館、寄付いかが　クラウドファンディング活況	日本経済新聞（大阪）
9月7日	推し博物館、寄付いかが　クラウドファンディング活況	日本経済新聞（名古屋）
9月7日	推し博物館、寄付いかが　クラウドファンディング活況	日本経済新聞（福岡）
9月8日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）水辺の昆虫の多様性と自然再興：１桝永一宏／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
9月8日	琵琶湖に「改良メダカ」人為的放流か　交雑懸念	京都新聞（京都）
9月14日	まちかど　１４日　滋賀	京都新聞
10月1日	オオナマズ　引っ越し　琵琶湖博物館　きょうから一部工事	中日新聞（県版）滋賀版
10月3日	琵琶湖の魚たち一冊に　滋賀県立琵琶湖博物館の学芸員らが図鑑刊行	産経新聞（県版）滋賀版
10月4日	７年ぶり人工繁殖成功　アユモドキ幼魚　間近で琵琶湖博物館　保護の歩みも紹介	中日新聞（県版）滋賀版
10月4日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
10月6日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
10月6日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版

10月6日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
10月6日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）水辺の昆虫の多様性と自然再興：３桝永一宏	朝日新聞（県版）滋賀版
10月8日	琵琶湖の水草紹介　年縞博で滋賀博収蔵品展　若狭町	福井新聞
10月8日	滋賀県、来春から一斉値上げ　書類交付手数料／施設観覧料・使用料…　物価高騰受け　管理費上昇に対応	京都新聞（県版）滋賀版
10月9日	生物多様性　調査・保全で連携協定　琵琶湖博物館大阪府の研究所と	中日新聞（県版）滋賀版
10月11日	滋賀でオオサンショウウオの交雑個体捕獲　人為的に放流か　外来生物法違反の恐れ	産経新聞（県版）滋賀版
10月11日	米川ビワマス調査　協力を　長浜の地域づくり連合会など　目撃情報や映像募る	中日新聞（県版）滋賀版
10月11日	オオサンショウウオ　東部に　犬上川で交雑種　放流疑い＝滋賀	読売新聞（県版）滋賀版
10月11日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
10月11日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　わらは生活必需品	京都新聞（県版）滋賀版
10月12日	７３議案を可決　県議会閉会	中日新聞（県版）滋賀版
10月13日	琵琶湖の魚たち　「ごり押し」語源　カワヨシノボリ	産経新聞（県版）滋賀版
10月13日	琵琶湖の魚たち　「ごり押し」語源　カワヨシノボリ	産経新聞（県版）京都版
10月13日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
10月13日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
10月13日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
10月18日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
10月18日	琵琶博と大阪府環境農林水産総合研　連携協定　琵琶湖・淀川流域　淡水魚研究を強化　琵琶博で連携企画　淀川のイタセンパラ展示	京都新聞（県版）滋賀版
10月19日	オオサンショウウオ　犬上川に交雑個体　琵琶博など初確認、生態系影響恐れ　「人為的放流絶対やめて」	京都新聞（県版）滋賀版
10月20日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）水辺の昆虫の多様性と自然再興：４桝永一宏／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
10月20日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
10月20日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
10月20日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
10月25日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
10月25日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　弥生土器とわ	京都新聞（県版）滋賀版

	ら	
10 月 27 日	よし笛　湖上交通の可能性	京都新聞（県版）滋賀版
10 月 27 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
10 月 27 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
10 月 27 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
10 月 27 日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
11 月 1 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
11 月 2 日	土曜フォーカス　「大人の優しさ」名物へ　「飛び出し坊や」ももクロとコラボ　定番の赤シャツ・黄色いズボン／笑わない表情　「やんちゃな子、目立つように」	京都新聞（京都）夕刊
11 月 2 日	琵琶湖の水草紹介　県年縞博物館でパネル展	日刊県民福井（福井）
11 月 3 日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）ミクロの世界で生き残った生き物：１　ロビン・Ｊ・スミス／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
11 月 3 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
11 月 3 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
11 月 3 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
11 月 3 日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
11 月 3 日	（フォーラム）ミュージアムとジェンダー：１　現状は	朝日新聞（東京）
11 月 6 日	琵琶博の収蔵品を展示　多様な水草紹介	京都新聞（京都）
11 月 7 日	過去に生息情報なし　犬上川にオオサンショウウオ交雑個体　人為的流入か　在来種遺伝的系統　喪失の恐れも	中日新聞（県版）滋賀版
11 月 7 日	琵琶博収蔵の多様な水草紹介	京都新聞（県版）滋賀版
11 月 8 日	入所者と貼り絵、交流　東近江・止揚学園　東京の児童宿泊	京都新聞（県版）滋賀版
11 月 8 日	琵琶湖の水草を紹介　福井・若狭の年縞博物館	中日新聞（県版）滋賀版
11 月 8 日	琵琶湖博物館でトンボのシンポ	産経新聞（県版）滋賀版
11 月 8 日	おこめと私たち　わらとおこめづくりの関係	京都新聞（県版）滋賀版
11 月 8 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
11 月 9 日	琵琶湖の水草を写真、映像で紹介　若狭の県年縞博物館	中日新聞（県版）福井版
11 月 10 日	湖魚保全講演やポスター展示　１６日から、びわ博フ	京都新聞（京都）

	ェス	
11 月 10 日	湖魚保全講演やポスター展示　１６日から、びわ博フェス	京都新聞（県版）滋賀版
11 月 10 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
11 月 10 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
11 月 10 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
11 月 10 日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
11 月 10 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
11 月 14 日	生き物供養碑：生き物供養碑、本格調査　琵琶博、全容解明へ初実施　魚類やカエル、馬…　県民にも情報提供求める　／滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
11 月 15 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
11 月 17 日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）ミクロの世界で生き残った生き物：２　ロビン・Ｊ・スミス／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
11 月 17 日	琵琶湖の魚たち　カワヒガイ～琵琶湖にいたのか～	産経新聞（県版）滋賀版
11 月 17 日	琵琶湖の魚たち　カワヒガイ～琵琶湖にいたのか～	産経新聞（県版）京都版
11 月 17 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
11 月 17 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
11 月 17 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
11 月 17 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
11 月 17 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）大阪
11 月 18 日	琵琶湖の魅力　体感　「びわ博フェス」に県内外から来場　親子ら　プランクトン観察	京都新聞（県版）滋賀版
11 月 20 日	琵琶湖水中遺跡の謎に迫る　発見100年を記念　12月8日に滋賀・長浜で講演会	産経新聞（県版）滋賀版
11 月 21 日	琵琶湖の生物　興味深々　滋賀・博物館　展示や観察	福井新聞（福井）
11 月 21 日	琵琶湖の水中遺跡　魅力“発掘”　滋賀県がパンフレット作成　講演会や展示でＰＲへ	京都新聞（県版）滋賀版
11 月 22 日	インサイド　京都府施設利用料　３３年ぶり改定　受益者負担適正化へ本腰　政治事情背景　長年値上げせず	京都新聞（京都）
11 月 22 日	おこめと私たち　イネからおこめへ	京都新聞（県版）滋賀版
11 月 23 日	まちかど　草津　県試験研究機関研究発表会	京都新聞（県版）滋賀版
11 月 27 日	生き物供養碑調査　　身近な家畜の姿は？	毎日小学生新聞（東京）

11 月 30 日	来館好調　上半期 32 万人　琵琶湖博物館　展示再開やSNS 強化	中日新聞（県版）滋賀版
12 月 1 日	琵琶湖の主、なぜ木津川に　ビワコオオナマズ　数十キロどうやって移動　歴史１千万年、昔から？　アユ放流時に混入説も	京都新聞（京都）
12 月 1 日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）ミクロの世界で生き残った生き物：３　ロビン・Ｊ・スミス／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
12 月 4 日	（マングースの教訓：上）ブラックバス駆除、違法放流に苦闘　／鹿児島県	朝日新聞（県版）鹿児島版
12 月 5 日	NHK ローカル　おうみ発 630	読売新聞（県版）滋賀版
12 月 5 日	NHK 大津　おうみ発 630	京都新聞（県版）滋賀版
12 月 6 日	琵琶博 CF 第 2 弾　目標の 88%集まる　水槽再建へ	産経新聞（県版）滋賀版
12 月 11 日	最新研究成果　ポスター展示　草津・琵琶湖博物館　県８機関、１５日発表会	中日新聞（県版）滋賀版
12 月 12 日	明治に地元で発見→戦後大津・真野小に　学びやに眠る　シガゾウ化石　発見者子孫「歴史示す大事なもの」	中日新聞（県版）滋賀版
12 月 12 日	でかけま専科　旅ナビ　イチゴ狩りと道の駅めぐり（日帰り）	日刊県民福井（福井）
12 月 13 日	でかけま専科　旅ナビ　イチゴ狩りと道の駅めぐり（日帰り）	中日新聞（県版）福井版
12 月 13 日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　弥生時代の信仰とおこめ	京都新聞（県版）滋賀版
12 月 15 日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）四季のプランクトンを楽しむ：１　主任学芸員・鈴木隆仁／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
12 月 15 日	琵琶湖の魚たち　ナイルティラピアはタイの味？	産経新聞（県版）滋賀版
12 月 15 日	琵琶湖の魚たち　ナイルティラピアはタイの味？	産経新聞（県版）京都版
12 月 16 日	生体展示：びわ博に“流星群”　氷魚回遊　草津　／滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
12 月 16 日	凡語　１２月１６日　ボルボックス	京都新聞（京都）
12 月 16 日	冬の風物詩「氷魚」展示　琵琶博、動画配信も	産経新聞（県版）滋賀版
12 月 17 日	琵琶湖博物館の名誉学芸員　用田さん　裏話ふんだん　本出版　国内外の施設紹介も	中日新聞（県版）滋賀版
12 月 24 日	湖国この一年　２０２４（１）大津市長　佐藤氏再選／アユ漁獲量低迷	京都新聞（県版）滋賀版
12 月 25 日	湖国この一年　２０２４（２）「１００年フード」追加／草津市１４万人到達	京都新聞（県版）滋賀版
12 月 26 日	琵琶博　関西 3 位に	産経新聞（県版）滋賀版

12 月 27 日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　おこめと伝統行事、祭事	京都新聞（県版）滋賀版
12 月 28 日	［回顧２０２４］（上）びわ湖マラソンに６６００人「成瀬」本屋大賞	読売新聞（県版）滋賀版
1 月 1 日	（今日も、いただきます　戦後８０年食物語）ふなずし　滋賀　「和のチーズ」、おいしい冒険／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
1 月 3 日	（今日も、いただきます　戦後８０年食物語）ふなずし　滋賀　「和のチーズ」、おいしい冒険／滋賀県	朝日新聞（県版）京都版
1 月 4 日	（今日も、いただきます　戦後８０年食物語）ふなずし　滋賀　「和のチーズ」、おいしい冒険／滋賀県	朝日新聞（県版）兵庫版
1 月 4 日	（今日も、いただきます　戦後８０年食物語）ふなずし　滋賀　「和のチーズ」、おいしい冒険／滋賀県	朝日新聞（大阪）
1 月 7 日	（今日も、いただきます　戦後８０年食物語）ふなずし　滋賀　「和のチーズ」、おいしい冒険／滋賀県	朝日新聞（県版）和歌山版
1 月 7 日	（今日も、いただきます　戦後８０年食物語）ふなずし　滋賀　「和のチーズ」、おいしい冒険／滋賀県	朝日新聞（県版）奈良版
1 月 7 日	湖南省のテレビ局　ＢＢＣと協力　１２日間　県内ロケ　発見や感動　中国に伝えたい	中日新聞（県版）滋賀版
1 月 8 日	［魚　食べてますか］特別編　ハレの料理（５）コイ　内陸部の食文化に	読売新聞（東京）
1 月 8 日	［魚　食べてますか］特別編　ハレの料理（５）コイ　内陸部の食文化に	読売新聞（札幌）
1 月 8 日	［魚　食べてますか］特別編　ハレの料理（５）コイ　内陸部の食文化に	読売新聞（福岡）
1 月 8 日	［魚　食べてますか］特別編　ハレの料理（５）コイ　内陸部の食文化に	読売新聞（大阪）
1 月 8 日	［魚　食べてますか］特別編　ハレの料理（５）コイ　内陸部の食文化に	読売新聞（高岡）
1 月 8 日	［魚　食べてますか］特別編　ハレの料理（５）コイ　内陸部の食文化に	読売新聞（名古屋）
1 月 9 日	遊・ＹＯＵ・友　／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
1 月 9 日	環境学習の成果発表　絵日記・壁新聞作品展　琵琶博、13 日まで	産経新聞（県版）滋賀版
1 月 10 日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　おこめと龍神信仰	京都新聞（県版）滋賀版
1 月 11 日	琵琶湖のダイヤモンド　透き通った「氷魚」展示　琵琶湖博物館	中日新聞（県版）滋賀版
1 月 12 日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）四季のプランクトンを楽しむ：２　主任学芸員・鈴木隆仁／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
1 月 14 日	琵琶博　海外と協力事業紹介　「世界湖沼の日」記念展示	京都新聞（県版）滋賀版

1月15日	「世界湖沼の日」制定記念　琵琶博と海外のつながり紹介	中日新聞（県版）滋賀版
1月16日	「世界湖沼の日」記念展　琵琶博で来月２日まで	産経新聞（県版）滋賀版
1月16日	琵琶博　海外と協力事業紹介　「世界湖沼の日」記念展示	京都新聞（京都）
1月17日	しがガイド　遊覧選　催し	中日新聞（県版）滋賀版
1月18日	「科学の甲子園」　雨や雪の微生物を研究　甲南中入選一等に輝く	中日新聞（県版）滋賀版
1月18日	京慈ニュース「世界湖沼の日」制定で記念展示	福井新聞（福井）
1月19日	琵琶湖の魚たち　滋賀ではよく見るニシシマドジョウ	産経新聞（県版）滋賀版
1月19日	琵琶湖の魚たち　滋賀ではよく見るニシシマドジョウ	産経新聞（県版）京都版
1月24日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　東南アジアの信仰からみたおこめ文化	京都新聞（県版）滋賀版
1月26日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）四季のプランクトンを楽しむ：３　主任学芸員・鈴木隆仁／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
1月27日	滋賀エリア　琵琶湖の環境保全にビッグデータ利用	BCN（東京）
1月29日	ビワマスの魅力　クイズ交え講演　長浜	中日新聞（県版）滋賀版
1月29日	琵琶湖保全の知恵、世界に　開発途上国の研究者ら来日し研修	朝日新聞（県版）滋賀版
1月30日	琵琶湖保全の知恵、世界に　開発途上国の研究者ら来日し研修　／京都府	朝日新聞（県版）京都版
1月31日	小中学生がスキーを楽しむ　由良町雪国体験	紀州新聞（御坊）
1月31日	トンボの生態　知って　琵琶湖博物館　県内企業保全紹介	中日新聞（県版）滋賀版
2月2日	トンボ生息域　保全考える　琵琶湖博物館　「図鑑」や企業活動紹介	読売新聞（県版）滋賀版
2月2日	（勇さんの発掘！　おうみびと）「ぼてじゃこトラスト」会長・川瀬成吾さん　３７歳／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
2月3日	企画展：推しトンボ、見つけて　琵琶博、１００種探す取り組み紹介　／滋賀	毎日新聞（県版）滋賀版
2月4日	ビワマス　遡上できる米川に　長浜でフォーラム専門家ら意見交換	中日新聞（県版）滋賀版
2月5日	ふなずし　快腸導く乳酸菌　龍谷大農学部など分析	読売新聞（県版）滋賀版
2月6日	訪日客対応など意見　琵琶博協議会　水槽再建「問題ない」	産経新聞（県版）滋賀版
2月7日	灯　コメはどこへ　滋賀南部総局　岩本敏朗	京都新聞（京都）

2月7日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
2月8日	「世界湖沼の日」　取り組みを充実	中日新聞（県版）滋賀版
2月9日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
2月9日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）四季のプランクトンを楽しむ：４　主任学芸員・鈴木隆仁／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
2月9日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
2月9日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
2月9日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
2月9日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
2月11日	まちかど　１１日　滋賀	京都新聞（県版）滋賀版
2月13日	「琵琶博」が熱い！　来館者１３００万人達成　草津の３歳がくす玉　「魚が好き」笑顔	京都新聞（県版）滋賀版
2月13日	県立琵琶湖博物館　来館 1300 万人を達成　草津の３歳男児に記念品	中日新聞（県版）滋賀版
2月14日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
2月14日	ふなずし風味　乳酸菌で変化　龍谷大や琵琶博研究　種類影響、地域差も	中日新聞（県版）滋賀版
2月14日	しがガイド　遊覧選	中日新聞（県版）滋賀版
2月14日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　暮らしの中の儀礼	京都新聞（県版）滋賀版
2月14日	ハートフルニュース　外来魚対策に☆美食店の技　左京・東山中生　科学プレゼン全国大会へ　ＯＢシェフ協力　ブラックバス煎餅、洗練	京都新聞（京都）
2月15日	滋賀まち案内	産経新聞（県版）滋賀版
2月16日	琵琶湖の魚たち　ひそかに定着した熱帯魚	産経新聞（県版）滋賀版
2月16日	琵琶湖の魚たち　ひそかに定着した熱帯魚	産経新聞（県版）京都版
2月16日	インサイド　誰でも簡単　新レジャー　琵琶湖岸「ワカサギすくい」　「５年ほど前から」　動画などで話題に	京都新聞（京都）
2月16日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
2月16日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
2月16日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
2月16日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
2月16日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
2月18日	琵琶博 1300 万人突破　草津の３歳男児に記念品	産経新聞（県版）滋賀版

2 月 20 日	庄内平野東緑断層帯の特異性解説	荘内日報（鶴岡）
2 月 20 日	岡山で初確認　「地球上で最悪の侵略的植物」　ナガエツルノゲイトウ　倉敷・小田川の９ヵ所　県など防除へ	山陽新聞（岡山）
2 月 21 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）奈良版
2 月 21 日	湖岸の文化新拠点　未来へ「船出」	産経新聞（県版）滋賀版
2 月 22 日	滋賀のトンボを救え！琵琶博　展示やクイズラリー	産経新聞（県版）滋賀版
2 月 23 日	ふなずしの味　乳酸菌で差？　滋賀県北部は爽やか　近江八幡は酸味強く　琵琶博・龍大グループ、２７種類分析	京都新聞（県版）滋賀版
2 月 23 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）滋賀版
2 月 23 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）京都版
2 月 23 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）和歌山版
2 月 23 日	美術館・博物館	毎日新聞（大阪）
2 月 23 日	美術館・博物館	毎日新聞（県版）兵庫版
2 月 23 日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）古代湖の世界：１　主任学芸員・松岡由子／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
2 月 24 日	冬の湖魚　調べた食べた　長浜で学習会　親子ら沖曳網漁の１網分	中日新聞（県版）滋賀版
2 月 26 日	新種スナヤツメ　現る！　琵琶湖博物館で展示	読売新聞（県版）滋賀版
2 月 27 日	まちかど　２７日　滋賀	京都新聞（県版）滋賀版
2 月 28 日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　弥生時代の暮らしとおこめづくり	京都新聞（県版）滋賀版
3 月 1 日	滋賀　見て・食べて・学んで…4STYLE で「びわ湖」を満喫！	関西・中国・四国じゃらん
3 月 1 日	地域プラス　滋賀向けの題字を一新	京都新聞（京都）
3 月 1 日	地域プラス　滋賀向けの題字を一新	滋賀京都新聞（大津）
3 月 7 日	琵琶湖の伝統発酵食、次代へ　癖ありグルメ「ふなずし」変身中　海外意識　チーズ入り、サンドイッチも	神戸新聞（神戸）夕刊
3 月 7 日	ニカラグア版「うみのこ」　協力を　荻野大使が三日月知事を訪問	滋賀京都新聞（大津）
3 月 7 日	軽くて薄い次世代型太陽電池　「ペロブスカイト」滋賀県施設導入へ　設置場所　制限少なく　発電拡大図る	滋賀京都新聞（大津）
3 月 7 日	中米・ニカラグア　海の向こうで「うみのこ」　琵琶湖の取り組み手本に	中日新聞（県版）滋賀版
3 月 8 日	癖がすごい　琵琶湖ふなずし　未来へ　海外意識	中国新聞 SELECT（広島）

	斬新アレンジ	
3月8日	ふなずし最新研究一堂に　塩漬けなし江戸の製法再現　１５日、琵琶博で報告会	滋賀京都新聞（大津）
3月8日	イチモンジタナゴ　繁殖が好調　環境省の絶滅危惧１Ａ類　京都市動物園、１６年から飼育　３年前から稚魚急増 長年２桁が昨年２００匹超に　琵琶博の助言奏功？生態は謎、続く試行錯誤	京都新聞（京都）
3月9日	（ビワハツ　琵琶湖博物館研究だより）古代湖の世界：２　主任学芸員・松岡由子／滋賀県	朝日新聞（県版）滋賀版
3月11日	琵琶湖グルメ「ふなずし」、斬新アレンジ伝統つなぐチーズと合わせ現代風に	日本経済新聞（東京）夕刊
3月11日	琵琶湖グルメ「ふなずし」、斬新アレンジ伝統つなぐチーズと合わせ現代風に	日本経済新聞（名古屋）夕刊
3月11日	琵琶湖グルメ「ふなずし」、斬新アレンジ伝統つなぐチーズと合わせ現代風に	日本経済新聞（大阪）夕刊
3月11日	琵琶湖グルメ「ふなずし」、斬新アレンジ伝統つなぐチーズと合わせ現代風に	日本経済新聞（福岡）夕刊
3月11日	チーズ合わせサンドに／伝統「ふなずし」　斬新にアレンジ／滋賀・琵琶湖／文化継承へ、海外も意識	下野新聞（宇都宮）
3月11日	春景色　6786人が完走　びわ湖マラソン	朝日新聞（県版）滋賀版
3月12日	「ふなずし」伝統　残せるか　癖強め！の琵琶湖名物食べる機会減、漁獲量低下追い打ち　海外も意識　斬新アレンジ	西日本新聞（福岡）夕刊
3月13日	琵琶湖の幻の魚　スナヤツメ展示　琵琶博	京都新聞（京都）
3月13日	琵琶博　昨年１２月に新種に認定　幻の「スナヤツメ」２種展示　成体、９～５月に出現	滋賀京都新聞（大津）
3月14日	おこめと私たち　びわ博のまなざし　魚米之郷	滋賀京都新聞（大津）
3月16日	◎「大野の水きれい　再認識」　イトヨ守り隊　市民講座で活動報告	福井新聞
3月16日	江戸期のふなずし再現　琵琶博　製法など研究成果報告	読売新聞（県版）滋賀版
3月16日	江戸期のふなずし　再現研究発表　琵琶博　冬に魚塩漬けせず／発酵速度遅い／塩味強く酸味・甘み弱く	滋賀京都新聞（大津）
3月17日	Ｌｏｃａｌ　ジモト　ふなずし斬新アレンジ　意外な一品でにおい抑制　「琵琶湖の魚料理　残したい」	東京新聞（東京）夕刊
3月18日	京都水族館で絶滅危惧種「タンゴスジシマドジョウ」を展示	産経新聞
3月19日	あの時私は　戦後８０年２０紙企画　３月１８日京都／家々の強制破壊が始まる　川那部浩哉さん（９	京都新聞（朝刊）

	２）　猶予わずか３日「建物疎開」　どうすれば…困惑は後に悔しさに（特集）	
3 月 20 日	琵琶湖の食文化つなごう　伝統ふなずし　斬新アレンジ　若者や海外意識　チーズと合わせ　現代風	愛媛新聞
3 月 20 日	ひと往来　琵琶湖の伝統的漁法の模型を作る北船木漁協前組合長　木村常男（きむら・つねお）さん（７６）　地元の伝統　後世に継ぐ	京都新聞（朝刊）
3 月 21 日	滋賀県　人事異動（２０２５年４月１日発令）	日経WHO’ＳWHO人事異動情報
3 月 21 日	ダイフク／従業員参加型社会貢献活動で寄付	Daily Cargo 電子版
3 月 21 日	スナヤツメ　新種を展示　琵琶湖博物館	中日新聞朝刊

(6) 学校等団体への広報活動

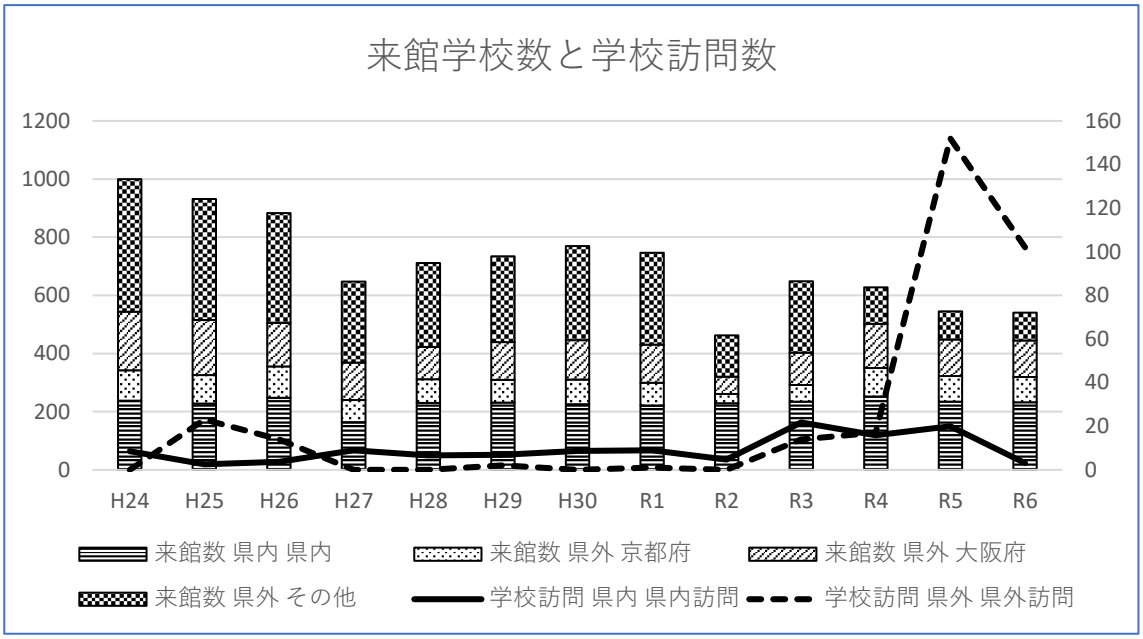
学校等団体へ琵琶湖博物館について知っていただくことで、来館等の利用を促すため、以下の　件の会議等へ出席のほか、県内外学校　校（県内　校、県外京都府　校）について、琵琶湖博物館の紹介等 PR 活動を行った。

◯団体への広報活動

学校団体等		対象者
県内	一般団体	県老人クラブ連合会総会
		県地域女性団体連合会代表者会
		大津市放課後等デイサービス事業所連絡会
		県子ども会連合会総会
	教育関連団体	県私立幼稚園協会
	各市町小中校長会	米原市、東近江市、大津市、彦根市、高島市
		蒲生郡、愛知・犬上郡、湖南市、栗東市
		近江八幡市、守山市、長浜市、草津市、野洲市、甲賀市
	一般教員	大津市小中初任者研修会
		県新任校長研修会
		県新任教頭研修会
県外	福井県	新任教頭研修会、新任校長研修会（オンライン）
		嶺南教育実践フォーラム（オンライン）
	京都府	京都市校長会理事・支部長会
		京都府総合支援学校校長会
		京都府私学幼稚園連盟理事会
		京都市保育園連盟理事会
	大阪府	吹田市校長会
	旅行会社	びわ湖ビジターズビューロー教育旅行キャラバン等（東京、岡山、広島）

〇学校への訪問説明

	校種等	市町	学校数
県内	幼稚園	草津市	1
	小学校	大津市、草津市	10
県外	大阪府	三島郡島本町　小中学校	6
		高槻市小学校	41
		枚方市小学校	46
		交野市小学校	9
		合　計	113



（10）県庁向け広報

本年度は、下記の 86 件（共通事務端末掲示板：81 件、共通事務端末ログオン時広告：5 件）を掲載した。

・共通事務端末掲示板

掲載開始日	掲載終了日	内容
4 月 17 日	5 月 31 日	琵琶湖博物館のトンネル水槽が再開します!!
4 月 19 日	6 月 2 日	琵琶湖博物館令和 6 年度ギャラリー展「鉱物・化石展―大地に夢を掘る―」を開催します。
4 月 23 日	9 月 1 日	水族トピック展示「日本で最も珍しい魚！？タンゴスジシマドジョウ」
4 月 23 日	5 月 23 日	琵琶湖博物館のトンネル水槽再開が NHK ラジオにて紹介されます
5 月 13 日	5 月 25 日	5/17・5/24 二週連続！！ びわ湖放送の「オモロしが」で琵琶湖博物館が紹介されます！
5 月 27 日	6 月 27 日	フィールドレポーター調査の成果を発表します！【琵琶湖博物館】

5月28日	6月28日	【5/31放送】NHK大津放送局の「おうみ発630」内の『しがトク』で琵琶湖博物館が紹介されます！！
5月31日	6月30日	琵琶湖博物館の島本学芸員が執筆者の一人！『災害対応の伝統知　比良山麓の里山から』が出版されました！！
6月9日	8月12日	【琵琶湖博物館公式YouTube】新作投稿しました！　水族イラスト展示作品紹介！！
6月14日	2025年6月1日	琵琶湖博物館情報誌「びわはく vol.8」を発刊しました!!
6月28日	8月26日	「よみがえれ！日本の淡水魚」コーナーの展示が全面再開しました！
7月1日	9月1日	【琵琶湖博物館公式YouTube】新作投稿しました！オオサンショウウオの豆知識
7月1日	11月24日	琵琶湖博物館 第32回企画展示「湖底探検II―水中の草原を追う―」開催します
7月3日	7月16日	【琵琶湖博物館 環境学習センター】近鉄百貨店草津店にて「夏休み！自由研究応援展 自然と親しむ貸し出しキットを紹介します」を開催します！」
7月10日	11月15日	【琵琶湖博物館 環境学習センター】「淡海こどもエコクラブ　絵日記・壁新聞コンクール」作品募集します！
7月15日	8月15日	書籍紹介　琵琶湖博物館の鈴木学芸員が執筆者の一人！「プロが教えるクラゲ飼育図鑑」が出版されます。
7月19日	9月1日	水族トピック展示「滋賀県の地名にちなんだ名をもつ魚・ゼゼラ」を開催します！
7月20日	9月1日	水族トピック展示「水草展～水中の草原を追う～」を開催します！
7月22日	8月22日	書籍紹介　琵琶湖博物館の大塚学芸員が執筆者の一人！「びわ湖のプランクトン　フォト＆ムービー」が出版されます。
7月29日	9月8日	【琵琶湖博物館公式YouTube】新作投稿！びわ博のカヤネズミ
8月12日	9月12日	滋賀県の野外水域で「第3の外来種」観賞魚メダカを初確認　在来生態系に影響の恐れ、観賞魚の放流に警鐘
8月19日	10月19日	【琵琶湖博物館公式YouTube】新作投稿！バイカルアザラシのトレーニング
8月26日	9月22日	書籍紹介　琵琶湖博物館学芸員らが編集した「琵琶湖の魚類図鑑」が刊行されました
9月3日	11月25日	琵琶湖博物館クラウドファンディング第2弾を開始しました！！（8月28日～11月25日）
9月9日	10月9日	【琵琶湖博物館 論文】絶滅危惧種シロヒレタビラの遺伝的な地域差から人為的に持ち込まれた新証拠が判明
9月12日	10月9日	琵琶湖博物館のクラウドファンディングに対する「応援ラッピングカー」が草津市内を運行しています！

9月18日	10月17日	【琵琶湖博物館公式YouTube】新作投稿しました！【Vlog】琵琶湖博物館の歩き方
9月20日	10月20日	韓国洛東江生物資源館と琵琶湖博物館の合同セミナーおよび両機関の協力に関する協議を行いました。
9月23日	12月24日	「7年ぶりの繁殖成功！天然記念物・アユモドキ」の展示を開催します。
10月2日	2025年4月30日	【琵琶湖博物館】水槽の解体・新設のため、水族展示室の一部を閉鎖します
10月4日	10月19日	【琵琶湖博物館 環境学習センター】環境・ほっと・カフェ 水草を知ろう！―水草のしおり作りー を開催します。ぜひ」ご参加ください！
10月7日	12月24日	【水族トピック展示】「日本のナマズ展～水槽再生に向けて～」を開催中です！
10月8日	12月24日	琵琶湖博物館と（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所との連携協定締結にさいして連携協定締結式および連携展示を開催します。
10月16日	11月16日	滋賀県東部の河川で放流された可能性の高いオオサンショウウオ交雑個体(特定外来生物)を確認しました
10月21日	11月21日	韓国国立洛東江生物資源館との機関長会議と合同セミナーを実施しました
11月5日	11月16日	【ライブ配信！】第2回びわ博ラボ開催のお知らせ：琵琶湖湖底遺跡の謎に迫る！！
11月7日	11月12日	日本トンボ学会公開シンポジウム「みんなでつなごう！ひろげよう！トンボのいる自然～トンボでつなぐ近江の水辺～」を開催します
11月7日	11月17日	【琵琶湖博物館】びわ博フェス2024を開催します！
11月11日	12月24日	【琵琶湖博物館】今だけ！！産卵期のビワマスを展示中！
11月12日	12月24日	「近江のナレズシ県民大調査」の成果の一部が公表されました
11月13日	11月25日	【11/14ライブ配信！】第3回びわ博ラボ開催のお知らせ：琵琶湖大移動の謎に迫る！！
11月14日	11月25日	【11/14ライブ配信！】第3回びわ博ラボ開催のお知らせ：琵琶湖大移動の謎に迫る！！
11月18日	11月25日	【残り一週間！！】琵琶湖博物館クラウドファンディング第2弾（11月25日23：00まで！）
11月18日	11月24日	【琵琶湖博物館】第32回企画展示「湖底探検II」 好評につき、観覧者が４万人達成しました！
11月19日	12月24日	【琵琶湖博物館】フィールドレポーター調査　生き物供養碑の調査を実施します！
11月19日	12月24日	「令和６年度滋賀県試験研究機関研究発表会」を開催します

11 月 20 日	11 月 25 日	【本日 19 時ライブ配信！】第 4 回びわ博ラボ開催のお知らせ：びわ博秘蔵の昆虫・魚類標本
12 月 5 日	3 月 31 日	【琵琶湖博物館】クラウドファンディング第２弾 が終了しました。みなさまありがとうございました！
12 月 15 日	12 月 15 日	【琵琶湖博物館】第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会を開催します!
12 月 18 日	12 月 24 日	【琵琶湖博物館】冬の琵琶湖の風物詩！氷魚(ヒウオ)の展示が始まりました
12 月 20 日	3 月 31 日	【琵琶湖博物館】新琵琶学セミナー「みんなで調べる！みんなで伝える！市民科学の最前線」を開催します!
12 月 23 日	3 月 31 日	【琵琶湖博物館】子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」の年間人気ランキングで上位にランクインしました!
12 月 24 日	1 月 5 日	【琵琶湖博物館】年末年始休館と近江鉄道バスの年末年始ダイヤ変更について
1 月 8 日	1 月 15 日	【琵琶湖博物館】淡海こどもエコクラブ活動交流会を実施しました
1 月 15 日	2 月 2 日	【琵琶湖博物館】世界湖沼の日制定記念展示 「琵琶湖博物館と海外とのつながり」開催中
1 月 24 日	2 月 24 日	【琵琶湖博物館】トピック展示「トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！」を開催します
1 月 27 日	3 月 31 日	【琵琶湖博物館公式 YouTube】新作投稿しました！古琵琶湖層群で化石を発見！【はしかけ活動】
1 月 29 日	3 月 16 日	【琵琶湖博物館】学芸員のこだわり展示「驚き！琵琶湖で育った真珠」を開催中です。
1 月 31 日	3 月 31 日	【琵琶湖博物館】クラウドファンディング第２弾の返礼としてナイトミュージアムを実施しました。
1 月 31 日	2 月 28 日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館学芸員が研究代表を務めるフナズシ研究の成果が公表されました！
2 月 6 日	3 月 4 日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館の累計来場者数 1,300 万人目前！
2 月 7 日	3 月 4 日	【琵琶湖博物館　論文紹介】日本古生物学会から発行されている和文誌「化石」に論文が掲載されました。
2 月 10 日	3 月 7 日	【琵琶湖博物館】トピック展示「新種発見！レイホクナガレホトケドジョウ」を開催中です。
2 月 10 日	3 月 29 日	【琵琶湖博物館】新琵琶湖学セミナー第 2 回「地元の価値を再発見」のお知らせ
2 月 12 日	3 月 12 日	【琵琶湖博物館】半田学芸員の研究成果発表について（6 月、9 月分）
2 月 14 日	3 月 14 日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館の累計来館者数 1,300 万人を達成しました！

2月25日	4月27日	【琵琶湖博物館　水族トピック展示】「新種記載されたスナヤツメの仲間」開催中！
2月26日	3月26日	【琵琶湖博物館　論文紹介】英文誌「European Journal of Taxonomy」と「Cretaceous Research」に論文が掲載されました。
2月26日	3月16日	【琵琶湖博物館】研究報告会「江戸時代のフナズシに、挑戦する」を開催します（3月15日（土））
2月28日	3月28日	【琵琶湖博物館　論文紹介】英文誌「Historical Biology」に論文が掲載されました。
3月3日	3月31日	【琵琶湖博物館】米田主査の研究がタカラ・ハーモニストファンドのHPに掲載されました。
3月4日	4月4日	【琵琶湖博物館公式　YouTube】新作2本投稿しました！博物館の裏側について知ることが出来ます！
3月4日	5月31日	【琵琶湖博物館】フィールドレポーター調査「タンポポ調査」を実施します。
3月10日	3月25日	【琵琶湖博物館　トピック展示】琵琶湖博物館エントランスにて「土倉の森博」を開催中です。（3/4～3/25）
3月11日	4月11日	【琵琶湖博物館　論文紹介】英文誌「Zoosystematics and Evolution」に論文が掲載されました。
3月14日	4月14日	【琵琶湖博物館】琵琶湖博物館で飼育していたタンゴスジシマドジョウが京都水族館で展示されます
3月14日	3月17日	【琵琶湖博物館】2024年度来館者数が50万人目前となりました。
3月19日	3月31日	【琵琶湖博物館】2024年度の来館者が50万人を達成しました。
3月19日	4月17日	【琵琶湖博物館】在ニカラグア特命全権大使が琵琶湖博物館を視察されました。
3月21日	4月21日	【琵琶湖博物館　論文紹介】英文誌「Arthropod Structure & Development」に論文が掲載されました。
3月21日	5月18日	【琵琶湖博物館】学芸員のこだわり展示「民具を作る道具　初公開！八日市の柄屋用具」を開催中です。

・共通事務端末ログオン時広告

掲載開始日	掲載終了日	内容
4月29日	5月5日	令和6年度ギャラリー展「鉱物・化石展2024　大地に夢を掘る」
7月22日	7月29日	令和6年度企画展「湖底探検II　―水中の草原を追う―」
8月26日	9月1日	クラウドファンディング第２弾のPR
9月30日	10月6日	令和6年度クラウドファンディング第２弾の２回目
11月11日	11月17日	令和6年度クラウドファンディング第２弾の３回目

4　資料整備活動

琵琶湖博物館では、博物館のテーマである「湖と人間」に関係する自然・人文・社会科学など多分野の資料を収集し、整理・保管・活用している。資料を収集する地域は、琵琶湖とその集水域および淀川流域を中心として、日本やアジア、世界の湖沼とその周辺地域まで広範囲にわたる。実物資料のほか、魚などの生体資料、映像資料、図書資料などの多種多様な資料を、博物館職員や参加型調査による収集、受贈、受託、提供、交換、購入、製作などの方法によって受け入れている。

資料を必要な時に利用できるよう、各資料分野の体系に従って整理し、次世代へ引き継ぐために、長期間にわたって安全に良好な状態で保管する活動を行っている。各資料に関する専門の学芸職員が、会計年度任用職員や委託による資料整理員とともに対応に当たっている。図書資料については、司書資格をもった会計年度任用職員が対応にあたっている。

以下に、2024 年度の資料整備および利活用の状況を示す。

1. 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微小生物標本、水族資料（生体資料）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の 11 分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの収蔵品データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2024 年度末現在で、博物館登録資料は 770,027 で、収蔵概数は 1,593,023 となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

(1) 収蔵資料数

2025 年 3 月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2024 年度登録数	2024 年度受入総数
地学	116,039	152,140	9,006	2,386
動物	221,870	423,045	1,945	43,846
植物	93,719	212,700	233	36
微生物	20,298	84,441	0	2,640
水族（生体）	13,851	13,851	13,851	10,968
考古	1,590	1,473 箱と 872	0	0
歴史	461	240	0	0
民俗	11,907	1 件, 2 箱, 12,228	440	1 件と 20
環境	0	1,522	0	1
図書	154,553 冊と 7,389 ﾀｲﾄﾙ	166,000	1,356	4,496
映像	135,739	525,383	3	3,578
合計	770,027 と 7,389 タイトル	1,593,023 と 1 件、1,475 箱	26,834	67,065 と 1 件

【各分野別の詳細】

地学標本	2024 年度							累　　積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	239	0	1, 303	0	0	1, 303	データベースの各アイテムへの入力作業中	43, 702	56, 530
岩石・鉱物	0	0	901	0	0	901		14, 791	24, 950
堆積物	8767	0	0	0	0	0		56, 236	68, 000
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1, 310	2, 660
小　計	9, 006	0	2, 204	0	0	2, 386		116, 039	152, 140

動物標本		2024 年度							累　　積	
		登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物（魚類除く）		22	8	0	0	9	21		3, 853	4, 207
内訳	哺乳類骨格標本	1	0	0	0	1	1	新規登録 1 件	941	942
	哺乳類乾燥標本	6	0	0	0	5	5	新規登録 6 件	110	115
	哺乳類(その他)	0	0	0	0	0	0		898	898
	鳥類骨格標本	2	1	0	0	1	2	骨格標本 2 点	256	256
	鳥類乾燥標本(巣，卵，レプリカ等含む)	9	7	0	0	2	9	仮剥製標本 5 点 本剥製標本 4 点	1, 121	1, 137
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		10	10
	爬虫類液浸標本	3	0	0	0	0	3		50	50
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0	0		44	91
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	1	0	0	0	0	1		356	356
	両生類（その他）	0	0	0	0	0	0		17	302
魚類（淡水魚類）		885	7	0	0	283	290		61, 333	89, 081
内訳	乾燥骨格およびアクリル包埋標	0	0	0	0	0	0		2, 723	2, 723
	DNA 分析用標本	0	0	0	0	0	0		3, 726	3, 726
	その他液浸標本	885	7	0	0	283	290	新規採集，提供標本および未登録標本の整理など．新規登録 885 件	54, 884	82, 632
昆虫		705	1, 024	36, 967	0	5, 420	43, 411		128, 993	295, 958
内訳	昆虫液浸標本	75	0	75	0	0	75	新規登録 75 件、収蔵標本の薬液補充とパッキン交換	12, 657	31, 221
	昆虫乾燥標本	630	1, 024	36, 892	0	5, 420	43, 336	新規採集、寄贈・提供標本の整理・再集計など．灰谷輝雄コレクション等のデータ登録	116, 336	264, 737
貝類		321	6	104	0	2	112	未登録標本の整理、新規登録 321 件	15, 272	18, 684
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）		12	0	0	0	0	12		12, 419	15, 115
小　計		1, 945	1, 045	37, 071	0	5, 714	43, 846		221, 870	423, 045

植物標本	2024 年度							累　　積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	0	0	0	0	0	0	同定・登録・ラベル貼付・収蔵・管理・低温処理・燻蒸庫燻蒸	91, 599	190, 700
コケ植物標本	233	0	36	0	0	36		2, 120	22, 000
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		1	1
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
プレパラート標本	0	0	0	0	0	0		0	1, 162
小　計	233	0	36	0	0	36		93, 719	212, 700

微生物標本	2023 年度							累　　積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	2, 640	0	0	2, 640	伴修平氏動物プランクトン等試料を年度末に受入, 整理中	14, 815	17, 475
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		4, 019	4, 049
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		1, 424	1, 424
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25, 324
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25, 251
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	10, 052
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小　計	0	0	0	0	0	0		20, 298	84, 441

水族資料 （生体）		2024 年度								
		登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など		
脊椎動物		13, 394	1081	20	3, 370	3,　502	6, 220			
内訳	哺乳類	38	0		0	12	0			
	魚類	13, 284	1, 078	19	3, 370	3, 490	6, 189			
	両生類	48	3	0	0	0	28			
	爬虫類	17	0	0	0	0	0			
	鳥類	7	0	1	0	0	3			
無脊椎動物		457	2	3, 001	145	0	3842			
内訳	昆虫類	0	0	0	0	0	0			
	貝類	88	2	0	145	0	395			
	甲殻類	367	0	2, 900	0	0	3, 319			
	扁形動物	2	0	101	0	0	128			
小　計		13, 851	1, 083	3, 021	3, 515	3, 502	10, 062			

考古資料	2024 年度			累　　積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0	資料写真のデジタル化(一部 3D 化)・考古データベース公開	586	1, 394(箱)
松原内湖遺跡木器等（コンテナ数及び点数)	0	0		1, 004	44(箱)と 847
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	19
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21(箱)と 3
小　計	0	0		1, 590	1, 473(箱)と 872

歴史資料	2024 年度						累　　積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0	破損が大きかった資料1点の修理の実施。館蔵品紹介コーナー「学芸員のこだわり展示」で計3回、延べ実物11点（重要文化財「東寺文書」4点含む）を展示公開。	461 点	175 件
二次資料 （レプリカ、模写、模造）	0	0	0	0	0		0	46 件
その他	0	0	0	0	0		0	19 件
小　計	0	0	0	0	0		461 点	240 件

民俗資料	2024 年度				累　　積	
	登録数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	320 点	1 件と 4 点	1 件と 4 点		8,664 点	1 件，2 箱 8,841 点
漁撈用具	124 点	16 点	16 点		3,243 点	3,279 点
二次資料	0 点	0 点	0 点		0 点	108 点
小　計	444 点	1 件と 20 点	1 件と 20 点		11,907 点	1 件，2 箱 12,228 点

環境資料	2024 年度					累　　積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
民具・生活用具類	0	0	0	0		0	1,078
二次資料（食品等レプリカ）	0	0	0	0		0	436
その他	0	1	0	0		0	8
小　計	0	0	6	6		0	1,522

図書資料	2024 年度					累　　積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	709	28	728	756	書籍ﾚﾌｧﾚﾝｽ、ｺﾋﾟｰｻｰﾋﾞｽ(有料)、ﾁﾗｼ･ﾎﾟｽﾀｰ管理。資料整理として蔵書点検 11,640 点，図書装備約 700 冊。その他、文献複写依頼 72 件、相互貸借借受 2 件、デジタル化資料送信サービスの利用は 3 件。	96,701	99,000
文献	7		7	7		57,852	67,000
雑誌	640	175	3,558	3,733		※7389 ﾀｲﾄﾙ	---
小　計	1,356	203	4,293	4,496		154,553　と 7,389 ﾀｲﾄﾙ	166,000

※雑誌は総タイトル数を表示（雑誌の総冊数は算出不可）。ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む。

Nacsis-Cat 目録所在情報サービス	2024 年度 登録数	累積 登録資料数
図書	191	21,706
雑誌	428	1,987
小　計	619	23,693

映像資料	2024年度							累　　積	
	登録数	撮影数	移管数	寄贈・寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	2	2.729	0	847	2	3,578	1.　大橋洋コレクション(平成時代写真)画像一覧冊子 14 冊の製本完成 2.　松田征也氏提供の画像データ7,200点の整理（Excel）を完了 3.　澤田弘行氏撮影のトンボ/花植物/風景/鳥昆虫スライド画像9,126点のデジタル化完了、うち3,957件をデータベース登録済 4.　画像データベースで公開する動物画像を、魚類897点、鳥類233点、甲殻類59点まで増やした 5.　根来健一郎マイクロフィルム187点、図鑑などの原図660点をデジタル化完了 6.　田中阿歌麿ノート等965点、可児藤吉ノート等 1,764 件をデジタル化完了	135,738	515,515
動画資料	1	0	0	0	1	1		1	9,868
小　計	3	2,7290	0	847	2	3,578		135,739	525,383

(2) 寄贈者および提供者　　敬称略（点数）

【地学資料】

化石：尾形芳則（182）

化石その他：新川　教（1124）

岩石・鉱物：辻　一信（617）

化石、岩石・鉱物：旧びわ湖自然科学博物館（463）

【節足動物標本】

ジムカデプレパラート：石井清（12）

【動物標本】

哺乳類骨格標本：近江富士花緑公園（1）

哺乳類乾燥標本：近江富士花緑公園（5）

鳥類骨格標本：宇野健治（1）

鳥類乾燥標本：宇野健治（1）

爬虫類液浸標本(カミツキガメ)：小林頼太（1）

爬虫類液浸標本(ミナミイシガメ×クサガメ)：中川宗孝（1）

爬虫類液浸標本(シロマダラ)：藤田朝彦（1）

魚類液浸標本：ウエスコ（3）　伊藤玄（203）　藤田朝彦（1）　桐畑智訓（2）　杉山秀樹（4）　霜鳥孝一（24）　大浦漁協（1）　谷口倫太郎（8）　中野光（14）　藤岡康弘（2）　堀江真子（3）　井口恵一朗（6260）

昆虫液浸標本：河瀬直幹（75）

昆虫乾燥標本：石川トシ子（11776）アルピナBI株式会社（4892）今田舜介（3058）杉山摩弓（1119）蟹江昇（213）高橋敬一（77）的場績（64）河瀬直幹（58）藤田宏（42）完山雄大（41）長谷川道明（18）松田潔（18）山本由里子（11）渡部晃平（10）中川優（8）豊島健太郎（7）武田滋（7）金尾滋史（6）久米加寿徳（6）木野田毅（5）牛島釈広（3）菅原巧太朗（2）児玉洋（1）島田元気（1）小北剣真（1）

貝類液浸標本：北野武司（4）　結creation（100）　中井克樹（2）

【微小生物標本】

微小生物液浸標本：伴修平（2640）

【植物標本】

コケ植物標本：小林亮平（36）

【民俗資料】
生活生業用具：須田章義（2）　冨江泰隆（1）　山下眞三（1）　吉川規栄（１式）
漁撈用具：中嶋あや子（3）松田好樹（13）
【図書資料】
川那部浩哉(47)　松田征也(35)　石川トシ子(23)　高橋啓一(21)　石田未基(17)　小松原琢(16)　上中央子(16)　石田志朗(15)　辻川智代(3)　貴山明(2)　用田政晴(1)　wow キツネザル(1)　森智美(1)　齊藤純(1)　中島経夫(1)　原田英美子(1)　森幸一(1)　草津古文書学習会(1)　湯本貴和(1)　川崎一朗(1)　上地健琉(1)
【映像資料】
根来健（847）：根来健一郎博士プランクトン写真、図鑑・論文等原図

(3) 移管資料
なし

(4) 購入資料
なし

(5) 水族繁殖生物　　計　3,985 匹

種　　名	学　　名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	*Acheilognathus cyanostigma*	851
イタセンパラ	*Acheilognathus longipinnis*	206
ゼニタナゴ	*Acheilognathus typus*	102
ミヤコタナゴ	*Tanakia tanago limbata*	170
アカヒレタビラ	*Acheliognathus tabira erythropterus*	62
シロヒレタビラ	*Acheliognathus tabira tabira*	62
アブラボテ	*Tnakia limbata*	21
ヤリタナゴ	*Tanakia lanceolata*	34
カゼトゲタナゴ	*Rhodeus smithii smithii*	309
ニッポンバラタナゴ	*Rhodeus ocellatus kurumeus*	40
スイゲンゼニタナゴ	*Rhodeus atremius suigensis*	85
ミヤコタナゴ	*Tnakia tanago*	181
ヤリタナゴ	*Tanakia lanceolata*	44
コイ	*Cyprinus carpio*	6
ワタカ	*Ischikauia steenackeri*	115
キクチヒナモロコ	*Aphyocypris kikuchii*	110
ヒナモロコ	*Aphyocypris chinensis*	110
カワバタモロコ	*Hemigrammocypris neglecta*	130
アブラヒガイ	*Sarcocheilichthys biwaensis*	29
イトモロコ	*Squalidus gracilis gracilis*	157
タモロコ	*Gnathopogon elongatus*	156
モツゴ	*Pseudorasbora parva*	88
ヨドゼゼラ	*Biwia yodoensis*	30
ゼゼラ	*Biwia zezera*	12

ドジョウ科		
ナガレホトケドジョウ	*Lefua torrentis*	57
ビワコガタスジシマドジョウ	*Cobitis minamorii oumiensis*	173
ギギ科		
ネコギギ	*Pseudobagrus ichikawai*	50
メダカ科		
ミナミメダカ	*Oryzias latipes*	13
トゲウオ科		
ハリヨ	*Gasterosteus aculeatus* subsp.2	384
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	*Rhinogobius* sp. BB	135
外国産魚類		
カワスズメ科		
レピドランプロローグス・アテヌアータス	*Lepidiolamprologus attenuatus*	51
哺乳類		
ネズミ科		
カヤネズミ	*Micromys minutus*	12

(6) 微生物(継代飼育)計 23 グループ

名称	数	単位	数	単位
緑水　植物プランクトン群	2	水槽		
ミジンコ群	8	ボトル		
ハダカイタチムシ	10	シャーレ		
カギウロコイタチムシ	4	シャーレ		
ウサギワムシ	9	シャーレ		
カイミジンコ　三角	5	シャーレ		
カイミジンコ　丸	4	シャーレ		
カイミジンコ　細	5	シャーレ		
タンボヒメウズムシ	2	シャーレ	2	ボトル
ヒメウズムシ	6	シャーレ		
ナベカムリ	6	シャーレ		
ツリガネムシ	7	シャーレ		
ヒドラ　チクビヒドラ？	2	ボトル	4	シャーレ
アメリカツノウズムシ	3	シャーレ		
太陽虫	10	シャーレ		
アメーバ	9	シャーレ		
テトラヒメナ	7	シャーレ	4	フラスコ
ミドリゾウリムシ	7	シャーレ		
ゾウリムシ　パラメシウム？	3	シャーレ		

ゾウリムシ　スピロストーマム	3	シャーレ		
アスタシア	6	シャーレ	4	フラスコ
クロロモナス	4	フラスコ		
ミカヅキモ	3	シャーレ		

(7) 収蔵資料データベース

今年度は収蔵資料データベースの表示項目を更新し、採集場所などの表記項目を増やすことで、閲覧者の活用しやすいものにした。また、植物標本の中にコケ植物のパケット標本を新たに公開し、ホームページ上で採集日やコレクションごとにまとまった標本を検索できるようにした。さらに、コケ植物のパケット標本は英語版のデータベースも新規に作成し、当館英語サイトと連携させることができた。

データベースの表示項目の更新等、データベース全体に影響を与える操作に関して、新規にマニュアルを作成することで、操作上の問題の起こる頻度を減らす対策を講じた。

2. 資料の活用

(1) 資料の貸出（研究依頼を含む）　（＊月日は許可日）　計８件 21,803 点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	8	岡山大学	イチモンジタナゴ標本 ３点	学術研究
4	26	新潟県立万代美術館	ヒッパリオン属 頭骨･下顎化石(ﾚﾌﾟﾘｶ) １点	展示･出版物掲載
5	10	岐阜大学教育学部	長良川産ヨシノボリ標本 243 点	学術研究
6	28	岐阜大学教育学部	長良川産･後藤宮子コレクション ヨシノボリ標本 1530 点	学術研究
7	16	国立文学劇場	ビワコオオナマズ模型 １点 イワトコナマズ模型 １点	特別展での展示
10	1	大阪府立環境農林水産総合生物多様性センター	ホンモロコ ５匹 スゴモロコ ５匹 ビワコガタスジシマドジョウ ５匹 ニシシマドジョウ ５匹	展示
9	7	用田　政晴	航空写真のつなぎ合わせ作業画像 １点 ビワコオオナマズ水槽の破損画像 １点 第 22 回企画展示「魚米之郷」チラシ １点 旧Ｂ展示室図面画像 １点	出版物に掲載
9	10	イノベートミュージアム事業	橋本忠太郎植物さく葉標本 ２万点	学術研究

(2) 資料の譲与　計４件 106 点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
8	14	大阪府立環境農林水産総合生物多様性センター	イチモンジタナゴ　100 点	域外保全
2	20	京都大学総合博物館	ビワマス標本 ２個体	パラタイプ保管
2	20	国立科学博物館	ビワマス標本 ２個体	パラタイプ保管
2	20	大阪市立自然史博物館	ビワマス標本 ２個体	パラタイプ保管

(3) 特別観覧

＜映像資料：静止画、動画＞　　計 33 件 337 点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	4	新さっぽろサンピアザ水族館	コイ（飼育型、野生型、咽頭歯）写真（3 点）	特別展の展示パネルへの掲載
4	12	栄寿会	大橋コレクション写真（3 点）	栄寿会総会（2024 年度）資料 表紙に使用
5	7	びわこ成蹊スポーツ大学	層のある湖 湖水温の夏と冬、牛乳瓶と紙パック 動画（2 点）	一般教養科目「琵琶湖と環境の科学」で使用
5	15	(公財)びわ湖芸術文化財団	アナンデールヨコエビおよび琵琶湖のプランクトン写真（7 点）	『湖国と文化』188 号(2024 年７月１日発行)の琵琶湖特集で掲載
5	25	宮川印刷株式会社	瀬田唐橋渡り初め写真（１点）	大津商工会議所報「もっと！みらい」2024 年６・７月号に掲載
5	25	山根猛	ビワマス、アユ、ホンモロコ、ハス、ニゴロブナ、ビワヨシノボリ、イサザ、スジエビ写真（8 点）	JICA 課題研修員への配付資料に使用（琵琶湖八珍の紹介）
5	30	近江八幡市	明治 29 年琵琶湖洪水による被害（野洲郡北里村江頭地先）写真（1 点）	広報おうみはちまん ７月号 古写真館 災害の記憶に掲載
6	3	朝日放送テレビ株式会社	チャネルキャット、タナゴ、スゴモロコ、コアユ写真（4 点）	朝日放送テレビ「news おかえり」(6 月 4 日放送）で映像使用
6	22	甲賀広域行政組合消防本部	風水害／昭和 28 年多羅尾豪雨（信楽町）写真（9 点）	ケーブルテレビによる放送（株式会社あいコムこうか）
7	5	キウイラボ	化石林写真（1 点）	書籍『第６巻　大地にねむる化石』(ポプラ社）掲載
7	5	滋賀レイカディア大学	琵琶湖の魚類写真（16 点）	レイカディア大学大学祭の展示に使

				用
7	12	守山市	ハリヨ雄写真（1 点）	広報もりやま 8 月 1 日号 環境活動紹介ページに掲載
7	16	東近江市長	昭和 34 年伊勢湾台風による被害写真（2 点）	市議会から滋賀県への河川整備に関する要望書に添付
8	5	滋賀県農政水産部みらいの農業振興課	ビワマス、ニゴロブナ、ビワコオオナマズ写真（3 点）	食育事業に使用
8	26	京都大学地球環境学堂	北比良の石屋用具写真（1 点）	「比良山麓の石の文化マップ」への掲載のため
8	26	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	明治 29 年琵琶湖洪水写真（1 点）	琵琶湖版 SDGs「マザーレイクゴールズ（MLGs）」学習動画で使用
9	27	東近江市教育研究所	ホンモロコ、ニゴロブナ写真（2 点）	小学校社会科郷土資料集に掲載
10	10	滋賀県びわ湖フローティングスクール	琵琶湖の水草、魚類、貝類写真（40 点）	びわ湖フローティングスクール「学習のしおり」に掲載
10	24	近畿大学アカデミックシアター	ビワコオオナマズ、ビワマス、イサザ、ゲンゴロウブナ、アナンデールヨコエビ写真（5 点）	琵琶湖の生態系に着目した「地球環境カードゲーム」の材料とするため
10	18	滋賀大学教育学部附属幼稚園	滋賀県の魚類写真（76 点）	琵琶湖環境学習教材の材料として用いる
11	7	東京書籍株式会社	ビワコオオナマズ写真（1 点）	中学校理科教科書『新編 新しい科学 2 年』巻末資料に掲載
12	1	滋賀大学教育学部附属小学校	滋賀県の魚類・貝類写真（86 点）	琵琶湖環境学習教材の材料として用いる
12	19	名古屋市港防災センター	ナマズ写真（2 点）	企画展示のパネルに用いる
12	25	(株)六分儀	ニゴロブナ、ビワコオオナマズ、ホンモロコ写真（3 点）	東京書籍中学校社会指導者用デジタル教科書に掲載
1	17	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	復元制作された柴、水路での魚つかみの様子(前野隆資氏撮影)、琵琶湖博物館トンネル水槽写真（3 点）	「琵琶湖ハンドブック四訂版」に掲載
1	17	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	ビワコオオナマズ写真、びわ湖大水害（1896 年 9 月）、琵琶湖博物館トンネル水槽写真（3 点）	琵琶湖ハンドブックの概要版「びわ湖を学ぼう」に掲載
1	31	成安造形大学附属近江学研究所	滋賀県管下近江国六郡物産図説 1 写真（1 点）	「近江学」第 16 号に掲載
2	6	鳥取県生活環境部自然共生社会局自然共生課	カダヤシ、チャンネルキャット、スポテッドガー写真（3 点）	鳥取県特定外来生物防除指針（令和 6 年度）に掲載
2	11	栄町 2 丁目自治会	大橋コレクション写真（29 点）	広報「さかえ」50 号に掲載
2	11	(株)六分儀	ニゴロブナ、ビワコオオナマズ、ホンモロコ写真（3 点）	東京書籍デジタル学習素材「douga pocket ver. 中学社会」の材料とするため
2	14	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	「琵琶湖のちからチャンネル」動画、写真（登録資料）、ウェブページの図（計 12 点）	小学生向け学習用動画の材料として用いる
2	28	大津市歴史博物館	唐橋遺跡第一橋脚の台材出土状況および復元模型の写真（2 点）	福庭万里子 （2025） 壬申の乱と近江――大友皇子が「弘文天皇」となるまで（歴史研究 729 号）に掲載
3	28	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	カワウ、スゴモロコ写真（3 点）	琵琶湖生物多様性画像データベースに掲載

＜映像資料以外・館内熟覧・撮影＞　計 33 件 15,927 点

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	17	初宿成彦	昆虫乾燥標本　1 万点	学術研究
4	23	大江文雄	ナマズ類化石　43 点 ビワコオオナマズ骨格標本　2 点	学術研究

5	10	木村裕樹	貫井の木地椀関係資料　(１件)25 点	学術研究
5	31	滋賀県立河瀬中学校･高等学校 久保川剛宏	昆虫乾燥標本　25 点	トレース題材としての撮影
7	6	濱野友	昆虫乾燥標本 カブトムシ　30 点	学術研究
7	14	金田昌枝	滋賀県指定有形民俗文化財 北比良の石屋用具　(1件)1112 点	学術研究
7	16	遠田実礼	昆虫乾燥標本 オサムシ科を中心とした歩行性昆虫 300 点	学術研究
7	27	Francesco Martoni	Psylloidea and other Hemiptera specimens 1000 点	学術研究
8	18	松崎恵哲	東寺文書　１点	学術研究
8	20	笹谷洋子	三上山～菩提寺付近の画像　１カット	学術資料展示
8	20	松田一恵	真珠養殖関係民族資料　(１件)68 点 イケチョウガイ液浸標本　(１件)　９点	学術研究
8	28	Maria Lourdes Chamorro	昆虫乾燥標本　2000 点	学術研究
9	14	宇佐市教育委員会 川島数志	マチカネワニ尾椎化石モノクロ写真 1 点 ニッポンスッポン甲羅化石カラー写真 1 点 ニッポンスッポン上腕骨化石カラー写真 1 点 オオサンショウウオ椎骨化石モノクロ写真　1 点	特別展示に向けた調査
9	24	日鷹一雅	甲虫類 とくにゴミムシ類　20 種程度 100 個体	学術研究
10	4	沖縄県立博物館・美術館　里井洋一	ウサギ化石画像　１点	企画展の図録に掲載
10	6	小野映介	ボーリングコア　上部層準	学術研究
10	19	東京大学大学院総合文化研究科 塚原伸治	貫井の木地椀関係資料 琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具　(１件)25 点	学術研究
10	28	南谷　幸雄	動物液浸標本　８点	学術研究
11	20	宗澤千明	伏龍骨之図並序　１(7 カット)	学術研究
11	26	裘夢雲(QIU Mengyun)	C 展示風景「川と琵琶湖」 1 点 C 展示室パネル「見比べてみよう！」　１点 C 展示室パネル「植物による浄化の模式図」　１点	特別展の記録集に掲載
12	7	渡辺恭平	昆虫乾燥標本(ハチ目など)15 箱	学術研究
12	14	伊勢シーパラダイス	ギギ(生体)音声データ　１点	特別展示利用
12	20	野洲市歴史民俗博物館	琵琶湖真景図　画像(三上山付近)　１点	学術研究
1	10	成安造形大学附属近江学研究所	滋賀県管下近江国六郡物産図説 算盤工機械及執業分課之図　１点	論考掲載
1	12	服部友香	近江国琵琶湖淡水魚絵巻　１点	学術研究
1	14	ふじのくに地球環境史ミュージアム	カバ骨格　２点 ニルガイ骨格　１点	学術研究
1	17	吉郷英範	魚類液浸標本　ギギ　30 点	学術研究
1	31	大阪 ECO 動物海洋専門学校	ギギ音声データ　１点	学術研究
2	7	佐野勲	イシガイ目の乾燥殻標本 イシガイ目の液浸標本　1042 点	学術研究
2	14	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	C 展示室、水族展示室などの動画撮影 (14 点)	環境教育
3	6	新潟大学教育学部 志賀　隆	植物さく葉標本　20 点	学術研究
3	12	高橋大樹	居初家文書　27 点	学術研究
3	12	新潟大学　神林 千晶	ヒル類標本　6 点	学術研究

(4) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用され、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されて

から実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2024 年度には以下の論文・書籍等が公表された。

公表された論文・書籍数　計 14 件

著者	年	タイトル	雑誌名または出版社	頁	種 別	活用標本
Harumi Sakai, Akihisa Iwata, Katsutoshi Watanabe and Akira Goto	2024	Taxonomic re-examination of Japanese brook lampreys of the genus *Lethenteron* with descriptions of two new species, *Lethenteron satoi* sp. nov. and *Lethenteron hattai* sp. nov., and re-description of *Lethenteron mitsukurii*	Ichthyological Research	https://doi.org/10.1007/s10228-024-00997-7	論文	液浸標本（魚類）
Ishii , Kiyoshi	2024	A new species of the genus *Momophilus* Takakuwa, 1937 (Chilopoda, Geophilomorpha, Schendylidae) from Japan	Edaphologia	(115), 97-103, 2024-07	論文	昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）
Kazuya Nagasawa, Hikaru Nakano and Hiroyuki Nishimura	2025	Reidentification of leuciscid fish (Cypriniformes) reported as a host of *Argulus coregoni* (Crustacea: Branchiura: Argulidae) from a stream, central Japan, with a new host record for the argulid	Nature of Kagosihma	51: 257-261	論文	液浸標本（魚類）
Onuki, K., Ito, K.R., Mishina, T., Hashiguchi, Y., Ikeya, K., Uehara, K.,	2024	Next-generation phylogeography reveals unanticipated population history and climate and human impacts on the endangered floodplain bitterling (Acheilognathus longipinnis)	BMC Ecology and Evolution	24(1): 141	論文	液浸標本（魚類） 水族生体資料
Yuta Katayama and Naoto Sawada	2024	Integrative taxonomy revealed a new species of *Lefua* (Teleostei, Nemacheilidae) from Fukui Prefecture, Japan	Evolutionary Systematics	8: 247-260	論文	液浸標本（魚類）
石上三雄・一瀬諭・大塚泰介	2024	びわ湖のプランクトン フォト&ムービー	文理閣	214 pp.	書籍	微小生物標本（顕微鏡写真）
伊藤 玄・大場貴保・堀江真子・川瀬成吾	2024	滋賀県の野外水域から初めて確認された体外光メダカなどの観賞魚メダカ	淡海生物	6: 18-21	論文	液浸標本（魚類）
大塚泰介・辻彰洋	2024	外来珪藻はなぜ次々と見つかるようになったか？	月刊海洋	56(10): 675-685	雑誌記事	微小生物標本（顕微鏡写真）
宇佐美英機	2025	近世近江国の商工業と株仲間	近江学	16:22-28	書籍	映像(歴史分野)

加藤 秀雄	2024	集落誌から見える滋賀	湖国と文化	190:30-33	その他著作物	図書（郷土資料）
小林 亮平 ・秋山 弘之	2024	マゴメゴケ（キブネゴケ科キブネゴケ属）は京都府にも産す	自然環境科学研究	37: 15-17	Data & Notes	コケ植物パケット標本
福谷 愉海 , 西田 有佑, 笠井敦	2024	アオドウガネ（甲虫目：コガネムシ科）の日本における分布域の拡大過程と潜在的な生息適地の推定	日本応用動物昆虫学会誌	68巻4号 p.97-113	論文	昆虫乾燥標本
藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一	2024	琵琶湖の魚類図鑑	サンライズ出版	229 pp.	書籍	液浸標本（魚類）、映像
藤田 朝彦・ 細谷和海・中井克樹・向井貴彦・谷口義則・森誠一	2024	岐阜県徳山ダム貯水池で生息が確認されたロングイヤーサンフィッシュ（新称）*Lepomis megalotis*	魚類学雑誌	https://doi.org/10.11369/jjji.24-010	論文	液浸標本（魚類）

(4) 学芸員および水族飼育員による生体資料の利用による成果

当館では、水族資料および陸域資料として、生物の生体を飼育しており、その飼育管理技術の向上に水族飼育員および学芸員が取り組んでいる。今年度は、その成果を下記の通り発表した。また、他にも、飼育生物を用いた遺伝分析や標本の作成、経時的な血液検査、魚病の治療方法の探索や飼育困難な種の長期維持方法の開発などにも取り組んでいる。

○山口久瑠実・川瀬成吾（2024 年 6 月 26 日）2023 年水族トピック展「君の推しはどれ！」の開催について　日本動物園水族館協会第 90 回近畿ブロック水族館飼育係研修会、鳥羽水族館［口頭発表］

○今北大介・田畑諒一（2024 年 6 月 26 日）話題提供：琵琶湖博物館トンネル水槽の展示復旧とプチリニューアル　日本動物園水族館協会第 90 回近畿ブロック水族館飼育係研修会、鳥羽水族館［口頭発表］

○田畑諒一（2024 年 11 月 20 日）躯体水槽アクリルパネル交換工事の報告　日本動物園水族館協会第 34 回日本動物園水族館設備会議、名古屋港水族館［口頭発表］

○杉野潤・長田智生・武富鷹矢・田畑諒一（2025 年 1 月 20 日）飼育員による展示水槽レイアウトの大幅なリニューアル　日本動物園水族館協会第 69 回水族館技術者研修会、京都水族館［口頭発表］

○山口久瑠実・川瀬成吾（2025 年 1 月 20 日）アンケートを用いたトピック展「君の推しはどれ！」の展示効果の分析　日本動物園水族館協会第 69 回水族館技術者研修会、京都水族館［口頭発表］

中江雅典・○川瀬成吾・向井貴彦（2025 年 1 月 20 日）希少魚の系統保存個体における側線系の変化について（予報）　日本動物園水族館協会第 69 回水族館技術者研修会、京都水族館［口頭発表］

また、当館が加盟している公益社法人 日本動物園水族館協会（以下：JAZA）は、令和 5 年度希少野生動物の生息域外保全検討実施委託業務の契約を環境省と締結した。この業務の中で、今年度当館は、2019 年に国内希少野生動植物種に指定されたタンゴスジシマドジョウの生息域外保全を推進する目的で、繁殖作業や飼育業務を行い、JAZA 加盟園館の中で生息域外保全を担当する水族館に対して、繁殖技術の移転、参加園館拡大などの業務を実施した。

さらに、今年度から環境省のアユモドキ保護増殖事業に参画し、環境省及び淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会等の協力の下、7 年ぶりにアユモドキの繁殖に成功し、1000 匹を超える稚魚を得ることに成功した。なお、当事業には伊藤忠商事との協同プロジェクトの支援も含まれている。

2017 年度よりいなべ市教育委員会から受託している天然記念物ネコギギ保護増殖事業でも、2 ペアから合

計 50 個体以上の稚魚を得ることに成功した。

(6) 資料の利用（その他）

図書資料については、資料所蔵情報を館外に広く発信するため、2018 年度よりデータベースを Web 公開し、目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）への所蔵登録を推進している。2024 年度には、閲覧冊数が 981 冊、文献複写サービスの受託が 30 件であった。

(7) デジタルミュージアム推進事業

昨年度から進めている二つのデジタルミュージアム推進事業をさらに進めた。一つ目は、専門家が分類・同定し管理してきた良質かつ多様な収蔵資料を、標本の特性に応じて高精細画像化/3D 化し、電子図鑑として公開する「多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備」、もう一つは、生物各種が発見された地点・年代の情報を地図に落とし、環境データと重ねることで、生物の分布と環境の関係やその変遷、潜在分布等を可視化し、学校教育や行政・環境保全関係者の支援等に活用する「地理情報システム（GIS）を用いた生物分布デジタルマップ作製」である。これらは、琵琶湖博物館第３次中長期計画（令和３年度から令和 12 年度）の掲げる「ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」を推進するものである。博物館法の改正や他府県での先進的な取組等を踏まえ、本事業では、デジタル技術を用いて琵琶湖博物館の標本・資料の活用法を変革し、【ミュージアム DX による滋賀の自然・文化の新たな発見と感動】を目指す。以下に今年度の事業内容を示す。

1) 多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備

・電子図鑑の作成と公開

滋賀県に生息する生物の情報を整理し、利用しやすい情報として発信するために、滋賀の生きもの電子図鑑の整備に着手した。2024 年度も、琵琶湖博物館の収蔵資料管理システムと共通のデータベース I.B.MUSEUM SaaS 上で魚類、両生類、哺乳類の図鑑の整備を行い、それぞれ滋賀県に分布する可能性がある 114 種、25 種、53 種の写真と原稿をホームページ上(https://archives.biwahaku.jp/search/)に公開した。また、予備知識がなくても種の絞り込みがある程度できる簡易検索システムを委託により制作した。また新たにプランクトン図鑑に用いる写真の整理・同定を進めるとともに、66 種分の原稿を執筆して一部公開の準備を完了した。

2020 年 10 月に公開済みの「田んぼの生きもの全種データベース」を増補し、掲載種数を 6,653 種、写真掲載種数を 1,166 種まで増やした。

・3D コンテンツの制作と公開

今年度は、土器および動物骨格を対象として、3D コンテンツを公開するために、3D モデル構築、および公開データ制作作業をすすめた。

3D モデルの構築は、土器（当館蔵、松原内湖遺跡出土縄文土器）と動物骨格（哺乳類頭蓋骨標本）を対象に実施した。3D モデル構築にあたっては、元データとなる画像データを撮影し、その画像データをもとに、考古資料、骨格標本の３D モデルを構築した。今年度は、照明器具を新規に購入し、また天井照明器具 LED 交換が完了したことで、フォトグラメトリ（写真実測）を利用した 3D モデルを構築する環境が整った。結果、高解像度の３モデルを公開することができた。

3D コンテンツは、当館 web ページに、あらたに構築したデジタル琵琶湖博物館の中で展開し、縄文土器 10 点、動物骨格 8 点を公開している。

将来的に電子図鑑の付属システムとすることを意図して、生物の類似種を判別するための深層学習プログラムを試作した。また、琵琶湖博物館に収蔵された図書・文献資料の中から、著作権切れなどによりパブリック・ドメインに入っているものを選んで 55 件約 3,000 ページを PDF 化した。さらに琵琶湖と周辺地域の研究に大きな足跡を残した研究者たちが残した標本、図鑑や論文の原図、フィールドノートなど計 4,000 件以上をデジタル情報化した。いずれも公開準備を進めている。

１．多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備

指標		指標数（累計） 令和６年度		備考
３Ｄ標本 公開点数		18	(18)	
内訳	土器	10	(10)	
	動物骨格	8	(8)	
	民具		(0)	
図鑑　公開種数		326	(1,374)	
内訳	哺乳類	53	(53)	滋賀県に生息する全種類
	両生類	25	(25)	滋賀県に生息する全種類
	魚類	114	(114)	滋賀県に生息する全種類
	プランクトン	16	(16)	66 種分の原稿完成、公開準備中
	トンボ		(0)	滋賀県に生息する全種類
	鳴く虫		(0)	
	ケイソウ	0	(0)	既存の電子図鑑(250 種）から移設
	ゴミムシ	0	(0)	既存の電子図鑑(296 種）から移設
	田んぼの生き物	118	(1,166)	既存の電子図鑑から移行
資料　公開点数		792	(792)	
内訳	希少文献		(0)	55 点約 3,000 ページを公開準備完了
	研究遺産	792	(792)	約 4,000 点をデジタル化完了

2）地理情報システム（GIS）を用いた生物分布デジタルマップ作製

今年度は博物館で保有・保管している標本データと、「日本野鳥の会滋賀」や「滋賀県野鳥の会」などの探鳥会が収集したデータをデジタル化し、現在利用している収蔵品管理システム（I.B.MUSEUM SaaS）内のデータベース（標本データベースと生物分布デジタルマップ用データベース）に格納した。これらのデータには、それぞれ緯度・経度情報が入力されており、前年度に構築したデジタルマップ「びわはく GIS」(https://biwahaku-digital.jp/)上に、その位置情報が表示されている。今年度は「びわはく GIS」に国土地理院が公開している地図および航空写真の情報を追加し、さらに自治体、期間、資料分類によって絞り込み検索ができる仕様に改良した。また滋賀県の民具資料データ 6,158 点も追加表示できるようにし、人文系の収蔵資料も「びわはく GIS」による調査・研究に活用できる道筋をつけることができた。

２．地理情報システム（GIS）を用いた生物分布デジタルマップ作製

指標		指標数（累計） 令和６年度		備考
地理情報　表示点数		63,395	(63,395)	
内訳	鳥類	57,237	(57,237)	
	民具	6,158	(6,158)	
	昆虫		(0)	
	植物		(0)	

3）ICT の設備更新

常設展示のふれあい体験室や企画展示室にLANを配線し、上記の最新コンテンツを配信する準備を整えた。

3. 資料の保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸（エキヒューム燻蒸、二酸化炭素燻蒸）および冷凍処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行っている。さらに収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物環境調査（昆虫トラップ調査）、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

収蔵庫内の温湿度については、クラウドサーバー上でリアルタイムに監視するシステムを導入しており、常時Web上でその推移を確認、記録している。また湿度の不安定要因として考えられる機械室の温度計センサーの交換を行った。

収蔵庫の保管・作業環境については、長年の課題であったトラックヤードに設置されたシャッターの修繕や収蔵空間にあるほぼ全ての照明をLEDに交換することができた。

(1) 収蔵空間の管理

温湿度管理	・各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。ほとんどの収蔵庫で、データロガーを使用し、クラウドサーバー上でリアルタイム監視を実施。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃を実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内)

生物環境調査	年3回の生物環境調査 ・2024年6月28日～7月12日　昆虫トラップ調査　252カ所(設置・回収・分析) ・2024年10月25日～11月8日　昆虫トラップ調査　252カ所(設置・回収・分析) ・2025年1月31日～2月14日　昆虫トラップ調査　252ヶ所(設置・回収・分析) ＊当館のIPM基準値 ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が1

(2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップの結果を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を5回、エキヒューム燻蒸を2回実施した。また、密閉テント方式のエキヒューム燻蒸を1回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

今年度末でエキヒューム燻蒸ガスが販売終了することを受けて、今年度はそれに代わる代替ガスの情報収集と、来年度に向けてIPMの更新を進めた。具体的には、防虫・防黴に効果があるとされる酸化プ

ロピレンガスを用いた燻蒸（アルプ燻蒸）に移行することにした。また、防黴に対するリスク管理のために、目に見えない汚れや菌の存在を光で可視化できるルミノメーターの導入をすることにした。今後はさらに「予防」に力を注ぐ IPM 体制を構築する予定である。

5　展示

1. 展示活動

2024年度は、トンネル水槽の公開、2回目のクラウドファンディングの実施、ビワコオオナマズ水槽、コアユ水槽、ふれあい体験室等の工事の開始など、水族展示室の完成と再開に向けて歩みを進めた1年であった。水族展示室が一部休止中である期間でも、より多くの来館者に博物館を楽しんでいただく工夫を続けた。

2020年にリニューアルオープンしたA展示室では「地域の人びとによる展示」コーナー、同じくB展示室では「学芸員のこだわり展示」コーナーをそれぞれ設けることにより、定期的に新しい情報を発信した。C展示室や水族展示室では、標本入れ替え等の小規模な展示更新やトテーマを決めたトピック展示を行い、最新の研究成果や他機関との共同での取り組みなどを紹介した。ディスカバリールーム、おとなのディスカバリーでは、主として季節に合わせた展示更新を行い、繰り返し来館される方々にも好評であった。

展示室での利便性向上のために、すでに導入されていた「ポケット学芸員」の音声ガイドとしての活用を推進し、今後は日本語、英語に追加して言語を増やす予定である。また、YouTubeの「びわこのちからチャンネル」（琵琶湖博物館公式）を関連する常設展示から参照できるよう、展示室内にＱＲコードを設置するなど、より深く広く展示を楽しみ理解できる展示作りも進めていく。

第32回企画展示「湖底探検II－水中の草原を追う－」では、琵琶湖南湖の水草繁茂の問題を取り上げながら、琵琶湖における沈水植物の現状、その利用の歴史、生態系などを紹介し、他の研究機関や県の担当部署の協力を得て展示を行い、43,492人もの入場者を得た。また、ギャラリー展示「鉱物・化石展2024　大地に夢を掘る」は、湖国もぐらの会との共催で、岩石･鉱物の愛好家の皆さんがそれぞれのコレクションを持ち寄り、大変賑やかな展示が行われた。これら以外に、アトリウム等で9件のトピック展示およびパネル展示を行い、そのうち8件は博物館外の団体との共催であり、地域連携の推進事例となった。

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

・地域の人びとによる展示

展示室の出口付近にあるこのコーナーでは、地域で調査をされている方が自らの標本を使った展示を、当館の職員と相談をしながら行っている。おおよそ半年ごとに展示する人や内容を替えている。

1. 滋賀県でとれる化石＆鉱物
   展示した人：滋賀県立彦根東高等学校グローバルサイエンス（GS）部地学班さん
   期間：2024 年 4 月 1 日～2024 年 9 月 29 日
2. 鮮新―更新統大阪層群産の非海生生物化石
   展示した人：髙田 雅彦さん
   期間：2024 年 10 月 6 日～2025 年 4 月 8 日

・展示者による展示室での交流

「地域の人びとによる展示」コーナー付近で、展示をしている人やその関係者が、来館者に対して、展示物に関する解説や採集した標本に触ってもらったりすることで、展示室での交流を行っている。

2024 年 7 月 30 日：彦根東高校学生 2 名、教員 1 名
2024 年 9 月 14 日：彦根東高校学生 1 名、教員 1 名
2024 年 10 月 6 日：高田雅彦、飯村強
2024 年 10 月 27 日：高田雅彦、飯村強
2024 年 11 月 16 日：飯村強、馬越仁志、馬越曜子（びわ博フェスに併せて）

2024年11月17日：高田雅彦、飯村強（びわ博フェスに併せて）

・トピック展示
A展示室：トピック展示「新種発見！！レイホクナガレホトケドジョウ」
期間：2025年2月4日（火）～2025年3月8日（土）
場所：A展示室 うつりかわる生き物 担当：田畑
展示内容：・レイホクナガレホトケドジョウのタイプ標本（パラタイプ）
・レイホクナガレホトケドジョウ、DNA分析と新種記載に関する紹介パネル ２～３枚

2）B 展示室
・収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示」
B展示室では、2020年10月のリニューアルオープンを機に、展示室内の館蔵品紹介コーナーにおいて「学芸員のこだわり展示」と題した展示を実施することした（毎回の会期1～2か月程度、年間6～10回程度の実施を予定）。当館の歴史系分野（考古、歴史、民俗）における資料の収集・保存・整理・公開活動または研究成果に関わる資料を、トピック展示として順次紹介する。これは、展示リニューアル前のB展示室「蔵ケース」で開催していた展示を継承して行うものである。

期　間	タイトル・展示資料名
3月12日～5月19日	第22回学芸員のこだわり展示　村のかたち：滋賀郡中浜村 ・近江国滋賀郡之内中浜村絵図（1677年／延宝5年）：3月12日～4月14日展示 ・中浜村絵図（1677年／延宝5年）：4月16日～5月19日展示
5月21日～7月28日	第23回学芸員のこだわり展示 「重要文化財・琵琶湖博物館所蔵東寺文書展 室町時代のお手紙の作法―礼紙（らいし）と封紙（ふうし）―」 ・年未詳（室町時代後期）閏6月21日、横川宗興書状、92(81)（本紙と礼紙、計2点）；5月21日（火）～6月23日（日）まで実物を展示 ・永正元年（1504）7月23日、証玄最勝光院公文職請文、67(58)（本紙と封紙、計2点）；6月25日（火）～7月28日（日）まで実物を展示
7月30日～10月6日	第24回学芸員のこだわり展示 「唐橋遺跡と古銭」 ・無文銀銭（倭銭・7世紀） ・和銅開珎（皇朝十二銭・発行年708年） ・太平通宝（北宋銭・発行年976年） ・咸淳元宝（南宋銭・発行年1266年）
10月8日～11月24日	第25回学芸員のこだわり展示 「汽船に乗って竹生島へ」 ・江州丸会社「竹生島行汽船往復賃金表」（明治時代・1881年） ・「竹生島並壱人往復〔乗船券〕（第二江州丸）」（明治時代・19世紀） ・「近江国琵琶湖竹生島　厳金山宝厳寺之真景」（明治時代・19～20世紀）
11月26日～1月19日	第26回学芸員のこだわり展示 「湖畔のにぎわい―「湊はん志やう画巻」の世界―」 ・「湊はん志やう画巻」（江戸時代・18世紀）

1 月 25 日～3 月 16 日	第 27 回学芸員のこだわり展示「驚き！琵琶湖で育った真珠」 ・イケチョウガイ乾燥標本 ・真珠養殖関係用具（昭和時代）
3 月 18 日～5 月 18 日	第 28 回学芸員のこだわり展示「民具を作る民具－初公開！八日市の柄屋用具－」 ・八日市の柄屋用具及び製品（滋賀県指定有形民俗文化財）

3）C 展示室

①「ヨシ原に入ってみよう」ゾーン

1 月 3 日（金）～ C 展示室ヨシ原ゾーン「カヤネズミ」生体展示

冬仕様として展示ケース内の草を刈った状態に変更

②「田んぼへ」ゾーン

4 月 19 日～　ゆりかご水田喪型：水漏れのため水循環休止

③「川から森へ」ゾーン

3 月 7 日（金）～ 展示更新：C展示室「川から森へ」ゾーン

第 16 回 淡海の川づくりフォーラム 作品展示（以下の 2 点）

・グランプリ 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト

・準グランプリ 米川よろず会議

④「生き物コレクション」ゾーン

2025 年 1 月 27 日　トンボ類、コウチュウ類の種名ラベルの修正、標本の並べ替えなど

⑤「これからの琵琶湖」ゾーン：研究スタジアム

12 月 25 日～　第９期(芳賀、スミス、半田、亀田、今田)に更新

⑥「これからの琵琶湖」ゾーン：オピニオンボード

「これからの琵琶湖」コーナーのオピニオンボードに掲示しているメッセージを、期間別、内容別に分類したものをファイリングして館内部で閲覧できるようにした。

4 月 23 日～　2024 年 1 月 4 日～3 月 31 日分を設置

10 月 30 日～　4 月 1 日～6 月 30 日分を設置

11 月 21 日～　7 月 2 日～9 月 29 日分を設置

2 月 25 日～　10 月 1 日～12 月 24 日分を設置

4）水族展示室

2023 年 2 月 10 日（金）に「琵琶湖の主（ビワコオオナマズ）水槽」が破損したことを受け、全水槽の点検を実施して、アクリル交換が必要な一部水槽の展示を休止した。一方で、置き水槽の設置やトピック展示等で展示種数を減らすことなく、水族展示室の完全再開に向けた様々なイベントを実施してきた。2023 年度から引き続くイベントとして「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第三期：テーマ『守りたい水辺の生き物』）（2024/1/27～2024/4/7）」、「思い思いのカラーで彩ろう！塗り絵・イラスト展示室（2023/9/9～2024/9/30）」ならびに「水族応援メッセージ（2023/8/1～～2024/9/30）」を実施した。

トンネル水槽では、ドーム窓のアクリル交換が 2023 年度末に完了し、4 月 21 日（日）および 22 日（月）に内覧会を実施し、23 日（火）に展示を再開した。また、同日、同じく 2023 年度末にアクリル交換が完了し、展示レイアウトの準備も完了した「よみがえれ！日本の淡水魚水槽」コーナーの 2 水槽・ビワヨシノボリ水槽も展示を再開した。6 月 25 日（火）には、その後展示準備が完了した「よみがえれ！日本の淡水魚水

槽」コーナーの 4 水槽・ヴィクトリア湖水槽・外来種水槽展示を再開した。これにより、ビワコオオナマズ水槽、コアユ水槽、ふれあい体験室（ふれあい水槽）を除いた閉鎖水槽の展示が再開された。
2024 年度は水族展示室再生事業として、ビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の設計が 2023 年度から引き続き行われ、6 月 30 日に設計が完了した。9 月よりビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の工事が着工されている。またふれあい体験室（ふれあい水槽）については、2024 年 3 月末に工事が完了し、2025 年 4 月に再開を予定している。水族展示室の再生事業においては、2023 年のトンネル水槽ドーム窓交換につづいて、クラウドファンディングが実施され、県内外から多くのご支援を受けた。現在、1 日も早い水族展示室の完全再開に向けてスタッフ一丸となって業務に取り組んでいる。

4 月 1 日～ みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第三期：テーマ『守りたい水辺の生き物』）
場所：ビワコオオナマズ水槽前（昨年度からの継続展示。4 月 7 日終了）
思い思いのカラーで彩ろう！塗り絵・イラスト展示室　場所：水族企画展示室（昨年度からの継続展示。）（2024/9/9～）
水族応援メッセージ　場所：コアユ水槽前（昨年度からの継続展示。10 月 1 日に場所を水族企画展示室に移動）

4 月 21 日～ トンネル水槽特別内覧会　場所：水族展示室

4 月 22 日～ トンネル水槽特別内覧会　場所：水族展示室

4 月 23 日～ トンネル水槽・「よみがえれ！日本の淡水魚水槽」コーナーの 4 水槽・ビワヨシノボリ水槽の展示再開
水族トピック展示「日本で最も珍しい魚！？タンゴスジシマドジョウ」開始　場所：保護増殖センター前（9 月 13 日終了）
これまで寄せられた一部の応援メッセージの展示　場所：オオナマズ水槽前

5 月 21 日～ 下流域水槽展示更新（ウグイを取り上げ、コアユとニゴイを追加。展示魚種はコアユ・ニゴイ・オイカワ）

6 月 25 日～ 「よみがえれ！日本の淡水魚水槽」コーナーの 4 水槽・ヴィクトリア湖水槽・外来種水槽の展示再開

7 月 17 日～ 水族トピック展示「滋賀県の地名にちなんだ名をもつ魚・ゼゼラ」開始　場所：古代魚（チョウザメ）水槽前（9 月 1 日終了）

7 月 20 日～ 水族企画展「水草展～水中の草原を追う～」開始　場所：水族企画展示室（9 月 1 日終了）
トンネル水槽出口に折り返し地点を変更（水槽破損に伴う変更）

9 月 6 日～ 水族展示常設展示追加「ヤマトサンショウウオ」　場所：カイツブリ水槽前

9 月 14 日～ 水族トピック展示「7 年ぶりの繁殖成功！天然記念物・アユモドキ」開始　場所：保護増殖センター前（2 月 9 日終了）

10 月 1 日～ オオナマズ水槽工事等に伴う水族展示室の出入り口および動線の変更（水族展示室の出入り口が 2 か所になり、それぞれ折り返し経路となった。）
水族トピック展示「日本のナマズ展」開始（日本のナマズ 4 種や新ビワコオオナマズ水槽のパースを展示）　場所：水族企画展示室（12 月 24 日終了）
水族応援メッセージの場所をコアユ水槽前から水族企画展示室に移動（12 月 24 日終了）

10 月 8 日～ 水族トピック展示「淀川の魚類～連携協定記念展示～」開始（『淀川の魚類の多様性』をテーマにイタセンパラやヨドゼゼラ等を展示）　場所：水族企画展示室（12 月 24 日終了）

11 月 1 日～ 中流域水槽展示更新（繁殖期のビワマスを展示）

1 月 4 日～ 在来オオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの交雑個体を中流水槽から上流水槽へ移動

バックヤードで飼育していた在来オオサンショウウオを中流水槽で展示

2月11日～　水族トピック展示「新種記載されたスナヤツメの仲間」　場所：保護増殖センター前（4月下旬終了予定）

5）D展示室　ディスカバリールーム

「子どもと大人が一緒に楽しむ体験と発見」をテーマに、2018年7月6日リニューアルし、新しい展示構成となった（展示構成は以下の表のとおり）。「琵琶湖博物館の入口」となる展示室という方針のもと、五感や実物標本を使った体験型展示により学び発見する喜びを知ってもらえる場となっている。具体的には、五感を使う展示、だれもが楽しめる展示、本物を体験する展示、身近なものをテーマにした更新展示を軸に構成し、小さなころから博物館に親しむことでミュージアムマナーも身につけられるような場を目指している。

	コーナータイトル	内　容	概　要
1	さわってみよう	化石・レプリカ・石	触覚を使い、材質による手触りの違いを知る
2	聞いてみよう	コオロギ、アマガエル、コウモリの模型	聴覚を使い、生き物が音を出す仕組みを知る
3	におってみよう	季節の植物の匂い抽出液、オオサンショウウオの匂い（人工）	嗅覚を使い、生き物が出す匂いや意味を知る（2021年度コロナ対策のため休止）
4	大きくしてみよう	昆虫類	視覚を使い、普段と違う視点で拡大して見る
5	さがしてみよう	カラス・フクロウ・スズメ・カワセミ・ムクドリ・コサギ・キジバト	発見する楽しみを知る導入として、室内の生き物を探す
6	見つけてみよう ー生き物のすみかー	キツネ、タヌキ、ネズミ、モグラの剥製など	空間的に配置した剥製を体感しながら生き物のすみかを知る
7	見つけてみよう ー生き物のかたちー	タヌキの剥製、骨格標本、信楽焼きのタヌキ	目線近くに配置した剥製をじっくり観察し、頭の中のイメージとの違いに気づく
8	のぞいてみよう ー魚の世界ー	ナマズ、コイ、ニゴロブナ	間近でじっくり観察し、さらに人それぞれの見え方の違いに気づく
9	にんぎょうげきじょう	季節ごとのパペット	人形劇を通じて、琵琶湖や滋賀の昔話を知る（2021年度コロナ対策のため休止）
10	おばあちゃんの台所	井戸、いろり、かまどなど	昭和の古民家を再現
11	ザリガニになろう	ザリガニ大型模型	ザリガニになった気持ちでエサを獲り、外来種の問題を知る
12	ディスカバリーコーナー	季節ごとのディスカバリーボックス	館内の多様なテーマごとに詰め込んだボックス
13	イノシシの歯、コウモリの歯	2種のアゴの動き方模型	歯の役割、仕組みを知る
14	みんなのたからもの	来館者が見つけた宝物	参加型の展示コーナー
15	ブックコーナー	図鑑類	学芸員が子どもの頃読んでいた本の紹介
16	糸描きコーナー	毛糸で絵を描くボード	

各コーナーで季節に合わせた展示物の入れ替えを次の表の通り実施した。

【季節展示】

展示期間	展示内容	展示場所
4月16日～5月10日	こどもの日	おばあちゃんの台所
5月11日～6月27日	こどもの日	
6月28日～7月7日	七夕	
7月8日～8月5日	土用の丑	
8月6日～9月3日	夏version(蚊取線香)	
9月7日～9月17日	お月見	
9月19日～10月21日	秋(運動会)	
10月27日～11月21日	七五三	
12月17日～12月21日	冬至	
12月22日～12月24日	年越し	
1月4日～1月14日	お正月	
1月7日	七草	
1月31日～2月3日	節分	
2月15日～3月4日	ひな祭り	
3月4日～3月24日	春　お彼岸　ぼたもち	
3月25日～3月31日	春　お花見	
月1回更新	かがくのとも	ブックコーナー
月1回更新	たくさんのふしぎ	
4月16日～3月31日	学芸員(島本)	
常設　3月4日	ナマズ	生きものの展示
常設	コイ	
7月19日～	コイの稚魚	
常設	フナ	
7月21日～9月18日	カイコ	
4月25日～	タンポポ、アリ、ケラ、ハチ、アゲハチョウ、モンキチョウ	みつけてみよう
6月25日～	オサムシ、マイマイカブリ、アケビコノハ、ミミズ、カミキリムシ	
1月4日～1月13日	ボックス　おせち	ディスカバリーコーナー
1月4日～1月13日	ボックス　福笑い	
5月5日	コイの咽頭歯	大きくしてみよう ・マイクロアイ
5月31日～7月18日	コイの稚魚	
7月9日～11月14日	カイコ	
11月 15 日～ 3月 31日	コオロギ・クビキリギス	

季節・行事に合わせたイベントを次の表の通り実施した。
【イベント実施一覧】

イベント開催日	イベント名	参加人数
5 月 5 日	かぶとをつくろう！	103 人
7 月 2 日～7 月 7 日	七夕★短冊に願い事を書こう！	203 人
7 月 22 日～9 月 1 日	みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！	60 人
11 月 23 日	森の宝物をさがそう！	6 人
2 月 2 日～2 月 3 日	大津絵の鬼になってみよう！	73 人
2 月 20 日～3 月 3 日	おひなさまを折ってみよう！	184 人
3 月 3 日	おひなさまの扇をつくろう	52 人

【常設展示】新規・更新
・おばあちゃんの台所　関連展示「亥の子行事」11 月 9 日～12 月 24 日
正月関連展示
・ディスカバリーボックス　「おせちをつめよう」1 月 4 日～1 月 13 日
・人形劇前　コーナー設置『日本の楽器をひいてみよう』　1 月 3 日～1 月 31 日
・アミメニシキヘビ骨格標本　12 月 24 日～1 月 31 日
・ニホンマムシ骨格標本　　1 月 7 日～
・さがしてみよう　ドアの壁紙張替え　3 月 17 日
・みつけてみよう　生き物のかたち　どんぐりのレプリカ　制作
・のぞいてみよう　魚の世界　コイ・ナマズ　3 月 4 日　入れ替え
・おばちゃんの台所　浴衣・着物の購入

【新任研修】
日時：4 月 18 日
対象：新任職員、新規展示交流員、委託業者
内容：ディスカバリールームの概要説明、各コーナーとディスカバイベントの紹介をした。

【モーニングレクチャー】
実施期間：5 月 21 日～24 日
内容：ディスカバリールームの運営について説明した。

6）E 展示室 おとなのディスカバリー
おとなの好奇心を刺激し、おとなが心から楽しめる展示室として、第 2 期リニューアルにより 2018 年 7 月 6 日に新しく誕生した。より体験的な展示と、博物館で活動している人たちの出会い・集いの場、そしてフィールドへ出たくなるような空間で、繰り返し利用されることを目指した部屋で、しらべるゾーン、質問コーナー、オープンラボ、交流コーナー、滋賀県本コーナーの 5 つのゾーンから構成されている。「しらべるゾーン」の展示更新と交流活動は以下の通りである。

【哺乳類】
2025 年 3 月 3 日 毛皮コーナーのタヌキの毛皮を更新した。
【岩石・鉱物・化石】

2024 年 10 月 24 日 コーナーにある中サイズボックスに、はしかけグループ「大津の岩石調査隊」による調査、採集した岩石により、グループ員が企画・製作した「花崗岩の多様性」を追加した。

【文書】

2025 年 2 月 24 日　フロアートーク「くずし字で自分の名前を書いてみよう」

【植物】

・植物標本

４月　イブキノエンドウ　マメ科

・植物細密画

6 月　はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」杉野由佳さん　植物細密画の世界

スイレン、ノアザミ他 16 作品

11 月　はしかけ「森人」矢原 功さん　植物細密画の世界

晩秋の植物ノブドウ、サネカズラ、ジュズダマ他 20 作品

1 月　出口武洋さん　樹冠トレイル虹景、山桜

・植物写真（大型）

7 月　湖岸の夏風景

9 月　初期の紅葉

10 月　紅葉終盤

12 月　冬の太古の森

2 月　琵琶湖の雪景色（ケヤキ）

3 月　桜とヒヨドリ

・植物（映像）

6 月　夏の植物　36 点　はしかけ「森人」福岡敏雄さん，はしかけ「温故写真」村山和夫さん

9 月　秋の植物　24 点　はしかけ「森人」福岡敏雄さん，はしかけ「温故写真」村山和夫さん

12 月　冬の植物　39 点　はしかけ「森人」福岡敏雄さん，はしかけ「温故写真」村山和夫さん

3 月　春の植物　37 点　はしかけ「森人」福岡敏雄さん，はしかけ「温故写真」村山和夫さん

・ハンズオン

7 月　キカラスウリ、ハス、ヘクソカズラ、ドクダミ、オニグルミ

10 月　キンミズヒキ、ハウチワカエデ、カツラ、イチイガシ、ツユクサ

1 月　ヤツデ、サザンカ、ロウバイ、ナンキンハゼ、オニグルミ、クズ、ヌルデ

3 月　セイオユタンポポ、カラスノエンドウ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、クスノキ、ヒメオドリコソウ、ムラサキサギゴケ、ヤツデ、カツラ、ハウチワカエデ、フウ、メタセコイア

・正面展示

6 月　ホタルに関係する草花、ホテイアオイ

10 月　コイブキアザミ

３月　セイヨウタンポポとカンサイタンポポ（レプリカ）

・正面展示周辺

12 月　クリスマスリース　はしかけ「緑のくすり箱」吉野千栄子さん

・棚（季節の植物：博物館に生える植物・生物）

「オープンラボ」での実演や交流活動等の使用実績は238件あり、詳細は以下の通りである。

日　付	内　容	担　当
4月2日	昆虫標本作り	今田
4月2日	耳石撮影	米田
4月4日	耳石撮影	米田
4月5日	標本観察	川瀬
4月11日	プランクトン観察	鈴木
4月12日	研究打ち合わせ	島本
4月13日	クラウドファンディングリターン	鈴木
4月16日	生態観察池調査	鈴木
4月17日	耳石撮影	米田
4月18日	耳石撮影	米田
4月19日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
4月26日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
4月30日	標本観察	
5月1日	標本作成	桝永
5月2日	ラジオ収録	
5月3日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
5月9日	耳石摘出	米田
5月9日	企画展示打ち合わせ	島本
5月10日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
5月10日	水族会議	菅原
5月10日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
5月11日	クラウドファンディングDeepツアー	
5月13日	アユモドキ保全会議（オンライン）	田畑
5月14日	web会議	半田
5月15日	プランクトン観察	鈴木
5月16日	クラウドファンディングミーティング	桝永
5月17日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
5月17日	水槽動画ミーティング	
5月21日	生態観察池調査	鈴木
5月22日	標本作成	今田
5月23日	オンライン会議	山田
5月24日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
5月24日	孵化仔魚撮影	米田
5月25日	はしかけ打ち合わせ	大久保
5月26日	標本観察	川瀬
5月28日	企画・広報営業課Webミーティング	

5月30日	企画・広報営業課Webミーティング	
5月30日	クラウドファンディングミーティング	吉田
5月31日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
6月1日	企画・広報営業課Webミーティング	
6月2日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
6月4日	クラウドファンディング　広報会議	吉田
6月5日	子どもの水辺打ち合わせ	川瀬
6月6日	Web会議	山田
6月7日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
6月7日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
6月7日	水族会議	菅原
6月11日	施設Zoom会議	萩山
6月11日	耳石撮影	米田
6月14日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
6月14日	研究打ち合わせ	島本
6月16日	BCK	大塚
6月18日	生態観察池調査	鈴木
6月20日	プランクトン観察	鈴木
6月21日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
6月22日	Zoom会議	大槻
6月23日	剥製のスケッチ	はしかけ　淡海スケッチの会
6月25日	施設Zoom会議	萩山
6月25日	地域連携打ち合わせ	金尾
6月26日	研究打ち合わせ	今田
6月27日	研究打ち合わせ	楊
6月28日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
6月28日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
7月1日	試験研究機関Zoom打ち合わせ	今田
7月2日	企画・広報営業課 企業連携	
7月3日	NHK打ち合わせ	鈴木
7月4日	打ち合わせ	奥田
7月5日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
7月5日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
7月5日	環境学習センター打ち合わせ	
7月7日	図鑑作り	川瀬
7月11日	クラウドファンディングミーティング	吉田
7月12日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田

7月12日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
7月12日	試験研究機関Zoomミーティング	今田
7月15日		大塚
7月17日	特別観覧対応	
7月18日	琵琶湖ハンドブック四訂版打ち合わせ	橋本
7月19日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
7月22日	京都大学人文科学研究所研究班研究会	橋本
7月23日	生態観察池調査	鈴木
7月23日	ベクトル打ち合わせ	鈴木
7月23日	自然調査ゼミナール（植物）の打合せ	大槻
7月24日	環境学習センター打ち合わせ	吉田
7月24日	Teams会議	奥田
7月25日	目標設定面談	大槻
7月26日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
7月26日	図鑑作り	川瀬
7月28日	剥製のスケッチ	はしかけ　淡海スケッチの会
7月30日	自然調査ゼミナール（植物）	大槻
7月31日	クラウドファンディングミーティング	吉田
8月2日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
8月2日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
8月4日	標本作成	今田
8月9日	プランクトン観察	鈴木
8月9日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
8月9日	クラウドファンディングミーティング	吉田
8月10日	植物調査	大槻
8月14日	生態観察池調査	鈴木
8月16日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
8月20日	企画・広報営業課Webミーティング	吉田
8月21日	打ち合わせ	島本
8月22日	クラウドファンディングミーティング	吉田
8月23日	愛知川プロジェクト打ち合わせ	島本
8月23日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
8月24日	はしかけ　森人　打ち合わせ	林
8月25日	剥製のスケッチ	はしかけ　淡海スケッチの会
8月25日	標本計測	川瀬
8月26日	びわ博フェス打ち合わせ	橋本

8 月 29 日	はしかけ古琵琶湖（You tube 撮影 web 打ち合わせ）	山川
8 月 29 日	ベクトル打ち合わせ	鈴木
8 月 30 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
8 月 30 日	広報ミーティング	
9 月 3 日	クラウドファンディングミーティング	吉田
9 月 6 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
9 月 6 日	試験研究機関 Zoom ミーティング	今田
9 月 12 日	文化庁説明会	大槻
9 月 13 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
9 月 13 日	オンライン会議	大久保
9 月 15 日	剥製のスケッチ	はしかけ　淡海スケッチの会
9 月 16 日	生態観察池調査	鈴木
9 月 19 日	チャレンジ	
9 月 20 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
9 月 24 日	研究打ち合わせ	島本
9 月 25 日	クラウドファンディングミーティング	吉田
9 月 27 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
10 月 1 日	プランクトン観察	鈴木
10 月 1 日	オンライン会議	田畑
10 月 2 日	オンライン会議	田畑
10 月 2 日	打ち合わせ	奥田
10 月 3 日	博物館学領域会議	渡邊
10 月 4 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
10 月 6 日	はしかけ　植物観察の会	芦谷
10 月 10 日	近畿大学学生打ち合わせ	
10 月 11 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
10 月 18 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
10 月 22 日	生態観察池調査	鈴木
10 月 24 日	取材対応	米田
10 月 25 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
10 月 30 日	プランクトン観察	鈴木
10 月 31 日	標本調査	川瀬
11 月 1 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
11 月 1 日	オンライン会議	田畑
11 月 4 日	標本調査	川瀬
11 月 7 日	クラウドファンディングミーティング	吉田
11 月 7 日	びわ博ラボ	吉田

11 月 8 日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
11 月 8 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
11 月 8 日	財政課担当ヒアリング(Zoom)	妹尾・大槻
11 月 12 日	フィールドレポーター打ち合わせ	川瀬
11 月 12 日	Web 会議	山田
11 月 12 日	クラウドファンディングミーティング	吉田
11 月 14 日	底泥粉砕	菅原
11 月 15 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
11 月 19 日	クラウドファンディングミーティング	吉田
11 月 22 日	プランクトン観察	鈴木
11 月 22 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
11 月 24 日	剥製のスケッチ	はしかけ　淡海スケッチの会
11 月 26 日	生態観察池調査	鈴木
11 月 27 日	JICA オンラインミーティング	半田・濱口
11 月 29 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
11 月 29 日	からすま半島中央地 Web 会議	松岡（由）
11 月 29 日	取材対応	島本・半田
12 月 3 日	Web 会議	山田
12 月 3 日	Web 会議	杉山
12 月 3 日	フィールドレポーター打ち合わせ	川瀬
12 月 4 日	クラウドファンディングミーティング	吉田
12 月 5 日	洛東江打ち合わせ	川瀬
12 月 6 日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
12 月 6 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
12 月 10 日	洛東江打ち合わせ	川瀬
12 月 10 日	サンライズ魚類図鑑談話	川瀬
12 月 11 日	標本調査	川瀬
12 月 13 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
12 月 17 日	研究作業	田畑
12 月 17 日	アソビューWeb 会議	山田・杉山
12 月 20 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
12 月 20 日	ベクトル打ち合わせ	鈴木
12 月 21 日	NHK 打ち合わせ	鈴木
12 月 26 日	プランクトン観察	鈴木
12 月 27 日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
1 月 4 日	標本作成	今田
1 月 7 日	試験研究機関 Zoom ミーティング	今田

1月10日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
1月10日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
1月17日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
1月21日	水族関連業務	田畑
1月22日	打ち合わせ	奥田
1月24日	アソビューWeb会議	杉山
1月24日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
1月26日	剥製のスケッチ	はしかけ　淡海スケッチの会
1月28日	生態観察池調査	鈴木
1月31日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
1月31日	標本調査	川瀬
1月31日	ベクトル打ち合わせ	鈴木
2月1日	顕微鏡観察	松岡
2月3日	精子分析器デモ	菅原
2月4日	岩石撮影	吉田
2月5日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
2月7日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
2月7日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
2月7日	Webミーティング	田畑
2月11日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
2月14日	いこーよWebミーティング	鈴木
2月14日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
2月15日	標本観察	川瀬
2月18日	生態観察池調査	鈴木
2月20日	Zoom会議	鈴木・米田
2月21日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
2月22日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
2月23日	剥製のスケッチ	はしかけ　淡海スケッチの会
2月25日	研究打ち合わせ	島本
2月26日	プランクトン観察	鈴木
2月26日	テレビ撮影対応	鈴木
2月27日	新聞連載打ち合わせ	米田
2月28日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
2月28日	博物館領域会議	金尾
2月28日	ベクトルミーティング	鈴木
3月2日	企画展示打ち合わせ	島本

3月4日	奈良女子大学学生研究打ち合わせ	菅原
3月5日	テレビ撮影対応	鈴木
3月6日	テレビ撮影対応	鈴木
3月6日	水族会議	金尾
3月7日	標本観察	川瀬
3月7日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
3月7日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
3月8日	はしかけ森人	林
3月14日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
3月15日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
3月17日	各種作業	田畑
3月19日	Nutmegセミナー Zoom	杉山
3月21日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
3月23日	剥製のスケッチ	はしかけ　淡海スケッチの会
3月26日	企画展示打ち合わせ・作業	島本
3月27日	テレビ撮影対応	鈴木
3月27日	ベクトルミーティング	鈴木
3月28日	企画・広報営業課ミーティング	桝永
3月29日	企画展示打ち合わせ・作業	島本

7）屋外展示

・樹冠トレイルと屋外展示の森を活用した展示交流活動

樹冠トレイルと屋外展示の森を活用していくことを目的に、はしかけグループ「森人（もりひと）」と協力して交流活動や整備活動を実施した。

展示交流活動では、びわ博フェス2024の中で森のガイドツアーをクイズラリー形式で実施した。また、季節毎の屋外展示の魅力を発信するためのクイズシート「フォレストマスター」を作成し、秋版と冬版をアトリウムとC展示室に設置した。2月14日（金）～3月21日（金）には、屋外展示で見られる植物を中心に構成した「森のリース」を制作し、アトリウムに設置した。屋外展示の整備活動としては、つる植物の管理をはじめとした屋外展示の整備活動を随時行った。

・屋外展示の植栽管理

屋外展示の維持管理のため、植物の刈り込みや草刈り、枯損木の伐採等の植栽管理作業を実施した。

⑵ 企画展示

第32回企画展示「湖底探検II－水中の草原を追う－」

［主旨］

水草（沈水植物）はそれ自体が湖沼の主要な構成メンバーであるだけでなく、水の透明度を上昇させ、魚の産卵や仔稚魚の生息の場になるなど、湖沼の物質循環や生物多様性で重要な役割を担っている。琵琶湖には36種の沈水植物が生息し、その中にはサンネンモやネジレモなどの固有種も含まれる。また他府県では絶滅が危惧されるセンニンモが大量に生息するなど、琵琶湖は水草のサンクチュアリ（聖域）というべき存在である。一方で、琵琶湖南湖では今世紀に入って水草が大量に繁茂することで様々な社会問題が生じ、滋賀

県は毎年除去活動を行っている。驚くべきことに増えているのは主に在来種であり、増加の原因の一つは富栄養化による水の汚れの改善である。また、昭和前半までは水草は肥料として使用され、採取権をめぐって村々が争うほど貴重な存在だった。

琵琶湖と人のより良い共存を考える上で、水草との関係は重要な課題の一つといえる。そこで本企画展では、これまで琵琶湖博物館が行ってきた水草の研究成果をベースに多様な視点から水草の状況や人とのかかわりを紹介し、今後の付き合い方を考える機会を提供する。

① 概要

主催：滋賀県立琵琶湖博物館　共催：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター・滋賀県琵琶湖保全再生課

期間：2024 年 7 月 20 日（土）～11 月 24 日（日）＊実質開催日数 117 日

開館時間：9:30～17:00（16:00 最終入館）

観覧料金：小・中学生 150 円（120 円）、高・大学生 240 円（190 円）、大人 300 円（240 円）

※（　）は団体料金

※企画展示を観覧するには、常設展示の観覧券が必要

観覧者数：43,492 人

展示企画・製作：芳賀裕樹（主担当）、芦谷美奈子（副担当）、林竜馬（副担当）、出口武洋（デザイン）

展示施工：株式会社本庄

展示協力（五十音順・敬称略）：飯田聡子、石川可奈子、井上栄壮、笠井譲、加藤秀雄、加藤将、角野康郎、金尾滋史、佐藤祐一、中村俊之、根来健、稗田真也、細川真理子、三浦励一、山岡眞澄、渡辺圭一、Warwick F. Vincent、大津市歴史博物館、淡海環境保全財団、国際陸水学会（SIL）、独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所、京都大学生態学研究センター、滋賀県漁業協同組合連合会、滋賀県水産試験場、滋賀県立びわ湖フローティングスクール、東洋建設株式会社

② 展示内容

【概要】

企画展のタイトルを「湖底探検 II－水中の草原を追う－」とし、まずは普段目にすることのない水面下の世界を、主に水草が大量に繁茂している南湖を舞台に、水中映像や観測結果によって紹介した。また、人との付き合いの例として現在の除去に関することと過去の利用に関することを取り上げた。さらに水草が実は湖沼の環境保全や生物多様性維持のキープレーヤーとして期待されていること、琵琶湖やその周辺の水域に実に多様な水草が生息し、その保全が重要であることを紹介した。これらの、時には相矛盾するような情報をもとに、来場者がこれからの水草との付き合いを考えるきっかけとなる展示を目指した。

【各コーナー】

第 1 章　水の中に広がる草原

琵琶湖の水草の分布を解説パネルと大型湖底模型で紹介するとともに、野外での姿（草むらになっている状態）を水中写真でした。また、水草の調査用具も併せて展示した。9 月より 360 度カメラで撮影した水上・水中の映像を VR ゴーグルで鑑賞できるコーナーを設けた。

第 2 章　南湖の水草の大繁茂を追う

1990 年代半ば以降に南湖で起こっている水草の大繁茂について、どんな水草が多いのか、年によって増減があるのはなぜか、なぜこんなに多くなったのかを、研究データと水中映像（写真・動画）で紹介した。南湖の水草は 1960－80 年代に富栄養化等による水の濁りが原因でほぼ壊滅状態にあった。ところが富栄養化対策が功を奏し、水質が改善（透明度が上昇）したことと、1992 年以降の水位操作規則の変更により水位が低下したことで水草が回復し、2000 年代には過去にないほど繁茂するようになった。現在繁茂している水草は在来種が中心である。これらの事実を紹介するとともに、2000 年代初頭から続けている水草のモニタリン

グ結果をもとに年による分布の違いや増減、種組成の変化などを紹介した。また、研究で使用した資料を使って乾燥した水草の重さとにおいの体験コーナーを設けた。

第 3 章　増えすぎた水草を刈り取る

水草繁茂で生じている問題を、滋賀県琵琶湖保全再生課、琵琶湖環境科学研究センター、滋賀県水産試験場、特別研究員の根来健氏（上水道）のそれぞれの専門家が解説した。この繁茂に対する滋賀県の除去対策（表層刈取り・根こそぎ除去）と除去した水草の再利用について滋賀県琵琶湖保全再生課が解説を行った。琵琶湖フローティングスクールが作成した根こそぎ除去の実況動画と、水草刈取り船の模型、水草の再利用品の実物展示を行った。

第 4 章　昔、水草は貴重な肥料だった

過剰な繁茂や流れ藻の漂着が社会問題となっているのが南湖の現状だが、昭和 30 年代までは水草は琵琶湖や内湖の沿岸で肥料として使用されており、時にはその採取権をめぐって村同士が争うほどだった。かつての水草採取（藻採り）の様子を文献資料の記述から明らかにするとともに、藻採りの道具（収蔵品）の展示、収蔵品の川舟を使ったジオラマ、藻採りの再現実験ビデオで紹介した。

第 5 章　生態系の中の水草

琵琶湖（南湖）と 2，3 の湖沼を除けば、国内のほとんどの湖沼では水草は衰退または消滅しており、水草の復活・維持のための取り組みが行われている。水草の復活・維持を目指すのは、水草そのものの種の多様性の保存に加え、水質浄化や生物多様性の維持といった機能が期待されるからである。この章では水草に期待されている多様な機能と、他の湖沼の水草復活への取り組みを紹介した。また、琵琶湖での生物多様性維持の例として水鳥による食餌光景の動画、水草表面で見つかった希少な貝類の実物展示を行った。

第 6 章　多様な琵琶湖の水草たち

水草と人の付き合いを考えていく上では、南湖を中心としたマスとしての水草と人の軋轢とは別に、種の多様性の保全という視点も必要である。琵琶湖は固有種 2 種を含む日本有数の多様性を誇る水生植物の生息地であることを、写真を多用した図鑑形式の展示で示した。

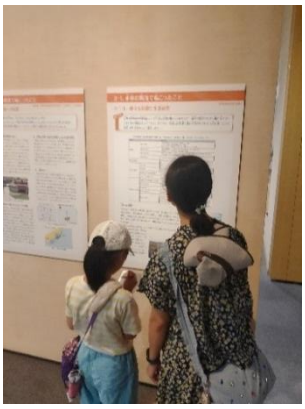
エピローグ　水草のある風景

企画展示を見終わって、人と水草の関係について想像をめぐらすコーナーとして設置した。水草に期待される機能と繁茂により生じる問題といった矛盾、水草をめぐって村同士で争うほど貴重だった時代と、やっかいものにしている現代の間の人の価値観の変転など、展示を振り返る内容を提示して問題を提起した。

【展示の様子】

企画展示入口ゲート：繁茂した水草の上にいる琵琶湖博物館の船「うみんど号」をドローンで撮影したキービジュアルを使用した。

第１章～第２章　左：大型湖底模型と水中映像　右：水草の重さ体験



第３章　水草繁茂の問題と対策の展示　夏休みの研究として熱心にメモを取る姿がみられた

第４章　藻採りの実験ビデオと再現展示　船の上には１回に採取する量（200 貫＝750 kg）を表現した。

③　印刷物

・展示解説書

編集責任者：芳賀裕樹・芦谷美奈子

著者（五十音順）：芦谷美奈子（琵琶湖博物館）・石川可奈子（琵琶湖環境科学研究センター）・井上栄壮（琵琶湖環境科学研究センター）・佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）・滋賀県水産試験場・滋賀県琵琶湖再生保全課・根来健（琵琶湖博物館特別研究員）Warwick F Vincent（カナダ、ラバル大学）

美術・デザイン：出口武洋
仕様：B5 サイズ 128 ページ　総カラーページ　800 部　7 月 20 日発行　販売価格 1,060 円
　　印刷：株式会社デジ・プリント滋賀
・企画展示ポスター　A1 サイズ　表カラー 1,000 枚　6 月 20 日発行
デザイン：出口武洋　印刷：モリワキ印刷
・企画展示チラシ　A4 サイズ　両面カラー　24,000 枚　6 月 20 日発行
デザイン：出口武洋　印刷：モリワキ印刷

④　関連事業
〇オープニングセレモニー
　7 月 20 日（土）9 時 45 分から企画展示室前にて開催。
　出席者：岸本滋賀県副知事、明石琵琶湖環境科学研究センター所長、山本琵琶湖保全再生課長
　式典内容：岸本滋賀県副知事、亀田琵琶湖博物館館長によるテープカット、企画展示案内
〇来場者 4 万人記念式典
　11 月 14 日（日）に来場された方が 4 万人目となり、杲副館長の挨拶、展示解説書および企画展示のオリジナルグッズなど記念品の贈呈などの式典を行った。
〇琵琶湖博物館環境学習センター行事「「環境・ほっと・カフェ　水草について知ろう！【水草のしおり作り】」
　10 月 19 日（土）に琵琶湖博物館で開催。参加者 15 名。胴長を着用して博物館近くの湖に入り、水草の観察と採集を行った後、水草でしおりを作成した。また、希望者を対象に企画展示の解説ツアーを実施した。
〇水族トピック展示「水草展」（7 月 20 日-9 月 1 日）
　企画展示室には水槽を置けないことから、水族企画展示室でトピック展を開催し、表に挙げた 16 種類を展示した。開催当初、子ども達からは魚がいないため、「何も入っていない」という声が聞かれた。そのため、隠しキャラとして、水生昆虫や魚の幼魚を入れるなどの工夫を行った。また、コケ対策として入れたタナゴ類の効果に感心する人もいた。

トピック展示入り口の様子

琵琶湖・淀川水系の固有種ネジレモ

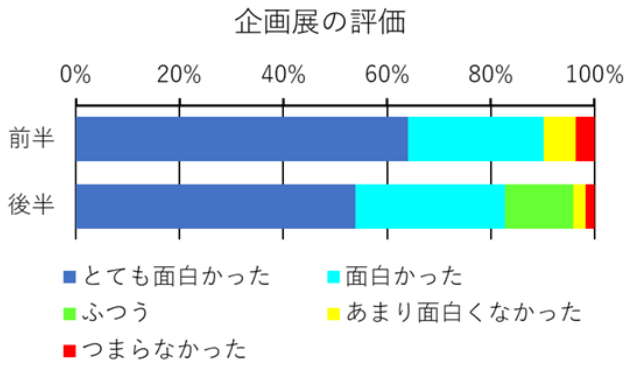
［展示された沈水植物］

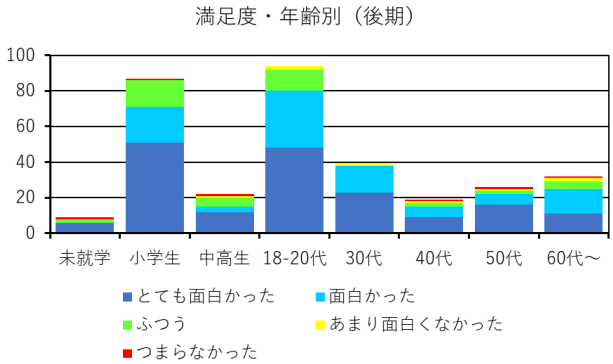
1	ネジレモ	9	オオトリゲモ
2	ミズオオバコ	10	マツモ
3	コウガイモ	11	センニンモ
4	コウガイセキショウモ（外来種）	12	ヤナギモ
5	オオカナダモ（外来種）	13	エビモ
6	コカナダモ（外来種）	14	オオササエビモ
7	クロモ	15	ササバモ
8	イバラモ	16	ホザキノフサモ

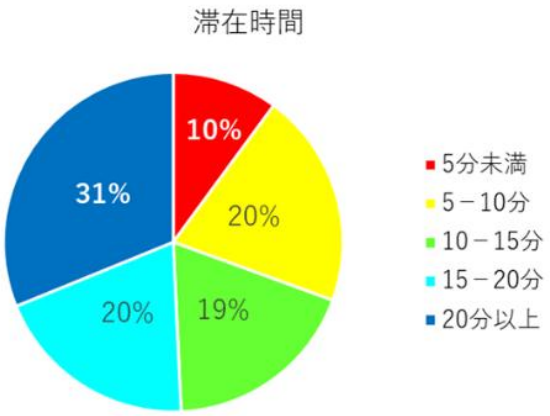
⑤ 目標達成度

本企画展示は主担当者の芳賀と副担当者の芦谷が長年行ってきた琵琶湖の水草（水生植物）についての研究成果を基にしたオリジナリティの高い内容となっている。また、研究で撮りためてきた水中の映像（静止画・動画）も多用しており、目につきにくい水面下の世界を多くの人に示すことができた。展示の主要ターゲットは小学校高学年とした。グラフや専門淡河を含む比較的長文の解説などを積極的に使いつつ全ルビを振るなど、子供向け科学雑誌のスタイルを採用した。この結果、モノよりも情報を中心とした展示となり、来場者の反応には正直不安なところがあった。

来場者の満足度や伝えたい内容に対する反応を知るため、8 月 11 日から 11 月 24 日まで設置型の来場者アンケートを行った。回答数は 608 件で小学生が 25%と最も多く、18 歳―20 代が 22%でこれに次ぐ結果となり、主要ターゲットの反応が良かったことは一つの成果と考えられた。満足度については当初 4 段階評価としていたが、途中で「ふつう」を入れた五段階評価に変更した。「とても面白かった」と「面白かった」の合計が前半（8/11-8/29）は 90%、後半（8/30-11/24）は 83%となった。







後半のアンケートでは満足度の別の指標として滞在時間を尋ねた。博物館の単位面積当たり滞在時間に企画展示室の面積を乗じて得られた 13 分を合格ライン（常設展示室並みに面白かった）としたところ、80%が合格ライン前後かそれ以上の時間滞在したことが明らかになった、また、興味を持った展示や情報についても尋ねたところ、データや解説が中心の展示箇所もまんべんなく選ばれていた。また、自由記述欄には「水草の多様性があることが知れた。他の湖では水草がなくなっていることなど知れて、とても面白かったです」「藻採りを実際に行ったビデオは楽しかった。琵琶湖周辺の人々が昔から湖と共存してきたことが良く分かった」などの展示をみての発見のほか、「大量に増えている水草をどのように活用していくのか、家でも調べたいと感じた」「こういった問題を解決できる案を考えられる人になりたい」など興味を持って取り組みたいといった意見がみられた。以上のアンケート結果から、見えにくい水面下の水草の世界を理解し、水草との共存を考えるきっかけとなる、という本企画展示の目的はかなり達成されたと考えられる。

表　興味を持った展示内容（自由記述方式の回答より抽出）

第1章	水中の草原	27	第4章　むかし水草は貴重な肥料だった		48
内訳	VR	1	内訳	藻採りの歴史	35
	水草の分布	17		藻採りの道具	10
	琵琶湖の形	4		藻採りのビデオ	3
	水草の上のサギ	3	第5章　水草に期待される多様な役割		30
	調査用具	2	内訳	水草の役割	18
第2章　南湖の水草繁茂を追う		102		ザリガニ（環境省のマンガ）	6
内訳	南湖の繁茂状況	11		ほかの湖の水草復活活動	6
	南湖の水草の歴史的変遷	27	第6章　多様な琵琶湖の水草たち		50
	水草増加の原因	6	内訳	多様な水草（分類・種類・形など）	25
	モニタリング結果（組成・季節／年変動）	37		在来種	1
	水草の重さ	15		外来種	7
	水草のにおい	6		絶滅危惧種	3
第3章　増えすぎた水草を刈り取る		69		個別の水草	6
内訳	水草繁茂の影響	29		標本	8
	除去事業	19	全体		
	水草の再利用	21		水草は多くても少なくても困る	17

(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

『鉱物・化石展 2024　大地に夢を掘る』

期間：令和 6 年（2024 年）4 月 20 日（土）～6 月 2 日（日）（開催期間：39 日）

主催（共催）：湖国もぐらの会・琵琶湖博物館

担当：半田直人、山川千代美、里口保文、林竜馬

場所：琵琶湖博物館　企画展示室

展示出展者：20 組

内容：滋賀県やその周辺で活動する鉱物・化石等の愛好家が集結して、自ら展示を行う第 5 弾。今回の展示では、琵琶湖地域もしくはその関連地域で採取された鉱物や化石、およびそれらの研究に関わった人々の活動の歴史など、地学に関連する標本・人物や研究結果を展示した。この展示を通して、過去の琵琶湖やその周辺の成り立ちを伝え、そこに生息していた生き物の様子や地形を作る地質について学ぶ機会を目指した。また、日によっては展示室で出展者が、自身の展示について説明をして来館者と交流した。また環境学習センターブースを設置して、琵琶湖博物館環境学習センターの事業を紹介した。

　主催者の「湖国もぐらの会」は、琵琶湖博物館開館以前から、滋賀県周辺で化石、鉱物などの採取や研究、地層の調査などを自ら行ったり、観察会などを行ったりしてきた個人や団体が、展示会などを開く時に集まる任意団体である。これまでに、琵琶湖博物館での鉱物・化石展としてギャラリー展示を４回にわたって行ってきた。

取材対応：

読売新聞「化石や鉱物 奥深き世界」（2024 年 4 月 30 日）

京都新聞「ひと往来・江戸時代の奇石愛好家木内石亭の収集品を追跡する　同好の先人へ敬意込め」（2024 年 5 月 9 日）

京都新聞「鉱物・化石 夢追った成果」（2024 年 5 月 21 日）

展示室のようす

2) トピック展示等

① 第 48 回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール図画作品展

期間：2024 年 3 月 20 日（水）～4 月 7 日（日）　場所：アトリウム（エスカレーター側）

主催：ＪＡ滋賀中央会　　共催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

② 2024 年度日本トンボ学会大会（滋賀大会）連携展示

期間：2024 年 11 月 9 日（土）～10 日（日）

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク、瀬田公園調査グループ　　共催：日本トンボ学会、琵琶湖博物館

場所：アトリウム

③ びわ湖と人々を支える「令和 6 年度試験研究機関研究発表会」

期間：2024 年 11 月 23 日（土）～12 月 15 日（日）

主催：滋賀県試験研究機関連絡会議　　共催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

④「淡海こどもエコクラブ　絵日記・壁新聞コンクール」

期間： 2024 年 12 月 7 日（土）～2025 年 1 月 13 日（月・祝）の予定

主催：琵琶湖博物館 環境学習センター

場所：企画展示室

⑤「世界湖沼の日」制定記念展示：琵琶湖博物館と海外とのつながり

期間：2025 年 1 月 4 日（土）～3 月 31 日（月）

主催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

⑥「トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え～」

期間：2025 年 1 月 28 日（火）～2 月 24 日（月・祝）

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク（BBN）　共催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

　＊関連イベント：2 月 1 日（土）・2 月 23 日（日）　　場所：アトリウム、企画展示室

⑦「土倉の森博」

期間：2025 年 3 月 4 日（火）～3 月 25 日（火）

主催：ながはま森林マッチングセンター　　共催：琵琶湖博物館
場所：アトリウム
⑧ 実現しよう！「世界湖沼デー」制定プロジェクト
期間：2025 年 3 月 18 日（火）～3 月 31 日（月）予定
主催：草津市立松原中学校　　共催：琵琶湖博物館
場所：アトリウム
⑨ 第 49 回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール図画作品展
期間：2025 年 3 月 27 日（木）～4 月 13 日（日）
主催：ＪＡ滋賀中央会　　共催：琵琶湖博物館
場所：アトリウム

2. 展示交流

(1) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1）安全確保、2）快適な環境の提供、3）展示室での発見のサポート（展示交流）といった 3 つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素である。その一層の充実をはかるために「展示交流員と話そう」を実施している。本年度は従来通り 12～3 月にかけて実施した。

展示交流員が普段の展示交流にある「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで行った。実施前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備をした。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫をした。

実施期間：2024 年 12 月 1 日～2025 年 3 月 20 日
実施人数：展示交流員　28 名
実施回数：展示室での来館者の状況により随時実施

【実施内容】

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
A 展示室	坂上　麻里	天然記念物になったアケボノゾウ化石	うつり変わる生き物
	橋本　友美	アケボノゾウ	うつり変わる生き物
B 展示室	奥村　恵子	マイブーム　「縄文」	森ゾーン
	木下　睦司	広重の近江八景図と現風景の比較	湖ゾーン
	吉田　史子	大雨だ！　びわ湖が大洪水！　その時村人たちは？	明治 29 年の大洪水
	満田　千秋	コンブも⁉　カズノコも⁉　丸子船が運んだ名産品	丸子船が運んだ名産品
	石塚　幸子	ここは何処？私は誰？つづらお崎の土器のひとりごと	森ゾーン
	中西　多可子	近江の食文化と芭蕉	里ゾーン
C 展示室	今泉　美保	”赤トンボ”　を見てみよう	生き物コレクション

	林　克子	昭和のくらし	冨江家
	片岡　典子	色とりどりオオセンチコガネ　あなたはどこの子？？？？	生き物コレクション
	藤村　美佐子	カヤネズミ	ヨシ原へ行こう
	西村　尚代	日本一大きな湖	琵琶湖へ出かけよう
	大原　幸子	琵琶期の名前の由来	琵琶湖へ出かけよう
	川崎　明美	海なし県にたどり着いた海浜植物はどこから来たのかな？	生き物コレクション　植物コーナー
	北中　真由美	カヤネズミ	ヨシ原へ行こう
	山内　秋美	かめについて	かめ水槽
水族展示	木村　寿枝	スクミリンゴガイ	外来種水槽
	佐野　絢	特定外来生物について(水族編)	外来種水槽　中流域水槽
	福本　嘉子	琵琶湖のプランクトンの四季	マイクロバー
	西村　典子	水鳥　渡り鳥　ようこそ琵琶湖へ	水鳥水槽
	安藤　慶子	ドジョウ	ドジョウ水槽
	入江　麻衣	オオサンショウウオ	中流域水槽
	山本　裕子	バイカルアザラシ	バイカルアザラシ水槽
	安部　恵子	オオサンショウウオ	中流域水槽
ディスカバリールーム	板垣　真由美	つれてこられただけなのに・・・アメリカザリガニ	ザリガニ展示
おとなのディスカバリー	斉藤　文子	花崗岩を比べてみよう	岩石コーナー
	田中　美紀	キラキラ光る虫のひみつ(モルフォ蝶を中心に)	昆虫コーナー

6　館外連携

1. 博物館連携

博物館間の連携を深め、当館の活動の充実に資する目的で、下記の団体に加盟している。加盟館間でのメーリングリスト等を用いた情報交換や、研修の実施、連携した事業の実施等が行われている。2024 年度の当館による主な活動状況を下記に示す。

(1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の 70 館（2025 年 3 月現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の 3 つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年 3 回の研修・情報交換事業、5 年に 1 度の記念事業などを実施している。当館は研修委員会、広報委員会に各 1 名が参画し、活動の一翼を担っている。

日時	活動内容等	会場	当館からの出席者
（通年）	理事：亀田佳代子 研修委員：橋本道範 広報委員：加藤秀雄	―	―
4 月 24 日	第 1 回広報委員会	琵琶湖文化館	加藤
５月３１日	第 1 回理事会	草津宿街道交流館	亀田
6 月 26 日	令和 6 年度滋賀県博物館協議会総会	栗東歴史民俗博物館	亀田 山田剛資
7 月 31 日	第 2 回研修委員会	安土城考古博物館	橋本
９月２６日	第 2 回理事会	オンライン	亀田
10 月 30 日	第３回理事会	滋賀県立美術館・オンライン	山川
11 月 7 日	令和 6 年度滋賀県博物館協議会第 2 回総会	滋賀県立美術館・オンライン	山川
11 月 12 日	第 2 回広報委員会	観峰館	加藤
2 月 7 日	第４回研修委員会	みなくち子どもの森	橋本
２月１８日	第 4 回理事会	滋賀県立美術館	亀田
2 月 14 日 2 月 27 日	文化庁「令和 6 年度博物館機能強化推進事（専門的人材派遣による博物館支援と職員の資質向上に関する調査研究）」にて下記研修を実施。 講師：内田剛史氏（早稲田システム開発株式会社代表取締役） 集合研修　博物館のデジタルアーカイブ　基礎編／応用編 集合研修　個別相談会　デジタルアーカイブの進め方について	琵琶湖博物館セミナー室	楊、大槻、加藤、今田、 大久保

(2) 日本博物館協会

日時	内容等	会場	当館からの出席者
（通年）	参与：亀田佳代子	―	―
６ 月 ～ 1 月	大規模災害にかかる被災博物館等の復興支援募金における募金箱の設置。30600 円を募金。	―	―
7 月 2 日	令和 6 年度日本博物館協会参与会		
7 月 3 日	令和 6 年度全国博物館長会議（第 31 回）	文部科学省	亀田
7 月	「全国博物館職員録」令和 6 年度版への情報提供	―	―
8 月	「令和 5 年度博物館園活動調査」への情報提供	―	―
11 月 27 日 ～ 29 日	第 72 回全国博物館大会（長野県松本市） テーマ：「文化観光と博物館～文化の魅力を伝えるために博物館ができること～	まつもと市民芸術館主ホール他	亀田、大久保
1 月	「博物館総合調査」への情報提供	―	―

(3) 全国科学博物館協議会

日時	内容等	会場	当館からの出席者
7 月 4 日	令和 6 年度第 1 回全国科学博物館協議会総会	国立科学博物館講堂・オンライン	亀田（オンライン）
1 月	全科協 News Vol.55 No.1（特集：外部資金活用の取り組み）に、下記を掲載。 ・山川千代美・亀田佳代子「博物館活動への参加と理解を促進する博物館活動への参加と理解を促進する仕組みとしての外部資金活用制度」	―	―
2 月 12 日	令和６年度第２回全国科学博物館協議会総会	兵庫県立人と自然の博物館ホロンピアホール・オンライン	亀田
2 月 13 日 ～14 日	第 32 回研究発表大会「博物館が提供する様々な経験-教育、愉しみ、省察、知識共有の観点から」 【当館からの研究発表】 ・亀田佳代子・加藤秀雄・大槻達郎「地理情報システム(GIS) を用いた生物分布マップ「びわはく GIS」による鳥類分布情報の蓄積と活用」 ・金尾滋史「博物館に寄せられる質問の自然史情報としての意義」	兵庫県立人と自然の博物館・オンライン	亀田、金尾、渡邉

(4) 日本動物園水族館協会（JAZA）

日時	内容等	場所	参加・担当者
（通年）	環境省と日本動物園水族館協会の「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づく絶滅危倶種の保全に係る取組の実施に関する協力として、タンゴスジシマドジョウの飼育・繁殖・他館への技術指導。	―	田畑
（通年）	野生動物保護募金における募金箱の設置。	―	―
（通年）	生物多様性委員会魚類作業部会副類別調整者	―	田畑
（通年）	生物多様性委員会魚類作業部会種別管理者（管理種：アユモドキ・ネコギギ・イタセンパラ・イチモンジタナゴ、維持種：ハリヨ、調査種：タンゴスジシマドジョウ）	―	田畑・川瀬・金尾
4 月 16 日～17 日	令和６年度第１回近畿ブロック園館長会議	アドベンチャーワールド	杲、田畑
5 月 28 日	令和６年度日本動物園水族館協会通常総会	有楽町朝日ホール	亀田、田畑
5 月	日本動物園水族館協会年報（2023 年度）への情報提供	―	―
6 月 26 日～27 日	第 90 回近畿ブロック水族館飼育係研修会 【当館からの研究発表】 ・山口久瑠実・川瀬成吾「2023 年水族トピック展「君の推しはどれ！」の開催について」 ・今北大介・田畑諒一「琵琶湖博物館トンネル水槽の展示復旧とプチリニューアル」	鳥羽水族館	田畑、今北大介（水族飼育員）、山口久瑠実（水族飼育員）
8 月 28 日	令和 6 年度第 1 回希少野生動物の生息域外保全に関する連絡会議	オンライン	田畑
10 月 2 日	タンゴスジシマドジョウに関する環境省・日本動物園水族館協会との会議	オンライン	田畑
10 月 3 日～4 日	日本動物園水族館協会生物多様性委員会魚類作業部会および日本水族館協会と JAZA の連絡会議	名古屋港水族館	田畑
10 月 23 日	近畿ブロック事務主任者会議 当館からの出席：	海遊館	山田剛資、松岡宏樹
10 月 28 日～29 日	第２回近畿ブロック園館長会議	天王寺動物園	亀田、松岡
11 月 14 日～15 日	2024 年度水族館・教育事業―参加型研修会（ワークショップ）への参加	さけのふるさと千歳水族館	田畑
11 月 20 日～21 日	第 34 回日本動物園水族館設備会議 ・宿題調査アンケート「動物園水族館におけ	名古屋港水族館	田畑

	る施設・設備の維持管理、修繕・改修対応に関する課題について」への情報提供 【当館からの研究発表】 ・田畑諒一「躯体水槽アクリルパネル交換工事の報告」		
12 月 17 日～19 日	第 72 回動物園技術者研究会 ・宿題調査アンケート「動物園水族館における広報について」への情報提供	静岡市立日本平動物園	―
1 月 15 日	飼育技師資格認定試験への試験官派遣	京都水族館	山川
1 月 20 日～21 日	第 69 回水族館技術者研究会 ・宿題調査アンケート「冷水性甲殻類の飼育について」への情報提供 【当館からの研究発表】 ・中江雅典・川瀬成吾・向井貴彦「希少魚の系統保存個体における側線系の変化について（予報）」 ・杉野潤・長田智生・武富鷹矢・田畑諒一「飼育員による展示水槽レイアウトの大幅なリニューアル」 ・山口久瑠実・川瀬成吾「アンケートを用いたトピック展「君の推しはどれ！」の展示効果の分析」	京都水族館	川瀬、杉野潤（水族飼育員）、山口久瑠実（水族飼育員）
1 月 28 日	タンゴスジシマドジョウの生息域外保全に関する参加園館拡大の交渉、技術指導	城崎マリンワールド	田畑
1 月	「バイカルアザラシ国内血統登録調査」への情報提供	―	―
1 月	「飼育動物数調査（2024 年度）」への情報提供	―	―
1 月	「魚類種別管理報告」への情報提供（15 種）および報告書提出（6 種）	―	―
2 月 4 日	タンゴスジシマドジョウの生息域外保全に関する生体の分譲	―	田畑
2 月 4 日～5 日	第 50 回海獣技術者研究会 ・宿題調査アンケート「水棲生物における環境エンリッチメントの提供およびその評価の実施の現状」への情報提供	ふくしま海洋科学館	松岡、武富鷹矢（水族飼育員）
2 月 7 日	ハカタスジシマドジョウに関する環境省・日本動物園水族館協会との会議	オンライン	田畑
3 月	環境省と日本動物園水族館協会の「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づく絶滅危倶種の保全に係る取組の実施に関する協力として、年間報告書および次年度計画の提出。	―	田畑

(5) その他

日時	内容等	会場	担当・出席者
（通年）	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 機関会員および近畿部会会員	―	橋本
6 月 22 日	第 43 回自然史標本情報発信に関する研究会 －自然史系博物館資料のデジタルアーカイブ化と公開－ 主催：国立科学博物館　協力：NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク 【当館からの研究発表】 大槻達郎「地域博物館の DA 関連の活動例 ― 琵琶博の取り組み」	オンライン	大槻
10 月 9 日	第 30 回自然史系博物館館長懇談会	国立科学博物館筑波研究施設	亀田
10 月 15 日	美の魅力発信５館ネットワーク職員交流会	滋賀県立美術館	山川、大久保
11 月 29 日	令和 6 年度国立文化財機構文化財防災センター研修「民俗資料の応急処置ワークショップ」	国立民族学博物館	加藤

・西日本自然史系博物館ネットワークの事業

琵琶湖博物館は西日本自然史系博物館ネットワーク（事務局：大阪自然史博物館）に参画しており、様々な行事等にも協力している。特に、令和５年度（2023 年度）からは文化芸術振興費助成金による INNOVATE MUSEUM 事業を行っている.

当館では、資料デジタルイメージング拠点整備の運用と拡充を目指し、植物標本撮影のワークフローの実践を行うために撮影装置を設置し、歴史的・文化的価値をもつ標本群である橋本忠太郎さく葉標本の画像作成を行った。2023 年度に撮影装置の設置および実践を行い、2,000 点の画像撮影を行った。2024 年度にはさらに当館にとって、効率よく画像撮影ができるシステムを改良しワークフローを構築して、10,233 点の画像撮影を行った。

今後も歴史的・文化的価値をもつ自然史標本の公開に向けて、植物以外の他の分野にも標本撮影のワークフローの実践を試み、デジタル画像を作成し公開することを進める予定である。

2. 企業連携

博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、これまで企業連携の強化を図ってきた。2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に位置付けられた以降は、連携事業が戻りつつある。

○ 連携事業

2024 年度は、次のような連携事業を展開した。

月　日	企業・団体名	連携内容
６月 20 日	株式会社日立建機ティエラ	環境学習会（琵琶湖の固有種）　館内見学
８月１日	ダイハツ工業株式会社	夏休み環境学習会（水草について）　館内見学
8 月３日	株式会社村田製作所	環境学習会(目に見える微生物たちのパワー)
8 月 10 日	環境創研株式会社	環境学習会(台所の水はどこへ行くの)
11 月 17 日	株式会社 SCREEN ホールディングス	びわ湖の微生物観察会(琵琶博フェス)
11 月 17 日	株式会社レゾナック	CO2 削減とドライアイスを使った実験(琵琶博フェス)
3 月 27 日	ダイハツ工業株式会社	春休み環境学習会（草むらの生き物）館内見学

3. 研修・実習

今年度は下記の研修・視察を対応した。また視察受入の方針として、原則として博物館事業に関すること、ないし県施策に関することを目的とした依頼を承認した。

(1) 海外からの視察・研修

＊JICA；(独法) 国際協力機構

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
5	30	中国湖南省政府代表団	滋賀県総合企画部国際課	19	亀田・杲・楊
5	31	中国湖南省人民対外友好協会代表団	滋賀県総合企画部国際課	5	芳賀
6	12	中国湖南省湘江新区代表団	滋賀県総合企画部国際課	12	亀田・杲・芳賀・楊
7	7	ASEAN のモデルとなる低炭素社会実現に向けた人材育成とネットワーク拠点の機能強化プロジェクト	（公財）京都市環境保全活動推進員会	18	スミス
9	27	インドネシア共和国公共事業・国民住宅大臣一行	琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	14	芳賀・桝永
1	28	JICA 国別研修「バングラディッシュ」	パシフィックコンサルタンツ株式会社	13	濱口・半田

(2) 視察対応（国内）　合計 12 件

月	日	視察者	人数	対応者
5	13	滋賀県史編さん編集委員会事務局	4	加藤
5	22	政策研究大学院大学、韓国地方行政研究院	13	山川

7	8	滋賀県史編さん編集会議事務局	3	加藤
7	12	社会福祉法人近江ふるさと会	11	山川・妹尾
7	18	東京都中央区地域活性化対策特別委員会	11	山川・半田
7	25	独立行政法人国立科学博物館	1	桝永
8	7	北方領土返還要求運動滋賀県会議	7	半田
8	9	静岡市議会観光文化経済委員会	10	芳賀・半田
8	28	鹿児島県議会環境厚生員会	12	芳賀・半田
8	29	滋賀県庁インターンシップ事業実習	5	西川
9	10	琵琶湖保全再生推進協議会幹事会	52	芳賀・半田
11	15	滋賀県石材組合連合会	20	加藤

(3) 博物館実習

・期間：2024 年 8 月 19 日（月）～8 月 23 日（金）までの 5 日間

大学生が学芸員資格を取得するために実習を開催した。国内 9 大学 9 名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針とそれに基づく資料整備、広報、展示などの活動について、講義および実習を行った。

・実習日程と内容

	午前	午後
8/19（月）	開講式 実習ガイダンス・諸注意実習生自己紹介 講義「琵琶湖博物館の研究活動」 講義「琵琶湖博物館の事業活動」	施設見学ガイダンス セミナー室集合、総括
8/20（火）	講義「博物館の展示：意義・制作・評価」 講義「博物館とユニバーサルデザイン」 実習「展示キャプションを作る 1」	実習「展示キャプションを作る 2」 実習「展示キャプションを作る 3」 全体の講評
8/21（水）	講義「博物館資料とその整理について」 講義「IPM について」 収蔵庫見学	各資料分野に分かれて実習
8/22（木）	講義・実習「企画展示の作り方」 講義「企画・広報営業課の業務」	実習：SNS 発信をしよう 発表と意見聴取、講評
8/23（金）	講義「環境学習・交流事業について」 講義「地域連携、FR、はしかけ、クエリ・質問コーナー」 講義・実習「環境学習関連」	講義・実習「学校連携関連」 授与式・閉講式

・実習生の大学と人数：9 大学 9 名

所属	人数	所属	人数
同志社女子大学	1	京都産業大学	1
東海大学	1	京都府立大学	1
滋賀県立大学	1	龍谷大学	1
京都文教大学	1	大谷大学	1
宮崎大学	1		

4. 共催事業　合計 10 件

日時	タイトル	依頼者	担当	内容
5 月 26 日	琵琶湖外来魚駆除の日	琵琶湖を戻す会	川瀬	イベント
6 月 16 日	野鳥の会交流行事	日本野鳥の会滋賀	亀田	講演会
9 月 29 日	令和 6 年度景観づくりチャレンジ隊	草津市都市計画課景観係	山川・半田	イベント
11 月 9 日、10 日	2024 年度日本トンボ学会大会	日本トンボ学会	今田	研究会
11 月 30 日	大人のびわ湖エコスクールプレ体験会！	おうみ未来塾 17 期生「翔んでびわ湖」	渡邉・半田	イベント
1 月 19 日	蜻蛉研究会第 50 回総会・第 28 回研究発表会	蜻蛉研究会	今田	研究会
1 月 28 日～2 月 23 日	トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！～	生物多様性びわ湖ネットワーク	今田	展示
2 月 1 日、2 日	第 20 回外来魚情報交換会	琵琶湖を戻す会	田畑	講演会
2 月 16 日	令和 6 年度野生動物講演会	公益財団法人滋賀県獣医師会	松岡（由）	講演会
3 月 16 日	令和 6 年度ラムサールびわっこ大使事業活動報告会	琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	半田	講演会

5. 地域発見！参加型移動博物館　合計 3 件

移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

開催日	イベント名	会場	運営者
9 月 21 日	「おいでーな滋賀体験フェア」（イナズマロックフェス）	烏丸半島芝生広場	琵琶湖博物館
11 月 9 日	近畿「子どもの水辺」交流会 in 滋賀 2024	大津港、ビアンカ船上	近畿「子どもの水辺」交流会実行委員会
11 月 23 日	びわこのちから展示	ビバシティ彦根センターモール	琵琶湖博物館

・大阪・関西万博「滋賀県ブース」への協力

令和 7 年に実施される大阪・関西万博の関西パビリオン内に出展される「滋賀県ブース」の展示で使用す

る琵琶湖の魚を映像で紹介するための資料映像として、博物館の魚類標本や魚類複製品、水族展示室の水槽についての撮影に協力した。

Ⅱ　利用状況

1. 令和６年度入館者数

(1) 総入館者数

期　　間：2024年4月1日～2025年3月31日
合　　計：526,918 人
開館日数：　　310 日
一日平均：　1,700 人
月　平均：　43,910 人

入館者区分別内訳

区分	個人（人）	団体（人）	合計（人）	構成比（%）
未就学児	88,842	2,071	90,913	17.3
小学生・中学生	74,237	40,591	114,828	21.8
高校生（１月より分類開始）	1,209	326	1,535	0.3
大学生	15,071	6,353	21,424	4.1
一般	269,579	28,639	298,218	56,6
合計	448,938	77,980	526,918	100.0

年月	開館日数	有料入館（人）				無料入館（人）												総計（人）	1日当り平均（人）
		一般	（有料高校生含む大学生）	（企画展）小中学生	有料計	65歳以上	（12月以前の介護者含む）障害者	（R7・1～）（要介護含む）介護者	サンデー家族ふれあい	体験学習	こどもの日	行事引率者	幼保学等行事	（R7・1～）高校生	小中学生	その他	無料計		
2024.4	27	13,414	2,429	0	15,843	988	858	0	1,019	11	0	0	0	0	6,588	9,021	18,485	34,328	1,271
5	27	18,838	1,568	0	20,406	1,507	1,226	0	970	15	1,690	109	0	0	10,861	11,046	27,424	47,830	1,771
6	26	17,303	999	0	18,302	1,162	1,173	0	1,358	20	0	186	1	0	8,967	11,823	24,690	42,992	1,654
7	28	22,536	1,892	1,223	25,651	1,383	1,723	0	1,258	11	0	60	151	0	10,532	13,610	28,728	54,379	1,942
8	30	39,461	4,054	3,694	47,209	2,129	2,648	0	1,520	28	0	45	17	0	17,948	20,455	44,790	91,999	3,067
9	23	21,540	2,319	880	24,739	790	1,653	0	1,188	23	0	150	746	0	8,073	12,974	25,597	50,336	2,189
10	28	17,647	1,533	623	19,803	857	1,799	0	899	13	0	244	2,368	0	8,060	10,249	24,489	44,292	1,582
11	27	15,318	1,092	834	17,244	761	1,598	0	0	7	4,914	469	3,188	0	11,849	9,841	32,627	49,871	1,847
12	21	7,391	875	0	8,266	360	601	0	679	6	0	67	0	0	4,013	5,606	11,332	19,598	933
2025.1	21	9,305	607	0	9,912	505	424	546	876	0	0	113	1,173	175	2,924	7,497	14,233	24,145	1,150
2	25	10,344	1,099	0	11,443	541	455	584	930	0	0	116	875	213	3,118	8,357	15,189	26,632	1,065
3	27	16,868	2,253	0	19,121	838	637	943	1,042	0	0	104	417	705	6,350	10,359	21,395	40,516	1,501
計	310	209,965	20,720	7,254	237,939	11,821	14,795	2,073	11,739	134	6,604	1,663	8,936	1,093	99,283	130,838	288,979	526,918	1,700

(2) 学校等入館者数

年　月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総　　計	
		学　校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学 校数	人数	学校数	人数	学　校数	人数
2024.4	全	5	439	11	938	7	1,735	0	0	0	0	23	3,112
	県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	全	41	3,080	16	2,247	1	254	1	35	2	124	61	5,740
	県	18	1,070	1	380	0	0	1	35	0	0	20	1,485
6	全	60	3,845	6	815	1	14	3	43	2	53	72	4,770
	県	37	1,856	1	115	0	0	2	15	0	0	40	1,986
7	全	15	1,183	13	1,238	6	573	0	0	6	236	40	3,230
	県	1	144	3	203	3	85	0	0	0	0	7	432
8	全	0	0	5	157	2	535	0	0	2	59	9	751
	県	0	0	2	20	0	0	0	0	1	37	3	57
9	全	33	2,713	5	265	5	432	7	132	3	102	53	3,644
	県	9	690	2	34	3	81	3	59	0	0	17	864
10	全	64	4,618	6	394	4	253	14	349	9	286	97	5,900
	県	36	2,280	3	183	2	53	5	99	1	26	47	2,641
11	全	98	7,601	4	521	3	98	4	80	2	263	111	8,563
	県	54	3,770	3	288	2	47	2	30	1	250	62	4,385
12	全	27	2,124	2	141	2	172	1	11	4	329	36	2,777
	県	13	1,082	0	0	0	0	1	11	4	329	18	1,422
2025.1	全	10	985	2	267	1	36	5	106	1	63	19	1,457
	県	9	868	1	226	1	36	5	106	0	0	16	1,236
2	全	12	840	0	0	0	0	1	11	2	153	15	1,004
	県	11	705	0	0	0	0	1	11	1	69	13	785
3	全	2	10	1	24	2	20	2	11	2	51	9	116
	県	2	10	0	0	0	0	2	11	0	0	4	21
合計	全	367	27,438	71	7,007	34	4,122	38	778	35	1,719	545	41,064
	県	190	12,475	16	1,449	11	302	22	377	8	711	247	15,314

(3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2024.4	14,943	6,125	13,260	34,328
5	28,549	5,074	14,207	47,830
6	19,727	10,948	12,317	42,992
7	22,369	10,452	21,558	54,379
8	25,097	13,977	52,925	91,999
9	28,402	9,305	12,629	50,336
10	14,407	8,167	21,718	44,292
11	19,109	9,681	21,081	49,871
12	8,715	3,768	7,115	19,598
2025.1	11,172	7,189	5,784	24,145
2	12,884	5,215	8,533	26,632
3	15,006	9,936	15,574	40,516
計	220,380	99,837	206,701	526,918
構成割合	41.82%	18.95%	39.23%	100.00%

2. 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズを的確に把握した博物館活動や運営を基盤とした利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケート調査を毎年８月および３月に実施している。本年度のアンケート調査の実施状況および結果は、下記のとおりである。

(1) 本年度の実施状況

・日時

年度ごとの比較を可能とするため、例年通り８月末および３月末の金曜日～日曜日の３日間実施した。

第１回 2024 年８月 23 日（金）～25 日（日）

第２回 2025 年３月 21 日（金）～23 日（日）

2023 年２月 10 日の水槽破損事故の影響をうけ、トンネル水槽は復旧したものの、水族展示の一部（工事中のビワコオオナマズ水槽、コアユ水槽付近）が閉鎖されており、導線が通常とは異なった。第１回調査（8 月）時は 企画展示「湖底探検Ⅱ－水中の草原を追う－」が、第２回調査（3 月）時はアトリウムで「土倉の森博」「世界湖沼の日制定記念展示 「琵琶湖博物館と海外とのつながり」」等が開催中だった。

・方法

第１回は館内４か所（エントランス、アトリウム、おとなのディスカバリー、C 展示室研究スタジアム）、第２回は館内５か所（エントランス、アトリウム、おとなのディスカバリー、C 展示室研究スタジアム、ディスカバリールーム）にアンケート用紙を置いた記入台を設置した。館員および展示交流員が協力を呼びかけ、観覧者が自ら回答した。 第２回調査においては、調査票に QR コードを印刷し、可能であれば各自のスマホから「しがネット受付」のアンケート機能で回答いただくよう呼び掛けた。

(2) 回答数および回答率

回答数及び回答率(2024年8月23日～25日)

	23日(金)	24日(土)	25日(日)	計
入館者数	2,075	3,032	3,902	9,009
回答数	61	109	113	283
回答率（回答者数／入館者数）	2.9%	3.6%	2.9%	3.1%

回答数及び回答率(2025年3月21日～23日)

	23日(金)	24日(土)	25日(日)	ウェブ回答	計
入館者数	951	1,921	2,437		5,309
回答数	46	64	69	23	202
回答率（回答者数／入館者数）	4.8%	3.3%	2.8%		3.8%

（3）回答者の属性

各回の調査における回答者の年齢層は表の通りであった。なお、本年度の入館者数における入館者区分別内訳（p.）は、個人団体の総計で、未就学児 12.2%、小中学生 24.6%、高校生 0.0%、大学生 3.7%、一般 59.5%となっている。未就学児・小中学生を主な対象としたアンケート調査票になっていなかったため、未就学児・小中学生に該当する「10 歳未満」および「10～14 歳」の回答比率（第 1 回は計 13.8%、第 2 回は計 11.9%）が実際の来館者比率よりも低くなっている。

表1　回答者の年齢

	年齢	10歳未満	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	計
第1回調査	回答数	18	21	10	48	59	53	26	25	13	6	4	283
	%	6.4%	7.4%	3.5%	17.0%	20.8%	18.7%	9.2%	8.8%	4.6%	2.1%	1.4%	
第2回調査	第2回調査	6	18	14	26	41	33	16	21	24	0	3	202
	%	3.0%	8.9%	6.9%	12.9%	20.3%	16.3%	7.9%	10.4%	11.9%	0.0%	1.5%	

表2　「就学中の場合」における内訳

		小学校	中学校	高等学校	大学・大学院・専門学校	就学中（計）
第1回調査	回答数	30	9	6	7	52
	%（回答数／全回答者数283）	10.6%	3.2%	2.1%	2.5%	18.4%
第2回調査	回答数	12	14	4	5	35
	%（回答数／全回答者数）	5.9%	6.9%	2.0%	2.5%	17.3%

回答者の住まいは、表のとおりであった。滋賀県内が 30%程度、京都府大阪府がそれぞれ 10～20%程度、というのは、おおむね例年の傾向といえる。滋賀県内の内訳をみると、大津市・草津市・栗東市・守山市の合計で県内からの 6 割以上を占めた（第 1 回 64.6%、第 2 回 69.8%）。

3. 回答者のお住まい（都道府県・地域別）

	第1回調査		第2回調査	
滋賀県	65	**26.9%**	42	**27.8%**
京都府	28	**11.6%**	28	**18.5%**
大阪府	23	9.5%	20	**13.2%**
兵庫県	15	6.2%	16	10.6%
奈良県	4	1.7%	2	1.3%
和歌山県	4	1.7%	0	0.0%
岐阜県	12	5.0%	3	2.0%
三重県	10	4.1%	3	2.0%
愛知県	27	**11.2%**	11	7.3%
静岡県	4	1.7%	4	2.6%
福井県	2	0.8%	5	3.3%
石川県	4	1.7%	1	0.7%
富山県	1	0.4%	1	0.7%
南関東	15	6.2%	10	6.6%
北関東	3	1.2%	0	0.0%
四国地方	6	2.5%	0	0.0%
中国地方	0	0.0%	1	0.7%
九州・沖縄	3	1.2%	1	0.7%
東北・北海道	0	0.0%	1	0.7%
県外国内（県名無回答）	12	5.0%	2	1.3%
海外	4	1.7%	0	0.0%
総計	242		151	
回答なし	41	-	51	-

4. 回答者の住まい（滋賀県内内訳）

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	回答数／滋賀県内市町回答総数	回答数	回答数／滋賀県内市町回答総数
大津市	17	**35.4%**	9	**27.3%**
草津市	5	**10.4%**	3	9.1%
栗東市	3	6.3%	6	**18.2%**
守山市	6	**12.5%**	5	**15.2%**
野洲市	0	0.0%	0	0.0%
甲賀市	1	2.1%	2	6.1%
湖南市	1	2.1%	2	6.1%
東近江市	2	4.2%	1	3.0%
近江八幡市	1	2.1%	0	0.0%
蒲生郡	1	2.1%	0	0.0%
彦根市	6	12.5%	2	6.1%
愛知郡	0	0.0%	0	0.0%
犬上郡	1	2.1%	0	0.0%
米原市	0	0.0%	0	0.0%
長浜市	2	4.2%	1	3.0%
高島市	2	4.2%	2	6.1%
計	48		33	
滋賀県内のうち回答なし	17	-	9	-

（4）当館での博物館体験

・来館の回数

「はじめて」の来館者数は、開館 4 年目の 2000 年に初めて 60%を下回り、以降、おおむね 40～50%台で

推移している。「4 回目以上」は、2004 年に初めて 30%を上回り、年によってばらつきはあるものの 20%代後半から 40%代前半の高水準で推移している。2024 年度もおおむね同様の傾向といえるが、「はじめて」の回答が第 1 回、第 2 回とも 50%を超えており、また、50%代後半となったのは 2002 年 3 月調査以来だった。

5. 来館回数

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	%	回答数	%
はじめて	152	53.7%	114	56.4%
2回目	44	15.5%	26	12.9%
3回目	14	4.9%	15	7.4%
4～9回目	46	16.3%	22	10.9%
10回以上	26	9.2%	24	11.9%
無回答	1	0.4%	1	0.5%
計	283		202	

・当館での滞在時間

滞在時間は、「1～2 時間」「2～3 時間」が合わせて 70%ほどを占めた。「4 時間以上」は 5～7%だった。

6. 滞在時間

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	%	回答数	%
1時間以内	18	6.4%	4	2.0%
1～2時間	95	33.6%	83	**41.1%**
2～3時間	103	**36.4%**	72	35.6%
3～4時間	45	15.9%	29	14.4%
4時間以上	19	6.7%	11	5.4%
無回答	3	1.1%	3	1.5%
計	283		202	

・誰と来館したか

第 1 回、第 2 回とも、「家族と」の来館が約 75%を占めた。これは例年と同様の傾向だった。

7. 誰と来館したか

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	%	回答数	%
ひとりで	22	7.8%	8	4.0%
家族と	216	**76.3%**	151	**74.8%**
友人･知人と	29	10.2%	24	11.9%
地域の人と	7	2.5%	4	2.0%
学校･会社の人と	1	0.4%	1	0.5%
上記以外	1	0.4%	2	1.0%
家族／友人･知人と	4	1.4%	5	2.5%
友人･知人と／学校･会社の人と	2	0.7%	0	0.0%
無回答	1	0.4%	7	3.5%
計	283		202	

・利用した展示室他施設

常設展示の利用が多い。展示以外で利用が多かったのは、「ミュージアムショップ」（第 1 回 28.3%、第 2 回 30.2%）、「ミュージアムレストラン」（第 1 回 16.6%、第 2 回 20.8%）、「休憩コーナー」（第 1 回 14.8%、第 2 回 11.9%）だった。「樹幹トレイル」と「屋外展示は、第 1 回調査（8 月）と第 2 回調査（3 月）の差が大きく、季節や天気による影響が大きいものと考えられる。

8. 利用した施設（複数回答可）

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	%	回答数	%
A展示室「湖の400万年と私たち」	221	**78.1%**	139	**68.8%**
B展示室「湖の2万年と私たち」	203	71.7%	129	63.9%
C展示室「湖のいまと私たち」	214	**75.6%**	135	**66.8%**
水族展示室「湖のいまと私たち」	230	**81.3%**	158	**78.2%**
ディスカバリールーム	74	26.1%	79	39.1%
おとなのディスカバリー	98	34.6%	85	42.1%
企画展	57	20.1%	22	10.9%
水族トピック展	41	14.5%	32	15.8%
質問コーナー	10	3.5%	10	5.0%
研究最前線	13	4.6%	14	6.9%
フロアートーク	8	2.8%	7	3.5%
樹冠トレイル	19	6.7%	24	11.9%
屋外展示（森・生活実験工房など）	15	5.3%	23	11.4%
ミュージアムショップ	80	28.3%	61	30.2%
ミュージアムレストラン	47	16.6%	42	20.8%
休憩コーナー	42	14.8%	24	11.9%
授乳室	7	2.5%	13	6.4%
身障者用駐車場	4	1.4%	5	2.5%
上記以外	4	1.4%	5	2.5%
無回答	7	2.5%	8	4.0%
アンケート回答者	283		202	

・琵琶湖博物館までの交通手段

自家用車が 80%以上、公共交通機関が約 10%であり、例年とおおむね同様の結果だった。調査を金・土・日の 3 日間で行ったためこのような結果になったが、団体利用の多い平日の場合は、「観光バス・団体バス」の割合が高くなることが予想される。

8. 交通手段

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	%	回答数	%
自家用車	244	87.1%	170	85.0%
公共交通機関	24	8.6%	23	11.5%
観光バス・団体バス	9	3.2%	2	1.0%
上記以外	3	1.1%	5	2.5%
計	280		200	
無回答	3	-	2	-

・訪問する／予定の近隣施設

訪問する予定の近隣施設については、回答なしが多数を占めた。滞在時間が 1～3 時間程度であることも踏まえ、特に近隣市町からの訪問の場合など、博物館単独で訪問する場合も少なくない可能性がある。また、水生植物公園みずの森や道の駅「グリーンプラザからすま」といった近隣施設を訪問する／予定との回答も 10～15%ほどを占めた。

9.訪問する予定の近隣施設(複数回答可)

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	%	回答数	%
水性植物公園みずの森	28	9.9%	32	15.8%
道の駅「グリーンプラザからすま」	38	13.4%	32	15.8%
佐川美術館	12	4.2%	4	2.0%
烏丸半島内(芝生広場、湖岸)	6	2.1%	8	4.0%
湖岸緑地(烏丸半島以外)	9	3.2%	3	1.5%
イオンモール草津	41	14.5%	18	8.9%
ピエリ守山	30	10.6%	15	7.4%
草津市中心部の施設	17	6.0%	12	5.9%
上記以外	37	13.1%	19	9.4%
回答なし	126	**44.5%**	112	**55.4%**
回答者数	283	-	202	-

(5)来館の動機づけ

・琵琶湖博物館を何で知ったか

「友人・知人」と「家族・親戚」の合計で 40%程度を占めており、例年同様大きな割合を占めた。ついで、「インターネットの情報サイト」が 20%以上を占めた。「SNS・YouTube」は第 2 回調査において調査開始以来はじめて１0%を超えた。YouTube「びわこのちからチャンネル」の運用等を含む SNS における積極的な広報の成果が表れているとも考えられる。

10. 何で知ったか(複数回答可)

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	%	回答数	%
新聞	10	3.5%	3	1.5%
テレビ	17	6.0%	9	4.5%
ラジオ	2	0.7%	2	1.0%
ポスター・チラシ	9	3.2%	4	2.0%
湖周道路の看板	22	7.8%	7	3.5%
県・市町村の広報	16	5.7%	9	4.5%
友人・知人	48	**17.0%**	33	**16.3%**
家族・親戚	74	**26.1%**	48	**23.8%**
琵琶湖博物館ホームページ	28	9.9%	26	12.9%
インターネットの情報サイト	68	**24.0%**	41	**20.3%**
SNS・YouTube	12	4.2%	22	10.9%
雑誌・本	24	8.5%	9	4.5%
上記以外	22	7.8%	22	10.9%
無回答	4	1.4%	1	0.5%
回答者数	283	-	202	-

・来館の目的

来館の目的は、50%程度が「常設展示を見に」であった。他館との比較がないと明言はできないが、展示を見にではなく、「団らん」や「観光」を目的とする来館者が多いことは、琵琶湖博物館の特徴といえる。

11. 来館の目的（複数回答可）

	第1回調査		第2回調査	
	計	%	計	%
常設展示を見に	156	**55.1%**	98	**48.5%**
企画展示を見に	19	6.7%	11	5.4%
学習・教養を深めるため	64	22.6%	39	19.3%
家族や友人との団らんのため	68	**24.0%**	60	**29.7%**
近隣の観光のため	42	14.8%	32	15.8%
余暇を楽しむため	98	**34.6%**	56	**27.7%**
以前に来館して良かったため	30	10.6%	21	10.4%
避暑・省エネのため	18	6.4%	2	1.0%
上記以外	12	4.2%	6	3.0%
無回答	3	1.1%	3	1.5%
回答者数	283	-	202	-

(6) 満足度・感想

満足度について、５段階評価で表すと、第１回調査が 4.365、第２回調査が 4.467 となった。

12. 満足度

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	%	回答数	%
非常に満足した	138	50.9%	103	52.3%
満足した	107	39.5%	83	42.1%
ふつう	18	6.6%	11	5.6%
やや不満である	3	1.1%	0	0.0%
不満である	5	1.8%	0	0.0%
計	271		197	
無回答	12	-	5	-
5段階評価	4.365		4.467	

自由回答のうち、具体的なものをいくつか挙げる。

「ふつうのはくぶつかんやすいぞくかんでは、できないことができた。水草の生たい、こん虫をけんびきょうでかんさつ、毛がわをさわるなど」

「小学１年生の娘の「なんで？」「どうして？」の質問の答えがたくさんあって、自分でギモンを解決できるうれしさを体感していました。」

「目の前の琵琶湖へ散歩できるのもすごく良いです」

「びわ湖に来たことが初めてで、ただながめるだけでなく、魚の飼育や自然、歴史と知ることができ楽しめた。」

「昔に自分が子供の頃から遠足や家族で来てた所に今は子供を連れて来ることができて嬉しい。」

(7) 不満

不満に思うことについては、「駐車場」「交通の便」といったアクセスの悪さに関する点、「ミュージアムレストラン」「昼食場所」「休憩場所」といった休息に関する点が上位にとなった。レストランについては、整理番号の発券機が第２回調査時には利用開始となっており、そのことがレストランにおける待ち時間の不満の解消につながっている可能性がある。

第１回調査（8 月）では、自由回答欄に室温が熱すぎること、特にトイレの熱さへの回答が多数あった。「熱中症になりかけた」といった熱中症のリスクを指摘する回答、改善を望む回答が複数あった。

アクセスの悪さについては、バスの本数が少ないこと、駐車場から遠いことが具体的に挙げられた。休息

に関しては、休める場所、水分補給のできる場所、室内のイートインスペースがもっと欲しいといった回答が複数あった。テイクアウトの販売を望む回答、軽食販売を望む回答があった。その他の具体的な改善提案としては、ゴミ箱が欲しい、オムツを捨てるところが欲しい、授乳室のソファーに汚れが目立つといった回答があった。

13.不満に感じた点

	第1回調査		第2回調査	
	回答者数	%	回答者数	%
電話対応	1	0.4%	2	1.0%
道路案内	3	1.1%	5	2.5%
交通の便	7	2.5%	8	**4.0%**
駐車場	18	**6.4%**	10	**5.0%**
観覧料金	3	1.1%	5	2.5%
受付・券売・案内	10	**3.5%**	1	0.5%
常設展示	4	1.4%	0	0.0%
企画展示	5	1.8%	0	0.0%
トイレ・階段・ｴｽｶﾚｰﾀｰ	9	3.2%	8	**4.0%**
樹冠トレイル	0	0.0%	0	0.0%
屋外展示(森、生活実験工房など)	3	1.1%	2	1.0%
ミュージアムショップ	5	1.8%	3	1.5%
ミュージアムレストラン	15	**5.3%**	4	2.0%
ホームページ	1	0.4%	1	0.5%
リーフレット・図録など	1	0.4%	0	0.0%
昼食場所	8	2.8%	8	**4.0%**
休憩場所	10	**3.5%**	3	1.5%
開館日	0	0.0%	0	0.0%
開館・閉館時間	1	0.4%	0	0.0%
関連行事	0	0.0%	0	0.0%
広報・営業	0	0.0%	0	0.0%
展示交流員	0	0.0%	1	0.5%
上記以外	18	6.4%	6	3.0%
回答なし	181	64.0%	140	69.3%
回答者数	283	-	202	-

(8) 展示以外の活動の認知度・利用経験

展示以外の活動の認知度は、全般に低い。展示観覧以外の利用経験があると回答した人は8～9%程度だった。

14.展示以外の活動の認知度

	第1回調査		第2回調査	
	回答者数	%	回答者数	%
観察会	23	8.1%	13	6.4%
講座・セミナー	16	5.7%	5	2.5%
館内イベント	20	7.1%	9	4.5%
はしかけ制度	3	1.1%	3	1.5%
フィールドレポーター制度	6	2.1%	2	1.0%
びわ博フェス	8	2.8%	13	6.4%
質問コーナー・メール	5	1.8%	13	6.4%
資料貸出・活用	7	2.5%	3	1.5%
資料収集整理・保管	9	3.2%	40	19.8%
調査活動	11	3.9%	2	1.0%
研究発信	5	1.8%	4	2.0%
フロアトーク	1	0.4%	4	2.0%
講師派遣	1	0.4%	1	0.5%
その他	2	0.7%	2	1.0%

15. 展示観覧以外の博物館利用経験

	第1回調査		第2回調査	
	回答者数	%	回答者数	%
利用したことがある	23	8.1%	18	8.9%
利用したことがない	220	77.7%	161	79.7%
回答なし	40	14.1%	23	11.4%

16. 展示観覧以外で利用したことのある内容

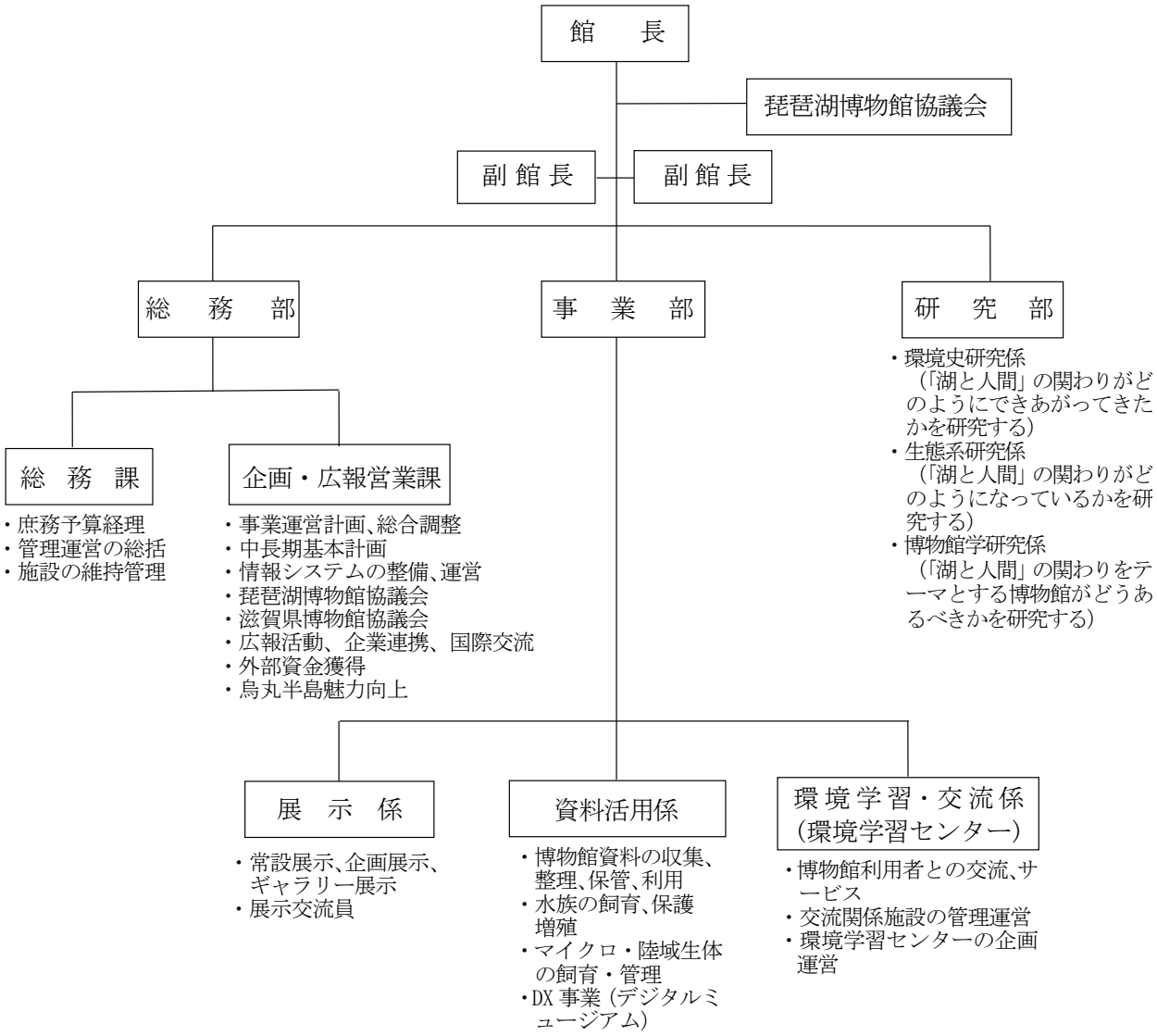
	第1回調査		第2回調査	
	回答者数	%	回答者数	%
観察会	5	1.8%	6	3.0%
講座・セミナー	3	1.1%	4	2.0%
館内イベント	6	2.1%	4	2.0%
はしかけ制度	0	0.0%	1	0.5%
フィールドレポーター制度	1	0.4%	1	0.5%
びわ博フェス	2	0.7%	4	2.0%
質問コーナー・メール	4	1.4%	0	0.0%
資料貸出・活用	0	0.0%	0	0.0%
資料収集整理・保管	1	0.4%	1	0.5%
調査活動	3	1.1%	0	0.0%
研究発信	0	0.0%	1	0.5%
フロアトーク	1	0.4%	0	0.0%
講師派遣	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	0.4%	2	1.0%

4. 利用者用施設の整備

館内のレストランやショップの空調機を更新、ひび割れが生じた天窓の取替、玄関扉やトイレの改修等を行い、来館者、施設スタッフの安全性、快適性の維持向上を図った。また貴重な標本等を適切に保管するため、トラックヤードの大型シャッターの更新、保管庫の空調機を修繕した。

Ⅲ　組織および運営

１．組織



職員構成（2024 年 10 月 1 日現在：兼務・併任職員を含む）

区　分	館長	行政職	研究職	教育職	小計	会計年度任用職員	合計
人数（名）	1	8	28	2	39	23	62

研究職の内訳

区　分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数（名）	24	1	1	1	1	28

２．職員

（2024 年 10 月 1 日現在）

○館　長	亀田　佳代子
○副館長	杲　　一哉
○副館長	山川　千代美
○上席総括学芸員	里口　保文
○上席総括学芸員	芳賀　裕樹

総　務　部

○部長（事務取扱）杲　　一哉

◇　総務課

課　　長	山田　剛資
専 門 幹	萩山　幸代
主　　幹	打田　拓也
主任主事	岡本　慎也
主任主事	杉山　優紀

◇　企画・広報営業課

課　　長（兼）	桝永　一宏
（兼）	ロビン ジェームス スミス
主　　査	松岡　宏樹
（兼）	中村　久美子
（兼）	鈴木　隆仁
（兼）	妹尾　裕介
（兼）	大久保　実香
（兼）	半田　直人
（兼）	吉田　保裕

事　業　部

○部長（兼）　　里口　保文

◇　展示係

係　　長（兼）	芦谷　美奈子
（兼）	林　　竜馬
（兼）	濱口　貴仁
（兼）	米田　一紀
（兼）	島本　多敬
（兼）	菅原　巧太朗

◇　資料活用係

係　　長（兼）	大槻　達郎
（兼）	大塚　泰介
（兼）	田畑　諒一
（兼）	加藤　秀雄
（兼）	今田　舜介

◇　環境学習・交流係

（環境学習センター）

係　　長（兼）	楊　　平
（兼）	橋本　道範
（兼）	金尾　滋史
主　　査（併任）	桑原　康一
（兼）	松岡　由子
（兼）	川瀬　成吾
主任主事（併任）	渡邊　俊洋
（兼）	西川　真里奈
（兼）	奥田　岬
主　　事	吉田　保裕

研　究　部

○部長（兼）　　芳賀　裕樹

◇　環境史研究係

係長	専門学芸員	林　竜馬
	専門学芸員	橋本　道範
	専門学芸員	楊　平
	主任学芸員	妹尾　裕介
	主任学芸員	大久保　実香
	主任学芸員	田畑　諒一
	主任学芸員	加藤　秀雄
	学芸員	島本　多敬
	学芸員	半田　直人

◇　博物館学研究係

係長	専門学芸員	金尾　滋史
	専門学芸員	芦谷　美奈子
	（兼）	桑原　康一
	主任学芸員	中村　久美子
	主任学芸員	松岡　由子
	（兼）	渡邊　俊洋
	学芸員	今田　舜介

◇　生態系研究係

係長	総括学芸員	大塚　泰介
	総括学芸員	桝永　一宏
	専門学芸員	ロビン ジェームス スミス
	専門学芸員	大槻　達郎
	主査（兼）	濱口　貴仁
	主査	米田　一紀
	主任学芸員	鈴木　隆仁
	主任学芸員	川瀬　成吾
	主任技師（兼）	西川　真里奈
	主任技師（兼）	奥田　岬
	学芸技師	菅原　巧太朗

会計年度任用職員

田中　里美	館長秘書
菊地　さとみ	電話受付・総務事務
柳田　けいこ	電話受付・総務事務
中山　法子	データ整理・刊行物
後藤　真帆	イベント情報
山﨑　剛	広報・集客
横山　泰史	広報・集客
中川　優	屋外展示運営
徳本　智美	展示室運営
髙部　千裕	展示室運営
高石　清治	展示物維持補修
黒田　正伸	資料標本整理
小山　勝	資料標本整理
細川　眞理子	資料標本整理
山岡　眞澄	資料標本整理
高木　成美	図書資料整理
中西　美智子	図書資料整理
黒川　明	交流事業
樋上　和史	交流事業
武政　廣文	環境学習
青木　直明	環境学習
瀬山　泰美	環境学習
平野　文子	研究庶務

名誉館長

川那部　浩哉　篠原　徹　高橋　啓一

名誉学芸員

布谷　知夫　　中島　経夫　　前畑　政善　　用田　政晴　　マーク J. グライガー

特別研究員

寺本　憲之　　廣石　伸互　　柏尾　珠紀　　山本　充孝　　池田　勝　　辻川　智代
天野　一葉　　根来　健　　今井　一郎　　柏谷　健二　　桑原　雅之　　井内　美郎
増田　敬祐　　戸田　孝　　中井　克樹　　山本　綾美　　八尋　克郎　　小松原　琢
上中　央子　　藤岡　康弘　　大久保　卓也　　岩木　真穂

3. 決算

2024年度歳入（環境政策課執行分を含む　　（円）

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	218,017,737
財産収入	528,675
寄付金	34,475,035
諸収入	15,455,021
合計	268,476,468

2024年度歳出（博物館執行分　2023年度からの繰越分を含む）　　（円）

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	魅力創造発信、施設維持、設備修繕、烏丸半島整備、事務費、広報営業、企画調整	339,098,547
調査資料収集事業費	研究、資料整備、水族・陸域飼育管理、デジタルミュージアム推進事業	140,996,276
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、水族展示室復旧	205,477,911
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	11,435,711
環境学習推進費	環境学習センター運営	3,392,915
他課事業費	設備修繕、照明ＬＥＤ化等	42,017,644
合計		742,419,004

（参考）2024年度歳出（他課執行分　2023年度からの繰越分を含む）
（円）

課 名	事 業 内 容	決 算 額
C02ネットゼロ推進課	本館・別館の照明ＬＥＤ化(金額は按分による推計)	59,268,394
建築課	空調機器更新（レストラン・ショップ）	61,274,400
建築課	エレベーター１～４号機・エスカレーター更新設計費	5,450,500
合計		125,993,294

4. 寄付／びわ博サポーター

CSR や SDGs 等の環境保全の取り組みが大きな社会的役割を果たすようになり、これまで博物館においても企業・団体等を重視すべきパートナーと位置づけ、「リニューアルサポーター」や「メンバーシップ」、「水槽サポーター」「樹冠トレイルサポーター」「キャンパスメンバー」等の各制度を運用してきた。

年間 100 件以上の企業・団体訪問を行った結果、126 件 25,561 千円(3 月末申込ベース)という実績を残すことができた。また、対象者への感謝状の贈呈を行った。

寄付など

126 件　25,561 千円

琵琶湖博物館応援寄附	11 件	4,120 千円
水族展示再生支援寄附	24 件	12,310 千円
水槽サポーター	44 件	3,285 千円
樹冠トレイルサポーター	5 件	500 千円
メンバーシップ	61 件	5141 千円
キャンパスメンバーズ	2 件	205 千円

5. 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

第 1 回

開催日時　2024 年 7 月 26 日（金）　14 時～16 時 30 分

場所　琵琶湖博物館１階セミナー室

議題　第三次中長期基本計画令和 5 年度評価について

第２回

開催日時　2025 年 2 月 4 日（火）　13 時３０分～16 時

場所　琵琶湖博物館１階セミナー室

議題　第三次中長期基本計画　令和 5 年度事業評価報告書　外部評価総評への応答について

滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画　令和 7 年度について

滋賀県立琵琶湖博物館協議会　第１４期委員名簿

任期：令和４年１０月１３日～令和６年８月３１日

敬称略、五十音順

氏　　名	区分	職名
楠見　丹生子	学校教育	草津市立常盤小学校校長
澤田　一彦	学校教育	大津市立志賀中学校校長
中野　栄美子	社会教育	NPO 法人カーボンシンク代表理事
鹿田　由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
荒井　紀子	環境保全	ホタルの学校代表
村上　由美子	文化財保護	京都大学総合博物館研究部 資料基礎調査系教授(考古学)

中川　毅	学識者	立命館大学総合科学技術研究機構 古気候学研究センター長　教授
野瀬　吉信	学識者	産経新聞大津支局記者
布谷　知夫	学識者	全日本博物館学会名誉会長 三重県総合博物館特別顧問
岡田　佳美	その他	(株)コクヨ工業滋賀開発グループ グループリーダー 次長
田渕　千恵子	その他	手話通訳士
井本　望夢	その他	公募委員
遠藤　正一	その他	公募委員

滋賀県立琵琶湖博物館協議会　第１５期委員名簿

任期：令和６年９月１日～令和８年８月３１日

敬称略、五十音順

氏　　名	区分	職名
楠見　丹生子	学校教育	草津市立常盤小学校校長
澤田　一彦	学校教育	大津市立志賀中学校校長
中野　栄美子	社会教育	NPO 法人カーボンシンク代表理事
廣瀬　香織	家庭教育	一般社団法人ママパスポート代表
荒井　紀子	環境保全	ホタルの学校代表
村上　由美子	文化財保護	京都大学総合博物館研究部 資料基礎調査系教授(考古学)
中野　伸一	学識者	京都大学生態学研究センター　センター長
野瀬　吉信	学識者	産経新聞大津支局記者
布谷　知夫	学識者	全日本博物館学会名誉会長 三重県総合博物館特別顧問
中村　耕治	その他	ダイハツ工業㈱コーポレート統括本部環境室長
渡邉　孝宏	その他	元養護学校教諭
上久保　紀恵	その他	公募委員
森　幸一	その他	公募委員

6. 企画・計画等

(1) 琵琶湖博物館第三次中長期基本計画

2021 年度から 10 年の期間を対象として、琵琶湖博物館第三次中長期基本計画をもとに、最終目標を、「多くの人が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく」ことと設定し、そのために必要な事業目標として、次の 6 つを上げている。

事業目標 1　琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介
事業目標 2　資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備
事業目標 3　みんなで学びあう博物館へ
事業目標 4　もっと使いやすい博物館へ
事業目標 5　より多くの人が利用する博物館へ
事業目標 6　博物館の活動を安定して継続する

10 年間の計画のうち、その前半となる 5 年間は、各事業目標に 2 つないし 3 つの重点事業を設定し、5 年間の計画を立てて実行している。各年度終了時には、前年度の事業について、内部評価を行ったうえで、琵琶湖博物館協議会委員による外部評価が行われ、内部評価と外部評価および博物館の状況を踏まえて、計画の見直しを行っている。本年度は 2023 年度事業についての評価を実施し、計画の見直しを行った。その結果は、2023 年度事業評価報告書としてまとめ、琵琶湖博物館インターネットページにて公表した。

(2) 水族展示室再生に向けた活動

1) 水槽のリニューアル

令和 5 年（2023 年）2 月 10 日の開館時間前に、水族展示室の「琵琶湖の主（ヌシ）水槽（以下、ビワコオオナマズ水槽と表記する）」の破損が見つかり、第三者委員会による破損原因調査が行われ、同年 9 月に報告書が提出された。破損したビワコオオナマズ水槽および同形状であるため破損の危険性が指摘されたコアユ水槽について、ビワコオオナマズやコアユのそれぞれの魚の生態やその特徴を伝える水槽・展示に更新する活動を行った。

（設計）

新しいビワコオオナマズ水槽およびコアユ水槽の設計は、展示室の建物に設置されている大型の水槽であることから、その経験を有する業者（株式会社 大建設計：大阪府大阪市西区京町堀 1 丁目 13-20）が入札により選定された。昨年度下旬に開始し、本年度上旬に設計が完了した。各水槽はそれぞれに展示される生物の生息場所をイメージできる雰囲気とそれらの生体情報を伝える展示となることを意識し、来館者や関係者の意見を取り入れ、第三者委員会が提言した水槽の安全性を重視して設計を行った。

［ビワコオオナマズ水槽］メイン水槽と 3 箇所の見上げる水槽からなる。メイン水槽では琵琶湖の岩場（ナマズ岩）にいる琵琶湖のヌシをイメージした水槽で、見上げる水槽ではナマズ類を下から見上げることで腹側を観察できる水槽とした。

［コアユ水槽］展示室の角になる場所を利用して、間口の広い水槽（4m）とし、人との関係が深い魚種であることから、琵琶湖を代表する漁法の一つ鮎（エリ）漁をイメージできる展示として構成した。

（設置工事）

提出された設計をもとに、水槽周辺の展示を含めた設置工事を行った。大型水槽の設置であることから、その規模の工事経験があり、アクリル専門業者との繋がりをもつ業者が入札の結果、選定され（株式会社 奥村組：滋賀県大津市下阪本三丁目 5 番 32 号）、工事を進めた。次年度上旬完成予定。

（展示室の順路変更）

ビワコオオナマズ水槽およびコアユ水槽のための工事区間は、トンネル水槽の出口付近から暮らしの中の魚たち展示入口までが対象となり、その前後に来館者の安全確保のための壁を設置した。この区域は、水族展示室の中央付近にあり、水族展示室における通常の順路を塞ぐ位置にあるため、工事期間中は水族展示室の入口を２個所とし、通常の入口を第１出入り口、通常の出口を第２出入口として、展示室の案内をした。また、トンネル水槽を通り抜けて工事区間入口に設置した壁付近からトンネル水槽入口に戻ることができるように、壁を撤去して階段を設置した。

（ふれあい体験室）

ビワコオオナマズ水槽が破損した時期と同時期に破損したふれあい体験室のふれあい水槽について、水槽の入れ替えを行った。破損した水槽は、水槽側面に穴があり、真空ポンプで圧力を調整することで側面から水に触れられる構造であったが、水槽の安全性などを考慮して、別のタイプの水槽によって運用することを検討した。新しい水槽は、小規模の水槽が集まったシステム水槽を設置した。この水槽によって、飼育を行っている仔稚魚を展示し、バックヤード等で行っている水族飼育管理業務の一部を紹介する。

2）クラウドファンディング

応援してくださる多くの方々とともに、水族展示室の再生を行うためにクラウドファンディングを実施した。2024 年度はビワコオオナマズ水槽およびコアユ水槽、ふれあい水槽の再建を行う必要があった。このうち、ビワコオオナマズ水槽の再建費用の一部の 2,000 万円を目標とした。

タイトル：「新ビワコオオナマズ水槽誕生にご支援を！｜琵琶湖博物館【第 2 弾】」

期間：2024 年 8 月 28 日 9：00～2024 年 11 月 25 日 23：00

支援者数：累計 866 人

支援金額：17,739,702 円

対応：寄附金受領証明書の作成・発送、特別感謝状や体験型の返礼（実施中）

返礼の内容：特別感謝状（お魚ポスター特別版クリアファイル、お魚ポスター特別版、日本のナマズ全 4 種ポスター、ビワコオオナマズ実寸大ポスター、コアユの群れポスター、水鳥とカヤネズミの足跡、日本画家村由子さん作）、特別デスクトップ壁紙、琵琶湖博物館版「御博印」、ビワコオオナマズ水槽のかけら、展示室の大掃除体験（ゾウの展示、鳥類の展示、哺乳類の展示）、琵琶湖博物館オンラインツアー（展示解説編、コレクション編）、学芸員による展示室の DEEP 解説（A 展示室、水族展示室、屋外展示室）、新水槽完成お披露目内覧会、おとな・ナイトミュージアム、ナイトミュージアム、水族飼育員の活動体験、水族バックヤードツアー（保護増殖センター、水族バックヤード一通り、水族バックヤード＋魚（チョウザメ）の餌やり＋各収蔵庫ツアー、副館長を行く県庁ツアー、学芸員の研究体験（プランクトン）、１組限定のスペシャルな観察会・講座・体験会・ツアー（琵琶湖のふるさとで化石を探す、学芸員と一緒に作るアロマウォーター、動物の骨格標本作り、博物館獣医師体験、バイカルアザラシ水槽の落水清掃の見学、イチモンジタナゴの保全地を巡るツアー）、あなたの作品を博物館に展示します、渡り廊下のバナー（懸賞幕）

⑶ 入館者記念式典

・来館者数累計 1300 万人達成セレモニー

1996 年　10 月 20 日にオープンをした琵琶湖博物館では、開館から 20 年と 10 ヵ月後の 8,578 日目である 2025 年 2 月 12 日午前 10 時 40 分頃、来館者数が 1,300 万人に達した。その達成記念として、1 階アトリウムにてセレモニーを開催した。1,300 万人目は滋賀県草津市在住で、ご家族と来館された築山維人（つきやま　ゆいと）さん３歳で、記念にくす玉割りを行い、当館館長から 1300 万人目来館者認定証と、記念品としてミュージアムショップ「おいでや」より、ビワコオオナマズグッズ（ぬいぐるみ２種と指人形）が贈呈された。

・2024 年度 来館者数 50 万人達成記念セレモニー

2025 年 3 月 16 日午前 12 時 30 分頃、来館者数が 50 万人に達した。この年間来館者 50 万人は、2000 年度以来 24 年ぶりの達成であり、今世紀初めて迎えることができた。その達成記念として、1 階アトリウムにてセレモニーを開催した。50 万人目は滋賀県栗東市在住で、ご家族で来館された濱崎陽太（はまさき　ようた）さんで、記念にくす玉割りを行い、当館館長から 50 万人目来館者認定証と、記念品としてミュージアムショップ「おいでや」の森店長よりオリジナルグッズが贈呈された。

1,300 万人達成記念のくす玉を割る築山さん

50 万人達成記念のくす玉を割る濱崎さん

琵琶湖博物館　年報

第 29 号　2024 年度（令和 6 年度）

2025 年 7 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館
〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地
電話　077-568-4811

ⓒ滋賀県立琵琶湖博物館　2024